

千葉県学校教育に関する意識調査
報告書

—平成19年9・10月実施—

平成20年2月

千葉県教育委員会

目 次

I. 調査の概要.....	1
II. 調査結果の概要.....	3
1. 学校教育のあり方.....	3
2. 子どもの実態.....	4
3. 育みたい子ども像など.....	11
4. 学校に期待すること.....	13
5. 教員の資質向上.....	15
6. 教員の資質向上に必要なこと.....	17
7. 家庭教育.....	18
8. 役割分担.....	21
III. 調査結果.....	23
1. 児童・生徒調査.....	23
2. 保護者調査.....	56
3. 一般市民調査.....	91
4. 教員調査.....	113
5. 自由意見.....	143
IV. 調査結果のまとめ.....	154
V. 調査票.....	158
1. 小学生調査.....	158
2. 中学生調査.....	166
3. 高校生調査.....	174
4. 保護者調査.....	182
5. 一般市民調査.....	192
6. 教員調査.....	200

I. 調査の概要

1. 調査の目的

本調査は、学校教育推進計画の策定の検討資料を得るため、児童生徒、保護者、一般市民及び教員の学校教育に対する基本的な意識・実態等を把握することを目的とする。

2. 調査方法

- ・ 調査区域：千葉市全域
- ・ 調査対象及び回収方法

調査種別		調査の対象	調査の方法
児童・生徒調査	小学生調査	①対象校 各区から対象校3校を無作為抽出(全18校) ②対象者 第5学年から1クラスを無作為抽出	学校を通じて 依頼・回収
	中学生調査	①対象校 各区から対象校3校を無作為抽出(全18校) ②対象者 第2学年から1クラスを無作為抽出	
	高校生調査	①対象校 千葉高校、稲毛高校 ②対象者 第1～3学年から各1クラスを無作為抽出	
保護者調査		①対象校 小・中学生調査の対象校(36校) ②対象者 小中学生調査の対象児童生徒の保護者	
一般市民調査		①対象者 無作為抽出した市内在住の20歳以上の男女(1,800人)	郵送による 配付・回収
教員調査		①対象校 小・中学生調査の対象校から各区1校を抽出(12校)、稲毛高校(全13校) ②対象者 対象校の教員	学校を通じて 依頼・回収

- ・ 標本数：4,603人
- ・ 調査期間：平成19年9月25日～10月15日

3. 回収率

調査種別		実施校数	対象者数	回収数	回収率
児童・生徒調査	小学生調査	18校	526人	524人	99.62%
	中学生調査	18校	568人	567人	99.82%
	高校生調査	2校	228人	228人	100.00%
保護者調査	小学校	18校	524人	497人	94.85%
	中学校	18校	568人	523人	92.08%
一般市民調査			1800人	877人	48.72%
教員調査	小学校	6校	156人	156人	100.00%
	中学校	6校	159人	142人	89.31%
	高校	1校	74人	48人	64.86%
合計			4603人	3562人	77.38%

4. 報告書を読む際の注意事項

- ・ 集計については単純集計、必要なクロス集計を行った。
- ・ 調査結果の数値は原則として回答率（％）を表記しており、小数点第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを表記している。このため、単数回答の合計が100.0%とならない場合（例：99.9%、100.1%）がある。また、一人の回答者が2つ以上の回答をしてもよい質問（複数回答）では、回答率が100.0%を上回ることがある。
- ・ 本文やグラフ・数表上の選択肢の表記は、場合により語句を簡略化してある。
- ・ 本文やグラフ・数表上で次の略称を使用する。 n：回答者の数

Ⅱ. 調査結果の概要

1. 学校教育のあり方

(1) 学校の満足度

- ・小学生の 86.5%、中学生の 82.7%が学校生活は楽しいと感じている。
- ・高校生の 70.2%が学校生活について満足を感じている。
- ・保護者の 57.1%が学校教育に対して満足を感じている。

児童・生徒調査の『学校生活に対する満足度（学校は楽しいか）』についてみると、小学生では「楽しい」が 46.2%、「まあまあ楽しい」が 40.3%で、合わせて 86.5%が学校生活は“楽しい”と感じている。中学生では「楽しい」が 38.8%、「まあまあ楽しい」が 43.9%で、合わせて 82.7%が“楽しい”と感じている。

『学校生活の満足度』について、高校生調査をみると、「満足している」が 17.1%、「だいたい満足している」が 53.1%で、合わせて 70.2%が学校生活は“満足”としている。

保護者の『学校に対する満足度』についてみると、「十分満足している」が 4.3%、「まあ満足している」が 52.8%で、満足している傾向がみえた。【P25, P88 参照】

【参考】平成 16 年 9 月実施市民アンケート・学校教育の取り組みは充実していると思う市民の割合：19.7%

	小学生 (n=524)	中学生 (n=567)
楽しい	46.2	38.8
まあまあ楽しい	40.3	43.9
あまり楽しくない	4.8	6.2
楽しくない	2.7	3.9
どちらともいえない	5.7	7.1
無回答	0.4	0.2

	高校生 (n=228)		保護者 (n=1020)
満足している	17.1	十分満足している	4.3
だいたい満足している	53.1	まあ満足している	52.8
どちらともいえない	16.7	どちらともいえない	27.7
少し不満である	7.9	やや不満である	10
不満である	3.9	かなり不満である	3.8
無回答	1.3	無回答	1.3

(2) 教育施策の認知度

- ・保護者の認知度は総じて高い。一方、一般市民の認知度は低い。

保護者調査及び一般市民調査の『教育施策の認知度』についてみると、保護者の認知度は総じて高く、「よく知っている」と「聞いたことはある」を合わせると全ての項目で半数を超えている。

一方、一般市民調査の認知度は低く、全ての項目で「知らない」の割合が最も高かった。個別項目をみると、「③学習支援員の配置」、「④学力状況調査の実施」、「⑦学校図書館指導員の配置」、「⑥単位制教育課程の実施」の認知度が特に低い。【P82, P105 参照】

	①外国人講師による英語活動の実施	②少人数学習指導員の配置	③学習支援員の配置	④学力状況調査の実施	⑤中高一貫教育校の設置	⑥単位制教育課程の実施	⑦学校図書館指導員の配置	⑧自然教室や農山村留学などの体験活動の実施	⑨スクールカウンセラーの配置	⑩いじめ24時間電話相談の実施
保護者 (n=1020)	6.4	24.3	47.9	42.7	13.0	36.6	29.7	3.1	20.1	16.9
一般市民 (n=877)	46.2	61.3	72.9	65.1	37.9	62.3	63.7	40.6	47.4	42.8

「知らない」の割合

2. 子どもの実態

(1) 子どもの印象

- ・自分自身のことを肯定的に評価している者の割合が50%を超えているのは、小学生が16項目、中学生が10項目、高校生が9項目である。
- ・子どもの印象について肯定的に評価している者の割合が50%を超えているのは、保護者が8項目、一般市民が1項目、教員が1項目である。
- ・子どもは年齢が上がるにつれて評価が厳しくなる傾向にある。
- ・保護者の子どもに対する評価と比較すると、一般市民と教員の評価は低い。

児童・生徒調査の『自分自身のことについてどう感じたり、考えたりするか』をみると、肯定的意見（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計）が半数を超えている項目は、小学生が16項目あるのに対し、中学生では10項目、高校生では9項目しかなく、年齢が高くなるにつれて、厳しく自己分析を行う傾向がみえた。

一方、『子どもの印象』について、保護者調査、一般市民調査及び教員調査を総じてみると、保護者調査では肯定的意見が8項目で半数を超えているが、一般市民調査と教員調査では「明るく元気だ」の1項目のみしか半数を超えておらず、低調であった。

【P39, P40, P41, P57, P94, P115 参照】

	小学生 (n=524)	中学生 (n=567)	高校生 (n=228)	保護者 (n=1020)	一般市民 (n=877)	教員 (n=346)
①明るく元気だ	75.4	64.9	62.7	76.3	50.0	67.7
②自分らしさをもっている	48.7	37.4	47.0	65.1	36.5	41.6
③やさしさや思いやりがある	56.3	42.7	50.8	69.5	34.0	41.6
④やる気がある	65.1	50.0	46.9	48.7	23.4	32.7
⑤自分の気持ちをコントロールできる	55.3	49.9	52.7	44.2	16.3	17.1
⑥粘り強く、最後までやりとげる	58.0	42.9	43.8	39.4	13.4	14.7
⑦まじめに取り組むことができる	53.4	46.8	55.3	61.3	32.8	49.4
⑧自分の気持ちを相手にうまく伝えられる	42.6	31.4	29.0	28.4	19.6	10.7
⑨体力がある	76.9	68.3	67.6	47.8	19.5	10.4
⑩自分ひとりで選択や判断をする力がある	57.7	50.3	56.6	34.8	17.7	11.3
⑪社会の役に立とうとする気持ちがある	74.7	57.7	69.3	38.7	16.2	16.5
⑫社会のきまりや約束したことを守っている	60.5	53.1	55.7	61.2	28.5	33.6
⑬人間関係を築くのが上手である(友達と仲良くしている)	93.3	88.5	85.5	41.1	17.1	9.0
⑭食事や睡眠など、規則正しい生活をしている	64.6	50.7	40.8	48.7	19.4	25.1
⑮好奇心旺盛で様々なことに興味をもっている	54.4	37.5	37.7	54.6	44.8	43.1
⑯学習する態度が身につけている	52.3	26.8	29.4	38.7	22.4	28.9
⑰家族のことを理解している	75.0	52.2	43.9	64.2		37.0
⑱家族が子どものことを理解していると感じている	78.7	52.7	48.6	61.5		27.8

「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計値

(2) 子どものマナー意識

- ・総じて小学生のマナー意識が高く、中学生と高校生は低い。
- ・注意されると無視したり、反抗したりすることについて「別にかまわないと思う」割合は、小学生が 7.3%、中学生が 15.0%、高校生が 15.8%であった。
- ・遊ぶために夜遅くでかけることを「別にかまわないと思う」割合は、小学生が 11.8%、中学生が 29.8%、高校生が 57.5%であった。

児童・生徒調査の『マナー意識』についてみると、総じて小学生のマナー意識が高く、高校生、中学生のマナー意識が低いという結果になった。

項目毎にみると、「③電車の中で携帯電話を使う」を「よくないと思う」とする小学生は 62.0%、中学生は 45.7%、高校生は 37.3%で、高校生では「別にかまわないと思う」（50.0%）が「よくないと思う」を上回った。小学生はこの項目以外、全ての項目で「よくないと思う」が 8 割を超えている。

「⑥遊ぶために夜遅く出かける」についても、傾向は同様であり、小学生は 80.5%が「よくないと思う」と回答しているが、中学生では 54.1%、高校生では 27.6%となっている。

「⑤友だちの悪口を言ったり、いじめたりする」については、中学生の 10.1%が「よくないと思う」、8.5%が「わからない」としており、高校生の「よくないと思う」が 8.3%、「わからない」が 6.6%よりもマナー意識が低い項目もみられた。【P42 参照】

	小学生 (n=524)			中学生 (n=567)			高校生 (n=228)		
	よくないと思う	別にかまわないと思う	わからない	よくないと思う	別にかまわないと思う	わからない	よくないと思う	別にかまわないと思う	わからない
①約束やルールを守らない	81.5	11.6	6.5	75.1	15.9	7.6	77.2	12.7	6.1
②電車の中で騒ぐ、床に座り込む	87.2	6.7	5.3	79.7	12.9	5.8	81.1	11.0	3.5
③電車の中で携帯電話を使う	62.0	27.5	9.7	45.7	40.2	12.5	37.3	50.0	8.8
④注意されると無視したり、反抗したりする	85.9	7.3	6.5	73.4	15.0	10.1	70.6	15.8	9.6
⑤友だちの悪口を言ったり、いじめたりする	88.0	5.3	5.7	79.9	10.1	8.5	81.6	8.3	6.6
⑥遊ぶために夜遅く出かける	80.5	11.8	7.1	54.1	29.8	14.5	27.6	57.5	10.5

(3) 子どもの悩み

- ・小学生：「悩みはない」
- ・中学生：「勉強のこと」、「将来のこと」に悩んでいる。
- ・高校生：「将来のこと」、「勉強のこと」に悩んでいる。
- ・保護者：子どもの「悩み」について理解していると考えている保護者は14.1%。

児童・生徒調査の『悩み』についてみると、小学生では42.4%が「悩みはない」とし、最も高かった。中学生になると、「勉強のこと」(50.3%)、「将来のこと」(42.5%)が高くなり、高校生になると、「将来のこと」(59.6%)、「勉強のこと」(57.0%)がさらに高くなった。【P36 参照】

また、『悩みを相談する相手』についてみると、小学生では「親」が高く70.4%だが、中学生、高校生になると「友だち」が「親」を上回っている。

小学生では、親、友だち以外にも「先生」や「兄弟姉妹」、「祖父母」等に相談していることが、中学生及び高校生と比較して多いようである。【P37 参照】

一方、保護者調査の『子どもについて理解していると思うこと』についてみると、最も高いのは「健康状態」で92.6%、次いで「興味や関心のあること」が76.2%だが、「将来の夢や進路」については28.2%、「悩み」については14.1%と低くなっている。【P60 参照】

悩んでいること			
	小学生 (n=524)	中学生 (n=567)	高校生 (n=228)
友だちのこと	21.8	24.0	20.2
学校のこと	9.5	14.3	11.4
勉強のこと	27.9	50.3	57.0
家族のこと	10.1	12.0	12.3
将来のこと	25.0	42.5	59.6
からだのこと	16.0	8.1	9.6
異性のこと	5.7	6.2	11.0
そのほか	1.3	5.1	5.7
悩みはない	42.4	23.5	11.4
無回答	0.2	1.6	1.3

相談する相手	小学生 (n=524)	中学生 (n=567)	高校生 (n=228)
親	70.4	51.5	40.8
友だち	52.1	73.5	73.7
学校の先生	20.0	13.8	5.3
兄弟姉妹	19.3	13.1	14.5
祖父母	13.7	5.3	2.2
インターネットを使って	4.0	5.1	3.9
親戚の大人	3.8	1.2	3.1
塾や習い事(予備校)の先生	3.6	5.5	7.0
電話相談ダイヤル	1.3	0.5	0.0
教育センター	1.1	0.2	0.0
近所の人	0.6	0.2	1.3
養護教育センター	0.6	0.2	0.0
その他	3.4	4.1	5.3
相談する人がいない	5.5	6.0	6.6
無回答	1.5	1.1	2.6

子どもについて理解していると思うもの	
保護者(n=1020)	
健康状態	92.6
興味や関心のあること	76.2
友だちのこと	53.8
勉強のこと	52.8
学校での生活	33.1
将来の夢や進路	28.2
悩み	14.1
異性のこと	8.4
その他	0.9
わからない	1.2
無回答	1.4

(4) 起床時刻・就寝時刻

- ・小学生：6時半に起床し、10時に就寝している。
- ・中学生：6時～7時の間に起床し、11時に就寝している。
- ・高校生：6時～7時の間に起床し、12時～1時に就寝している。

児童・生徒調査の『起床時刻』についてみると、小学生では「6時半ごろ」が最も高く43.1%となっている。中学生及び高校生は「6時ごろ」、「6時半ごろ」、「7時ごろ」に分散しており、それぞれ2～3割となっている。

『就寝時刻』についてみると、小学生では「10時ごろ」、中学生では「11時ごろ」、高校生では「12時ごろ」、「1時ごろ」にそれぞれピークがある。【P49, P50 参照】

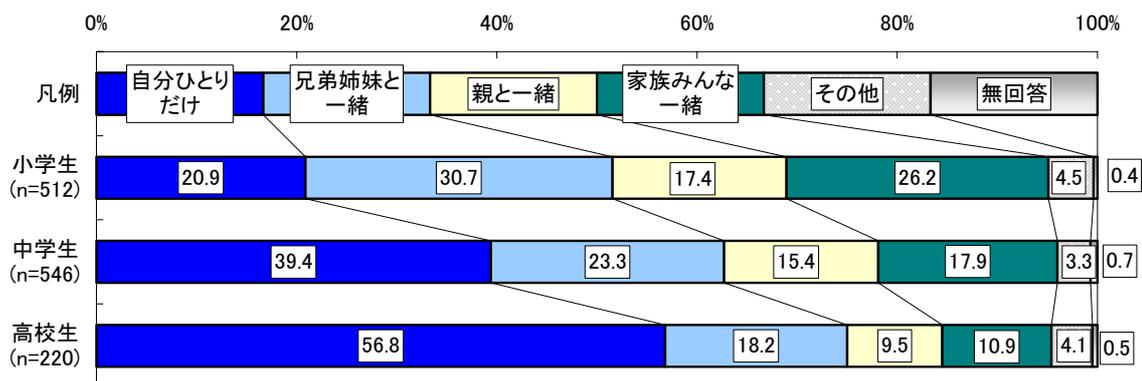
起床時刻			就寝時刻				
	小学生 (n=524)	中学生 (n=567)	高校生 (n=228)		小学生 (n=524)	中学生 (n=567)	高校生 (n=228)
5時より前	1.0	1.3	1.1	9時より前	6.3	0.7	0.9
5時ごろ	1.9	3.9	1.8	9時ごろ	26.0	3.4	0.0
5時半ごろ	2.5	10.1	9.2	10時ごろ	43.1	18.2	1.8
6時ごろ	20.0	20.6	25.9	11時ごろ	17.7	37.6	16.2
6時半ごろ	43.1	29.8	29.6	12時ごろ	4.2	25.7	35.5
7時ごろ	27.1	23.2	22.6	1時ごろ	0.8	8.5	30.3
7時半ごろ	3.6	7.5	6.2	2時ごろ	0.6	2.5	8.3
8時ごろ	0.4	1.3	1.2	2時より後	0.8	2.6	4.4
8時より後	0.2	0.9	1.6	無回答	0.6	0.9	2.6
無回答	0.2	1.3	0.9				

(5) 朝食

- ・小学生、中学生、高校生とも8割以上が毎日朝食を食べている。
- ・親と一緒に食べる割合が低い。

児童・生徒調査の『朝食を食べているか』についてみると、小学生、中学生、高校生ともに「毎日食べている」が8割を超えている。

『朝ごはんを誰と一緒に食べるが多いか』についてみると、年齢が高くなるにつれて、「自分ひとりだけ」で食べる割合が高くなり、小学生では20.9%だが、高校生では56.8%を占めている。【P51, P52 参照】



(6) 放課後、休日の過ごし方

- ・小学生：放課後は習い事等、休日は家族と一緒に過ごすことをしている。
- ・中学生：放課後、休日ともに部活動をしている。
- ・高校生：放課後は部活動、休日は予習・復習をしている。
- ・保護者の期待する放課後・休日の過ごし方と、子どもの実態は異なっている。

児童・生徒調査の『放課後・休日の過ごし方』についてみると、『放課後の過ごし方』は、小学生で「塾や習い事に通う」が51.7%で最も高く、中学生では「部活動に参加する」が67.5%と圧倒的に高く、高校生では突出して高い項目がなく、「部活動に参加する」、「学校の宿題や予習・復習をする」、「塾や習い事に通う」、「テレビやマンガを見たり、ゲームやインターネットをしたりする」が4割前後で並んでいる。

一方、『休日の過ごし方』をみると、小学生では「家族と一緒に過ごす」が48.7%で最も高い。中学生は放課後同様、「部活動に参加する」が43.0%で最も高い。高校生は項目ごとの差が少ないが、「学校の宿題や予習・復習をする」(39.9%)、「テレビやマンガを見たり、ゲームやインターネットをしたりする」(37.7%)が高い。

保護者調査の『放課後・休日どんな過ごし方をしてほしいか』についてみると、放課後は「学校の宿題や予習・復習をする」が圧倒的に高く76.0%、休日では、「家族と一緒に過ごす」、「スポーツや遊びで体を動かす」が6割超で並んでいる。【P46, P48, P62 参照】

	放課後				休日			
	小学生 (n=524)	中学生 (n=567)	高校生 (n=228)	保護者 (n=1020)	小学生 (n=524)	中学生 (n=567)	高校生 (n=228)	保護者 (n=1020)
学校の宿題や予習・復習などの勉強をする	37.4	18.5	42.5	76.0	29.8	18.7	39.9	36.6
塾や習い事に通う	51.7	47.1	40.8	36.7	25.2	13.6	27.6	9.0
家の手伝いをする	15.8	14.1	7.9	32.8	24.8	14.8	8.8	50.6
部活動に参加する		67.5	43.4			43.0	37.3	
テレビやマンガを見たり、ゲームやインターネットをしたりする	36.6	34.9	39.9	9.9	44.8	41.1	37.7	13.0
携帯電話や電子メールで友達と話す	10.5	29.5	35.5	3.3	9.7	27.7	20.2	2.9
スポーツや遊びで体を動かす	39.1	13.1	8.8	56.9	35.7	14.5	10.5	62.5
外出して友達と過ごす	34.9	10.1	11.8	27.0	19.1	42.5	36.0	25.6
読書をする	12.4	7.2	8.3	21.3	16.8	7.9	6.1	17.4
家族と一緒に過ごす	16.2	10.2	11.4	15.8	48.7	20.5	15.4	63.2
一人でのんびりと過ごす	18.1	20.6	31.1	6.9	16.8	26.8	35.5	4.7
無回答	6.5	6.2	3.1	2.8	7.6	6.7	5.3	4.0

(7) 学校の印象

- ・勉強がおもしろいと感じている小学生は 53.8%、中学生は 26.1%、高校生は 30.3%。
- ・小学生は総じて肯定的、中学生と高校生は小学生と比較すると見劣りする。

児童・生徒調査の『学校生活についてどう感じているか』についてみると、小学生では、肯定的な意見が多く、楽しいと感じている割合が高い。中学生及び高校生は、小学生と比較すると楽しいとする傾向は弱い。【P26, P27 参照】

	小学生 (n=524)	中学生 (n=567)	高校生 (n=228)
勉強がおもしろい	53.8	26.1	30.3
友だちと仲良く遊んでいる 友だちと仲が良い	92.2	86.0	84.7
運動会や学校の外での行事が楽しい 体育祭文化祭などの行事が楽しい	91.4	81.8	82.9
クラスの係りや委員会活動が楽しい	68.2	39.9	
楽しい先生がいる 先生との関係が良好である	77.9	65.1	53.1
部活動が楽しい		67.5	62.3
尊敬できる先輩がいる		62.1	64.9

「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計値

(8) 勉強する理由

- ・小学生：「将来何かの役に立つと思うから」。
- ・中学生と高校生：「高校や大学に行きたいから」。

児童・生徒調査の『勉強する理由』についてみると、小学生では「将来何かの役に立つと思うから」が最も高く 42.7%だが、中学生及び高校生では「高校や大学に行きたいから」が突出して高く、それぞれ 48.4%、58.3%となっている。【P28 参照】

	小学生 (n=524)	中学生 (n=567)	高校生 (n=228)
将来何かの役に立つと思うから	42.7	36.8	21.5
わからなかったことが、わかるようになるから	35.5	23.9	9.2
新しいことを知ることができるから	29.2	15.7	22.4
立派な大人になりたいから	24.2	15.3	11.0
高校や大学に行きたいから	19.8	48.4	58.3
やりたい仕事があるから	13.7	14.8	25.4
先生や親から勉強しなさいと言われるから	7.6	12.3	5.3
勉強が好きだから	5.3	1.1	0.9
友だちに負けたくないから	4.4	8.5	3.9
そのほか	2.9	3.9	2.2
わからない	4.8	5.5	5.7
無回答	1.3	2.5	3.9

3. 育みたい子ども像など

(1) 育みたい子ども像

- ・保護者は自分の子どもに、「人を思いやる心を持っている人」になってほしい。
- ・一般市民と教員はこれからの子どもは「人を思いやる心を持っている子ども」になってほしい。

保護者調査の『将来どんな大人になってほしいか』についてみると、「人を思いやる心を持っている人」が抜群に高く 74.0%であった。

また、一般市民調査及び教員調査の『これからの子どもがどのように育まれてほしいか』についてみると、どちらも「人を思いやる心を持っている子ども」が最も高く、それぞれ 85.1%、87.0%となっている。【P65,P97,P119 参照】

将来どんな大人になってほしいか	保護者 (n=1020)	どんな子どもに育まれてほしいか	一般市民 (n=877)	教員 (n=346)
人を思いやる心を持っている人	74.0	人を思いやる心を持っている子ども	85.1	87.0
困難を乗り越えられる人	59.5	社会のルールやマナーを守れる子ども	70.5	63.3
自分らしさを持っている人	49.3	最後まであきらめずに取り組む子ども	45.2	57.8
友達や仲間がたくさんいる人	42.1	友達がたくさんいる子ども	44.7	25.1
家族を大切にする人	38.7	目標に向かって努力する子ども	44.5	55.5
社会のきまりを守る人	35.1	自然を大切にする子ども	32.6	14.7
健康で体力に自信がある人	26.8	規則正しい生活習慣が身についている子ども	25.0	37.0
夢を実現するために、最後まであきらめない人	26.3	学ぶ意欲のある子ども	17.3	29.2

上位8項目

(2) 自分の将来について

- ・小学生は「友達や仲間がたくさんいる人」になりたい。
- ・中学生は「友だちや仲間がたくさんいる人」、「自分らしさを持っている人」になりたい。
- ・高校生は「自分らしさを持っている人」になりたい。
- ・大人（保護者・一般市民・教員）の期待する子どもの将来像と、子ども自身の将来像は一致していない。

児童・生徒調査の『将来どんな大人になりたいか』についてみると、小学生では「友達や仲間がたくさんいる人」が最も高く 46.9%、2 番目が「家族を大切に作る人」であった。中学生では「友だちや仲間がたくさんいる人」が最も高く 54.0%、次いで「自分らしさを持っている人」で 50.4%であった。高校生では「自分らしさを持っている人」が最も高く 54.4%で、2 番目が「友だちや仲間がたくさんいる人」で 45.2%であった。また、「リーダーとして活躍する人」は、小学生、中学生及び高校生の全てで最下位となっており、子どもの消極的な面が浮き彫りとなった。【P53 参照】

	小学生 (n=524)	中学生 (n=567)	高校生 (n=228)
友だちや仲間がたくさんいる人	46.9	54.0	45.2
家族を大切に作る人	45.8	31.7	24.1
夢を実現するために、最後まであきらめない人	39.9	28.4	27.6
健康で体力に自信がある人	32.8	19.2	15.4
自分らしさを持っている人	32.1	50.4	54.4
常に努力をする人	28.4	29.1	32.0
人を思いやる心をもっている人	28.1	36.2	39.0
得意なことをたくさん持っている人	26.1	21.0	19.7
困難を乗り越えられる人	19.7	24.7	30.3
社会のきまりを守る人	17.2	23.3	13.2
新しいことに取り組みようとする人	15.6	11.5	11.4
海外で活躍する人	11.3	6.7	15.8
社会の役に立てる人	10.3	12.7	13.2
リーダーとして活躍する人	7.6	6.0	5.3
その他	3.1	3.7	4.8
わからない	2.3	2.1	1.8
無回答	2.1	2.1	3.1

4. 学校に期待すること

(1) 学校に期待すること

- ・小学生：「コンピューターを使った授業」をしてほしい。
- ・中学生：「選択できる授業を」、「コンピューターを使った授業」をしてほしい。
- ・高校生：「受験に役立つような授業」、「学校施設や設備の改善、教材・備品等の充実」を学校に期待している。

児童・生徒調査の『学校に期待すること』についてみると、小学生では「コンピューターを使った授業をたくさんしてほしい」が最も高く 66.0%、中学生では「選択できる授業を増やしてほしい」が 45.7%、「コンピューターを使った授業をたくさんしてほしい」が 45.3%で並んでいる。高校生では「受験に役立つような授業」が目立って高く 53.5%、次に「学校施設や設備の改善、教材・備品等の充実」が 44.7%となっている。

【P29,P30 参照】

小学生(n=524)	
コンピューターを使った授業をたくさんしてほしい	66.0
自分の学校だけの特色ある活動をしてほしい	49.8
苦手なスポーツをできるようにしてほしい	36.6
「総合の時間」をもっとたくさんしてほしい	36.5
英語の授業などをたくさんしてほしい	29.2
中学生(n=567)	
選択できる授業を増やしてほしい	45.7
コンピューターを使った授業をしてほしい	45.3
スポーツの持つ楽しさに十分触れさせてほしい	39.0
社会体験活動をたくさんしてほしい	38.6
特色のある活動をしてほしい	36.7
高校生(n=228)	
受験に役立つような授業をしてほしい	53.5
学校施設や設備の改善、教材や備品等の充実をしてほしい	44.7
基礎的な知識をしっかり教えてほしい	35.5
英語の授業を更に充実させてほしい	27.6
ホームステイや体験入学を通じ、実践的な語学力を身につけさせてほしい	25.4

上位5項目

(2) 学校に期待する取り組み

・保護者、一般市民ともに、総じて期待する傾向が強い。

保護者、一般市民調査の『学校に期待する取り組み』についてみると、保護者、一般市民とも総じて“期待する”（「期待する」＋「まあ期待する」）傾向が強い。その中で「⑥家族と家庭の役割に関する基礎的な理解を養う」は“期待する”の割合が、保護者で45.1%、一般市民で42.5%と相対的に低くなっている。【P86, P108 参照】

	保護者 (n=1020)	一般市民 (n=877)
①道徳観や社会のマナー・ルールを身につけさせる	82.5	79.0
②公正な判断力を身につけさせる	80.5	77.1
③自然や環境の大切さを教える	79.1	80.8
④日本の文化を理解し、尊重する気持ちを養う	75.0	77.7
⑤国際的な感覚を身につけ国際文化を理解させる	65.9	69.0
⑥家族と家庭の役割に関する基礎的な理解を養う	45.1	42.5
⑦読書に親しませ、国語の基礎的な能力を養う	82.4	80.2
⑧基礎的な数学的なものの見方や考え方を養う	87.9	85.0
⑨基礎的な科学的なもの見方や考え方を養う	86.2	82.8
⑩体力を養い、心身ともに健やかな体をつくる	84.4	82.1
⑪音楽・美術などの芸術について理解を深める	78.4	73.1
⑫働くことの大切さを教える	71.8	69.0
⑬将来について考える力を養う	79.3	75.4

「とても期待する」と「まあ期待する」の合計値

(3) 今後の取り組みについて

・「授業の質の向上や、問題行動への対応などには、教員個人だけではなく学校全体でも取り組むようにする」ことが必要である。

保護者、一般市民調査の『今後取り組むべきこと』についてみると、両調査とも「④授業の質の向上や、問題行動への対応等には、教員個人だけではなく学校全体でも取り組むようにする」を肯定する傾向が最も高い。【P87, P111 参照】

	保護者 (n=1020)	一般市民 (n=877)
①これまで以上に特色ある教育活動・学校づくりを進める	64.7	50.9
②子どもの実態に応じた学校づくりを進める	73.6	70.1
③指導力の高い教員を増やしていく	82.4	81.0
④授業の質の向上や問題行動への対応などには、教員個人だけではなく学校全体でも取り組むようにする	92.2	90.1
⑤地域との連携・協力を一層深め、地域の教育力を生かした学校づくりを進める	74.0	72.7
⑥学校が子どもの教育だけでなく、地域の人が学べる拠点としての役割を持つようにしていく	50.6	51.5

「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計値

5. 教員の資質向上

(1) 教員の対応

- ・小学生、中学生ともに「先生は放課後や休み時間に、よく話をしてくれる」を肯定する傾向が最も低い。
- ・保護者は、教員が子ども一人ひとりと接する時間が少ないと感じている。
- ・教員は「子どもの話によく耳を傾けている」と感じており、この点について教員と小学生・中学生・保護者との間に意識の違いがみられる。
- ・「自分は子どもから信頼を得ている」と感じている教員は45.1%にとどまっている。

児童・生徒調査の『先生の対応についてどう感じるか』についてみると、小学生、中学生ともに「先生は放課後や休み時間に、よく話をしてくれる」を“そう思う”（「そう思う」＋「どちらかといえばそう思う」）割合が最も低い。全体的に、小学生よりも中学生の方が肯定的な傾向が弱くなっている。【P33 参照】

保護者調査の『教員の印象』についてみると、「⑤子ども一人ひとりと接する時間が多い」について“そう思う”（「そう思う」＋「どちらかといえばそう思う」）の割合が最も低く、子どもと同様の印象を保護者も持っていることがわかる。【P77 参照】

教員調査の『子どもに対してどのような対応をしていると感じているか』についてみると、「わかりやすく教えている」、「子どもの話によく耳を傾けている」で“そう思う”割合が高く、7割を超えている。一方、「自分は子どもから信頼を得ている」と感じている教員は45.1%となっている。【P118 参照】

先生の印象	小学生 (n=524)	中学生 (n=567)	教員の印象	保護者 (n=1020)	子どもに対する対応	教員 (n=346)
①先生はわかりやすく教えてくれる	77.5	63.7	①子どもに信頼されている	51.8	①わかりやすく教えている	71.6
②先生は放課後や休み時間に、よく話をしてくれる	45.8	31.2	②保護者に信頼されている	43.5	②放課後や休み時間に子どもとよく話をしている	55.5
③先生はきまりをきちんと教えてくれる	77.5	66.1	③授業などいろいろな工夫をしている	39.0	③学級の規律について、厳しい方である	53.1
④先生はあなたのことを理解してくれる	60.5	39.5	④家庭や地域との連携に積極的である	32.0	④子どものことをよく理解している	49.7
⑤先生は話によく耳をかたむけてくれる	59.2	50.4	⑤子ども一人ひとりと接する時間が多い	16.3	⑤子どもの話によく耳を傾けている	73.4
⑥先生は自分のことを信頼してくれている	48.7	35.6	⑥子どものことに熱心に取り組む教員が多い	32.3	⑥自分は子どもから信頼を得ている	45.1
			⑦子どもの悩みや不安にすぐに対応してくれる	31.0		

「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計値

(2) 期待する教員像・目指す教員像

- ・子どもが教わりたい先生は「わかりやすい授業をしてくれる先生」である。
- ・保護者・一般市民が望ましいと考えているのは「子どものやる気を引き出し、意欲を高めてくれる」教員である。
- ・教員は「わかりやすい授業をする」ことを目指している。
- ・子どものニーズと教員の意識は一致しているが、保護者のニーズと教員の意識は必ずしも一致していない。

児童・生徒調査の『教わりたい先生』についてみると、小学生では「クラスを楽しい雰囲気にしてくれる」が最も高く 66.0%、中学生では「クラスを楽しい雰囲気にしてくれる」(58.0%)と「わかりやすい授業をしてくれる」(59.6%)が同程度、高校生では「わかりやすい授業をしてくれる」が突出して高く、75.0%であった。

一方、保護者と一般市民の調査の『望ましい教員像』をみると、どちらも「子どものやる気を引き出し、意欲を高めてくれる」が最も高く、次に「子どもから信頼され、尊敬される人格を持っている」となっている。

さらに、教員調査の『目指す教員像』をみると、「わかりやすい授業をする」(69.7%)が最も高く、次いで「子どものやる気を引き出し、意欲を高める」(60.7%)となっている。

【P34, P35, P79, P101, P128 参照】

	小学生 (n=524)		中学生 (n=567)	高校生 (n=228)		小学生 (n=1020)	一般市民 (n=877)	教員 (n=346)
わかりやすい授業をしてくれる	51.3	わかりやすい授業をしてくれる	59.6	75.0	子どものやる気を引き出し、意欲を高めてくれる	62.3	60.0	60.7
社会のきまりや守るべきことを教えてくれる	10.5	社会のきまりや守るべきことを教えてくれる	9.0	4.4	子どもから信頼され、尊敬される人格を持っている	49.4	50.7	37.0
自分たちのことをわかってくれる	33.6	自分たちのことをわかってくれる	31.0	34.6	公平に子どもを評価してくれる	47.9	48.9	17.6
やる気にさせてくれる	30.2	やる気や意欲を高めてくれる	30.2	43.0	子どもをよく理解してくれる	39.5	29.6	37.9
誰にでも公平に接してくれる	29.8	誰にでも公平に接してくれる	36.3	29.4	わかりやすい授業をしてくれる	37.4	28.7	69.7
何でもいっしょになってやってくれる	12.4	将来や進路の相談にのってくれる	11.5	12.3	子ども一人ひとりに応じた指導をしてくれる	21.3	18.6	30.3
放課後や休み時間に、よく話をしてくれる	11.3	生徒と一緒に何でもやってくれる	20.1	15.4	子どもに基本的な生活習慣や態度を身につけさせてくれる	13.0	24.4	17.3
自分の目標や手本になってくれる	10.9	自分の目標や手本になってくれる	6.0	6.1	学級担任として、クラスをうまくまとめることができる	11.1	10.7	11.6
何でもよく知っている	13.7	クラスを楽しい雰囲気にしてくれる	58.0	34.6	保護者の相談に気軽に応じてくれる	6.1	7.2	4.3
クラスを楽しいふんいきにしてくれる	66.0	何でもよく知っている	7.2	6.6	その他	1.0	3.4	1.4
そのほか	4.0	その他	2.1	3.9	わからない	0.4	0.3	0.6
わからない	4.2	わからない	2.8	2.2	無回答	1.2	1.4	1.4
無回答	3.1	無回答	3.5	3.5				

6. 教員の資質向上に必要なこと

- ・保護者と一般市民は「意欲や熱意のある人材の採用」、「新任研修の充実」が特に必要。
- ・教員は「教員が授業に集中できるような環境の整備」が最も必要とし、次に「意欲や熱意のある人材の採用」を挙げている。
- ・「教員の資質向上のために必要なこと」について、保護者・一般市民と教員との間で、意識の違いがみられた。

保護者調査、一般市民調査、教員調査の『教員の資質の向上を図るために』についてみると、保護者と一般市民で“必要”（「必要」＋「どちらかといえば必要」）と考えている割合は、「②意欲や熱意のある人材の採用」が最も高く、総じて同じ傾向となっている。

一方、教員調査をみると、「②意欲や熱意のある人材の採用」については、保護者調査と一般市民調査と同様に高い傾向はあるが、それ以外の項目については他の2つの調査と比較して“必要”の割合が低い。特に、「①民間人等多様な人材の採用」については“必要ない”（「どちらかといえば必要ない」＋「必要ない」）が“必要”の割合を上回っている。教員調査で最も必要と考えられているのは「⑦教員が授業に集中できるような環境の整備」で7割以上が「必要」と回答している（「どちらかといえば必要」を合わせると、9割超）。

【P80, P103, P131 参照】

	保護者 (n=1020)	一般市民 (n=877)	教員 (n=346)
①民間人等多様な人材の採用	53.7	54.6	26.0
②意欲や熱意のある人材の採用	88.1	87.5	90.2
③採用面接の重視	73.2	70.7	67.1
④新任研修の充実	78.6	77.1	53.2
⑤一定期間ごとの研修の実施	76.9	76.1	45.9
⑥他業種への派遣研修の充実	47.9	50.1	33.8
⑦教員が授業に集中できるような環境の整備	70.1	75.4	92.5

「必要」と「どちらかといえば必要」の合計値

7. 家庭教育

(1) 親の子どもに対する理解

- ・理解しているのは「健康状態」、「興味関心のあること」。
- ・自信がないのは「将来の夢や進路」、「悩み」、「異性のこと」。

保護者調査の『子どもについて理解していると思うこと』についてみると、「健康状態」が最も高く 92.6%、次いで「興味や関心のあること」が 76.2%であった。一方、「将来の夢や進路」(28.2%)、「悩み」(14.1%)については低い。保護者自身はより踏み込んだ子どもとのコミュニケーションに自信がないと考えられる。【P60 参照】

子どもについて理解していること	保護者 (n=1020)
健康状態	92.6
興味や関心のあること	76.2
友だちのこと	53.8
勉強のこと	52.8
学校での生活	33.1
将来の夢や進路	28.2
悩み	14.1
異性のこと	8.4
無回答	1.4
わからない	1.2
その他	0.9

(2) しつけや教育

- ・「基本的な社会のルールを身につけさせる」ことが最も気をつけていること。
- ・保護者の子どもに対する印象で、子どもは社会的なルールを守っていると感じているのは約6割。
- ・きちんとしつけをしているので、子どももルールを守っているという認識でいることが推測される。

保護者調査の『日頃、しつけや教育について、気をつけていると思うもの』についてみると、「基本的な社会のルールを身につけさせる」が最も高く8割超であった。次いで「片付けなど自分のことは自分でできるようにさせる」が8割弱、「物やお金を大切にすることを身につけさせる」が7割、「規則正しい生活習慣を身につけさせる」が6割台の半ばであった。【P58,P64 参照】

しつけや教育で気をつけていること	保護者 (n=1020)
基本的な社会のルールを身につけさせる	83.5
片付けなど自分のことは自分でできるようにさせる	78.5
物やお金を大切にすることを身につけさせる	70.0
規則正しい生活習慣を身につけさせる	65.0
子どもとコミュニケーションをとる	63.2
子どもと一緒に食事をする	59.8
子どものよいところをきちんとほめる	54.0
家の手伝いをさせる	49.8
自宅で、学習する習慣を身につけさせる	44.0
テレビやゲームの時間などのルールを決める	31.8
塾に行かせたり、習い事をさせたりする	21.4
その他	2.8
無回答	0.8
子どもの印象	保護者 (n=1020)
⑩社会のきまりや約束したことを守っている	61.2

(3) 社会的な問題について

- ・給食費を払わなくていいと考えている保護者は1.2%、市民は0.6%いる。
- ・無理難題な要求をしてもいいと考えている保護者は2.5%、一般市民は1.6%いる。
- ・社会的な問題に対する市民の意識は、少ないながらも今後新たな問題を発生させる可能性を秘めている。

保護者、一般市民調査の『給食費未納の問題』についてみると、どちらも9割台後半の回答者が「支払うべき」と回答している。

また、『保護者の問題』については、保護者調査では85.2%が、一般市民調査では90.9%が「無理難題な要求はすべきでない」と回答している。

しかし、少数ながら、給食費を払わなくていいと考えている。また学校に無理難題な要求をしてもいいと考えている保護者や一般市民が存在することが明らかになった。

【P89, P90, P110, P111 参照】

給食費の問題について	保護者 (n=1020)	一般市民 (n=877)
当然払うべきで、保護者としての責任感や規範意識が低下していると思う	95.6	98.4
払うか払わないかは個人の自由だと思う	0.5	0.1
義務教育だから払わなくてもいいと思う	0.7	0.5
わからない	2	0.6
無回答	1.3	0.5
保護者の問題について	保護者 (n=1020)	一般市民 (n=877)
無理難題な要求をすべきでない	85.2	90.9
無理難題な要求でも多少なら良いと思う	4.2	2.4
無理難題な要求をしても良いと思う	2.5	1.6
わからない	6.5	3.9
無回答	1.7	1.3

8. 役割分担

(1) 役割分担について

- ・「規律ある生活や基本的な生活習慣」、「我慢する気持ちを持つこと」、「物事の善悪を判断する力を持ち、社会のルールを守ること」は家庭の役割。
- ・「読み書き計算などの知識や技能、生涯にわたって自分で学んでいけるための学び方や学ぶ意欲、社会生活を営む上で必要な態度や能力」＝「知識や技能を身につけること」は学校の役割。
- ・保護者、一般市民、教員とも役割分担についての意識はほぼ同じ傾向にある。
- ・地域の役割とするものは、総じて少ない。

保護者調査、一般市民調査、教員調査の『教育における役割分担』についてみると、「①規律ある生活や基本的な生活習慣」は、全調査で「家庭の役割」が9割超と最も高い。

「②我慢する気持ちを持つこと」も同様に「家庭の役割」が8割を大きく超えている。

「③読み書き計算など日常生活に必要な基礎的・基本的な知識や技能」については、どの調査でも「学校の役割」とする傾向が強いが、保護者調査が86.5%、一般調査が87.8%であるのに対し、教員調査では95.4%となっている。

「④生涯にわたって自分で学んでいけるための学び方や学ぶ意欲」については、「学校の役割」とする傾向が強く、保護者調査では67.7%、一般市民調査では65.8%、教員調査では74.3%となっている。

「⑤社会生活を営む上で必要な態度や能力」については、それぞれ「学校の役割」とする傾向が強いが、「家庭の役割」、「地域の役割」の割合も高く、最も分散傾向が強い項目であった。

「⑥物事の善悪を判断する力を持ち、社会のルールを守ること」については、「家庭の役割」とする傾向が最も強く、保護者では77.9%、一般市民では70.7%、教員では64.5%となっている。

全体的な傾向として、保護者は家庭の役割であると認識する項目が多く、教員は学校の役割であると認識している項目が多かった。【P84, P106, P122 参照】

	保護者(n=1020)			一般市民(n=877)			教員(n=346)		
	家庭	学校	地域	家庭	学校	地域	家庭	学校	地域
①規律ある生活や基本的な生活習慣	94.7	2.6	0.2	94.2	1.9	0.2	94.2	3.8	0.3
②我慢する気持ちを持つこと	89.5	7.5	0.2	89.5	6.5	0.3	85.0	13.3	0.0
③読み、書き、計算など日常生活に必要な基礎的・基本的な知識や技能	11.1	86.5	0.1	8.9	87.8	0.1	2.6	95.4	0.0
④生涯にわたって自分で学んでいけるための学び方や学ぶ意欲	26.1	67.7	3.1	24.3	65.8	5.1	9.8	74.3	13.0
⑤社会生活を営む上で必要な態度や能力	35.0	49.2	12.5	36.0	40.7	19.3	26.6	53.2	17.3
⑥物事の善悪を判断する力を持ち社会のルールを守ること	77.9	7.5	11.4	70.7	11.3	13.8	64.5	14.7	18.5

(2) 地域でできること

- ・「子どもへの挨拶や声かけ」、「ルールやマナーを守らない子どもへの注意」に協力できる。「巡回活動への協力」に協力できるのは半数程度であった。
- ・事前に準備が必要なことや時間がとられるようなことについては、保護者・一般市民ともに消極的な傾向がうかがえた。

保護者調査の『地域でできると思うもの』についてみると、「子どもへの挨拶や声かけ」が最も高く 69.8%、「ルールやマナーを守らない子どもへの注意」が 60.0%だった。

一般市民調査では、「子どもへの挨拶や声かけ」が最も高く 71.7%、「ルールやマナーを守らない子どもへの注意」が 66.4%であった。【P75,P99 参照】

	保護者 (n=1020)	一般市民 (n=877)
ルールやマナーを守らない子どもへの注意	60.0	66.4
地域の子どもへのあいさつや声かけ	69.8	71.7
学区の安全を守る巡回活動への協力	53.0	49.0
運動会や文化祭などの学校行事への参加・協力	30.9	23.8
学校や学校周辺の美化・清掃活動への参加・協力	29.9	35.8
特技や能力を生かした授業への協力	23.6	24.7
学校との情報交換や話し合いなどへの参加	22.3	21.7
クラブ活動・部活動などの指導の協力	20.5	17.2
その他	1.3	1.4
無回答	1.6	2.5

Ⅲ. 調査結果

1. 児童・生徒調査

(1) 回答者の属性

1) 性別

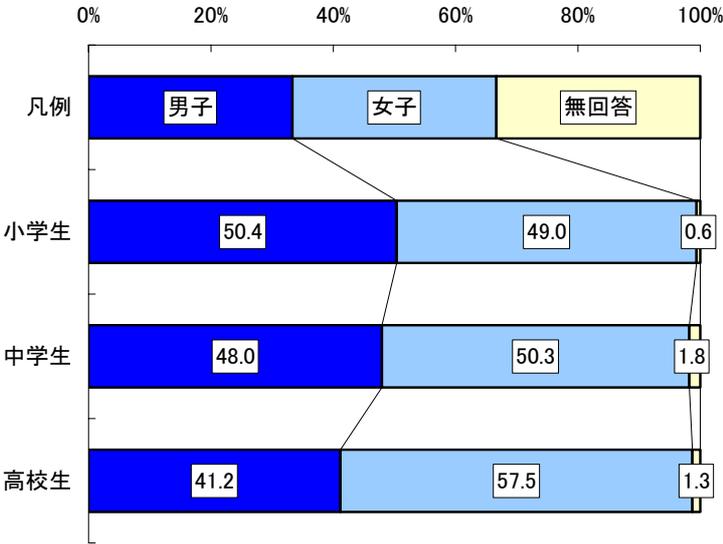
回答者の属性をみると、小学生調査では、男子が 50.4% (264 人)、女子が 49.0% (257 人) となっている。

中学生調査では、男子が 48.0% (272 人)、女子が 50.3% (285 人) となっている。

高校生調査では、男子が 41.2% (94 人)、女子が 57.5% (131 人) となっている。

図表 1-1 回答者の性別

	小学生	
	回答数 (件)	構成比 (%)
男子	264	50.4
女子	257	49.0
無回答	3	0.6
サンプル数	524	100.0
	中学生	
	回答数 (件)	構成比 (%)
男子	272	48.0
女子	285	50.3
無回答	10	1.8
サンプル数	567	100.0
	高校生	
	回答数 (件)	構成比 (%)
男子	94	41.2
女子	131	57.5
無回答	3	1.3
サンプル数	228	100.0

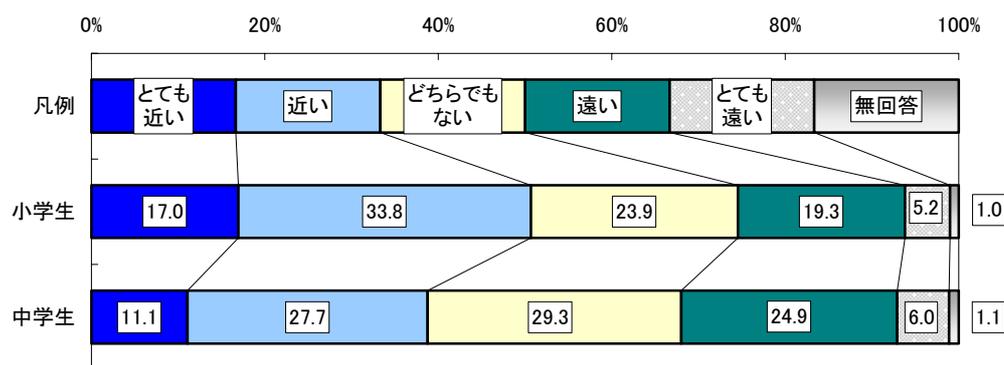


2) 通学距離

小学生調査における通学距離についてみると、“近い”（「とても近い」＋「近い」）と感じているのが 50.8%、“遠い”（「遠い」＋「とても遠い」）と感じているのが 24.5%、「どちらともいえない」が 23.9%となっている。

中学生調査では、“近い”（「とても近い」＋「近い」）と感じているのが 38.8%、“遠い”（「遠い」＋「とても遠い」）と感じているのが 30.9%、「どちらともいえない」が 29.3%となっている。

図表 1-2 通学距離



	小学生		中学生	
	回答数 (件)	構成比 (%)	回答数 (件)	構成比 (%)
とても近い	89	17.0	63	11.1
近い	177	33.8	157	27.7
どちらでもない	125	23.9	166	29.3
遠い	101	19.3	141	24.9
とても遠い	27	5.2	34	6.0
無回答	5	1.0	6	1.1
サンプル数	524	100.0	567	100.0

(2) 学校生活の満足度

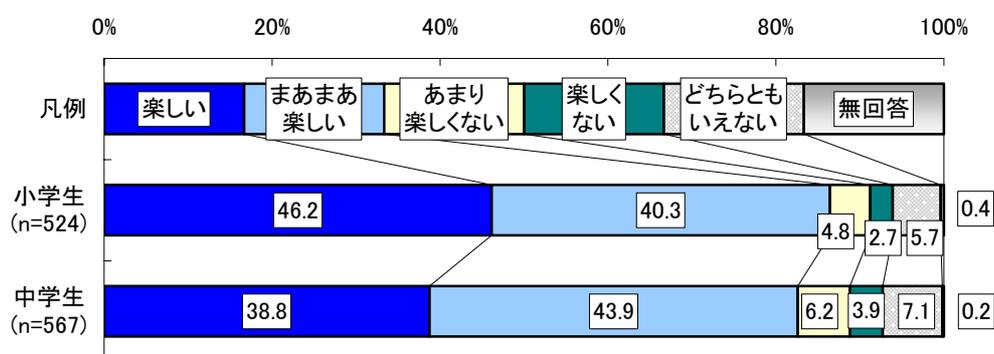
学校生活は楽しいですか。あてはまるものを選んで下さい。【小学生：問4、中学生：問4】

『学校生活は楽しい』とする小学生と中学生は8割以上であった。

小学生調査における学校生活の満足度についてみると、「楽しい」が46.2%、「まあまあ楽しい」が40.3%で、合わせて86.5%が学校生活は楽しいと感じている。

中学生調査では「楽しい」が38.8%、「まあまあ楽しい」が43.9%で、合わせて82.7%が学校生活は楽しいと感じているが、小学生と比較すると若干低くなっている。

図表 1-3 学校生活の満足度

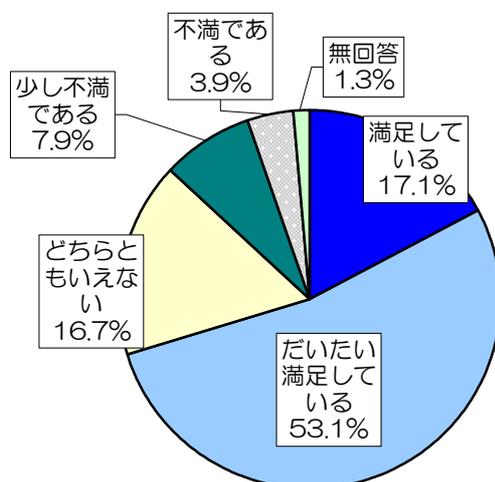


あなたは、今の学校生活に満足していますか。【高校生：問4】

学校生活の満足度は7割を超えている。

高校生調査における学校生活の満足度をみると、「満足している」が17.1%、「だいたい満足している」が53.1%で、合わせて70.2%が学校生活に満足を感じている。

図表 1-4 学校生活の満足度 (n=228)



(3) 学校生活について

学校生活について、どのように感じていますか。あなたの考えに近いものをそれぞれ選んで下さい。
【小学生：問5、中学生：問5、高校生：問3】

勉強がおもしろいと感じている小学生は5割、中学生は2割半、高校生は3割であった。

小学生調査における学校生活についてみると、「②友だちと仲良く遊んでいる」、「③運動会や学校の外での行事が楽しい」を肯定的（「そう思う」＋「どちらかといえばそう思う」）に感じている児童が9割を超えている。「⑤楽しい先生がいる」が約8割、「④クラスの係や委員会活動が楽しい」は約7割となっているが、「①勉強がおもしろい」と感じているのは5割程度となっている。

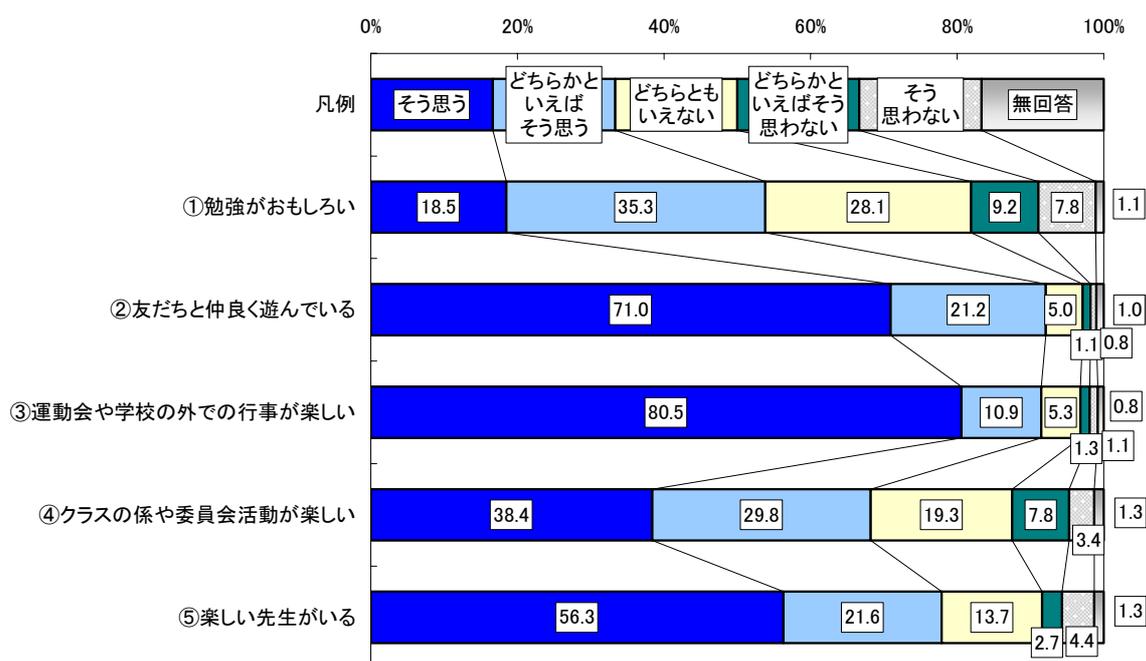
中学生調査についてみると、「②友だちと仲良く遊んでいる」、「③体育祭や学校の外での行事が楽しい」と感じている生徒が8割を超えている。「⑤部活動が楽しい」、「⑥楽しい先生がいる」、「⑦尊敬できる先輩がいる」は6割台となっている。一方、「④クラスの係や委員会活動が楽しい」、「①勉強がおもしろい」はそれぞれ39.9%、26.1%となっている。

高校生調査についてみると、「②友だちと仲が良い」、「③体育祭や文化祭などの行事が楽しい」と感じている者が8割を超えている。「⑤部活動が楽しい」、「⑦尊敬できる先輩がいる」は6割台、「⑥先生との関係が良好である」は5割超となっている。一方、「①勉強がおもしろい」は3割超にとどまっており、否定的（「どちらかといえばそう思わない」＋「そう思わない」）に感じている生徒が約4割を占めている。

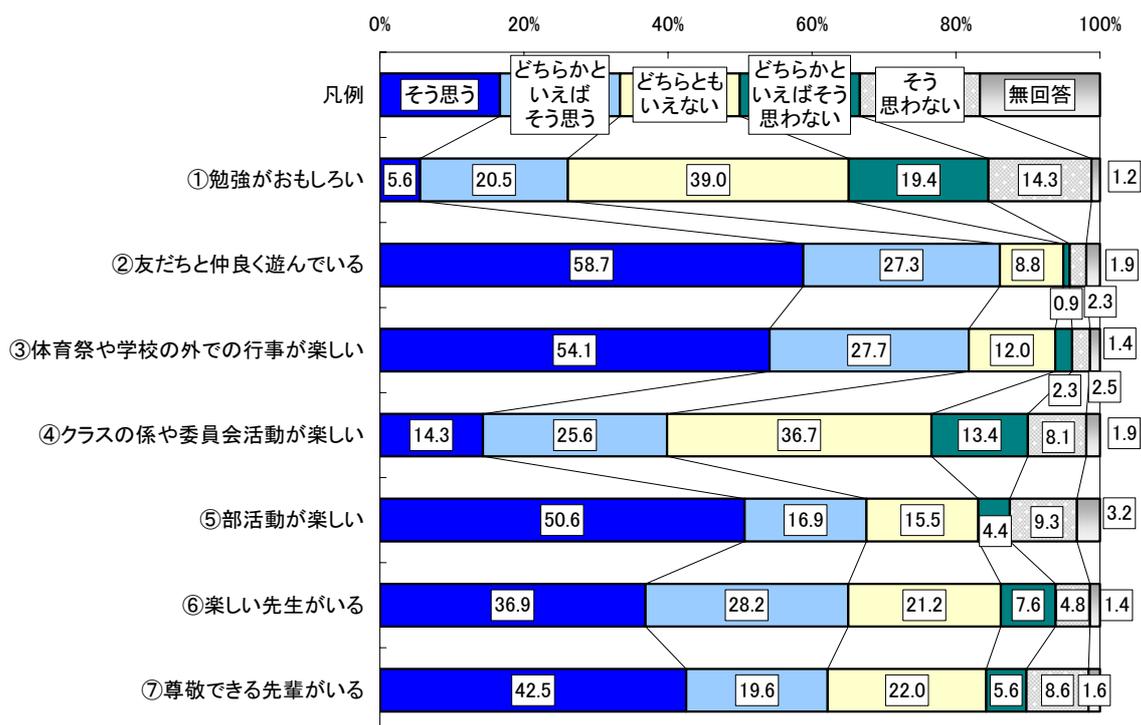
中学生は、小学生と比較すると、総じて肯定的な意識が低くなっている。特に「①勉強がおもしろい」についてはその傾向が顕著であり、唯一否定的意見が肯定的意見を上回っている。

高校生は、小学生と比較すると、肯定的な意見が少なく見劣りするが、中学生との比較では大きな差はみられない。このことから、小学生と中学生の間に、学校生活に対する考え方の分かれ目が生じていると推測される。

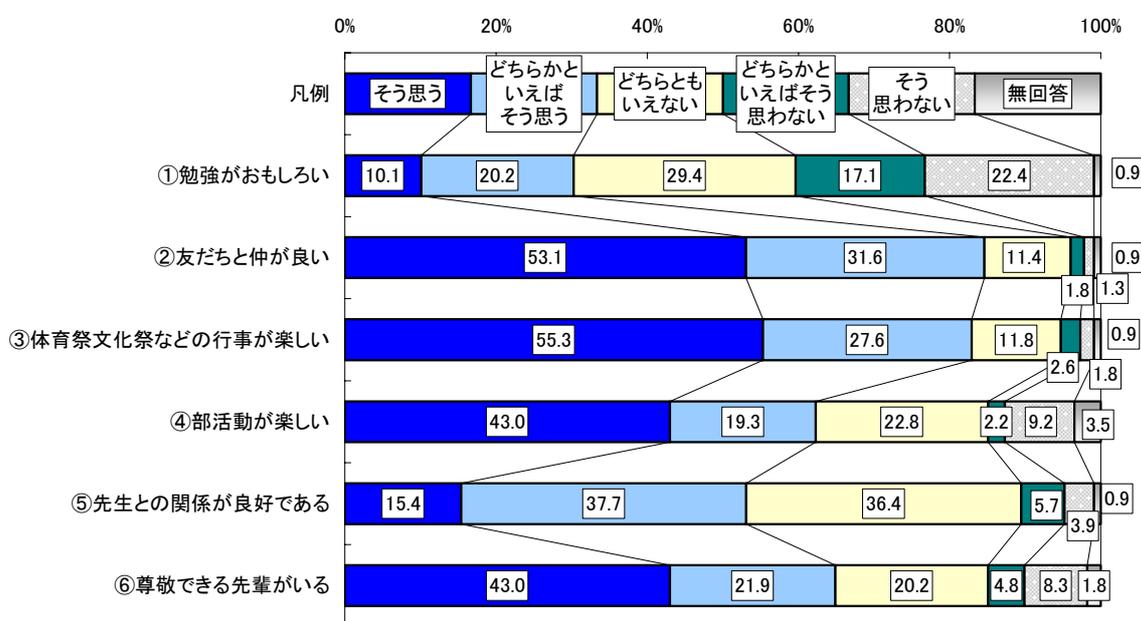
図表 1-5 学校生活について・小学生 (n=524)



図表 1-6 学校生活について・中学生 (n=567)



図表 1-7 学校生活について・高校生 (n=228)



(4) 勉強する理由

あなたが勉強する理由は何ですか。次の中から特に自分の考えに近いと思うものを選んでください。
【小学生：問 6、中学生：問 6、高校生：問 5】

小学生が勉強する理由は「将来何かの役に立つと思うから」、中学生と高校生は「高校や大学に行きたいから」である。

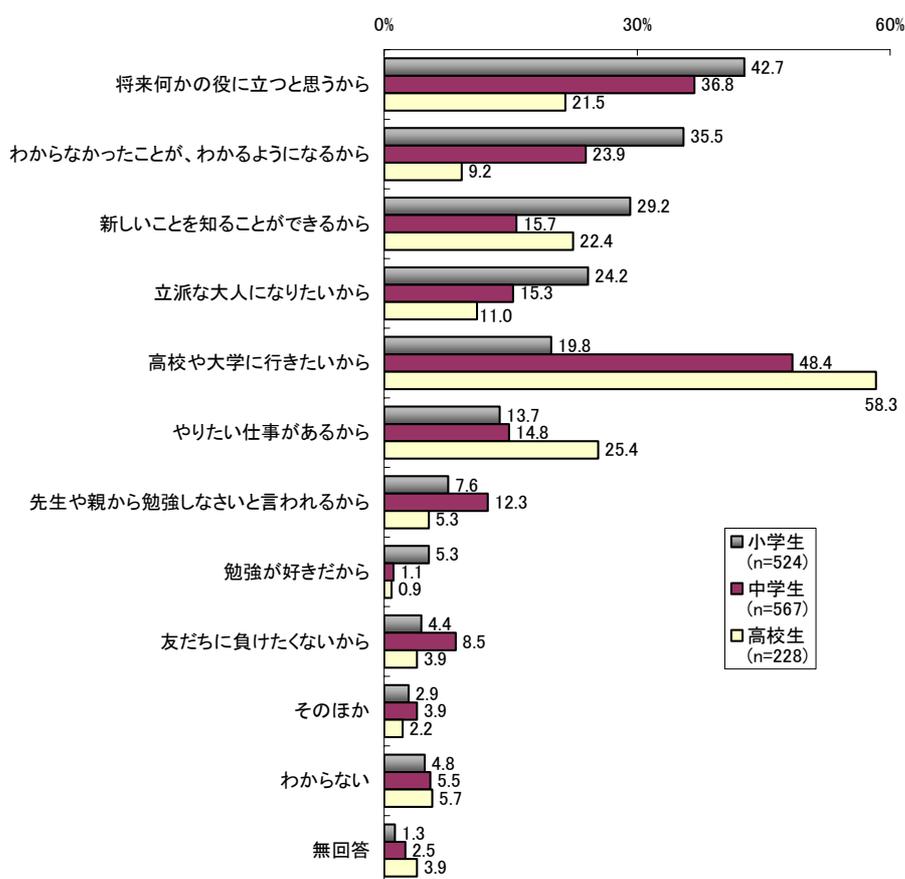
小学生調査における勉強する理由についてみると、「将来何かの役に立つと思うから」が42.7%で最も高く、次いで、「わからなかったことが、わかるようになるから」が35.5%となっている。

中学生調査をみると、「高校や大学に行きたいから」が48.4%で最も高く、次いで「将来何かの役に立つと思うから」が36.8%となっている。

高校生調査では、「高校や大学に行きたいから」が58.3%と目立って高く、次に続く「やりたい仕事があるから」(25.4%)の倍以上となっている。

総じて「勉強が好きだから」とする子どもは少なく、年齢が上がるにつれて割合が低下する傾向がみえた。また「将来何かの役に立つと思うから」、「わからなかったことが、わかるようになるから」、「立派な大人になりたいから」についても、年齢が上がるにつれて低くなる傾向がみられる。

図表 1-8 勉強する理由



(5) 学校に期待すること

これからの学校で特にしてほしいことは何ですか。次の中から選んでください。

【小学生：問7、中学生：問7、高校生：問6】

小学生と中学生は課外活動や特別授業について、高校生は授業内容についての期待が高い。

小学生調査の学校に期待することについてみると、「コンピューターを使った授業をたくさんしてほしい」が66.0%で最も高く、次いで「自分の学校だけの特色ある活動をしてほしい」が49.8%となっている。

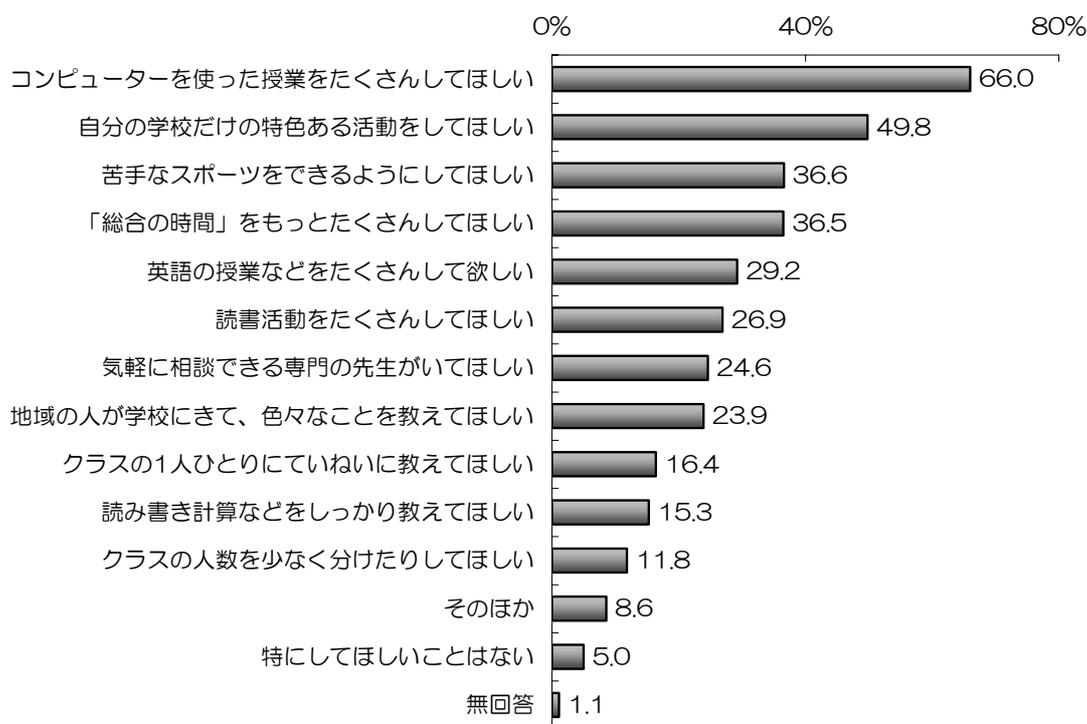
中学生調査では、「選択できる授業を増やしてほしい」が45.7%、「コンピューターを使った授業を増やしてほしい」が45.3%で並んでいる。

高校生調査では、「受験に役立つような授業」が目立って高く53.5%、次に「学校施設や設備の改善、教材や備品等の充実」が44.7%となっている。

小学生と中学生では、基礎基本の習得にあたる「読み書き計算などをしっかり教えてほしい」、「基礎的な知識をしっかりと教えてほしい」は1割台と低くなっているが、高校生では「基礎的な知識をしっかりと教えてほしい」が35.5%で3番目となっており、基礎基本を習得することの意識が育っていることが表れている。

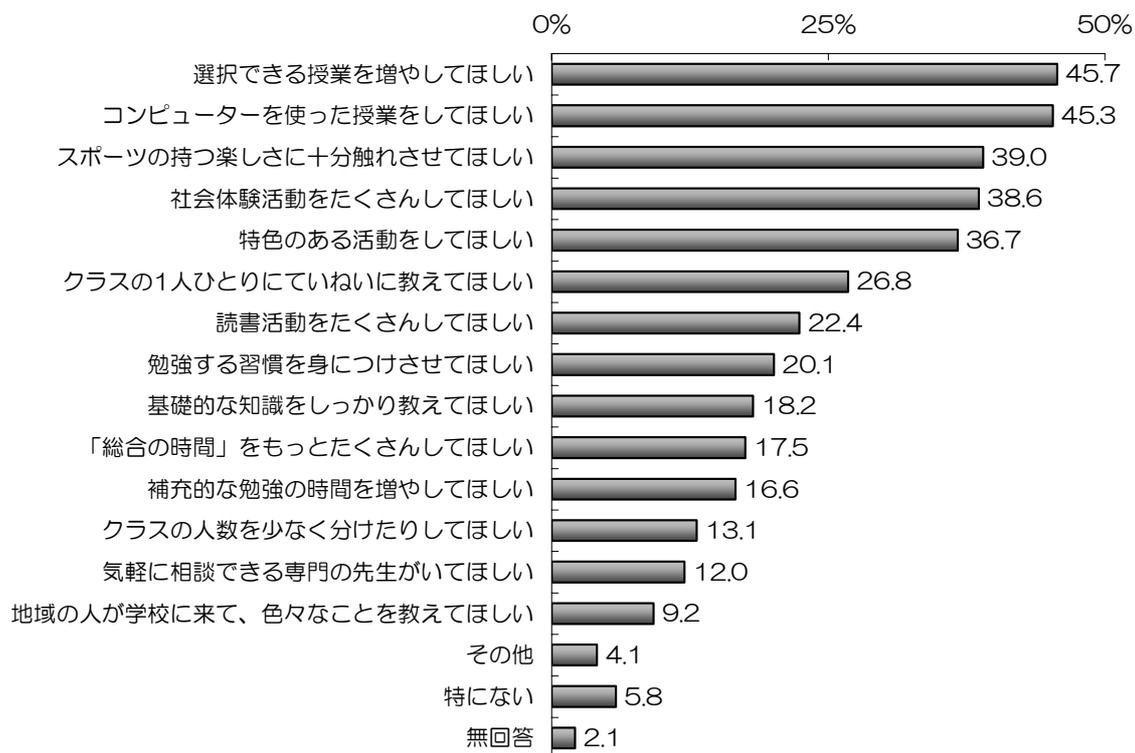
【小学生】

図表 1-9 学校に期待すること・小学生(n=524)



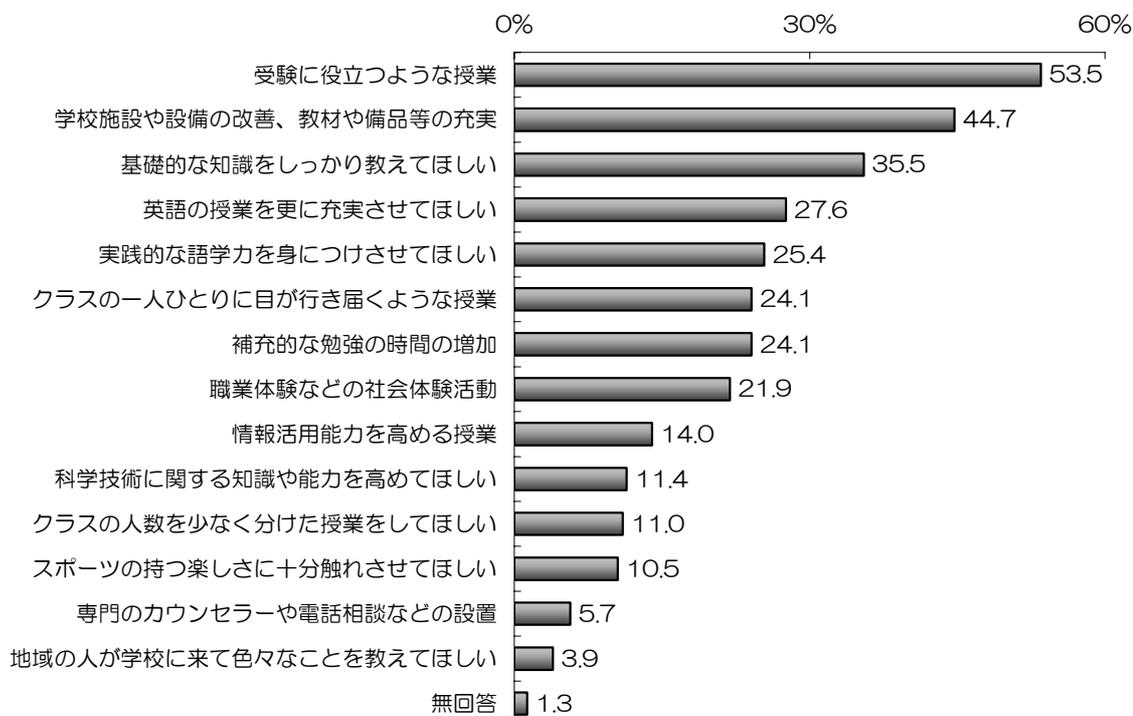
【中学生】

図表 1-10 学校に期待すること・中学生 (n=567)



【高校生】

図表 1-11 学校に期待すること・高校生 (n=228)



(6) 学校の施設設備について

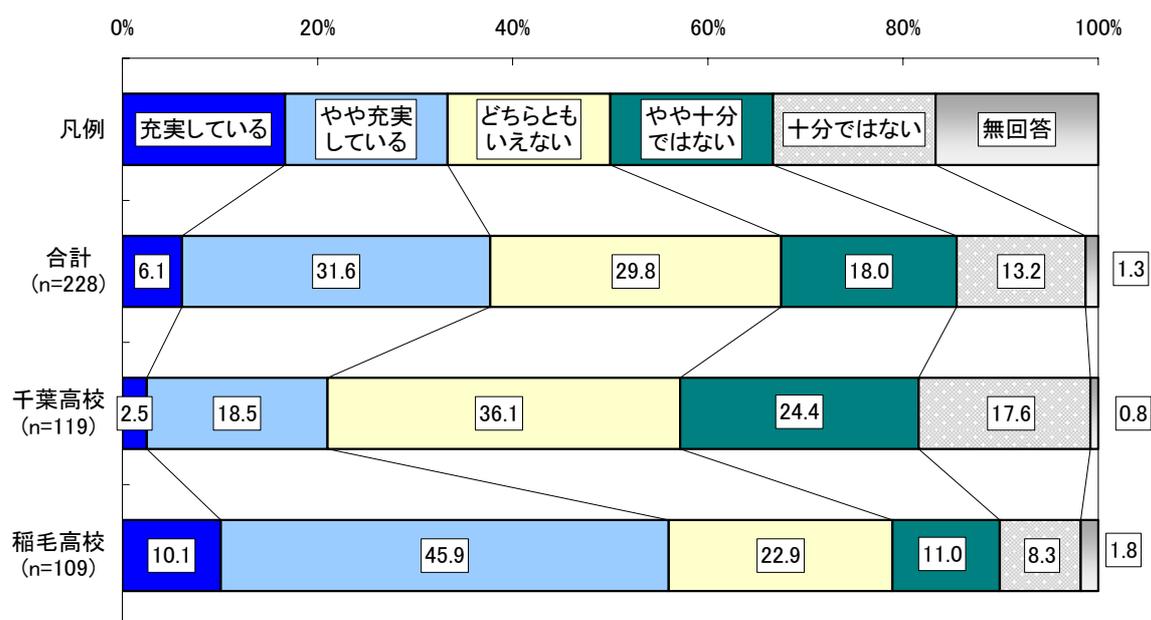
学校の施設・設備は充実していますか。 【高校生：問7(1)】

稲毛高校では“充実している”が56.0%であった。

高校生調査における学校施設・設備の充実度についてみると、「充実している」が6.1%、「やや充実している」が31.6%で、両者を合わせて37.7%が充実していると回答している。一方、「やや十分ではない」は18.0%、「十分ではない」は13.2%となっており、31.2%は充実していないと感じている。

高校別にみると、千葉高校は、稲毛高校と比較すると評価が著しく低くなっているが、これは千葉高校が現在建替え工事中であり、仮校舎にて授業をおこなっているためと推測される。稲毛高校の結果だけをみると、56.0%が充実していると回答しており、施設・設備に対する評価が高くなっている。

図表 1-12 学校の設備について・高校生(n=228)



(7) 学校の特色について

学校の特色についてどう感じていますか。 【中学生：問3(2)、高校生：問7(2)】

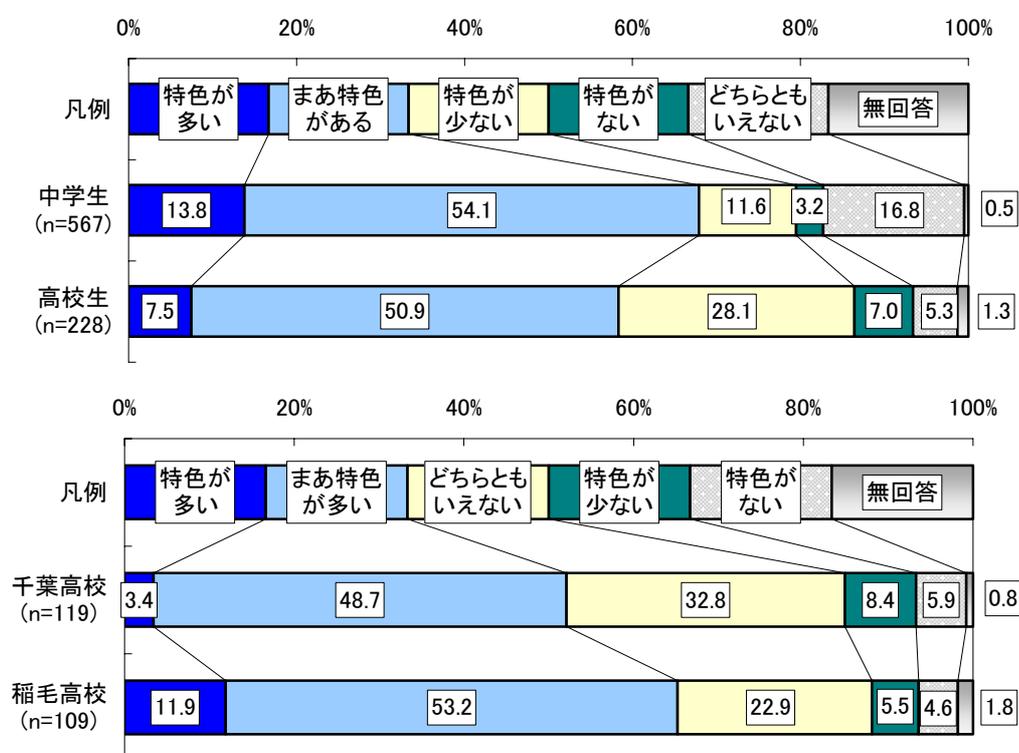
高校生よりも中学生の方が“特色がある”と感じている。

中学生調査における学校の特色についてみると、「特色が多い」は13.8%、「まあ特色がある」は54.1%で、合わせて67.9%が“特色がある”と感じている。

一方、高校生調査についてみると、「特色が多い」は7.5%、「まあ特色がある」は50.9%となっており、「どちらともいえない」が28.1%と中学生と比較すると高くなっている。

高校別にみると、稲毛高校で“特色がある”と感じている割合が高くなっている。

図表 1-13 学校の特色について



(8) 先生の対応

あなたは、学校において先生がどのような対応をしていると感じていますか。あなたの考えに近いものをそれぞれ選んでください。【小学生：問 8、中学生：問 8】

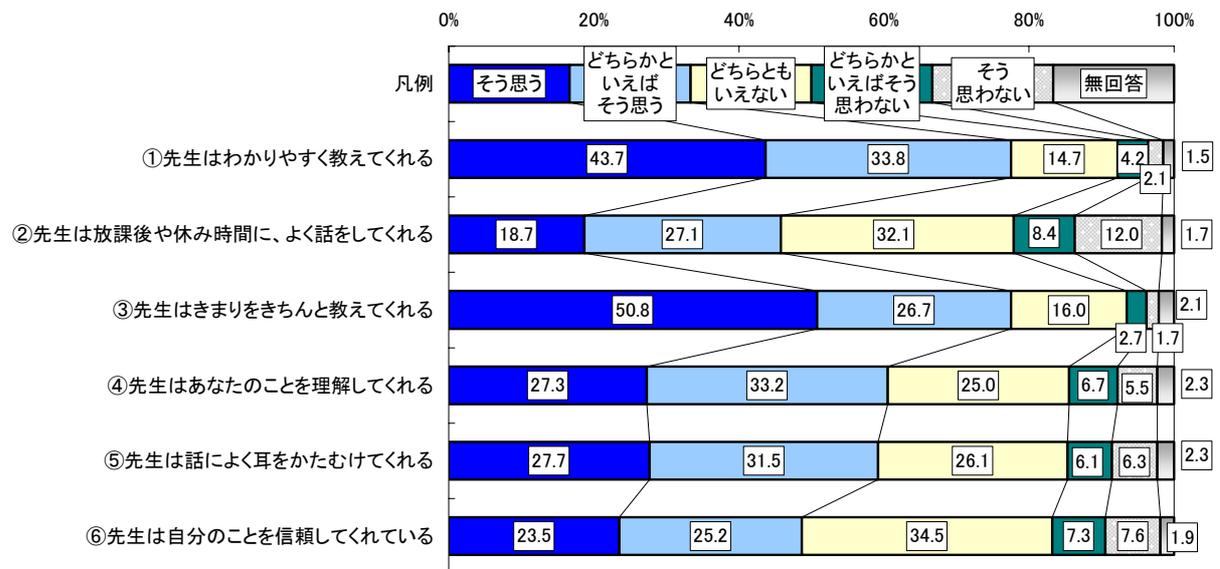
放課後等での児童・生徒と教員との間のコミュニケーションが不足している。

小学生調査の『先生の対応についてどう感じるか』についてみると、「①先生はわかりやすく教えてくれる」、「③先生はきまりをきちんと教えてくれる」がともに 77.5% で最も肯定的（「そう思う」＋「どちらかといえばそう思う」）な回答をしている。

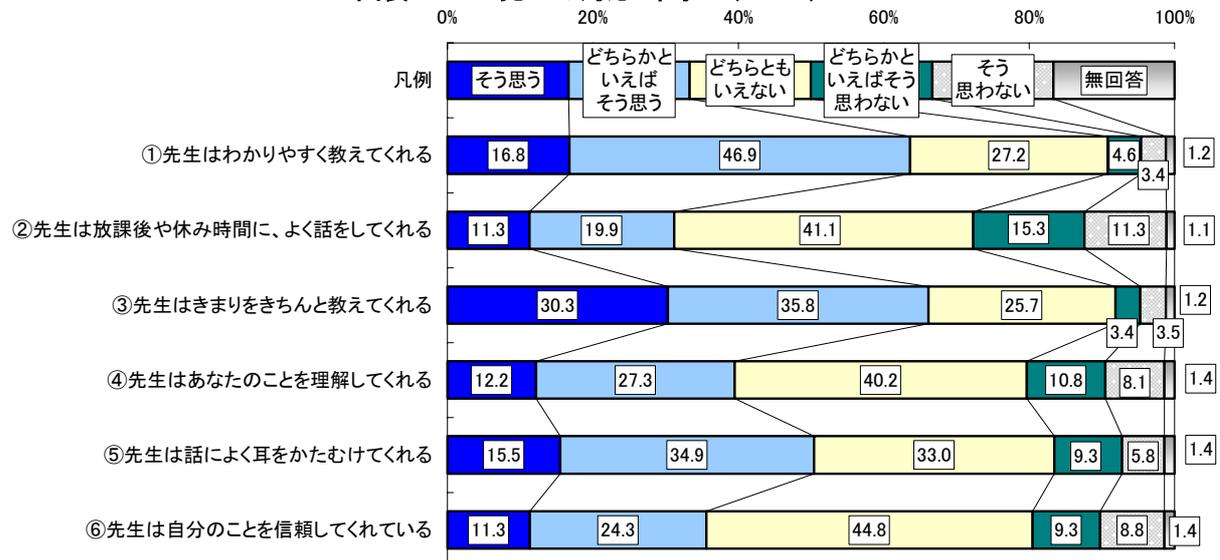
中学生調査でも、小学生と比較すると低いものの、6割以上が「①先生はわかりやすく教えてくれる」、「③先生はきまりをきちんと教えてくれる」で肯定的な回答となっている。

両調査を比較すると、全体として小学生は、肯定的な傾向が強かった。また、小学生、中学生ともに「①先生はわかりやすく教えてくれる」と感じている。しかし「②先生は放課後や休み時間に、よく話をしてくれる」については、肯定的に捉えている割合が小・中学生ともに最も低く、教員と児童生徒とのコミュニケーションに課題があると思われる。

図表 1-14 先生の対応・小学生(n=524)



図表 1-15 先生の対応・中学生(n=567)



(9) 教わりたい先生

あなたが教わりたい先生はどのような人ですか。【小学生：問9、中学生：問9、高校生：問8】

「わかりやすい授業をしてくれる」先生に教わりたい。

小学生調査における教わりたい先生についてみると、「クラスを楽しいふんいきにしてくれる」が66.0%で最も高く、次いで「わかりやすい授業をしてくれる」が51.3%となっている。

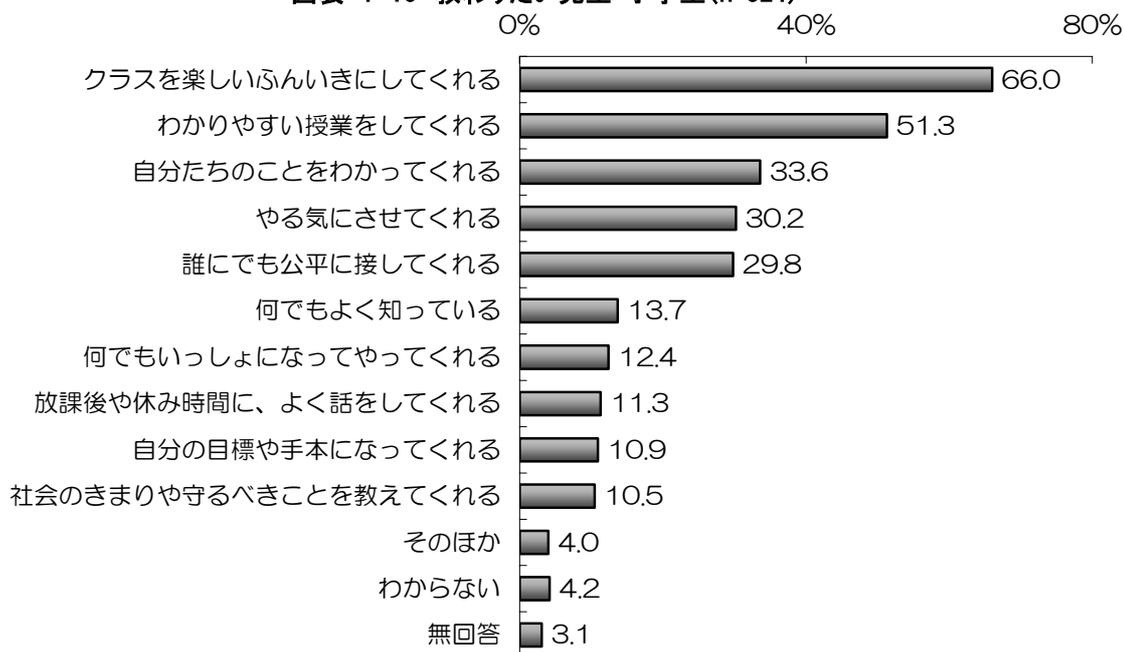
中学生調査をみると「わかりやすい授業をしてくれる」が59.6%、「クラスを楽しい雰囲気にしてくれる」が58.0%で並んでいる。

高校生調査をみると、「わかりやすい授業をしてくれる」が群を抜いて高く、75.0%となっている。

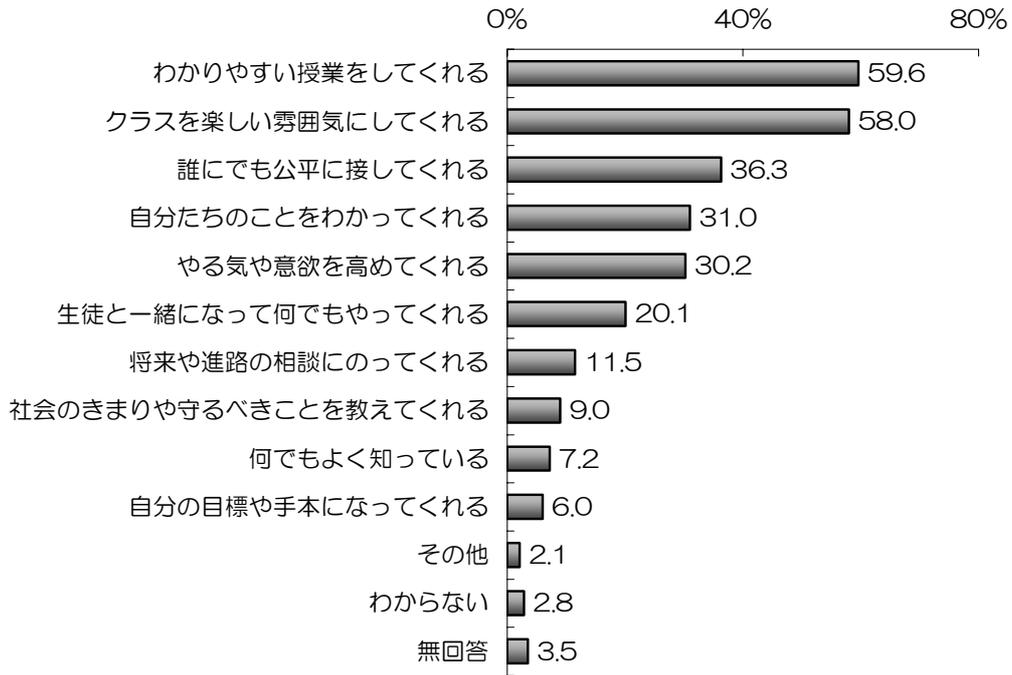
以上の3調査をみると、割合や順位に差はあるものの、「わかりやすい授業をしてくれる」、「クラスを楽しいふんいきにしてくれる」、「自分たちのことをわかってくれる」、「やる気にさせてくれる（やる気や意欲を高めてくれる）」、「誰にでも公平に接してくれる」の5項目はいずれの調査においても上位であった。特に、「わかりやすい授業をしてくれる」がいずれの調査でも高くなっており、総じて教わりたい先生の最も重要な要素であるといえる。

しかし、「自分の目標や手本になってくれる」については、総じて期待度が非常に低い。

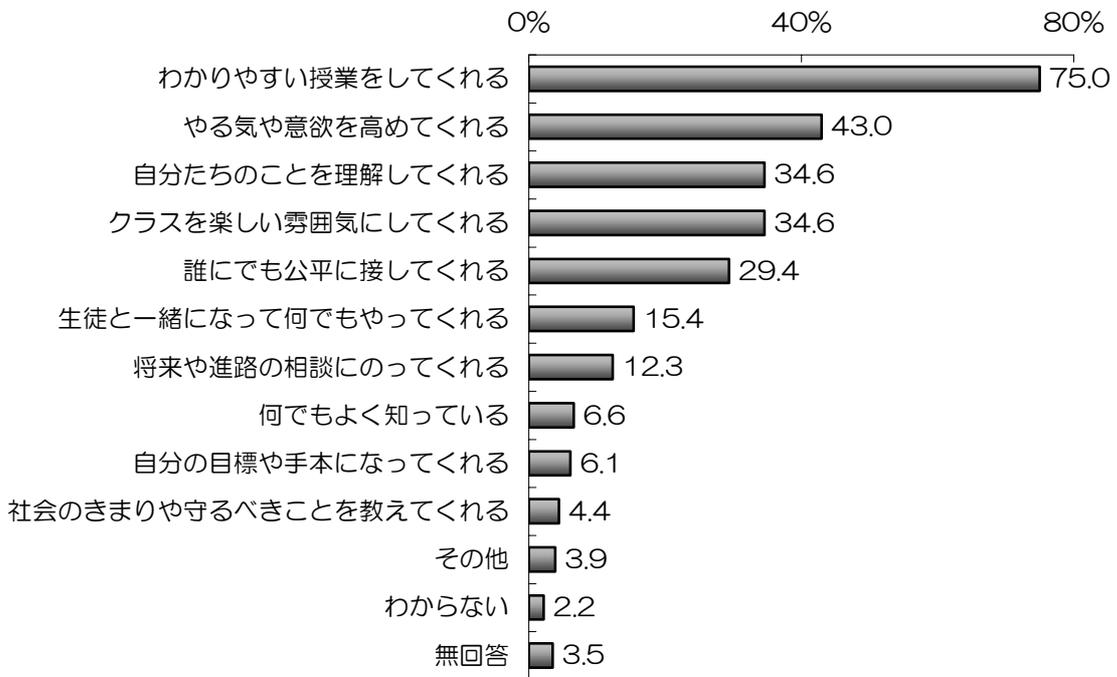
図表 1-16 教わりたい先生・小学生(n=524)



図表 1-17 教わりたい先生・中学生(n=567)



図表 1-18 教わりたい先生・高校生(n=228)



(10) 悩み

あなたが悩んでいることや、気がかりなことは何ですか。次の中から選んでください。

【小学生：問 10、中学生：問 10、高校生：問 9】

小学生の半数は「悩みはない」。中学生と高校生は「勉強のこと」「将来のこと」が悩みである。

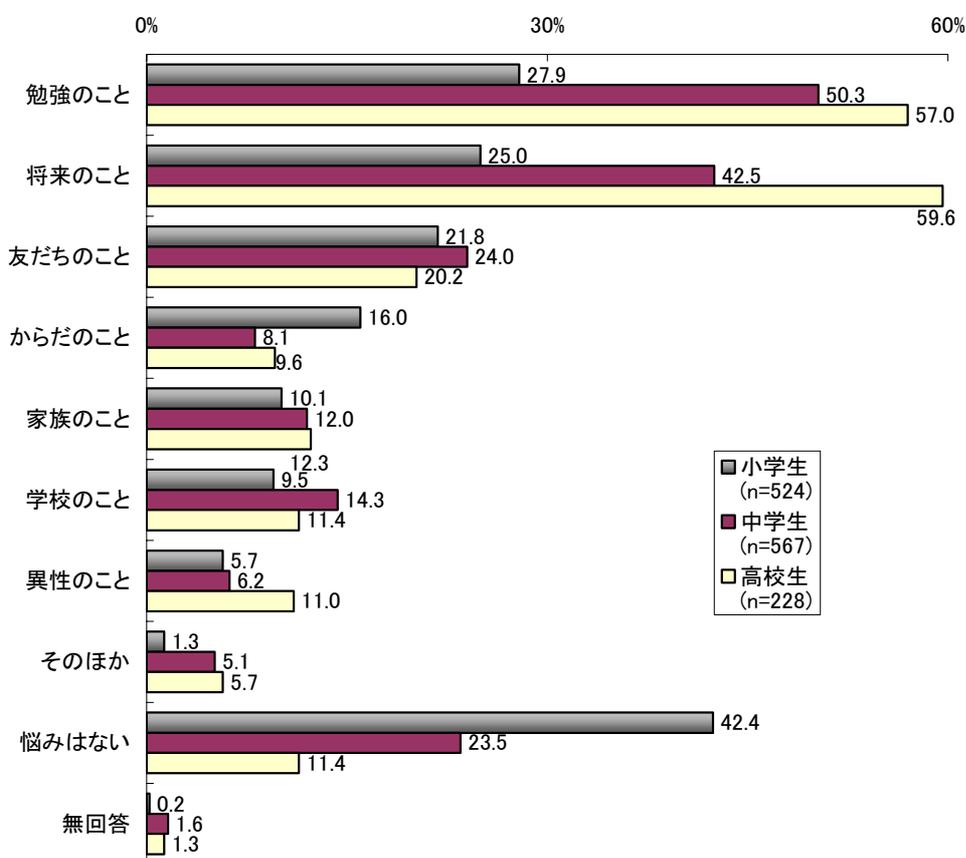
小学生調査における悩んでいることや気がかりなことについてみると、「悩みはない」が42.4%で最も高く、次いで「勉強のこと」、「将来のこと」、「友だちのこと」と続くがどれも2割台となっている。

中学生調査をみると、「勉強のこと」が50.3%で最も高く、次いで「将来のこと」が42.5%となっている。中学生の「悩みはない」は23.5%となっている。

高校生調査については「将来のこと」が最も高く59.6%、次いで「勉強のこと」が57.0%で迫っている。「悩みはない」は11.4%となっている。

約6割の高校生が将来に不安を抱えているという実態が明らかとなったが、中学生及び高校生で「将来のこと」や「勉強のこと」が高いのは、高校・大学受験を控えているという背景があると推測される。年齢が上がるにつれて悩みを持つ割合が高くなっており、きちんと悩みを解消できているか、把握する必要がある。

図表 1-19 悩み



(11) 相談相手

あなたは悩みや不安なことや、自分だけでは解決できないことがあるとき、誰に相談しますか。
次の中から選んでください。 【小学生：問 11、中学生：問 11、高校生：問 10】

小学生の相談相手は「親」、中学生と高校生の相談相手は「友だち」である。

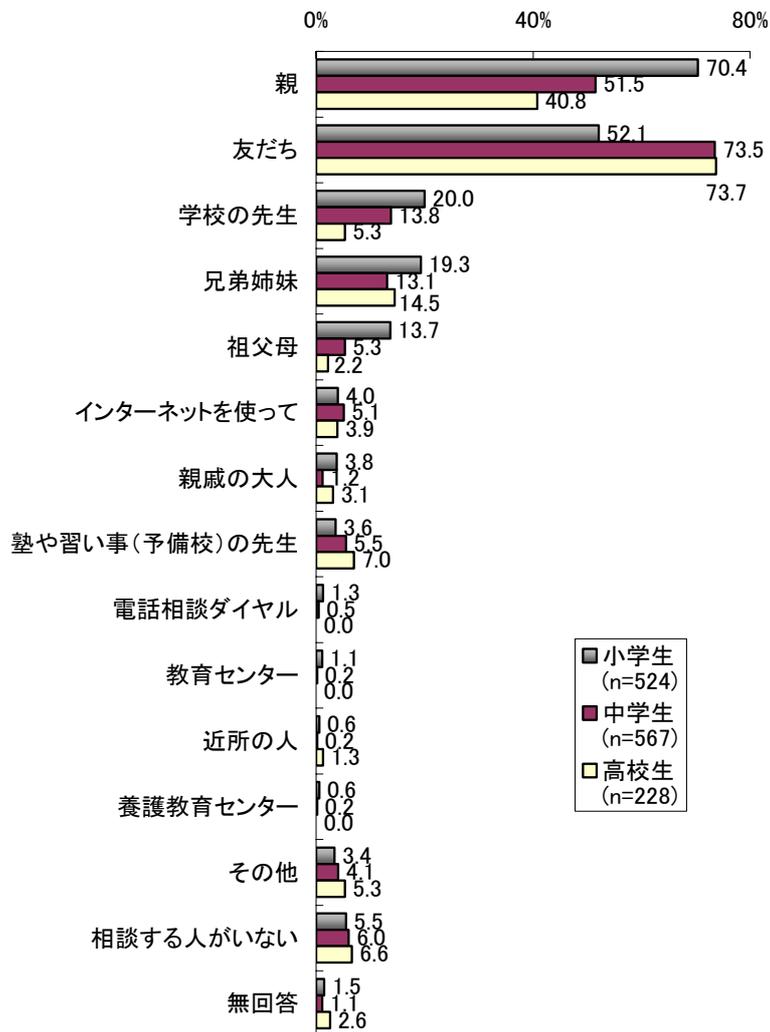
小学生調査における悩みごとの相談相手についてみると、「親」が最も高く 70.4%、次いで「友だち」が 52.1%となっている。

中学生調査をみると、「親」と「友だち」が逆転し、「親」が 51.5%なのに対し、「友だち」が 73.5%となっている。

高校生調査は中学生と同様「友だち」が最も高く 73.7%、次いで「親」が 40.8%となっている。

親と子どもとの関係を見ると、小学生では「親」が悩みの一番の相談相手として位置付けられているが、中学生や高校生になると「友だち」の次になっている。高校生については、4割程度しか「親」を相談相手としておらず、親子のコミュニケーションが不足しているとも考えられる。小学生については、上位2項目のみならず、「学校の先生」(20.0%)、「兄弟姉妹」(19.3%)もある程度みられた。

図表 1-20 相談相手



(12) 自分自身のことについて

あなたが自分自身のことについてどう感じたり、考えたりしますか。あなたの考えに近いと思うものを選んでください。 【小学生：問 12、中学生：問 12、高校生：問 11】

小学生は自分を高く評価し、中学生と高校生は厳しい自己分析をしている。

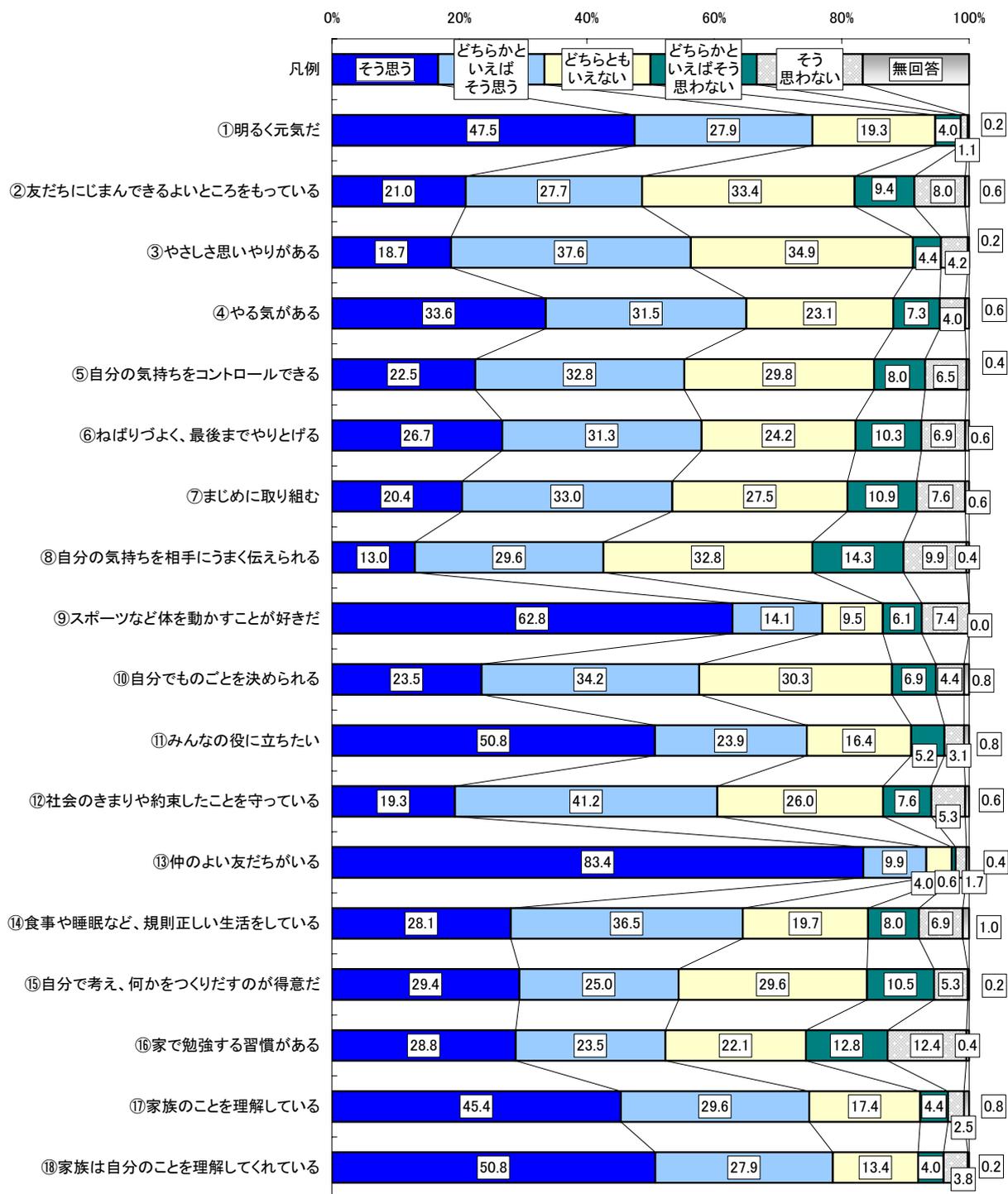
小学生調査における自分自身のことについてみると、「⑬仲の良い友だちがいる」を肯定する割合が 93.3%で最も高い。「⑧自分の気持ちを相手にうまく伝えられる」以外の項目については全て半数以上の児童が肯定的（「そう思う」＋「どちらかといえばそう思う」）であった。

中学生調査についてみると、「⑬仲のよい友だちがいる」を肯定する傾向が最も強く 88.5%となっている。「①明るく元気だ」、「⑨スポーツなど体を動かすことが好きだ」については肯定的意見が6割を超えているが、それ以外の項目については全て6割を下回っている。

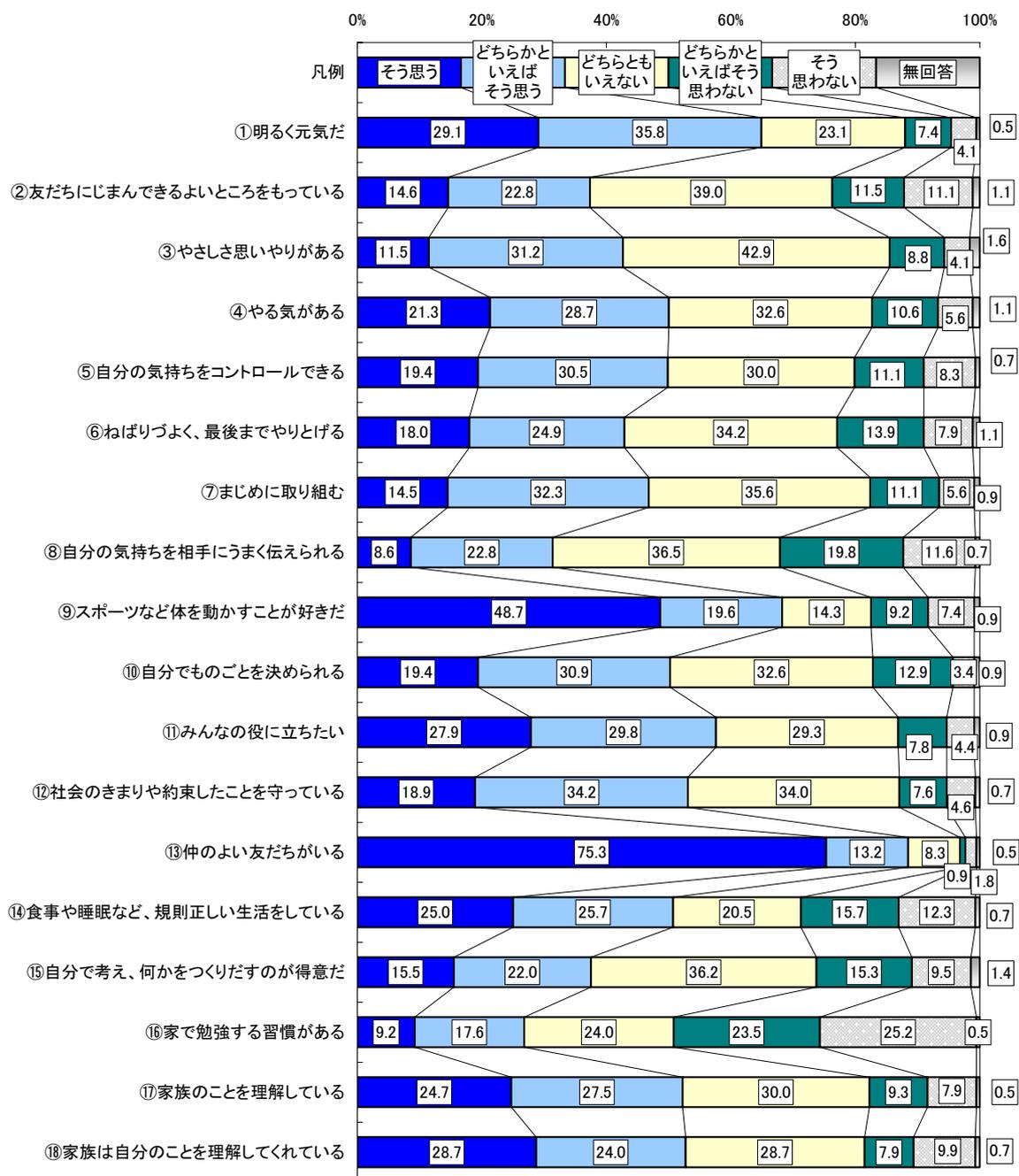
高校生調査については、「⑬仲のよい友達がいる」が 85.5%となっている。「①みんなの役にたたい」は 69.3%で2番目に肯定的意見が多い。「⑯家で勉強する習慣がある」については否定的意見（「どちらかといえばそう思わない」＋「そう思わない」）が 44.3%で、肯定的意見が 29.4%で、否定的意見が肯定的意見を上回った。家で勉強する習慣がないと感じている高校生が多いことが浮き彫りになった。

総じてみると、中学生・高校生は、小学生と比較すると厳しい自己分析となっている。しかし、その中でも「⑰家族のことを理解している」、「⑱家族は自分のことを理解してくれている」については、小学生では8割弱が肯定的だったのに対し、中学生では5割超、高校生ではさらに少なく4割～5割弱となっていることから、中学生及び高校生については親とのコミュニケーションが少なくなっていた。

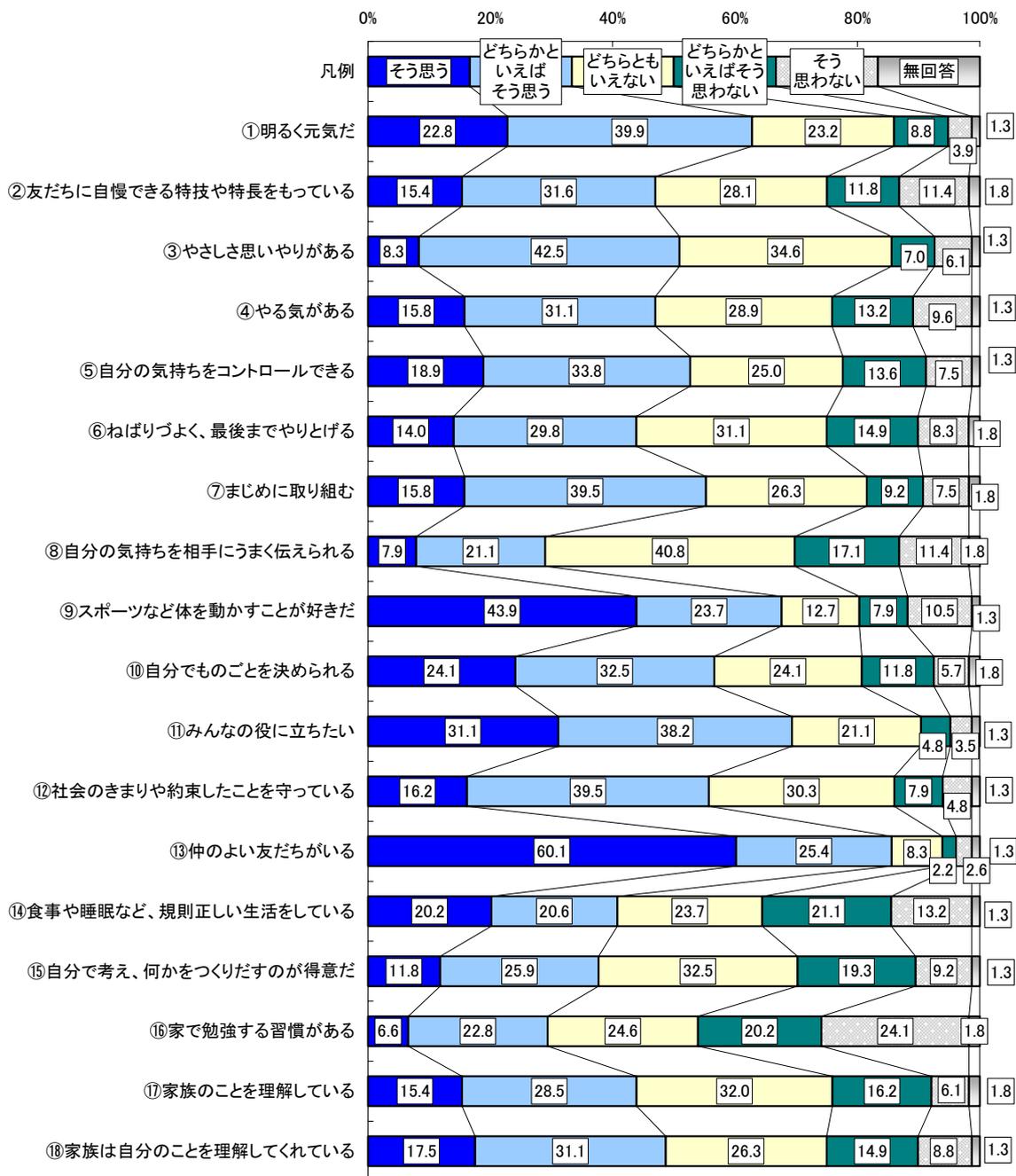
図表 1-21 自分自身について・小学生(n=524)



図表 1-22 自分自身について・中学生(n=567)



図表 1-23 自分自身について・高校生(n=228)



(13) マナー意識

あなたは次のことを友だちがすることについてどのように思いますか。あなたの考えに近いと思うものを選んでください。 【小学生：問 13、中学生：問 13、高校生：問 17】

中学生・高校生のマナー意識が低い。

小学生調査におけるマナー意識についてみると、総じて「よくないと思う」の割合が高いが、「③電車の中で携帯電話を使う」ことが「よくないと思う」の児童は 62.0%にとどまっている。

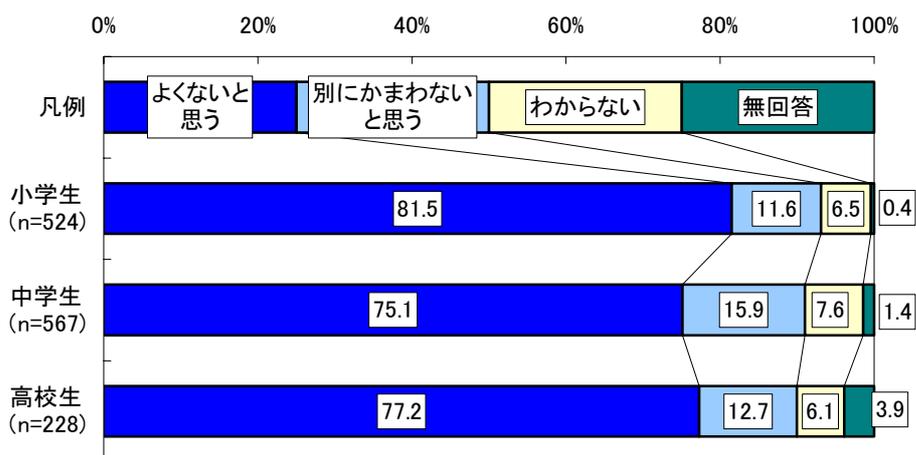
中学生調査についてみると、「よくないと思う」の割合が全ての項目で 80%を割っている。特に、「④注意されると無視したり、反抗したりする」については 15.0%が「別にかまわないと思う」、10.1%が「わからない」と回答しており、4分の1程度が注意を無視したり反抗することが良くないことだと思っていない。その他の項目についても同様であり、「⑤友だちの悪口を言ったり、いじめたりする」については約2割が悪いという意識を持っていない。

高校生調査をみると、「③電車の中で携帯電話を使う」、「⑥遊ぶために夜遅く出かける」について「良くないと思う」の割合が小学生調査、中学生調査を大きく下回っている。「⑥遊ぶために夜遅く出かける」については「別にかまわないと思う」が 57.5%となっており、夜間の外出にためらいを持たない生徒が多い。

以上の3調査を総じてみると、小学生についてはマナー意識が比較的高く、中学生及び高校生の規範意識が低いといえる。

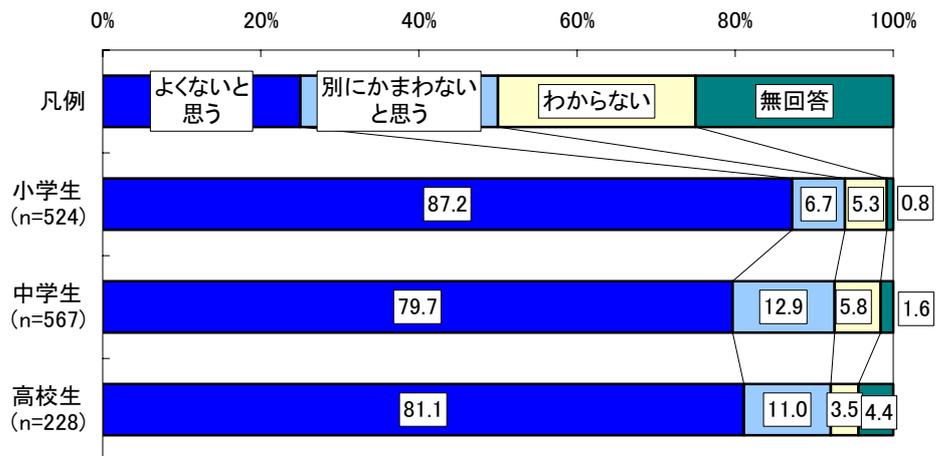
① 約束やルールを守らない

図表 1-24 約束やルールを守らない



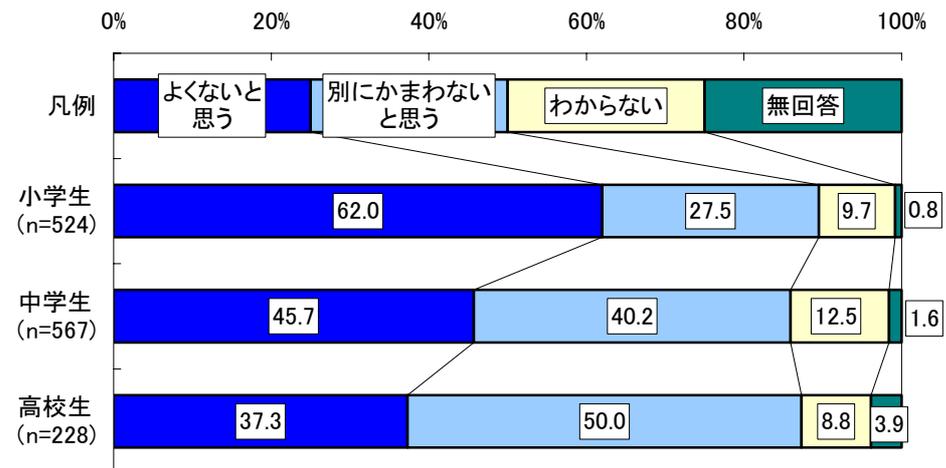
② 電車の中で騒ぐ、床に座り込む

図表 1-25 電車の中で騒ぐ、床に座り込む



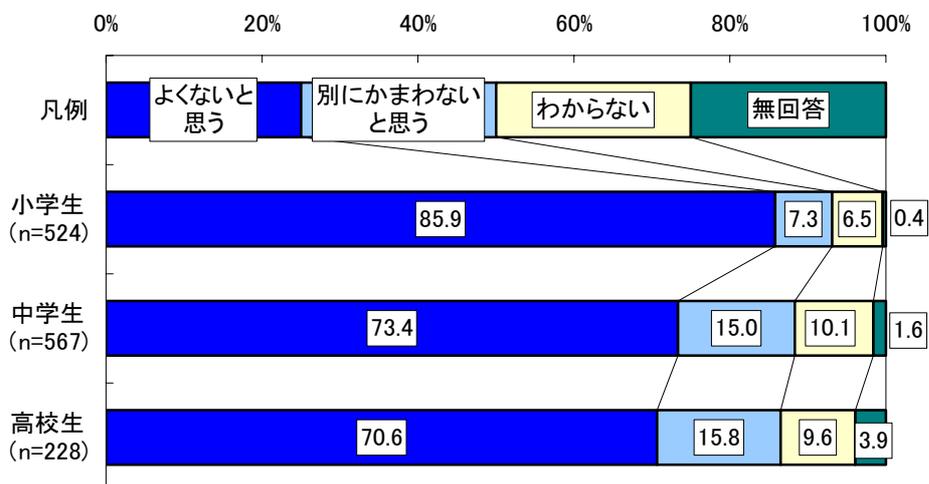
③ 電車の中で携帯電話を使う

図表 1-26 電車の中で携帯電話を使う



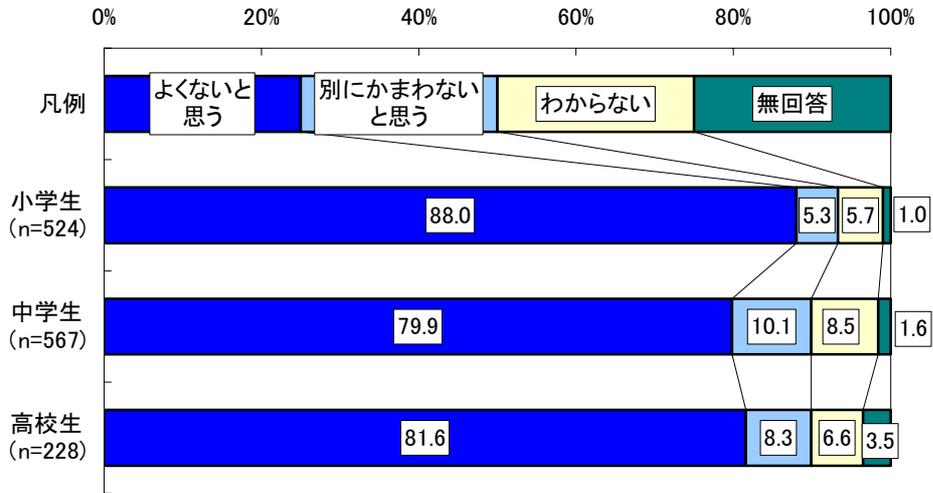
④ 注意されると無視したり、反抗したりする

図表 1-27 注意されると無視したり、反抗したりする



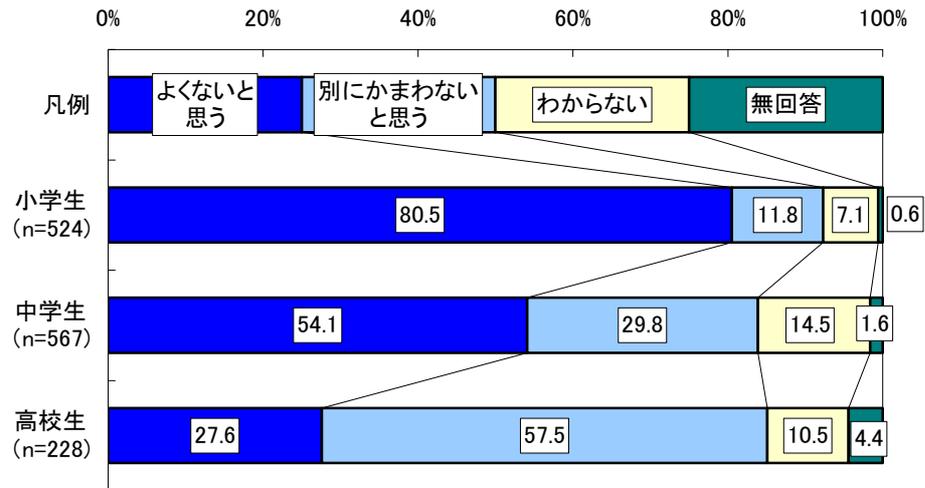
⑤ 友だちの悪口を言ったり、いじめたりする

図表 1-28 友だちの悪口を言ったり、いじめたりする



⑥ 遊ぶために夜遅く出かける

図表 1-29 遊ぶために夜遅く出かける



児童・生徒調査の中で最もマナー意識が低かった中学生について、問 12-⑱「家族は自分のことを理解してくれている」と感じているかの回答別に、マナー意識の各項目で「よくないと思う」の割合をみると、家族から理解されていると感じているほどマナー意識が高くなる傾向がみられる。家族とのコミュニケーションと規範意識の高低との間には、一定の関係があると推測される。

図表 1-30 マナー意識(中学生・「よくないと思う」の割合)

		①約束やルールを守らない	②電車の中で騒ぐ、床に座り込む	③電車の中で携帯電話を使う	④注意されると無視したり、反抗したりする	⑤友だちの悪口を言ったり、いじめたりする	⑥遊ぶために夜遅く出かける
問12-⑱ このことを家族は自分 が理解している	そう思う※1	79.6	84.6	46.8	75.9	83.6	62.2
	どちらともいえない	73.0	77.3	44.8	75.5	81.6	47.9
	そう思わない※2	65.3	70.3	44.6	63.4	67.3	41.6

※1:「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計

※2:「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」の合計

中学生について「①約束やルールを守らない」の回答別に学校生活についてどう感じているかをみると、約束やルールを守らないのはよくないと考えている生徒は、「勉強が面白い」、「部活動が楽しい」、「楽しい先生がいる」等、学校生活について肯定的に捉えている割合が高い。このことから、規範意識の高低と学校生活の充実度との間には、一定の関係があると推測される。

図表 1-31 マナー意識(中学生・学校生活について肯定的に感じていることとの関連)

中学生(n=567)	よくないと思う (n=426)	別にかまわわない (n=90)	わからない (n=43)
①勉強がおもしろい	30.3	14.4	11.6
②友だちと仲良く遊んでいる	87.4	83.3	83.7
③体育祭や学校の外での行事が楽しい	84.1	73.3	83.8
④クラスの係りや委員会活動が楽しい	44.1	31.1	20.9
⑤部活動が楽しい	71.2	58.9	58.1
⑥楽しい先生がいる	70.2	48.9	51.2
⑦尊敬できる先輩がいる	66.2	47.7	55.8

①～⑦の「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計値

(14) 放課後や休日の過ごし方

あなたは放課後や学校がお休みのときに、おもにどんなことをしていますか。

【小学生：問 14、中学生：問 16、高校生：問 12】

1) 放課後

放課後は小学生が「塾や習い事に通う」、中学生と高校生が「部活動に参加する」。

小学生調査における放課後の過ごし方についてみると、「塾や習い事に通う」が 51.7%で最も高く、次いで「スポーツや遊びで体を動かす」が 39.1%、「学校の宿題や予習・復習などの勉強をする」が 37.4%となっている。

中学生調査では、「部活動に参加する」が 67.5%で目立って高く、次いで「塾や習い事に通う」が 47.1%となっている。

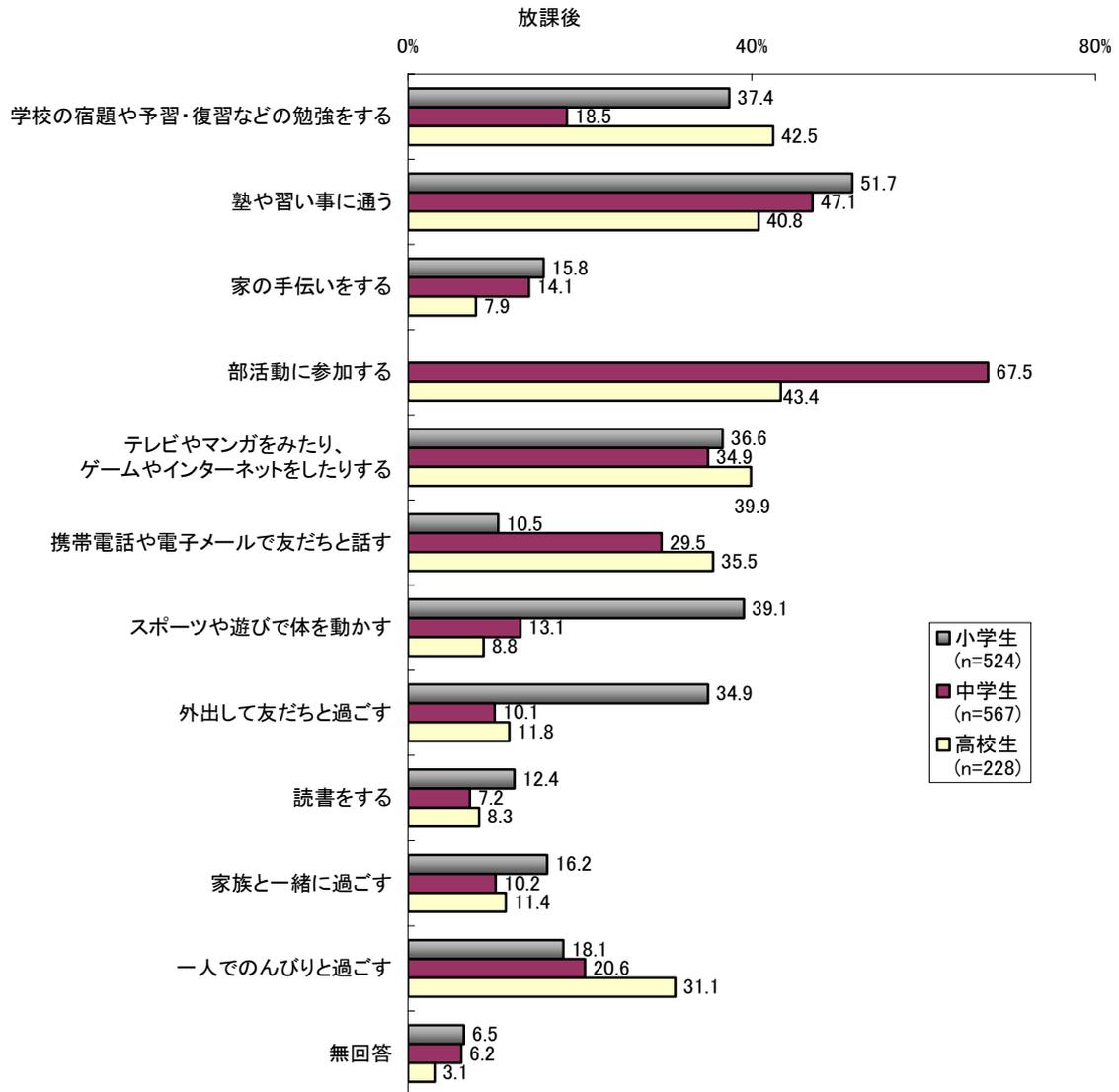
高校生調査をみると、「部活動に参加する」(43.4%)、「学校の宿題や予習・復習などの勉強をする」(42.5%)、「塾や習い事に通う」(40.8%)で拮抗している。

以上の3調査を比較すると、中学生調査で「学校の宿題や予習・復習などの勉強をする」の割合が 18.5%と他の2調査と比べ目立って低く、放課後に自宅で勉強する習慣が身につけている中学生が少ないことが浮き彫りとなった。

また、「テレビやマンガをみたり、ゲームやインターネットをしたりする」はどの調査でも3割台後半となっており、放課後の過ごし方のひとつとなっている。

「携帯電話や電子メールで友だちと話す」については、小学生では1割にとどまっているが、中学生では約3割、高校生では3割半を超えている。

図表 1-32 放課後の過ごし方



2) 休日

休日は小学生が「家族と一緒に過ごす」、中学生が「部活動に参加する」、高校生が「学校の宿題や予習復習などの勉強をする」が高い。

小学生調査における休日の過ごし方についてみると、「家族と一緒に過ごす」が最も高く48.7%、次いで「テレビやマンガをみたり、ゲームやインターネットをしたりする」が44.8%となっている。

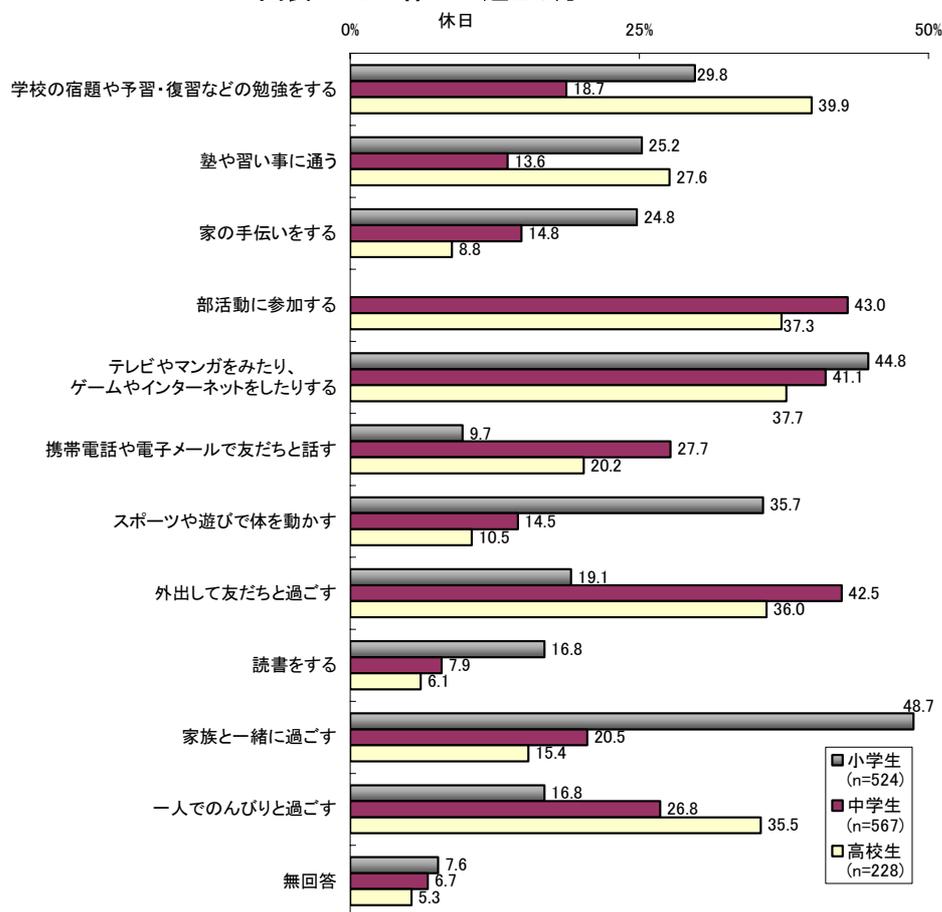
中学生調査では、「部活動に参加する」(43.0%)、「外出して友だちと過ごす」(42.5%)、「テレビやマンガをみたり、ゲームやインターネットをしたりする」(41.1%)で拮抗している。

高校生調査をでは、「学校の宿題や予習・復習などの勉強をする」が最も高く39.9%、次いで「部活動に参加する」(37.3%)、「テレビやマンガをみたり、ゲームやインターネットをしたりする」(37.7%)となっている。

以上の3調査を比較すると、放課後の過ごし方と同様、中学生で「学校の宿題や予習・復習などの勉強をする」の割合が18.7%と他の2調査と比べ目立って低い。一方で、「部活動に参加する」が放課後、休日ともに最も高いことから、中学生では学校以外の時間の多くが部活動に当てられているとも考えられる。また、どの調査も「テレビやマンガをみたり、ゲームやインターネットをしたりする」については放課後と同様に高い。

小学生では家族と過ごすことが多いのに対し、高校生になると一人で過ごすことが多くなる。また、「家の手伝いをする」については、小学生では24.8%だが、中学生が14.8%、高校生が8.8%と年齢が上がるにつれて減少していく。

図表 1-33 休日の過ごし方



(15) 起床時刻

あなたは学校がある日は、朝、何時ごろに起きることが多いですか。もっとも近い時間を選んで数字に○をつけてください。【小学生：問 15、中学生：問 14、高校生：問 13】

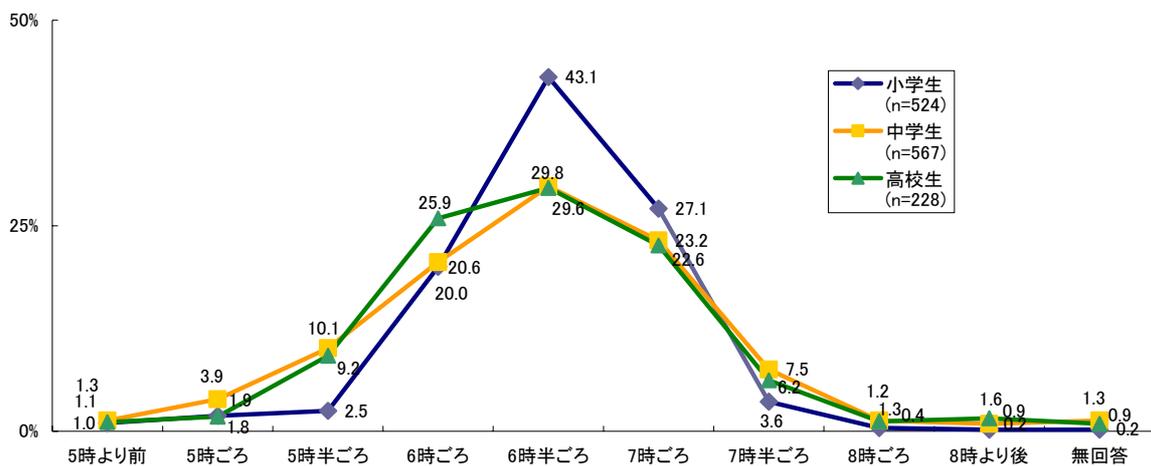
起床時刻のピークは6時半である。

起床時刻についてみると、小学生では6時半頃起床する者が集中しており、43.1%となっている。

中学生でも、小学生と同様に6時半頃の起床が最も多いが、5時半頃に起床している者も1割ほどいる。

高校生では、中学生の起床時刻の傾向とほとんど変化がないが、ピークがなだらかであり、6時頃～7時頃の間がそれぞれ2割台後半となっている。

図表 1-34 起床時刻



(16) 就寝時刻

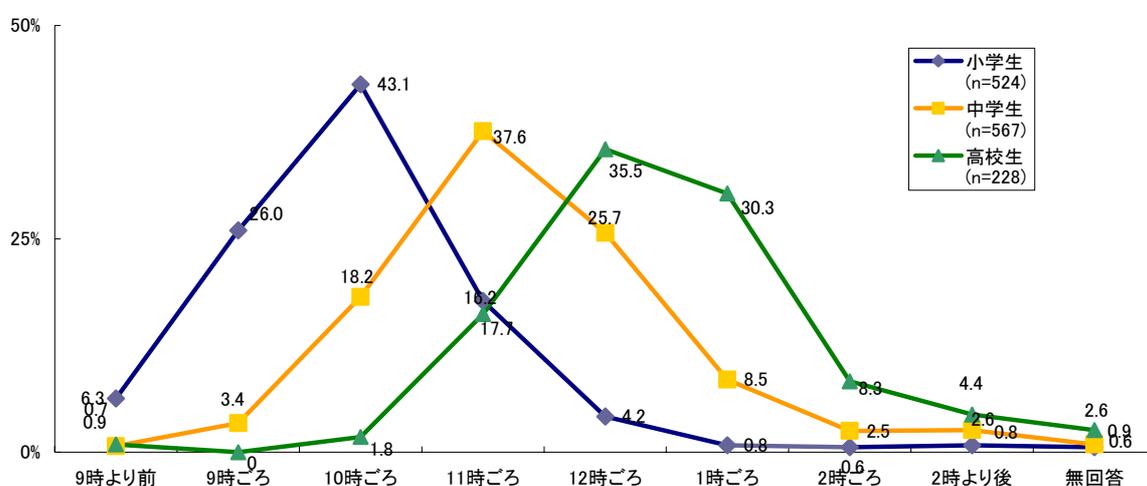
あなたは学校がある前の日は、夜、何時ごろ寝ることが多いですか。もっとも近い時間を選んで数字に○をつけてください。【小学生：問 16、中学生：問 15、高校生：問 14】

小学生は 10 時、中学生は 11 時、高校生は 12 時・1 時がピークである。

就寝時刻についてみると、小学生 10 時頃就寝する者が最も多く 43.1%となっている。

中学生では 11 時頃にピークがあり、37.6%を占めている。高校生では 12 時頃から 1 時頃に就寝する者が多く、それぞれ 3 割以上となっている。

図表 1-35 就寝時刻



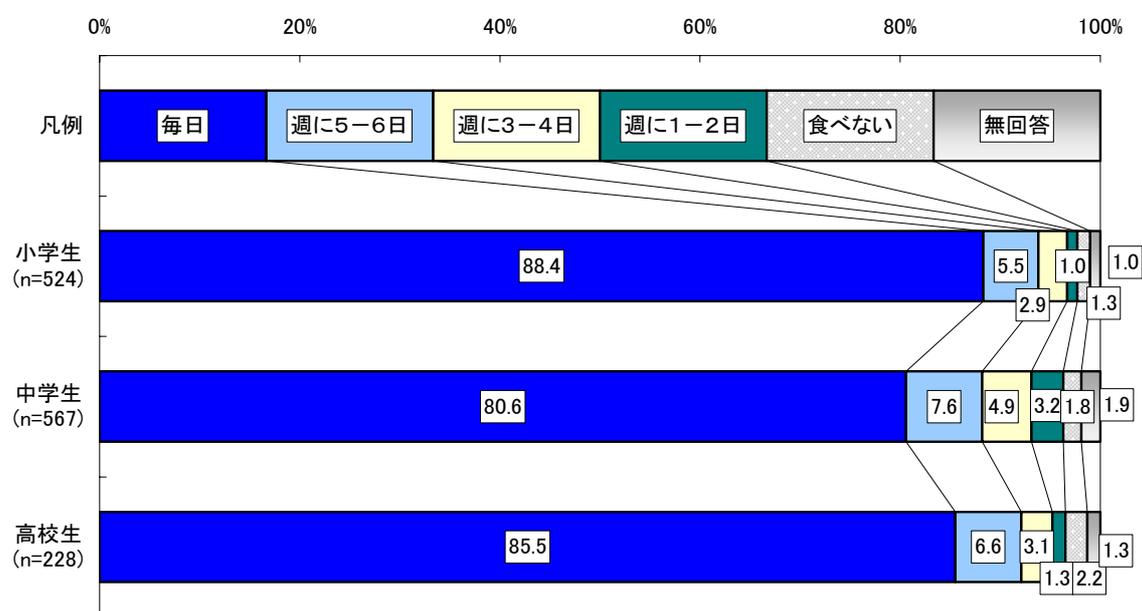
(17) 朝食

あなたは朝ごはんを食べていますか。 【小学生：問 17、中学生：問 17、高校生：問 15】

8割以上が毎日食べている。

朝食を食べているかどうかについてみると、小学生、中学生及び高校生ともに8割以上が毎日食べると回答している。その中で最も低いのは中学生の80.6%だが、「食べない」と回答しているのは、いずれの調査も数%であり、基本的に朝食を食べる習慣が身についているといえる。

図表 1-36 朝食



(18) 朝食を一緒に食べる人

朝ごはんを誰と一緒に食べることが多いですか。

【小学生：問 18、中学生：問 18、高校生：問 16】

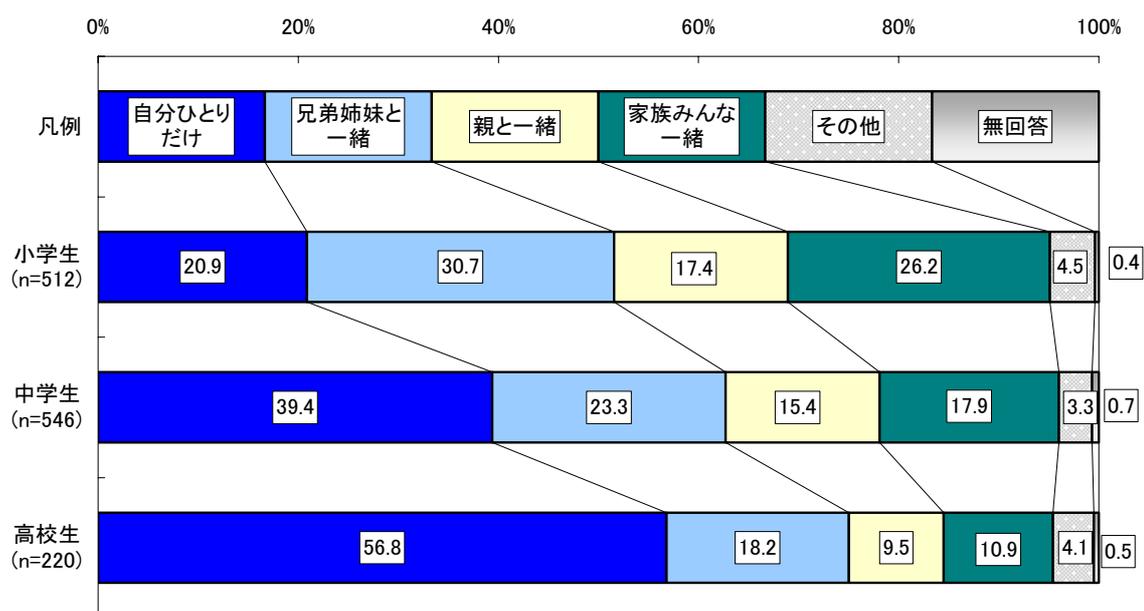
小学生は「兄弟姉妹」と、中学生・高校生は「自分ひとりだけ」が多い。

朝食を誰と一緒に食べるが多いかについてみると、小学生では「自分ひとりだけ」が20.9%で、74.3%が家族の誰かと一緒に食べていることがわかった。「家族みんな一緒」も26.2%あり、4分の1以上が朝から家族全員が顔をそろえて食事をする習慣があることがうかがえた。

中学生では「自分ひとりだけ」が増加し約4割を占めている。その分、家族と一緒に食べている割合が低くなっている。

高校生になるとさらに「自分ひとりだけ」が増加し、56.8%となっている。「家族みんな一緒」は10.9%まで低下している。

図表 1-37 朝食を一緒に食べる人



(19) 将来について

あなたは、将来どんな大人になりたいですか。

【小学生：問 19、中学生：問 19、高校生：問 18】

将来、友だちや仲間がたくさんいる人、自分らしさを持っている人になりたい。

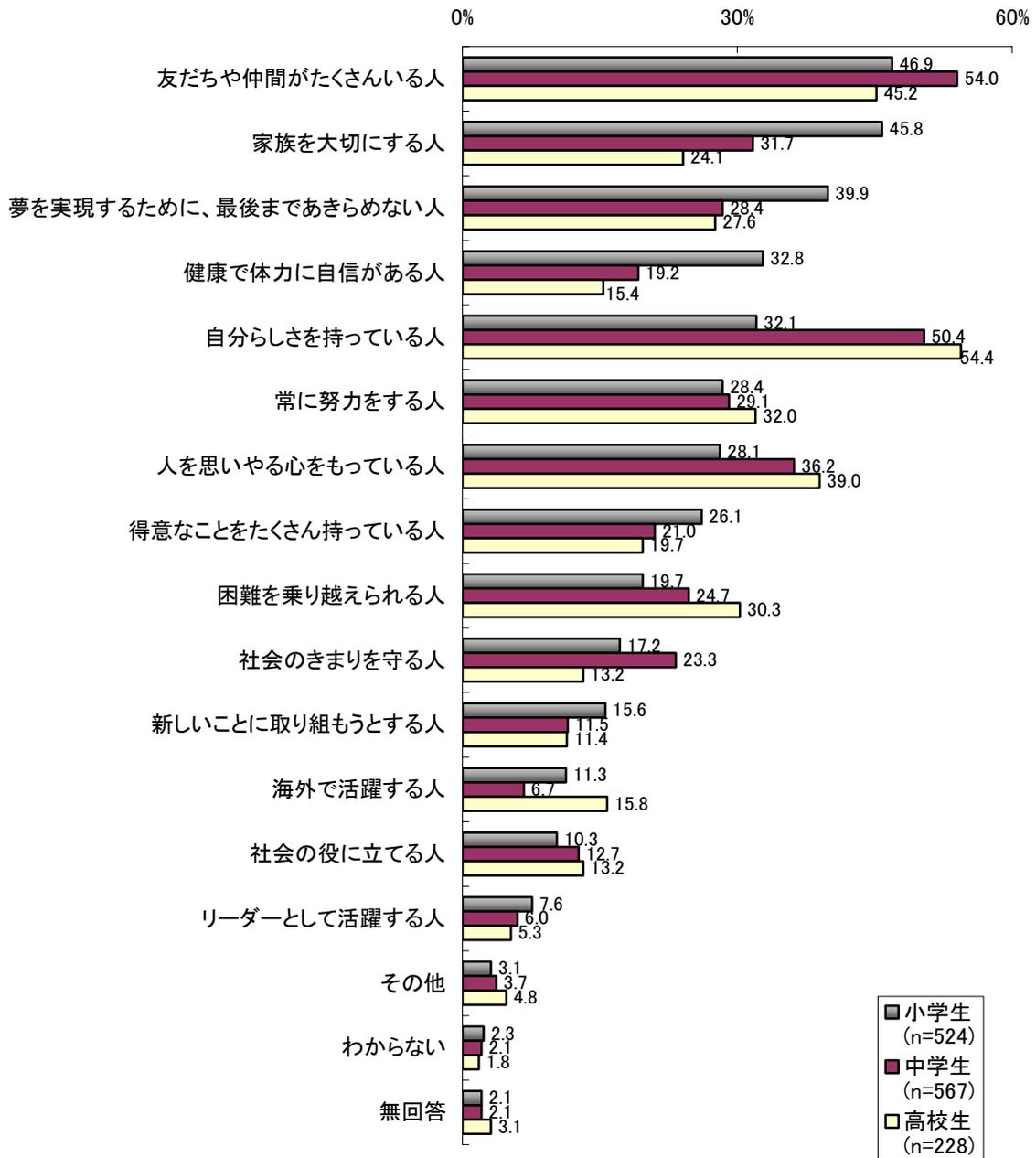
小学生調査における将来どんな大人になりたいかについてみると、「友だちや仲間がたくさんいる人」最も高く 46.9%、次いで「家族を大切にしている人」が 45.8%、「夢を実現するために、最後まであきらめない人」が 39.9%となっている。

中学生調査では、「友だちや仲間がたくさんいる人」が 54.0%、「自分らしさを持っている人」が 50.4%となっており、突出している。

高校生調査では、「自分らしさを持っている人」が 54.4%で最も高く、次いで「友だちや仲間がたくさんいる人」が 45.2%、「人を思いやる心を持っている人」が 39.0%である。

以上の3調査を比較すると、「友だちや仲間がたくさんいる人」については調査を通じて高い傾向にあるが、小学生で2番目であった「家族を大切にしている人」は、年齢が上がるごとに割合が下がっており、高校生では7番目まで後退している。また、「リーダーとして活躍する人」は小学生、中学生及び高校生の全てで最下位となっており、自分の将来像における消極性が浮き彫りとなった。

図表 1-38 将来について



(20) 働くことについて

あなたは、はたらくことについてどのように考えていますか。次の中からあてはまるものを選んで○をつけてください。 【小学生：問 20、中学生：問 20、高校生：問 19】

小学生・中学生は働いて自分の希望をかなえたい。高校生は働くことの喜びを感じたい。

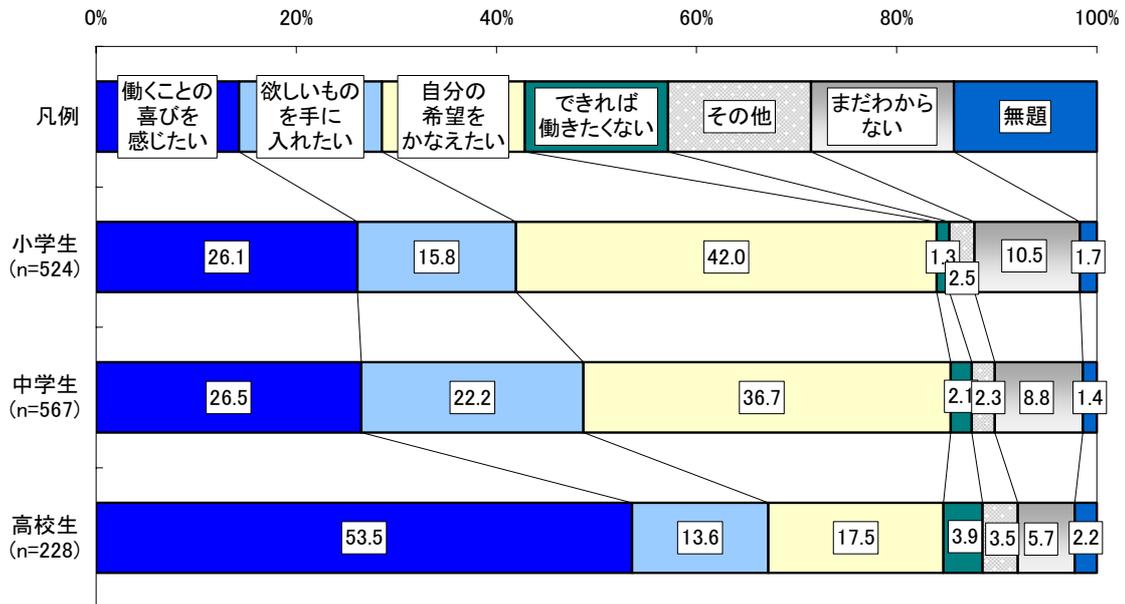
小学生調査における、働くことについてどのように考えているかについてみると、「自分の希望をかなえたい」が最も高く 42.0%を占め、次いで「働くことの喜びを感じたい」が 26.1%となっている。

中学生調査では、「働くことの喜びを感じたい」については小学生と同程度で 26.5%、「欲しいものを手に入れたい」が 22.2%、「自分の希望をかなえたい」は 36.7%である。

高校生調査では、「働くことの喜びを感じたい」が 53.5%と半数以上を占めている。

以上の3調査全体を通じて、「できれば働きたくない」は数%であった。また、小学生と中学生は同じような傾向であるが、高校生は、小学生及び中学生と比較して「働くことの喜びを感じたい」の割合が倍以上になっている。このことから、中学生と高校生の間で働くことに対する考え方が変化すると推測される。

図表 1-39 働くことについて



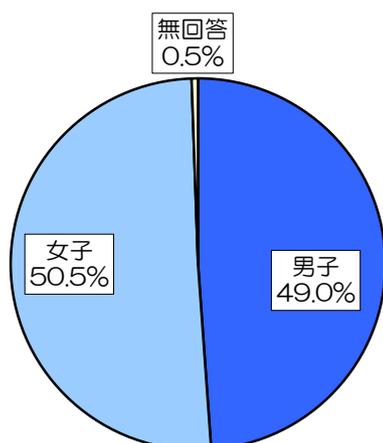
2. 保護者調査

(1) 回答者の属性

1) 子どもの性別

回答者の子どもの性別をみると、男子が 49.0% (500 人)、女子が 50.5% (515 人) となっている。

図表 2-1 子どもの性別(n=1020)

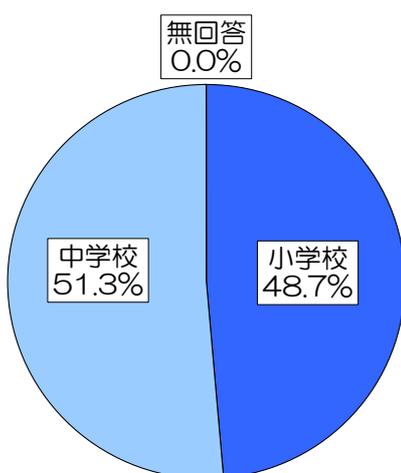


	回答数 (件)	構成比 (%)
男子	500	49.0
女子	515	50.5
無回答	5	0.5
サンプル数	1020	100

2) 学校種別

回答者の子どもの学校種別をみると、小学校が 48.7% (497 人)、中学校が 51.3% (523 人) となっている。

図表 2-2 学校種別(n=1020)

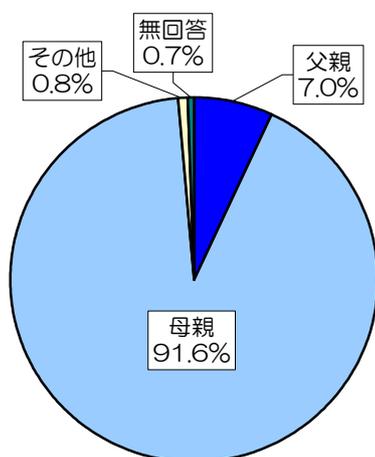


	回答数 (件)	構成比 (%)
小学校	497	48.7
中学校	523	51.3
無回答	0	0.0
サンプル数	1020	100

3) 子どもとの続柄

回答者と子どもの続柄をみると、父親が 7.0% (71 人)、母親が 91.6% (934 人)、その他が 0.8% (8 人) となっている。

図表 2-3 子どもとの続柄(n=1020)



	回答数 (件)	構成比 (%)
父親	71	7.0
母親	934	91.6
その他	8	0.8
無回答	7	0.7
サンプル数	1020	100

(2) 子どもの印象

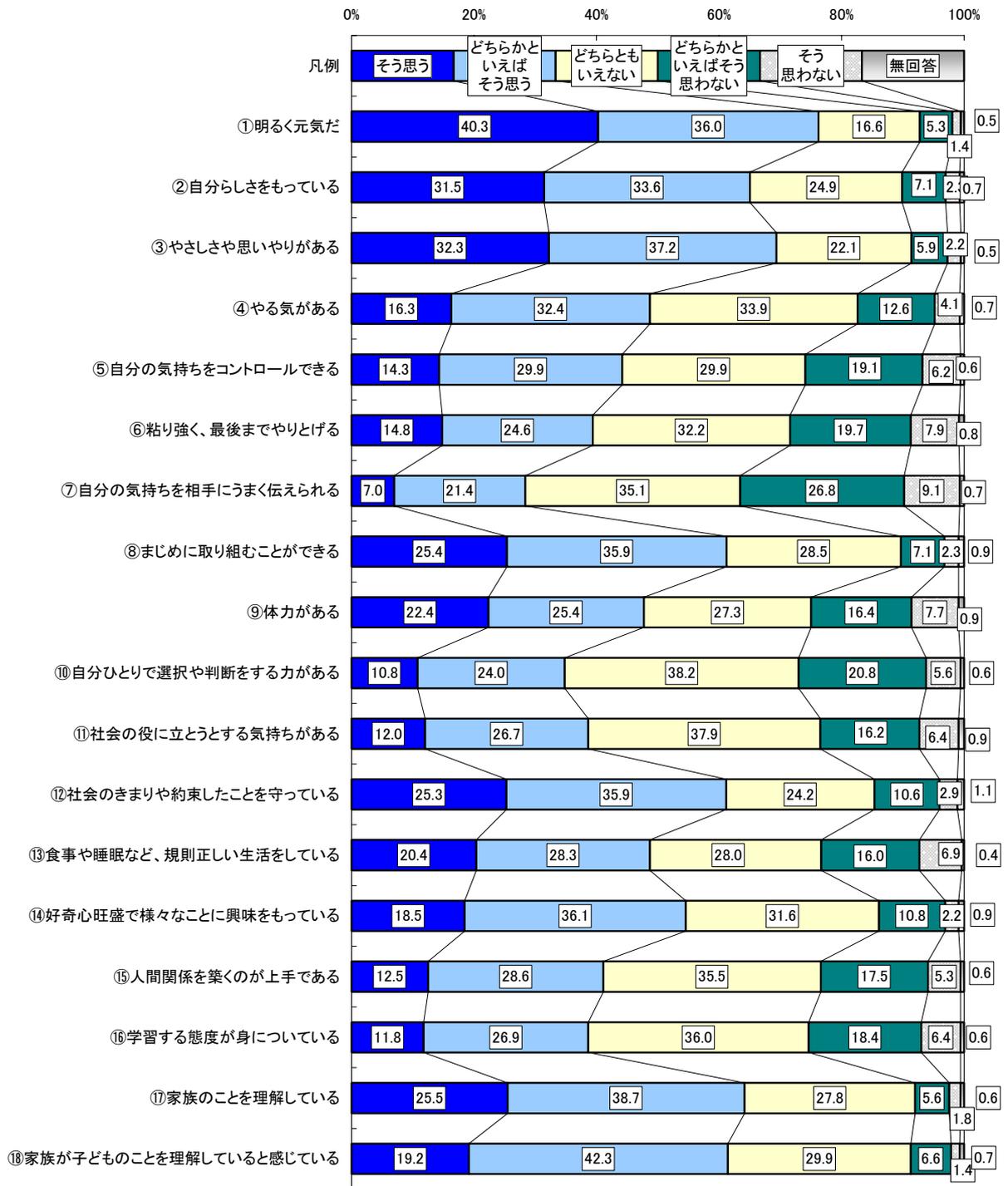
問6 最近の子どもの印象について、どのように感じますか。次の項目についてお考えに近いと思うものを選んでください。

小学生の保護者は肯定的だが、中学生の保護者は控え目である。

子どもの印象についてみると、肯定的意見が 50%を上回っているのは「①明るく元気だ」、「②自分らしさをもっている」、「③やさしさや思いやりがある」、「⑧まじめに取り組むことができる」、「⑫社会のきまりや約束したことを守っている」、「⑭好奇心旺盛で様々なことに興味をもっている」、「⑰家族のことを理解している」、「⑱家族が子どものことを理解していると感じている」で全 18 項目中 8 項目である。肯定的意見の割合が最も低いのは「⑦自分の気持ちを相手にうまく伝えられる」で 3 割を下回っている。この項目は、児童・生徒調査でも否定的な意識が強かった。

学校種別にみると、小学生の保護者は 3 項目を除き肯定的な割合が高く、「①明るく元気だ」、「④やる気がある」、「⑭好奇心旺盛で様々なことに興味をもっている」、「⑯学習する態度が身についている」、「⑰家族のこと理解している」、「⑱家族が子どものことを理解していると感じている」については、中学生の保護者に比べ 10 ポイント以上、上回っている。この傾向は、児童・生徒調査の小学生及び中学生の自己分析でも同様にみられた傾向である。

図表 2-4 子どもの印象(n=1020)



図表 2-5 子どもの印象(学校種別)

項目	小学校 (n=497)	中学校 (n=523)
①明るく元気だ	82.5	70.3
②自分らしさをもっている	67.4	62.9
③やさしさや思いやりがある	72.2	66.7
④やる気がある	53.9	43.6
⑤自分の気持ちをコントロールできる	45.5	43.0
⑥粘り強く、最後までやりとげる	39.2	39.5
⑦自分の気持ちを相手にうまく伝えられる	29.3	27.4
⑧まじめに取り組むことができる	63.8	58.9
⑨体力がある	47.5	48.0
⑩自分ひとりで選択や判断をする力がある	34.5	35.2
⑪社会の役に立とうとする気持ちがある	41.5	36.0
⑫社会のきまりや約束したことを守っている	63.6	58.9
⑬食事や睡眠など、規則正しい生活をしている	53.7	43.9
⑭好奇心旺盛で様々なことに興味をもっている	61.1	48.4
⑮人間関係を築くのが上手である	41.3	41.2
⑯学習する態度が身についている	45.7	31.9
⑰家族のことを理解している	70.7	58.1
⑱家族が子どものことを理解していると感じている	66.6	56.6

(3) 子どもについて理解していること

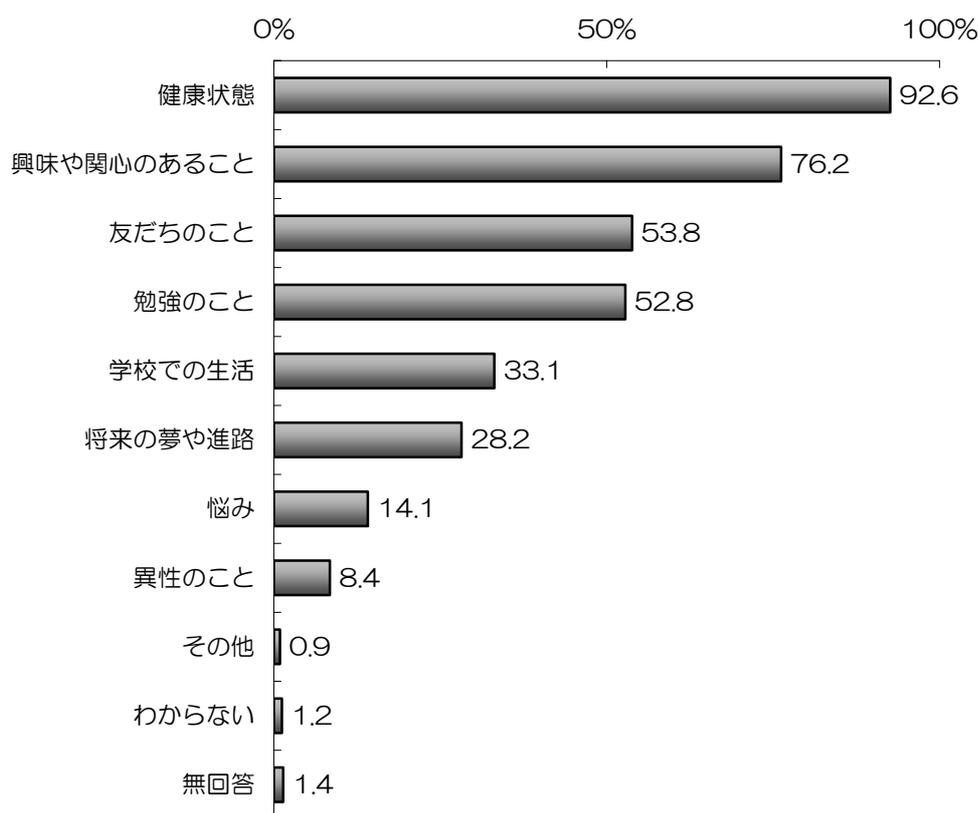
問7 あなたが、お子様に関して理解していると思う項目を、次の中から選んでください。

「将来の夢や進路」や「悩み」については、あまり理解できていない。

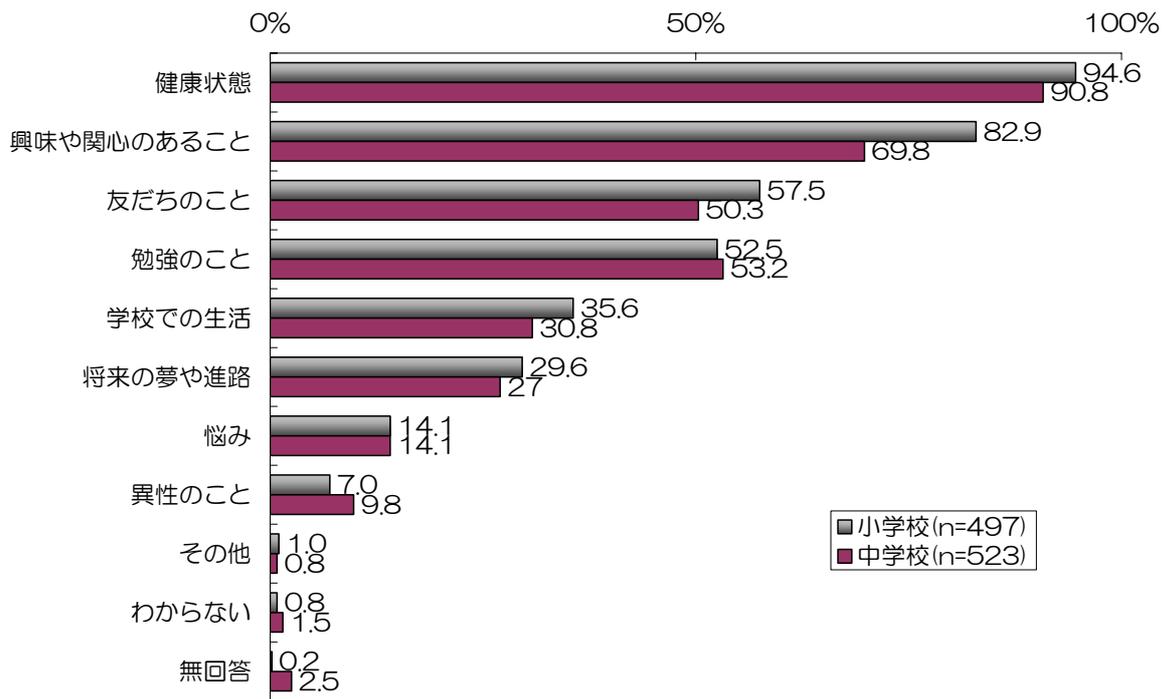
子どもについて理解していると思うことについてみると、「健康状態」が最も高く 92.6%、次いで「興味や関心のあること」が 76.2%、「友だちのこと」が 53.8%、「勉強のこと」が 52.8% となっている。一方、「将来の夢や進路」(28.2%)、「悩み」(14.1%)については低いことから、保護者は子どもとの一歩踏み込んだコミュニケーションに自信をあまり持っていないと考えられる。

学校種別にみると、中学校で「興味や関心のあること」、「友だちのこと」の割合が小学校に比べて若干低くなっているが、その他については大きな差はみられなかった。

図表 2-6 子どもについて理解していること(n=1020)



図表 2-7 子どもについて理解していること(学校種別)



(4) 放課後や休日の過ごし方

問8 あなたは、放課後や学校が休みの日には、お子様にどのように過ごして欲しいと考えますか。

放課後は「学校の宿題や予習・復習などの勉強」を、休日は「家族と一緒に」過ごしてほしい。

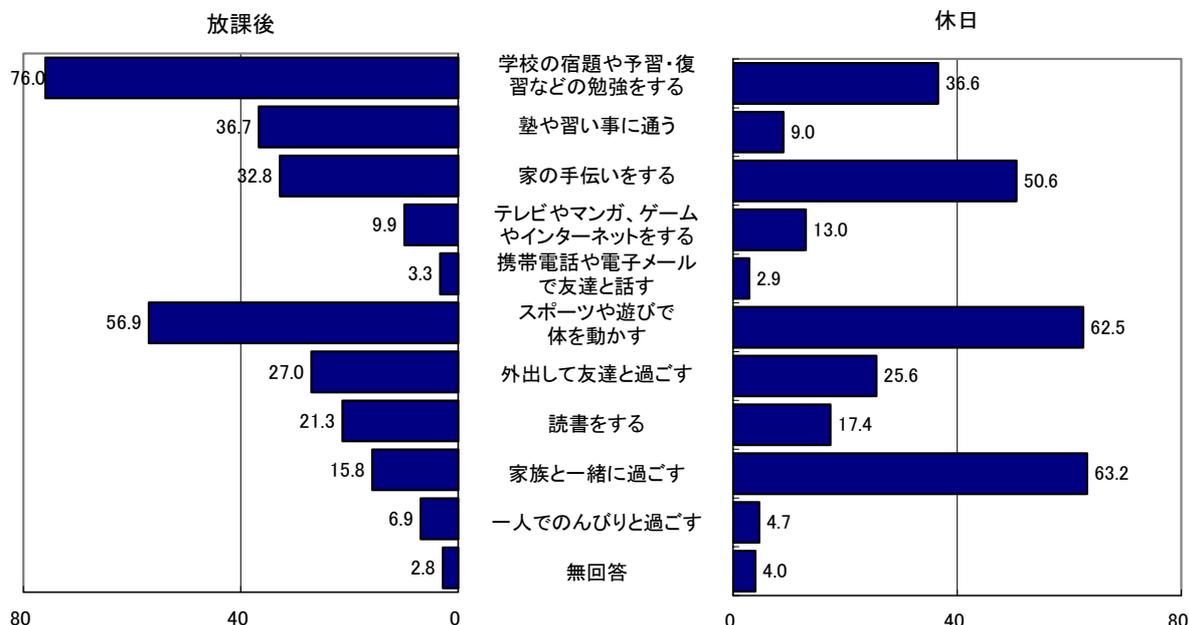
放課後や学校が休みの日に、子どもにどのように過ごしてほしいかをみると、放課後では「学校の宿題や予習・復習などの勉強をする」が圧倒的に高く 76.0%、次いで、「スポーツや遊びで体を動かす」が 56.9%となっている。また、休日を見ると、「家族と一緒に過ごす」(63.2%)、「スポーツや遊びなどで体を動かす」(62.5%)が6割超で拮抗しており、「家の手伝いをする」が 50.6%で続いている。

これを学校種別にみると、放課後では、小学校及び中学校ともに「学校の宿題や予習・復習などの勉強をする」が最も高く、7割を超えている。次いで「スポーツや遊びで体を動かす」がともに5割後半となっている。学校種別により差がみられるのは、「外出して友達と過ごす」で、小学校が 44.1%だったのに対し、中学校では 10.7%と低くなっている。また、休日では、小学校で最も高いのは「家族と一緒に過ごす」で 75.9%、次いで「スポーツや遊びなどで体を動かす」が放課後と同様に高かった。中学校では「スポーツや遊びなどで体を動かす」、「家族と一緒に過ごす」が5割を超えている。

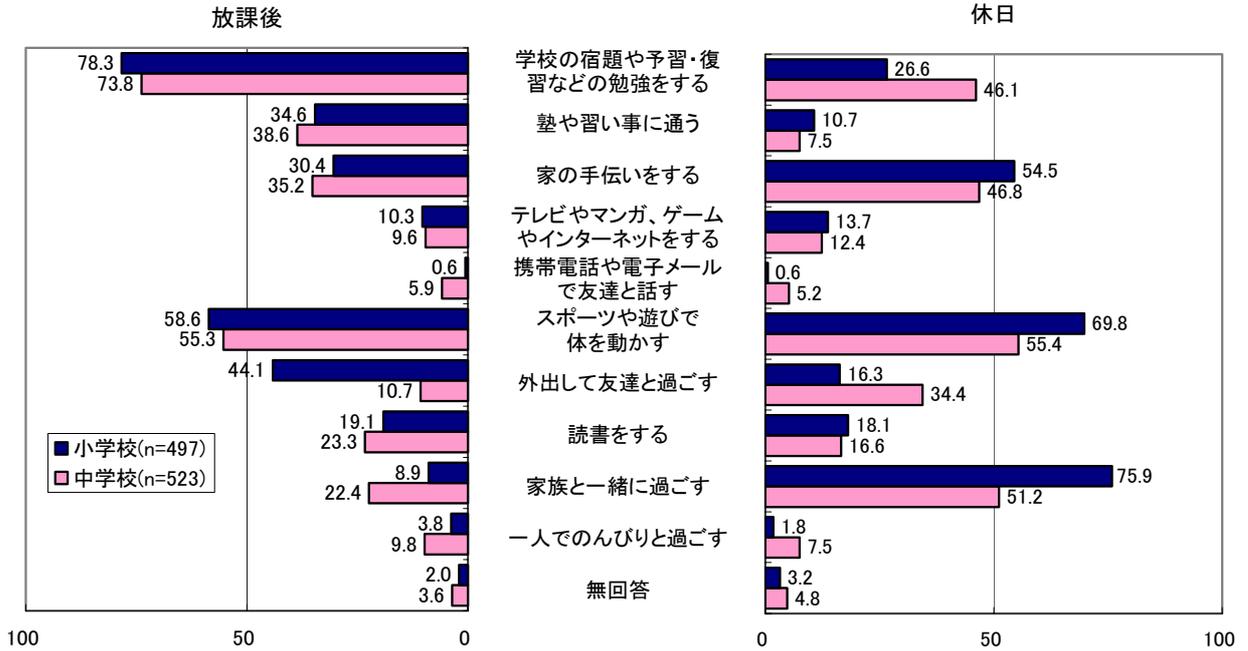
児童・生徒調査における実際の放課後及び休日の過ごし方と比較すると、小学校では「テレビやマンガ、ゲームやインターネットをする」以外については、比較的保護者の期待と子どもの実態が一致している。一方、中学校では、「学校の宿題や予習・復習などの勉強をする」ことへの保護者の期待が高いのに反し、実態は、放課後及び休日ともに 18%台と低い。また、「テレビやマンガ、ゲームやインターネットをする」、「携帯電話や電子メールで友達と話す」ことへの保護者の期待が非常に少ないにもかかわらず、実態は少なくない。

保護者が考えている放課後及び休日の過ごし方と実態との間には大きな乖離がみられるものもあった。

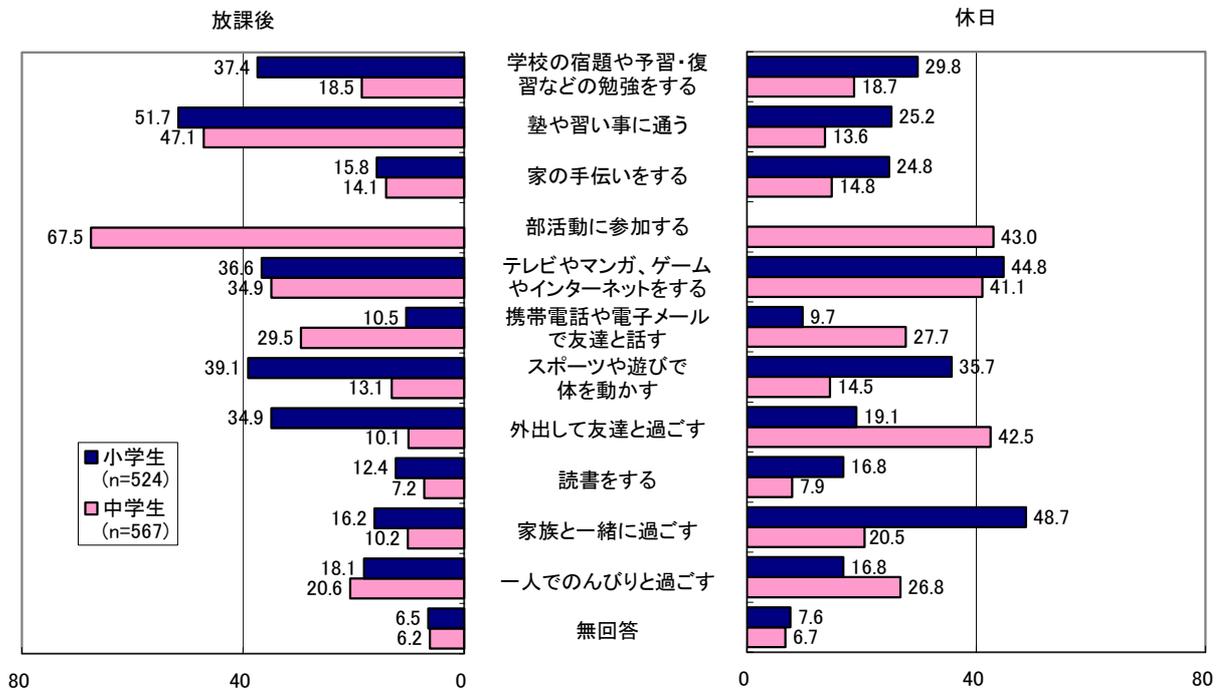
図表 2-8 理想の放課後や休日の過ごし方(n=1020)



図表 2-9 理想の放課後や休日の過ごし方(学校種別)



図表 2-10 放課後や休日の過ごし方の実態(小学生・中学生調査より抜粋)



(5) しつけや教育

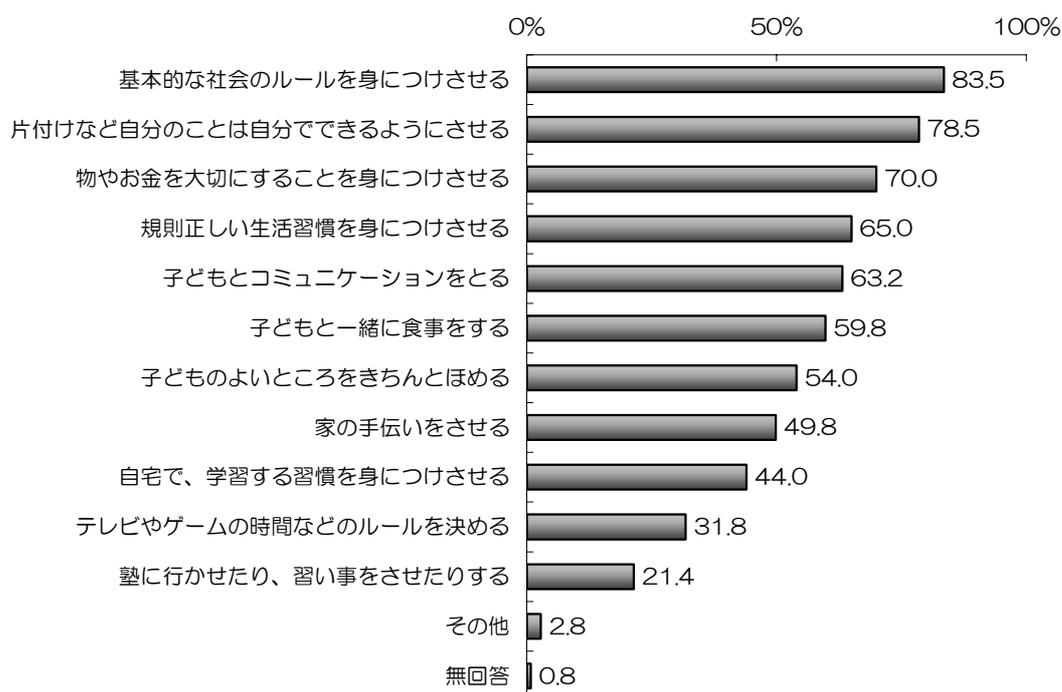
問9 あなたが、日頃お子様のしつけや教育について、気をつけていると思うものを、次の中から選んでください。

「基本的な社会のルールを身につけさせる」ことに気をつけている保護者は8割を超えている。

しつけや教育について、日頃から気をつけていると思うものについてみると、「基本的な社会のルールを身につけさせる」が最も高く83.5%、次いで「片付けなど自分のことは自分でできるようにさせる」が78.5%、「物やお金を大切にすることを身につけさせる」が70.0%、「規則正しい生活習慣を身につけさせる」が65.0%であった。「子どもとコミュニケーションをとる」は63.2%で5番目となっている。

前述の保護者の「子どもの印象」をみると（p58参照）、子どもは社会的なルールを守っていると感じている保護者が約6割を占めていた。このことから、保護者は社会的なルールに対するしつけをきちんとおこなっており、子どももそれを守っているという認識でいることが推測される。

図表 2-11 しつけや教育(n=1020)



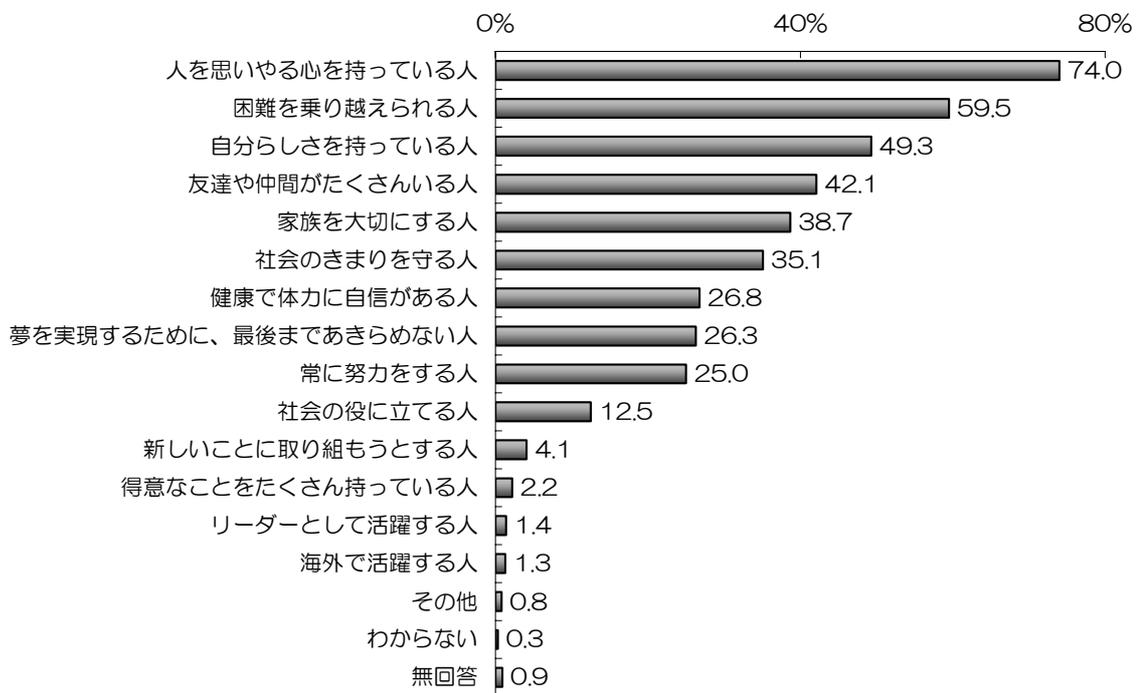
(6) 将来について

問10 お子様には、将来どんな大人になってもらいたいですか。次の中から特にあてはまるものを選んでください。

人を思いやる心を持っている大人になってほしい。

将来どんな大人になってもらいたいかについてみると、「人を思いやる心を持っている人」が最も高く 74.0%、次いで「困難を乗り越えられる人」が 59.5%となっている。児童・生徒調査で高かった「自分らしさを持っている人」が 49.3%、「友だちや仲間がたくさんいる人」が 42.1%で後に続いている。

図表 2-12 将来について(n=1020)



(7) 学校の施設・設備、備品

問 1 1 お子様の通っている学校の施設・設備、備品についてどう感じていますか。次の中から、選んでください。

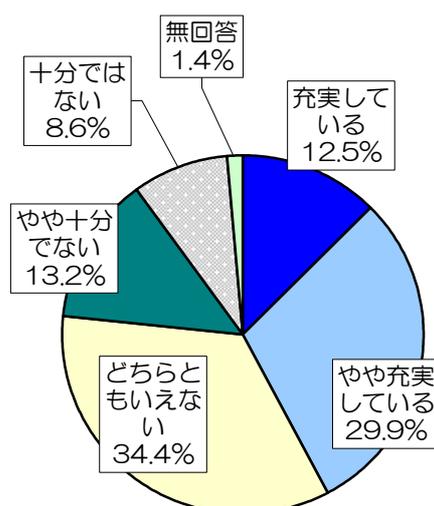
小学校では大規模校で、中学校では適正規模校で充実度が高い。

学校の施設・設備及び備品（以下「施設等」と表記）の充実度についてみると、「充実している」が 12.5%、「やや充実している」が 29.9%で、4割強が“充実している”と感じている。一方、「やや十分でない」は 13.2%、「十分ではない」は 8.6%で、2割強が“十分でない”と感じている。

これを学校規模別にみると、小学校では大規模校の充実度が高く、中学校では適正規模校の充実度が高い。

一方、中学校の小規模については、“充実している”の割合が低く、“十分でない”の割合を下回っており、学校の施設等にやや満足していないことがうかがえる。

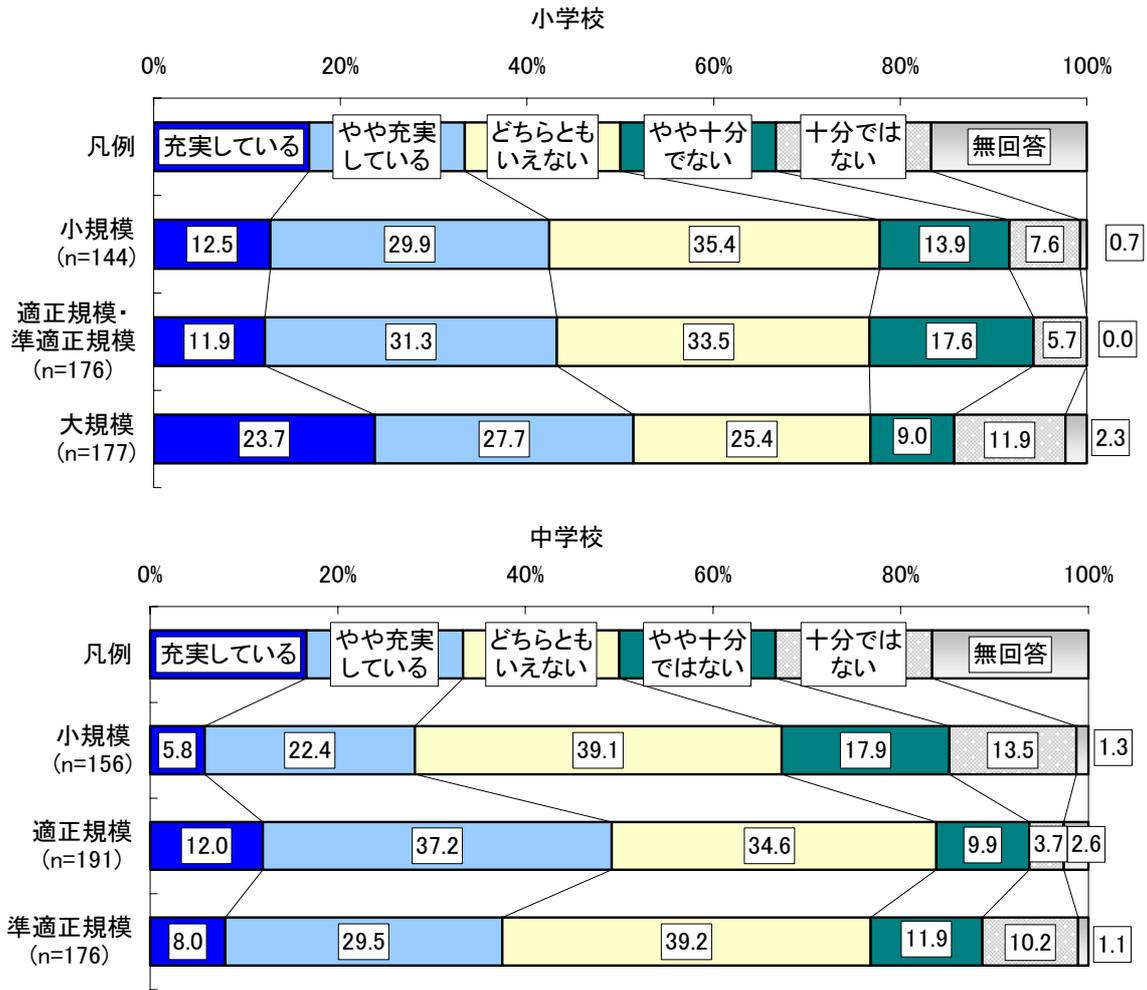
図表 2-13 学校の施設・設備、備品(n=1020)



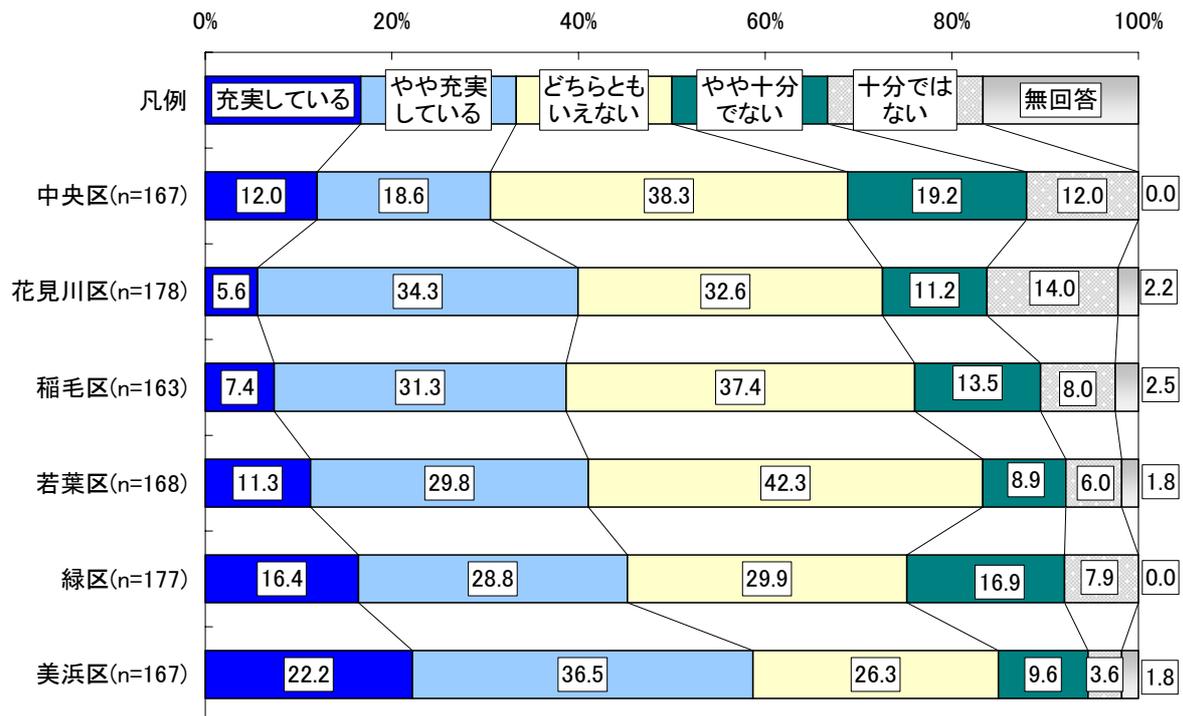
学校所在区別にみると、中央区の充実度が最も低く、美浜区が最も高い。中央区では“十分でない”の割合が“充実している”をわずかながら上回るなど、施設等に対する不満が強い傾向にあることがうかがえる。

花見川区、稲毛区、若葉区は“充実している”の割合は同程度だが、構成比をみると、花見川区は「充実している」が低く、「やや充実している」が高くなっている。また、“十分でない”の割合も他区と比較して高い上、「十分ではない」とする強い否定的意見の割合が 14.0%と全地区で最も高くなっている。

図表 2-14 学校の施設・設備、備品(学校規模別)



図表 2-15 学校の施設・設備、備品(学校所在地区別)



(8) 幼稚園・保育所（園）について

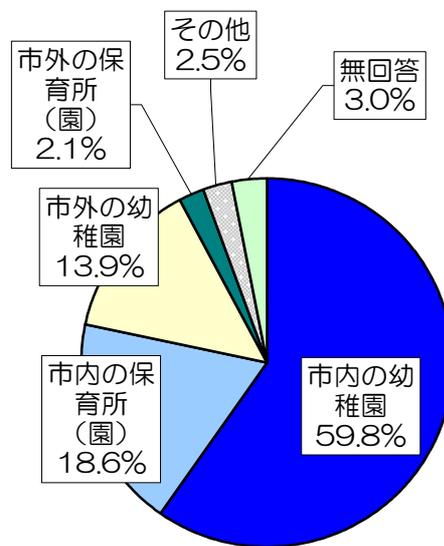
問 1 2 お子様は小学校に入学する前、どちらに通っていましたか。次の中からあてはまるものを選んで○をつけてください。

市内の幼稚園が約 6 割、市内の保育所（園）が約 2 割である。

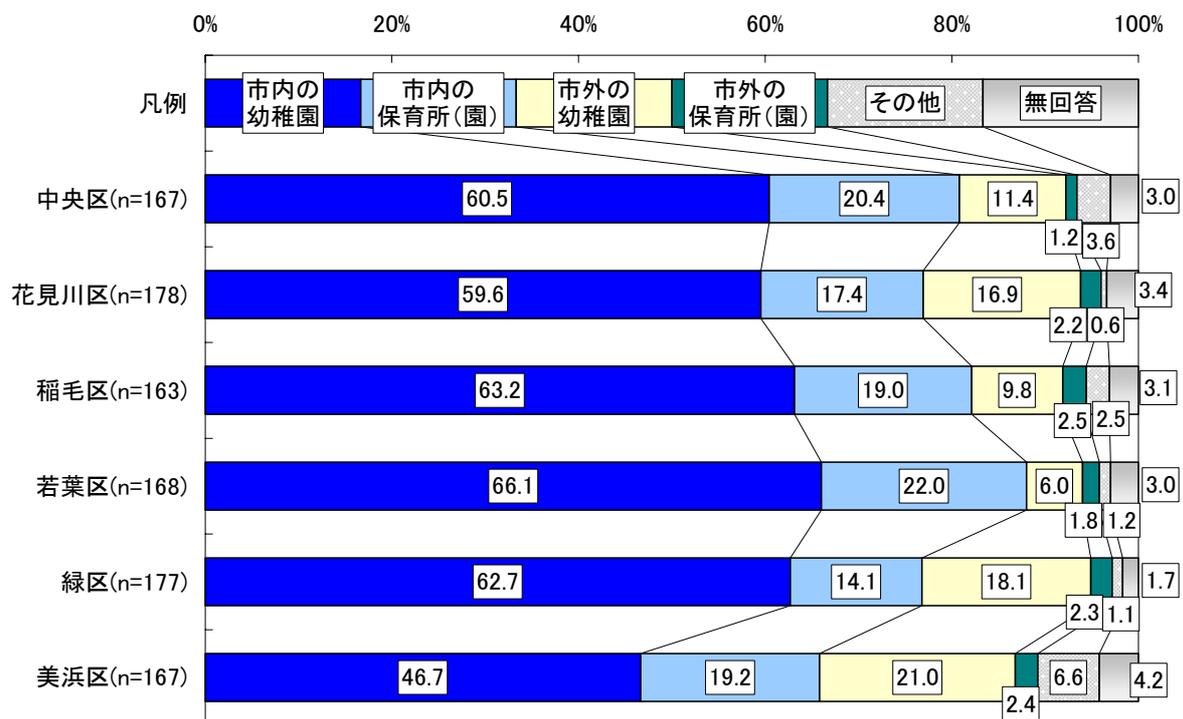
小学校に入学する前に通っていたのは、市内の幼稚園が 59.8%で最も高く、市内の保育園は 18.6%となっている。

これを学校所在地区別にみると、美浜区以外は 6 割前後が市内の幼稚園に通っているが、美浜区では市内の幼稚園に通っていたのが 46.7%と他区と比較すると低くなっている。

図表 2-16 幼稚園・保育所（園）について(n=1020)



図表 2-17 幼稚園・保育所（園）について(学校所在地区別)



(9) 幼稚園、保育所（園）の印象

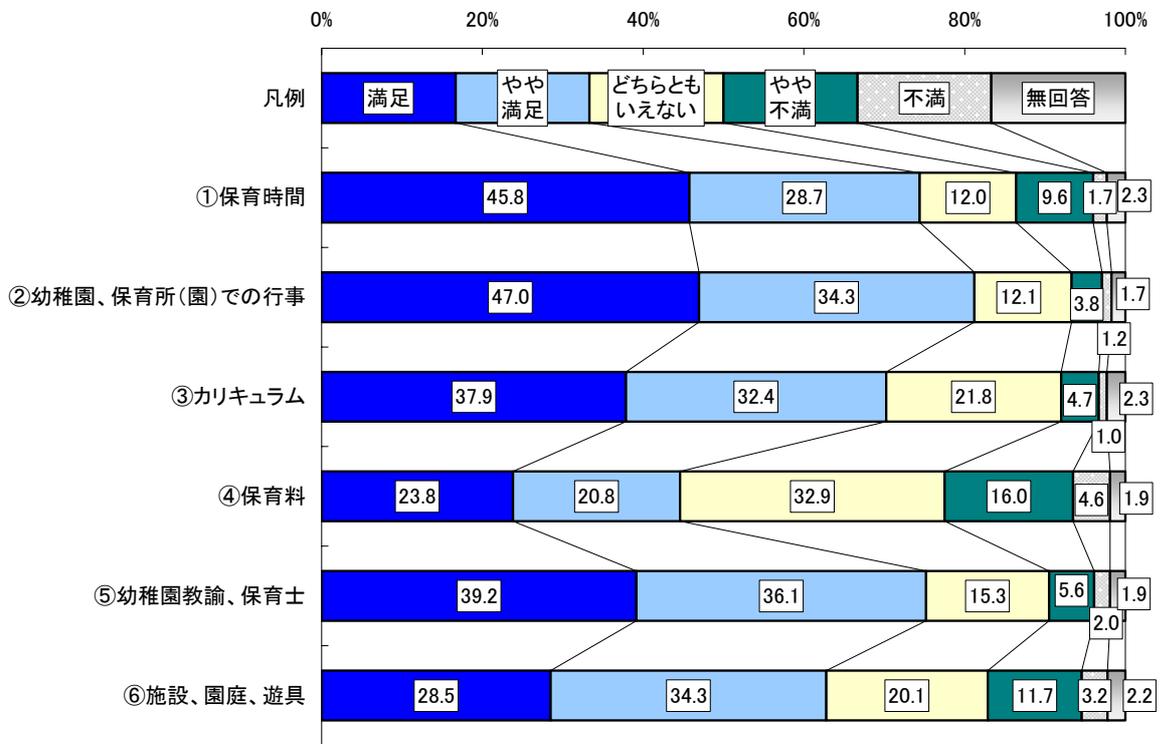
問 1 3 お子様に通っていた幼稚園、保育所（園）について、どのような印象をお持ちでしたか。
次の中からお考えに近いものを選んでください。

市内の幼稚園・保育所（園）については、肯定的に捉えている傾向が強い。

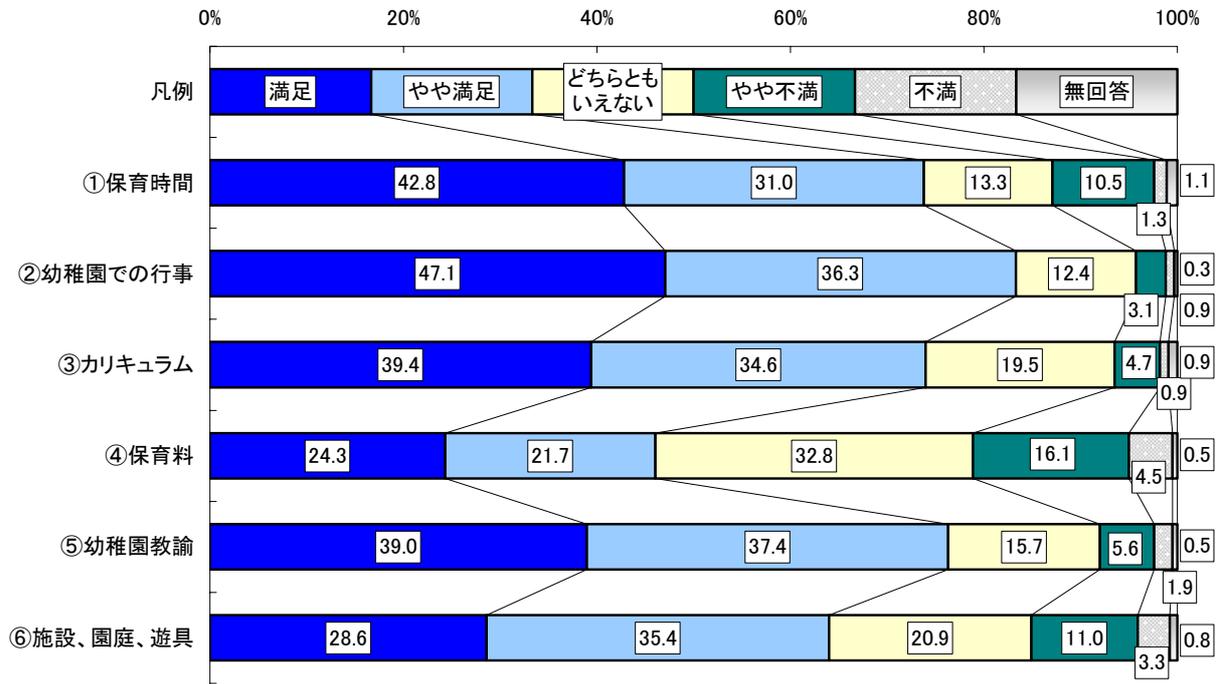
子どもに通っていた幼稚園、保育所（園）の印象についてみると、肯定的（「満足」＋「やや満足」）に捉えている傾向が強く、ほとんどの項目で6割以上が満足を感じている。

子どもが幼稚園に通っていた保護者の印象をみると、全体的傾向とほとんど相違はみられない。

図表 2-18 幼稚園、保育所（園）の印象(n=1020)



図表 2-19 幼稚園の印象



(10) 登下校時や学校内の安全

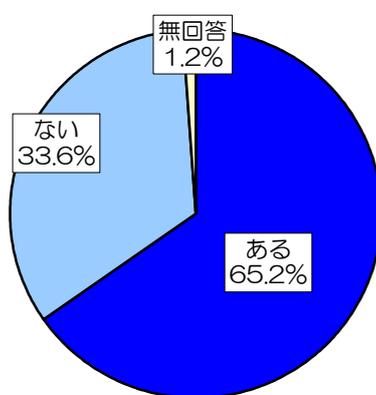
問 1 4 お子様の登下校時や学校における安全に不安を感じたことがありますか。次の中から選んでください。

子どもの安全に不安を感じたことがある保護者は 65.2%である。

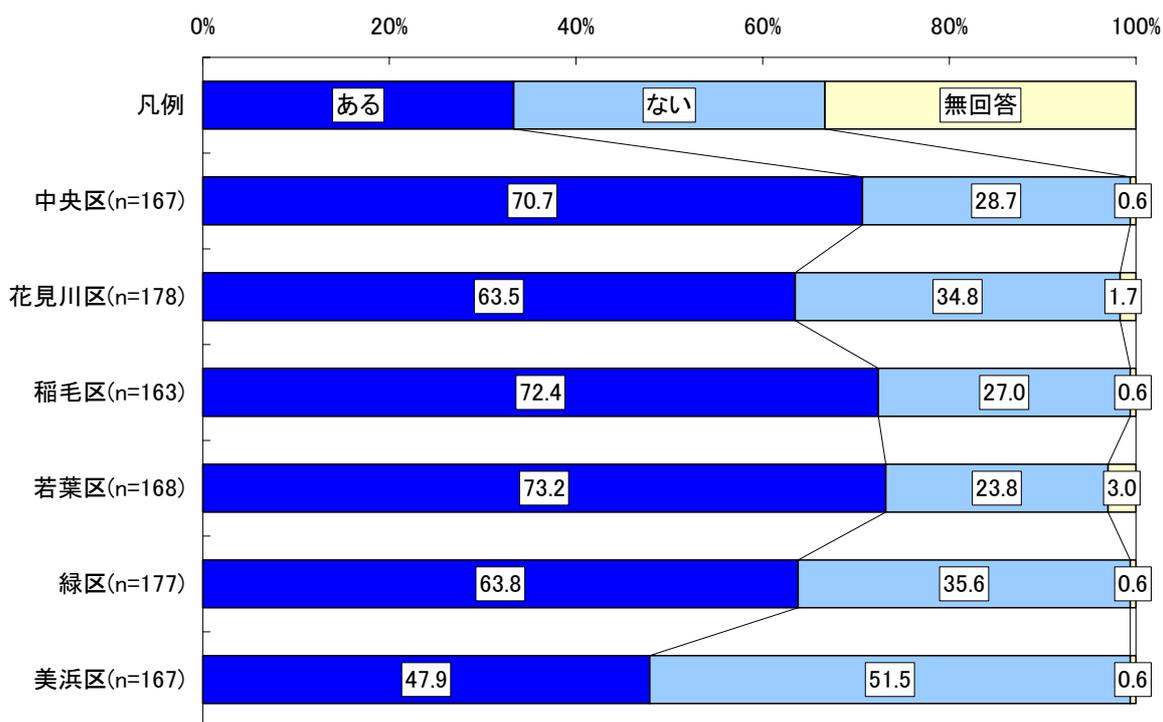
登下校時や学校における安全に不安を感じたことがあるかについてみると、「ある」が 65.2%、「ない」が 33.6%となっている。

学校所在地区別にみると、「ある」の割合が最も高いのが若葉区で 73.2%、反対に最も低かったのは美浜区で 47.9%であり、地区によってばらつきがみられた。

図表 2-20 登下校時や学校内の安全(n=1020)



図表 2-21 登下校時や学校内の安全(学校所在地区別)



(11) 安全確保のために取り組むべきこと

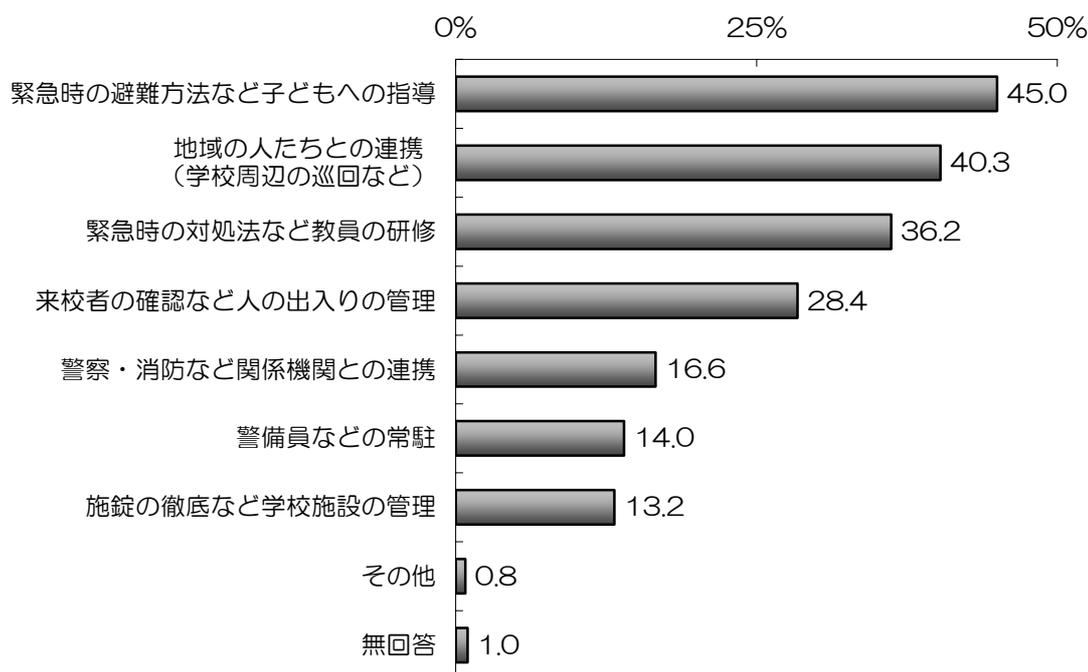
問15 日頃から、校内の安全確保を図るため、学校が取り組むべきこととして何が重要だと思いますか。

「緊急時の避難方法など子どもへの指導」と「地域の人たちとの連携」が必要である。

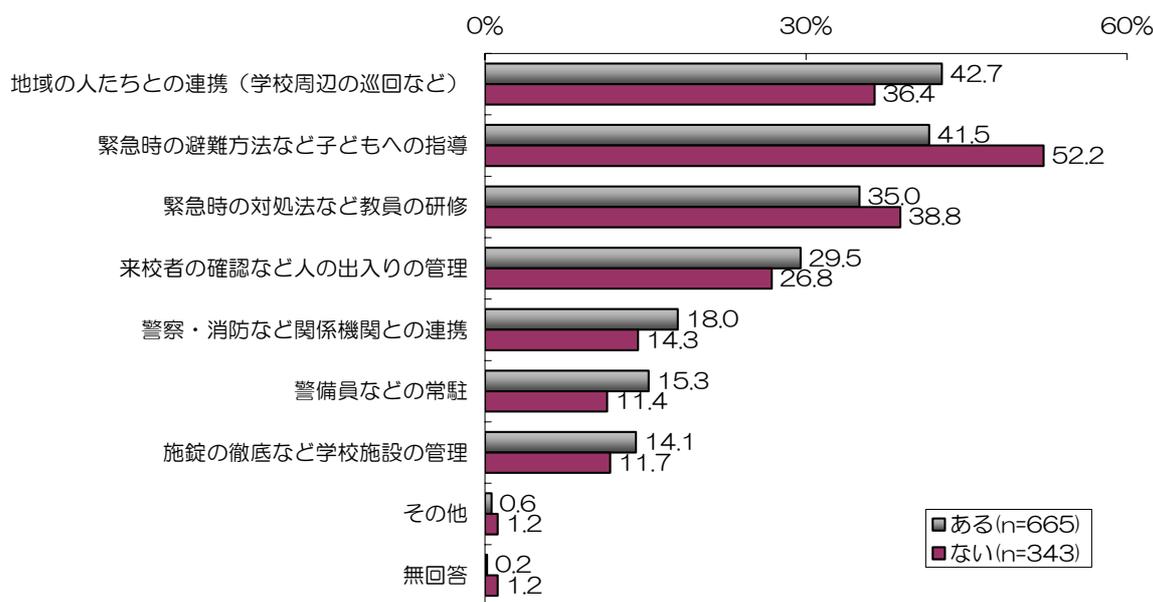
安全確保のために取り組むべきことについてみると、「緊急時の避難方法など子どもへの指導」が最も高く 45.0%、次いで「地域の人たちとの連携（学校周辺の巡回など）」が 40.3%となっている。一方、「警備員などの常駐」が 14.0%、「施錠の徹底など学校施設の管理」が 13.2%と低くなっている。保護者は学校自体の警備強化よりも、子ども自身にいざという時に対処できる能力を身につけさせてほしいことが明らかになった。

また、前問の登下校時や学校における安全に不安があるかどうかについてを回答別にみると、不安を感じたことが「ある」と回答した保護者では「地域の人たちとの連携」が 42.7%で最も高く、「緊急時の避難方法など子どもへの指導」が 41.5%で続いた。他方、不安を感じたことが「ない」とした保護者では「緊急時の避難方法など子どもへの指導」が 52.2%で目立って高かった。このことから、実際に子どもの安全が脅かされるようなことを経験している保護者は、安全確保のために地域の力が必要であると考えていることもうかがえた。

図表 2-22 安全確保のために取り組むべきこと(n=1020)



図表 2-23 安全確保のために取り組むべきこと(問 14 回答別)



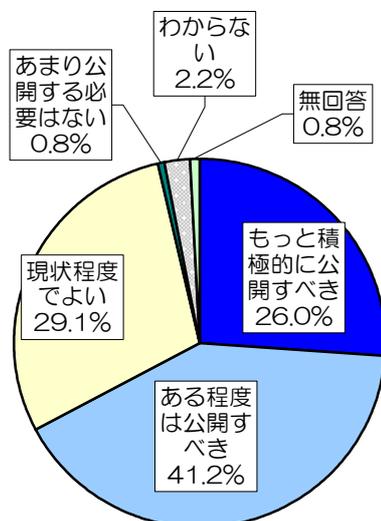
(12) 情報公開

問 1 6 学校の教育方針や教育活動について、もっと保護者や地域の方に情報を公開すべきだと思いますか。

現状よりは公開すべきであるという意識を持った保護者が約 7 割である。

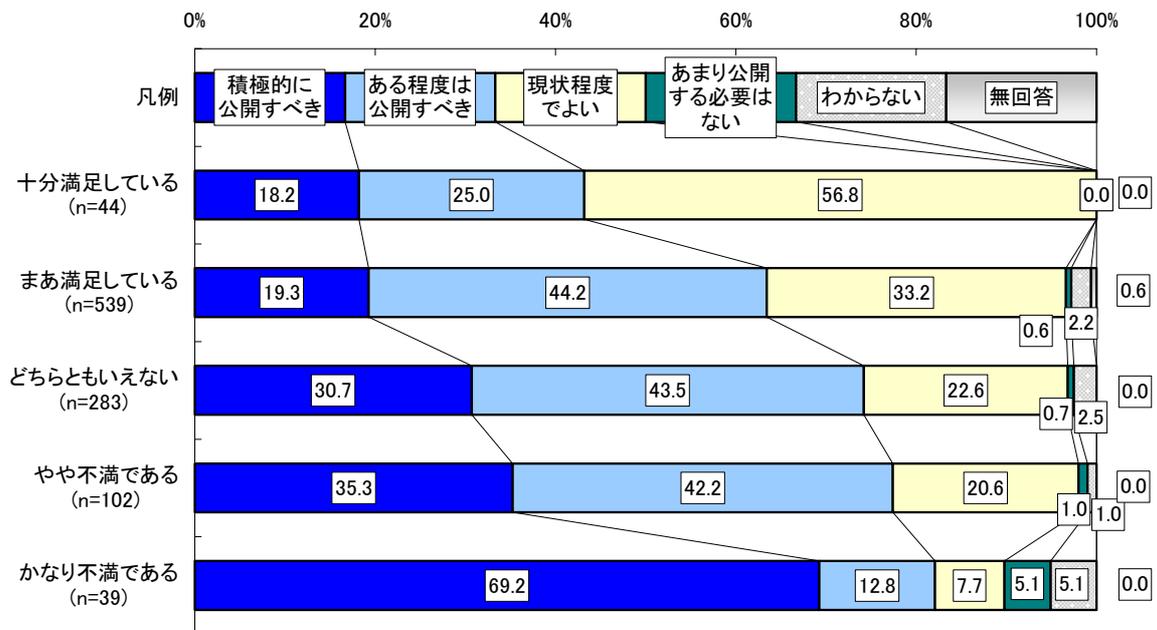
学校の教育方針や教育活動についてもっと公開すべきかどうかについてみると、「もっと積極的に公開すべき」が 26.0%、「ある程度は公開すべき」が 41.2%となり、「現状程度でよい」が 29.1%となっている。程度の差はあるが、現状よりは公開すべきであるという意識を持った保護者が約 7 割を占めている。

図表 2-25 情報公開(n=1020)



これを満足度別にみると、満足の度合いが高いほど「公開すべき」という意識が低く、「現状程度でよい」の割合が高い。一方、満足の度合いが低いほど「公開すべき」という意識が高く、学校教育に対し不満を感じている保護者は、学校教育の情報を欲していることがわかる。

図表 2-26 情報公開(満足度別)



(13) 地域での教育力

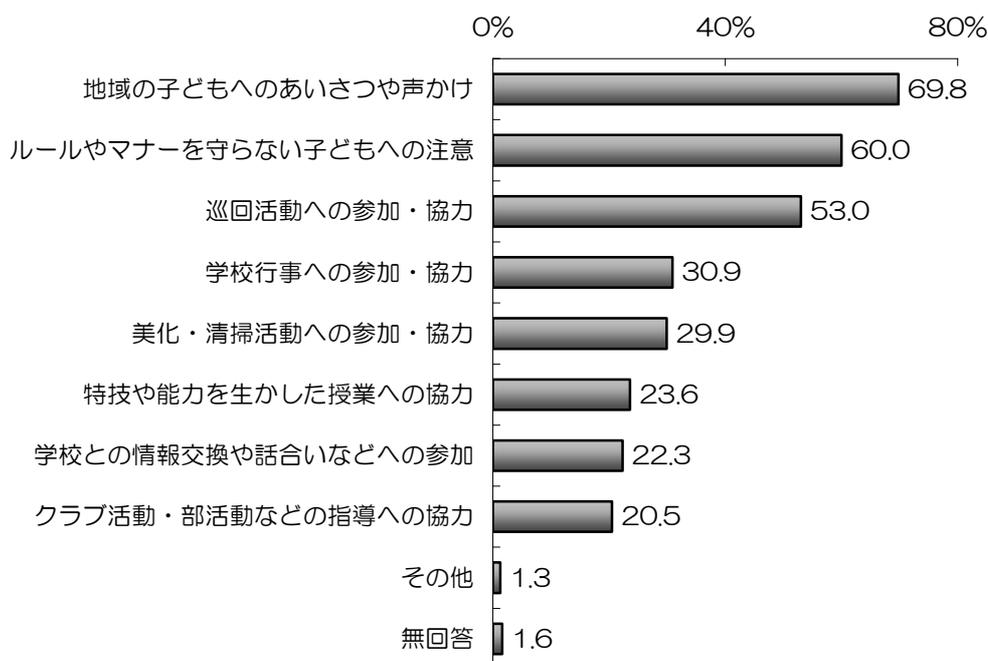
問 17 現在、様々な教育問題に対して地域での教育力に期待する声があります。あなたは地域でできると思うものを、次の中から選んでください。

地域でできることは、子どもへの声かけや注意とする回答が多かった。

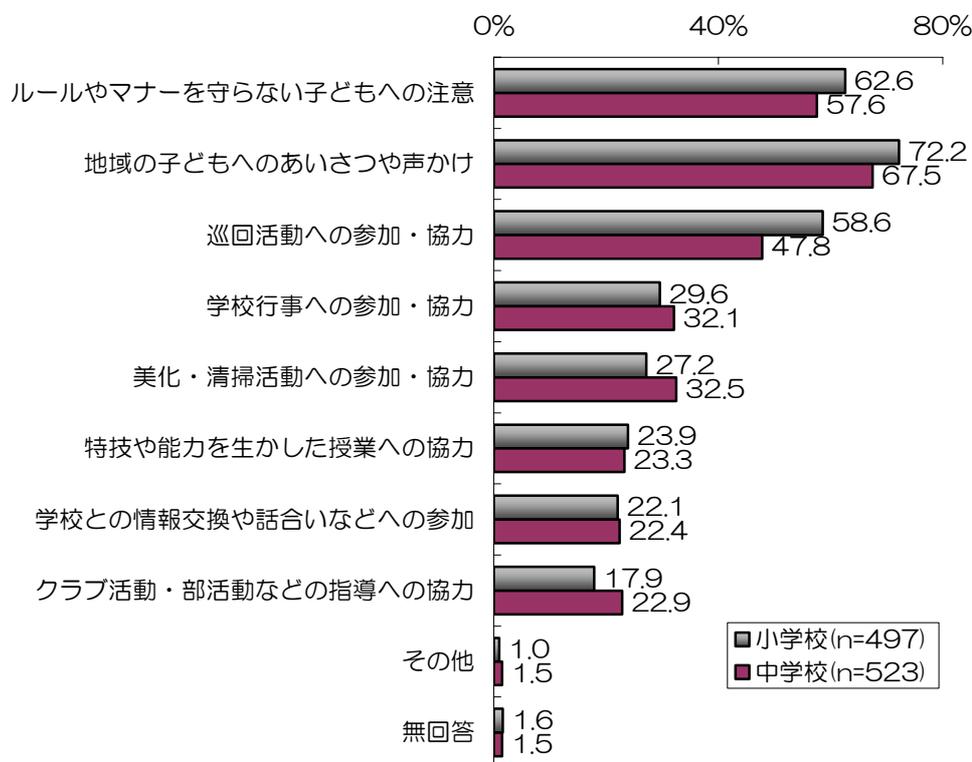
地域でできると思うものについてみると、「地域の子どもへのあいさつや声かけ」が最も高く、69.8%、次いで「ルールやマナーを守らない子どもへの注意」が60.0%、「巡回活動への参加・協力」が53.0%となっている。声かけや注意など、特に準備が必要なく、かつすぐに実行できることには、積極的な傾向がみられた。

これを学校種別にみると、「地域の子どもへのあいさつや声かけ」、「ルールやマナーを守らない子どもへの注意」及び「巡回活動への参加・協力」については、小学校が中学校を上回っているが、特技や学校との情報交換などは同程度となっている。

図表 2-27 地域での教育力(n=1020)



図表 2-28 地域での教育力(学校種別)



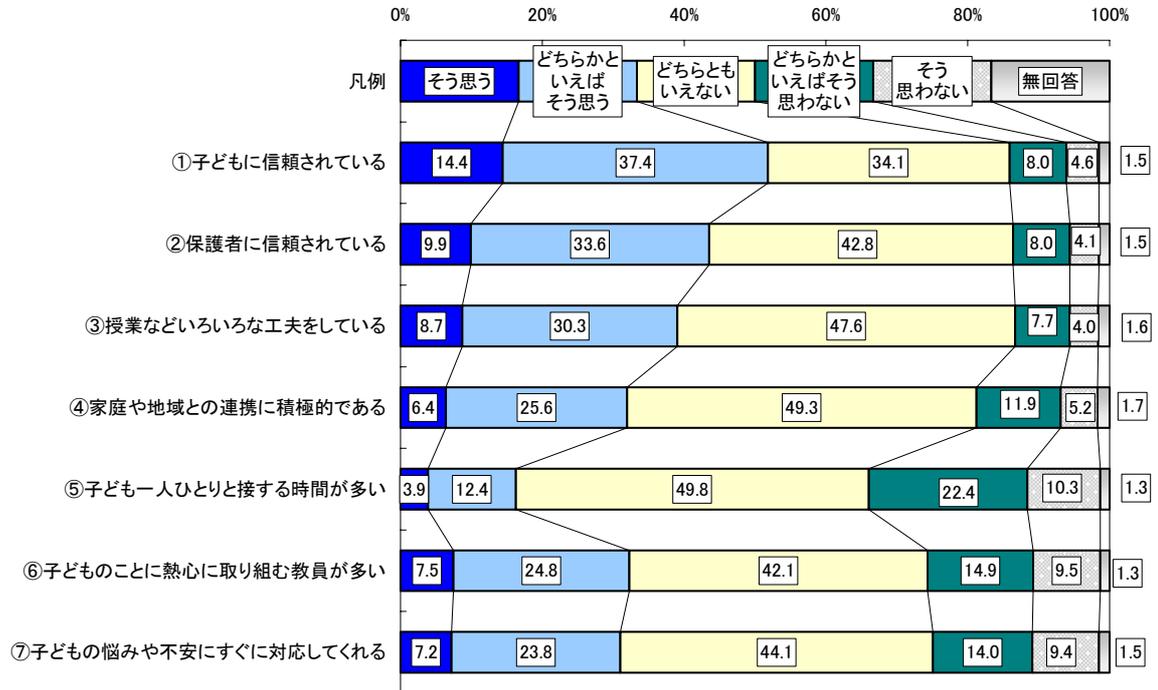
(14) 教員の印象

問18 あなたは、学校の教員に対してどのような印象を持っていますか。次の項目について、あなたの考えに最も近いものを次の中から選んでください。

子ども一人ひとりと接する時間が少ないと感じている保護者が多数である。

教員の印象についてみると、「①子どもから信頼されている」を除き「どちらともいえない」が最も高い。このことから、教員について“可もなく不可もなく”と思っている保護者が多いと考えられる。教員の印象を肯定的（「そう思う」＋「どちらかといえばそう思う」）に捉えている傾向が強いのは、「①子どもから信頼されている」、「②保護者に信頼されている」で、4割以上が肯定的な意見となっている。一方、「⑤子ども一人ひとりと接する時間が多い」については、否定的意見（「どちらかといえばそう思わない」＋「そう思わない」）が肯定的意見を大きく上回っている。また、「⑥子どものことに熱心に取り組む教員が多い」、「⑦子どもの悩みや不安にすぐに対応してくれる」も相対的に否定的意見が多い傾向があった。保護者は、自分の子どもに関連が強いものについては、期待が高い分、十分でないと考えていると推測される。

図表 2-29 教員の印象(n=1020)



肯定的意見を学校教育に対する満足度別にみると、満足度が高ければ高いほど、教員の印象も良い傾向が明らかである。このことから、保護者にとって学校教育の中で最も身近な存在である教員の印象が、学校教育の満足度に直結していると考えられる。また、総じて満足度が高い保護者にとって、教員は良い印象であるにもかかわらず、「⑤子ども一人ひとりと接する時間が多い」を肯定的に捉えている者は極端に少ない。保護者は総じて、教員が子ども一人ひとりと接する時間を持ってほしいと考えているといえる。

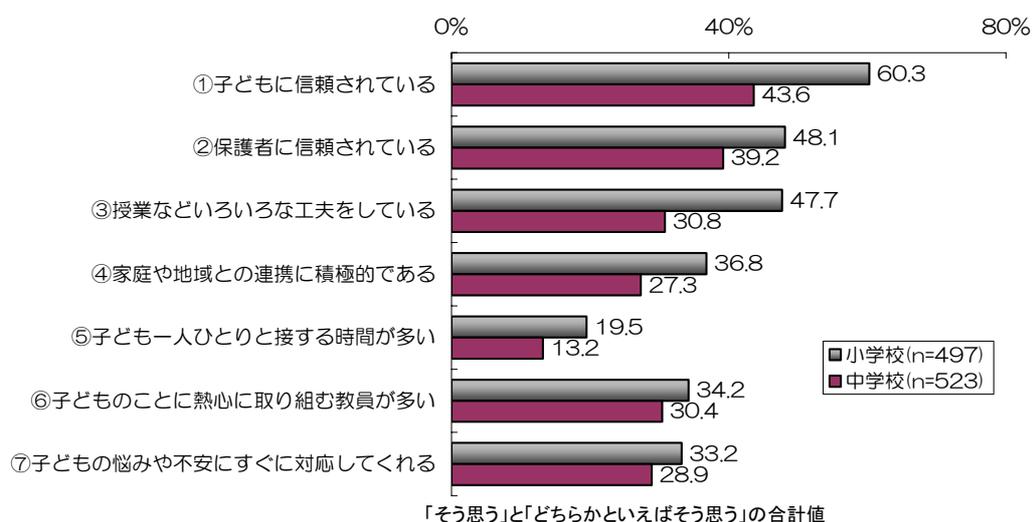
図表 2-30 教員の印象(満足度別・肯定的意見)

	①子どもに信頼されている	②保護者に信頼されている	③授業などいろいろな工夫をしている	④家庭や地域との連携に積極的である	⑤子ども一人ひとりと接する時間が多い	⑥子どものことに熱心に取り組む教員が多い	⑦子どもの悩みや不安にすぐに対応してくれる
十分満足している	88.7	84.1	86.4	70.5	54.6	77.3	72.7
まあ満足している	70.9	61.7	54.6	42.9	22.4	47.0	43.8
どちらともいえない	28.6	21.9	18.7	18.1	5.7	10.6	12.4
やや不満である	19.6	9.8	8.9	10.8	3.9	8.8	9.8
かなり不満である	12.8	2.6	7.7	5.2	2.6	5.2	7.7

「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計値

学校種別にみると、全項目において小学校の方が中学校よりも肯定的意見が多い。特に「①子どもに信頼されている」、「③授業などいろいろな工夫をしている」については差が目立つ。「⑤子ども一人ひとりと接する時間が多い」については中学校の保護者は13.2%しか肯定的に捉えておらず、極めて低い。

図表 2-31 教員の印象(学校種別・肯定的意見)



(15) 望ましい教員像

問 19 あなたはどのような教員が望ましいと考えますか。最も近いものを次の中から選んでください。

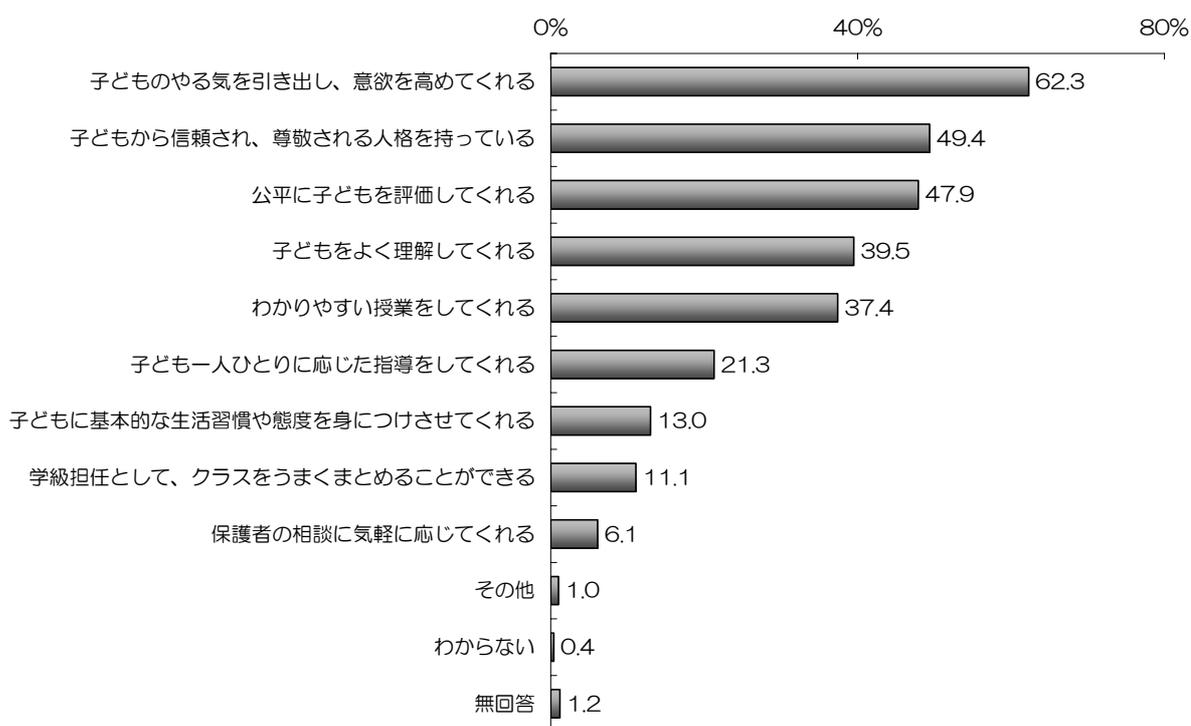
「子どものやる気を引き出し、意欲を高めてくれる」教員が望ましい。

望ましい教員像についてみると、「子どものやる気を引き出し、意欲を高めてくれる」が最も高く 62.3%、次いで「子どもから信頼され、尊敬される人格を持っている」が 49.4%、「公平に子どもを評価してくれる」が 47.9%となっている。

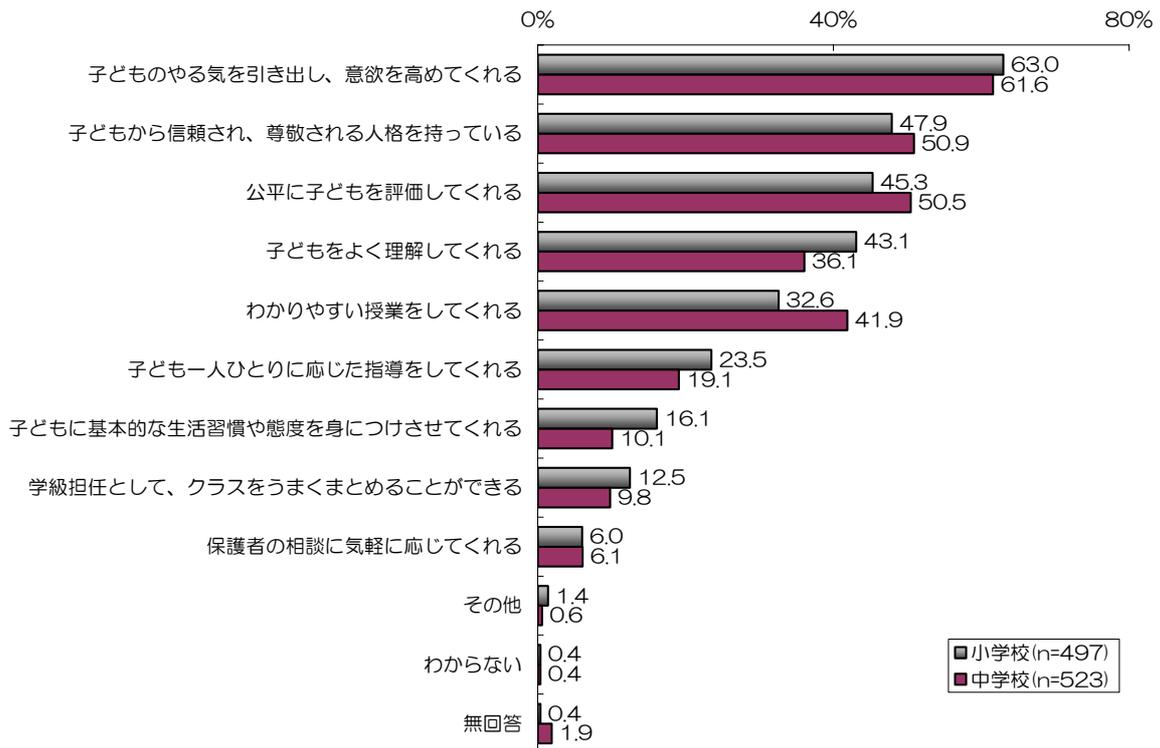
児童・生徒調査における教わりたい先生像では「わかりやすい授業をしてくれる」、「クラスを楽しいふんいきにしてくれる」の割合が高かった。しかし、保護者調査での同項目に相当する「わかりやすい授業をしてくれる」、「学級担任として、クラスをうまくまとめることができる」は望ましい教員像としては低い傾向があるため、保護者の期待は、子どものそれと一致していない。

これを学校種別にみると、小学校及び中学校の保護者ともに「子どものやる気を引き出し、意欲を高めてくれる」が最も高く、次いで「子どもから信頼され、尊敬される人格を持っている」「公平に子どもを評価してくれる」と同順位だった。小学校では「子どもをよく理解してくれる」が4番目だが、中学校では「わかりやすい授業をしてくれる」となっており、違いがみられるものの、学校種別では大きな差はみられなかった。

図表 2-32 望ましい教員像(n=1020)



図表 2-33 望ましい教員像(学校種別)



(16) 教員の資質の向上を図るために

問20 あなたは、教員の資質の向上を図るためにどのようなことが必要だと考えますか。次の項目について、お考えと近いものを選んでください。

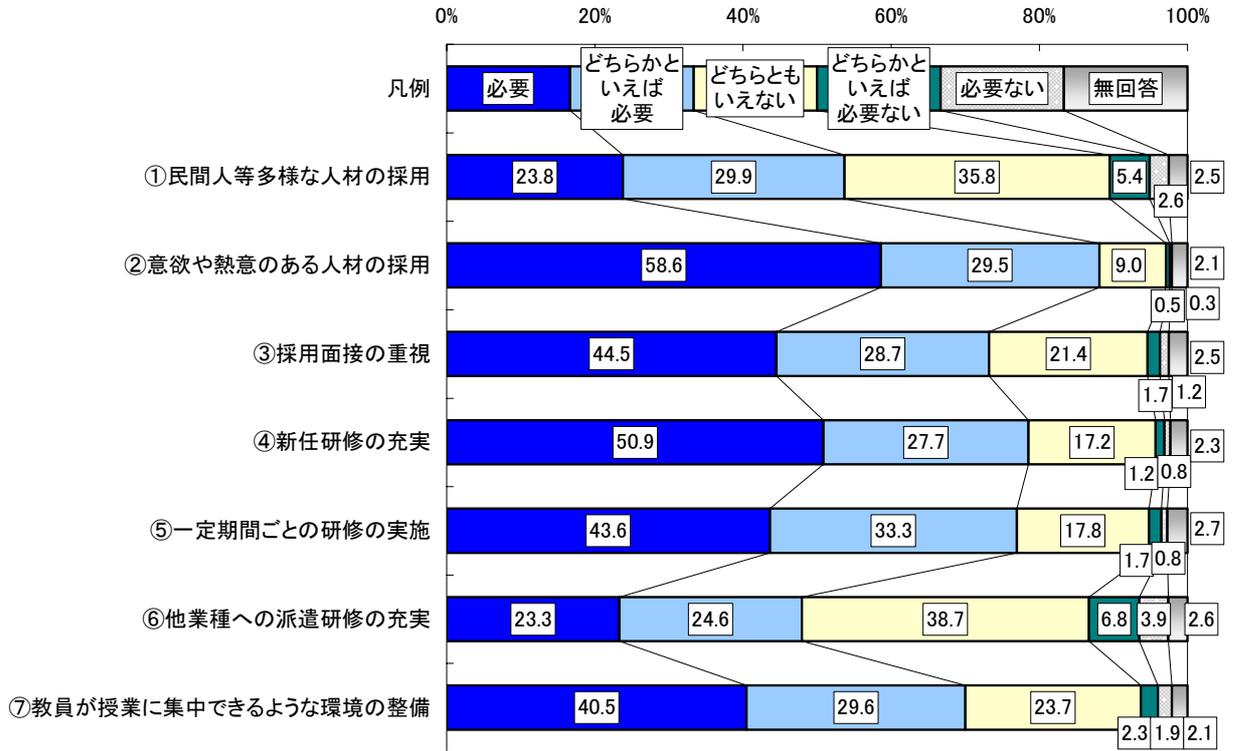
教員の資質向上を図るためには「意欲や熱意のある人材の採用」が必要である。

教員の資質向上を図るために必要なことについてみると、「②意欲や熱意のある人材の採用」を肯定する傾向が最も強く 88.1%が必要と回答している。また、「④新任研修の充実」(78.6%)、「⑤一定期間ごとの研修の実施」(76.9%)、「③採用面接の重視」(73.2%)、「⑦教員が授業に集中できるような環境の整備」(70.1%)も必要と考えている保護者が7割を超えている。

一方、「①民間人等多様な人材の採用」、「⑥他業種への派遣研修の充実」については「どちらともいえない」が最も高く、必要と考えている保護者は相対的に少ない。

これを学校種別にみると、小学校及び中学校ともに「②意欲や熱意のある人材の採用」を“必要”とする傾向が最も強い。それ以外の項目でも、学校種別による大きな差はみられなかった。保護者が必要だと考えている教員の資質の向上のための対策は、学校種別にかかわらず概ね一定であることがわかる。

図表 2-34 教員の資質の向上を図るために(n=1020)



図表 2-35 教員の資質の向上を図るために(n=1020)

	小学校 (n=497)	中学校 (n=523)
①民間人等多様な人材の採用	53.7	53.8
②意欲や熱意のある人材の採用	89.2	87.2
③採用面接の重視	71.9	74.6
④新任研修の充実	79.3	78.0
⑤一定期間ごとの研修の実施	76.1	77.9
⑥他業種への派遣研修の充実	45.0	50.7
⑦教員が授業に集中できるような環境の整備	71.8	68.5

「必要」と「どちらかといえば必要」の合計値

(17) 教育施策の認知度

問 2 1 あなたは、現在千葉市が取り組んでいる、教育に関する施策についてご存知ですか。

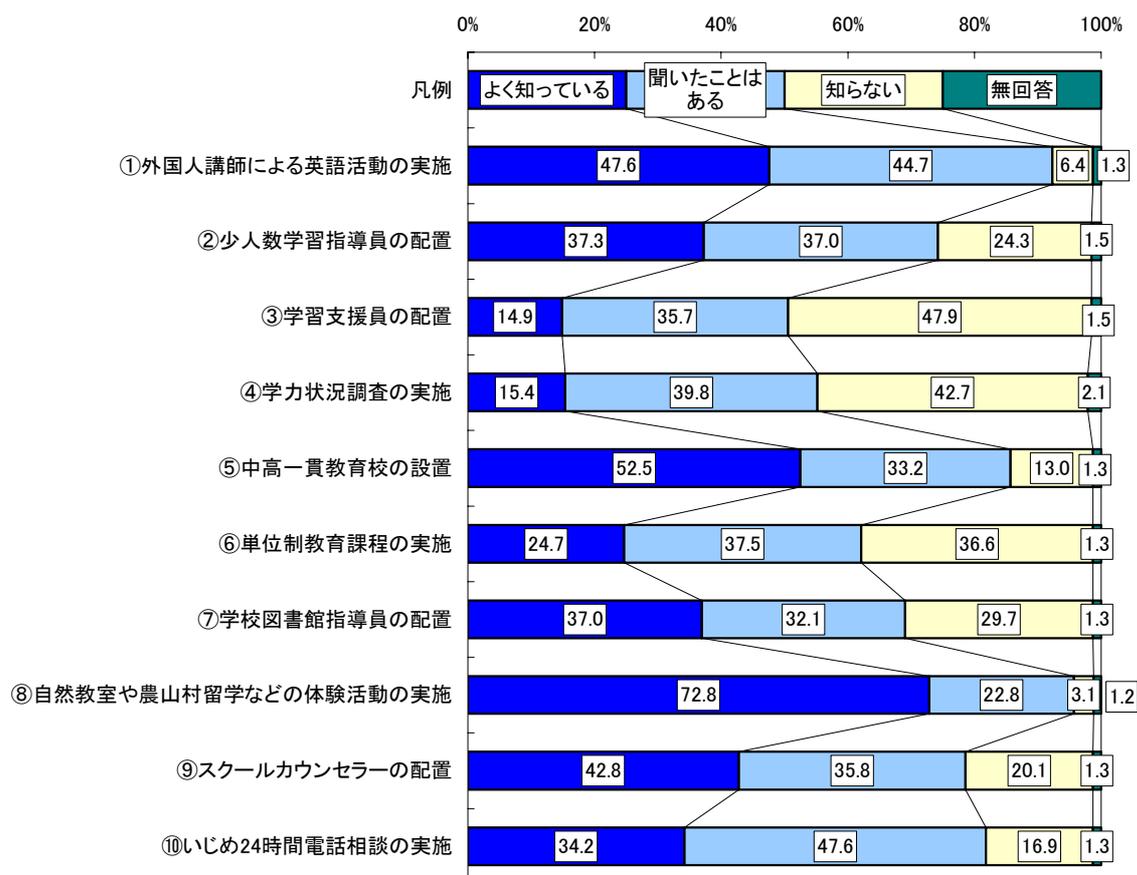
「学習支援員の配置」、「学力状況調査の実施」の認知度が低い。

千葉市の教育施策に対する認知度をみると、最も認知度が高いのは「⑧自然教室や農山村留学などの体験活動の実施」で72.8%が「よく知っている」、22.8%が「聞いたことはある」と回答しており、「知らない」は3.1%と最も認知度が高かった。

「知らない」の割合をみると、「①外国人講師による英語活動の実施」は6.4%、「⑤中高一貫教育校の設置」が13.0%で低く、認知度が高い施策である。

一方、「③学習支援員の配置」、「④学力状況調査の実施」では「知らない」が4割を超えており保護者にあまり認知されていない。

図表 2-36 教育施策の認知度(n=1020)



これを学校教育に対する満足度別にみると、学校教育に対して満足を感じている保護者の、「知らない」の割合は総じて低く、認知度が高かった。

しかし、どちらともいえないと感じている保護者及び不満と感じている保護者の認知度は同程度であり、認知度の低さが不満の原因になっているとは一概にはいえないが、満足度が高ければ認知度も高いということは明らかである。

図表 2-37 教育施策の認知度(満足度別)

	①外国人講師による英語活動の実施	②少人数学習指導員の配置	③学習支援員の配置	④学力状況調査の実施	⑤中高一貫教育校の設置	⑥単位制教育課程の実施	⑦学校図書館指導員の配置	⑧自然教室や農山村留学などの体験活動の実施	⑨スクールカウンセラーの配置	⑩いじめ24時間電話相談の実施
満足 (n=583)	5.0	20.6	43.2	40.8	10.5	36.0	26.1	2.2	20.1	18.0
どちらともいえない (n=283)	8.5	30.4	53.7	43.8	19.1	37.1	32.2	4.6	20.5	12.7
不満 (n=141)	8.5	27.0	56.7	50.4	12.1	39.0	39.0	3.5	19.1	22.0

「知らない」の割合

さらに、学校種別にみると、小学校及び中学校ともに最も認知度が高いのは「⑧自然教室や農山村留学などの体験活動の実施」で、最も認知度が低いのは「③学習支援員の配置」である。

スクールカウンセラーの配置では、小学校の認知度が中学校と比べ低くなっているが、これは基本的にスクールカウンセラーの配置が中学校のみとなっていることが、理由と考えられる。

図表 2-38 教育施策の認知度(学校種別)

	①外国人講師による英語活動の実施	②少人数学習指導員の配置	③学習支援員の配置	④学力状況調査の実施	⑤中高一貫教育校の設置	⑥単位制教育課程の実施	⑦学校図書館指導員の配置	⑧自然教室や農山村留学などの体験活動の実施	⑨スクールカウンセラーの配置	⑩いじめ24時間電話相談の実施
小学校 (n=497)	4.8	19.7	48.3	41.4	12.9	37.6	34.2	4.6	34.6	16.9
中学校 (n=523)	7.8	28.7	47.6	44.0	13.2	35.6	25.4	1.7	6.3	16.8

「知らない」の割合

(18) 役割分担について

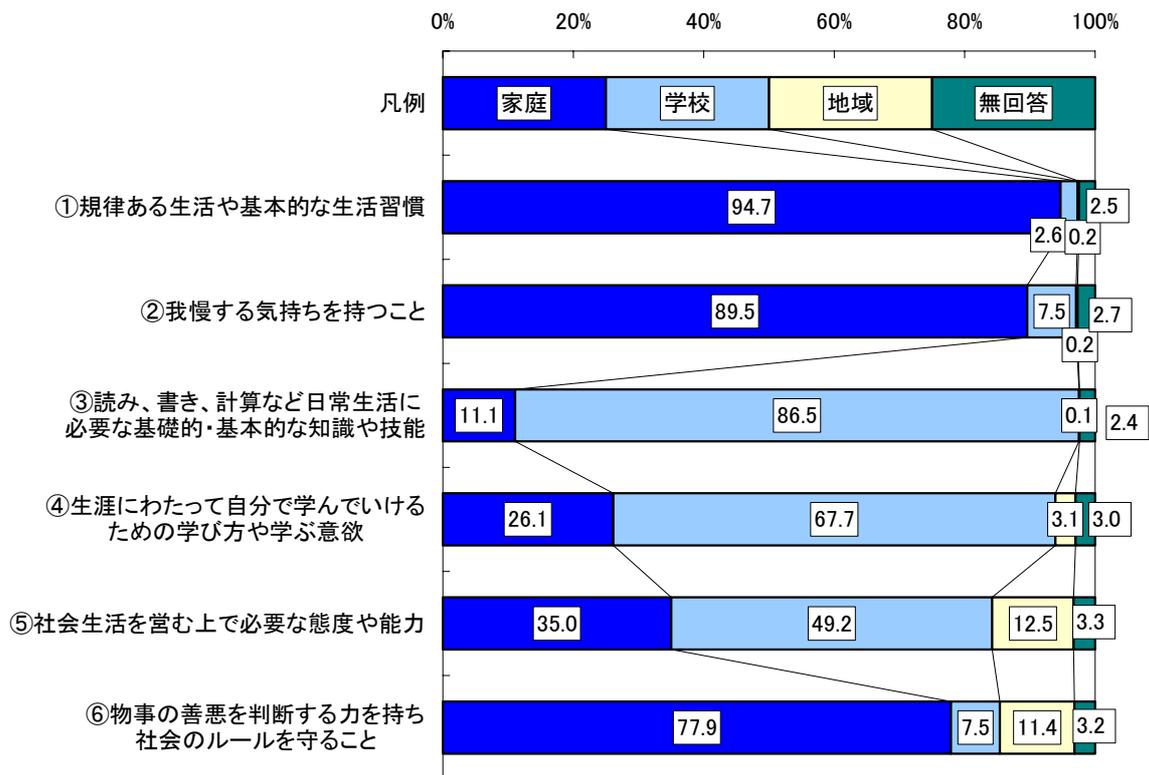
問 2 2 あなたは、次のことを子どもに身につけさせたり育んだりするのは、主に誰の役割だと思いますか。お考えと近いものを選んでください。

学校の役割は「基礎的・基本的な知識や技能」、「自分で学んでいけるための学び方や学ぶ意欲」。

役割分担についてみると、「①規律ある生活や基本的な生活習慣」、「②我慢する気持ちを持つこと」、「⑥物事の善悪を判断する力を持ち社会のルールを守ること」については「家庭」の役割と考えている割合が高い。「③読み、書き、計算など日常生活に必要な基礎的・基本的な知識や技能」、「④生涯にわたって自分で学んでいけるための学び方や学ぶ意欲」については「学校」の役割が高い。一方、「⑤社会生活を営む上で必要な態度や能力」については「学校」の役割とするのが 49.2%、「家庭」の役割とするのが 35.0%と意見が分かれた。「地域」の役割とする保護者が多かった項目はみられず、最も高いもので「⑤社会生活を営む上で必要な態度や能力」の 12.5%だった。

これを学校種別でみると、「学校」、「家庭」、「地域」の役割分担については、小学校、中学校ともほとんど同じ割合となっており、学校種別による違いはみられない。

図表 2-39 役割分担について(n=1020)



図表 2-40 役割分担について(学校種別)

	小学校(n=497)			中学校(n=523)		
	家庭	学校	地域	家庭	学校	地域
①規律ある生活や基本的な生活習慣	95.6	2.2	0.0	93.9	3.1	0.4
②我慢する気持ちを持つこと	91.3	6.6	0.0	87.8	8.4	0.4
③読み、書き、計算など日常生活に必要な基礎的・基本的な知識や技能	9.5	88.9	0.0	12.6	84.1	0.2
④生涯にわたって自分で学んでいけるための学び方や学ぶ意欲	28.2	66.6	3.2	24.1	68.8	3.1
⑤人と仲良く付き合えるなど、社会生活を営む上で必要な態度や能力	33.6	50.7	13.3	36.3	47.8	11.7
⑥物事の善悪を判断する力を持ち、社会のルールを守ること	78.3	7.4	12.1	77.6	7.5	10.7

(19) 学校に期待する取り組み

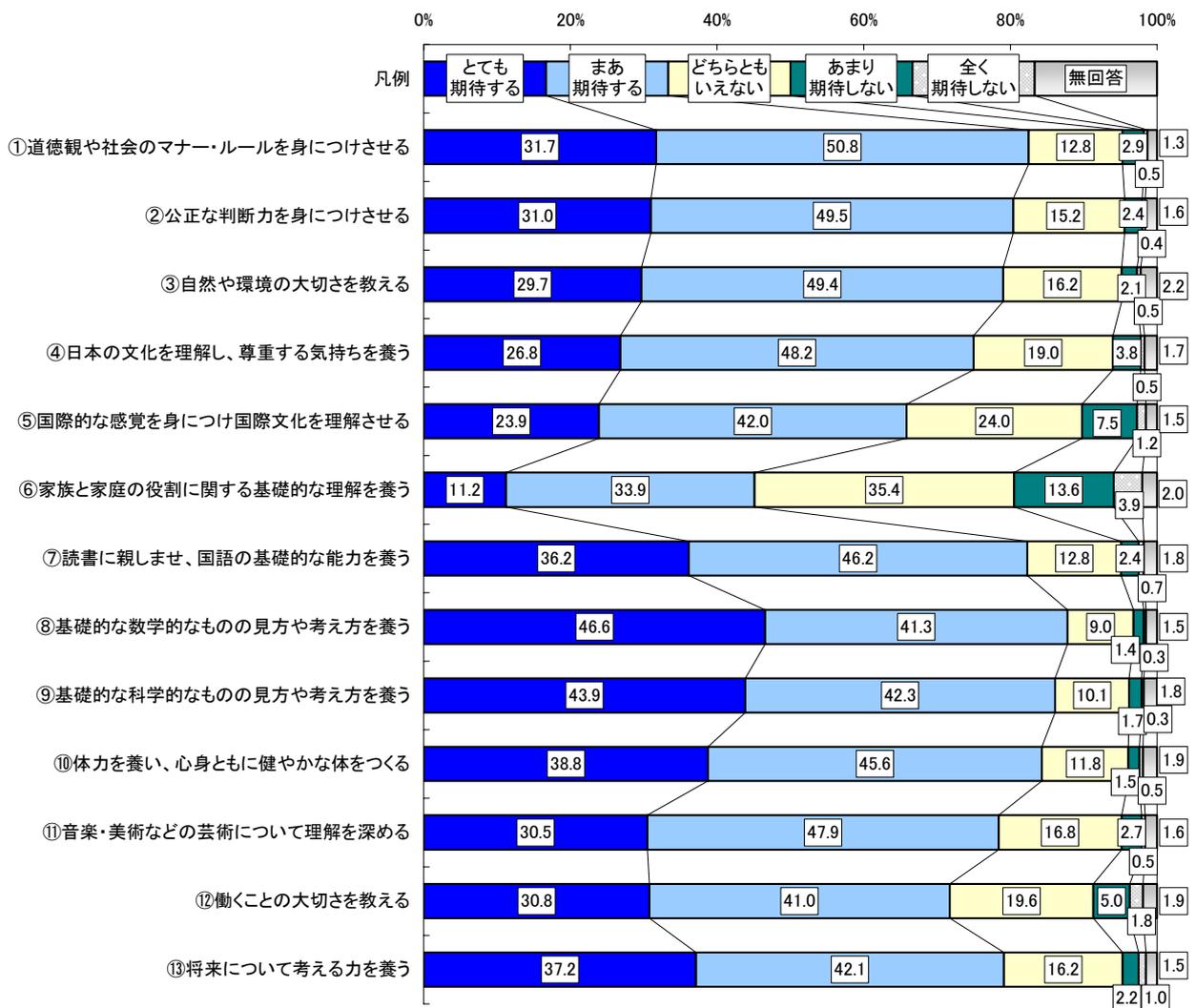
問 2 3 あなたは、学校にどのような取り組みを期待しますか。次の項目について、お考えと近いものを選んでください。

保護者は様々な教育活動を学校に期待している。

学校に期待する取り組みについてみると、総じて“期待する”（「とても期待する」と「まあ期待する」の合計）傾向が強い。もっとも期待度が低いのは「⑥家族と家庭の役割に関する基礎的な理解を養う」で45.1%である。

総じて、基礎的な知識を身につけること、体力を身につけること、道徳観や社会のマナー・ルール等を身につけることに関することへの期待が高い傾向がみられた。国際理解教育やキャリア教育はこれらに関するものと比較すると低く、学校教育の本来的な役割として、基礎的な力を身につけることの重要性を認識している保護者が多い傾向がうかがえる。

図表 2-41 学校に期待する取り組み(n=1020)



(20) 今後の取り組みについて

問 2 4 あなたは、これからの学校のあり方や役割、教育活動の展開について、どのようなことを考えていく必要があると思いますか。

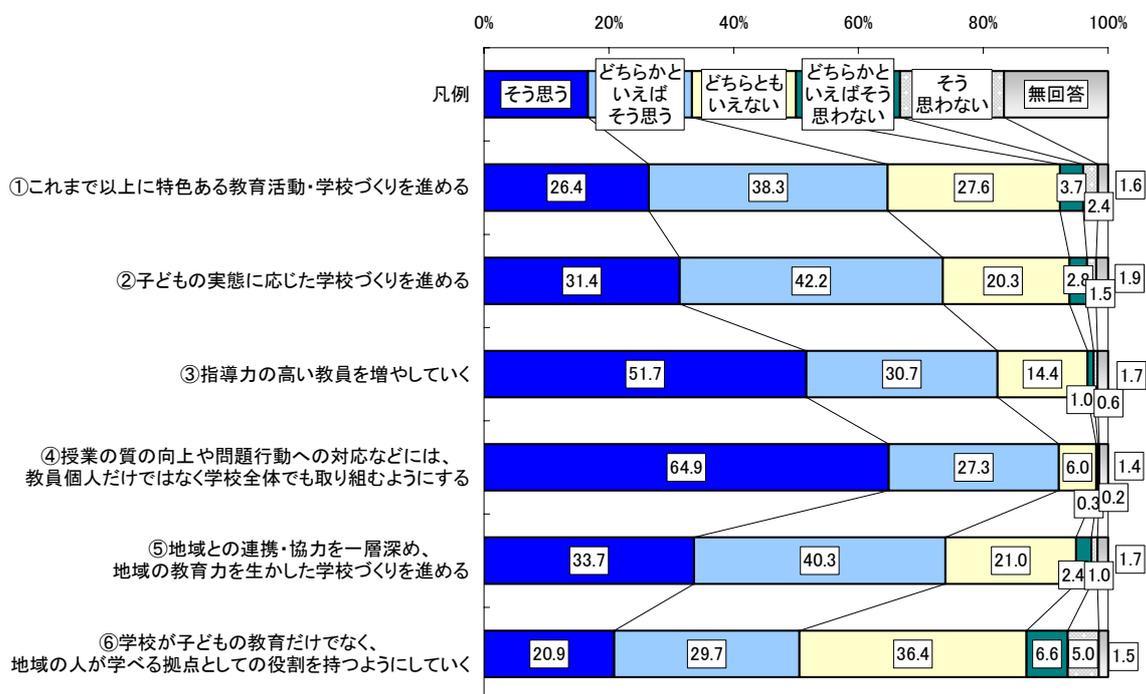
「授業の質の向上や問題行動への対応などには学校全体で取り組む」ことが必要である。

今後取り組む必要があると考えるものについてみると、「④授業の質の向上や問題行動への対応などには、教員個人だけでなく学校全体でも取り組むようにする」を肯定する傾向が最も強く、92.2%であった。学校の組織的運営が強く望まれている。

次に「③指導力の高い教員を増やしていく」、「②子どもの実態に応じた学校づくりを進める」を肯定する傾向が強く、「⑥学校が子どもの教育だけでなく、地域の人が学べる拠点としての役割を持つようにしていく」を肯定する傾向が最も低かった。子どもへの対応に関することを保護者は望んでいる。

これを学校種別にみると、小学校と中学校の間ではほとんど差異がみられない。このことから、学校種別による違いはなく、今後の教育活動に対する保護者の意識はほぼ一定であるといえる。

図表 2-42 今後の取り組みについて(n=1020)



図表 2-43 今後の取り組みについて(学校種別)

	小学校 (n=497)	中学校 (n=523)
①特色ある教育活動・学校づくりを進める	64.8	64.7
②子ども・地域の実態に応じた学校づくりを進める	74.5	72.7
③指導力の高い教員を増やしていく	81.7	83.0
④授業の質の向上や問題行動への対応などには、教員個人だけでなく学校全体でも取り組むようにする	92.0	92.3
⑤地域との連携・協力を一層深め、地域の教育力を生かした学校づくりを進める	75.7	72.5
⑥学校が子どもの教育だけでなく、地域の人が学べる拠点としての役割を持つようにしていく	50.3	50.8

「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計値

(21) 学校の満足度

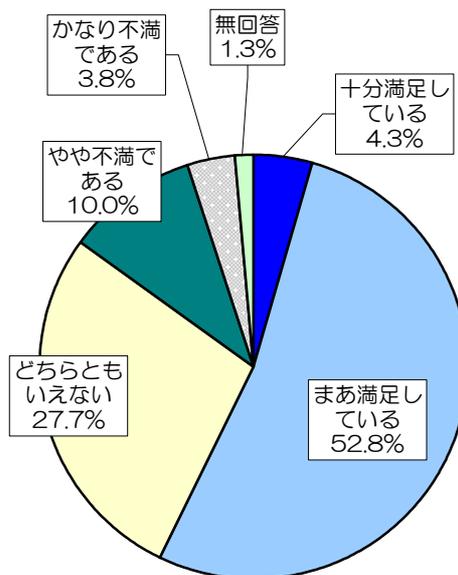
問 2 5 あなたは総合的にみて、学校に対して満足していますか。

約 6 割が学校に対して満足している。

学校の満足度についてみると、「十分満足している」が 4.3%、「まあ満足している」が 52.8%で 57.1%が“満足”と感じている。一方、「やや不満である」は 10.0%、「かなり不満である」は 3.8%で、“不満”と感じているのは 13.8%であった。

参考であるが、平成 16 年 9 月に実施した市民 1 万人アンケートで得た満足度は 19.7%と極めて低位だったのに対し、本調査では 6 割近い保護者が満足と回答している。

図表 2-44 学校の満足度(n=1020)



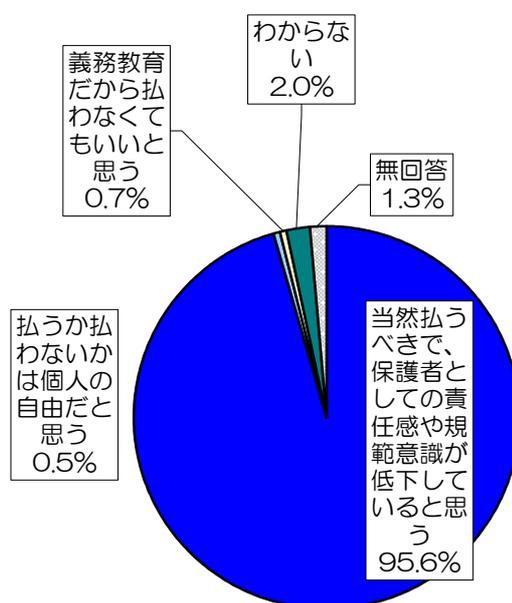
(22) 給食費未納の問題について

問 2 6 最近、経済的に余裕がありながら学校給食費を払わない保護者のことが、社会的な問題となっています。あなたはこのことについてどう感じますか。お考えに最も近いものを選んでください。

「当然払うべき」が 95.6% で圧倒的に高い。

給食費未納の問題についてみると、「当然払うべき」が 95.6% で圧倒的に高かった。しかし、わずかながら「払うか払わないかは個人の自由」(0.5%)、「義務教育だから払わなくていいと思う」(0.7%) と回答している保護者もいる。

図表 2-45 給食費未納の問題について(n=1020)



(23) 保護者の問題について

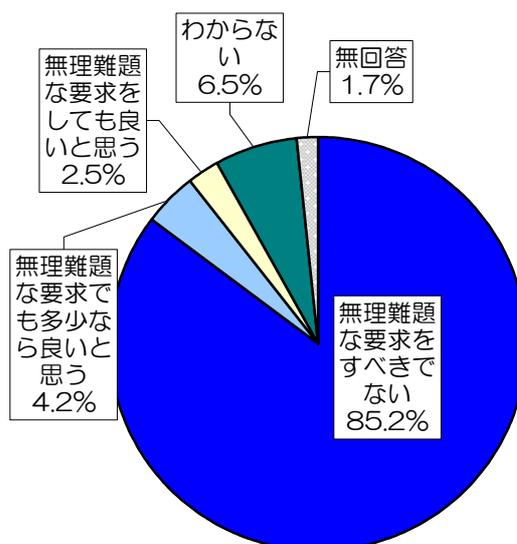
問 2 7 一部の保護者が、学校や教員に対し、自分の子どもに関する「無理難題な要求」をすることが、社会的な問題となっています。あなたはこのことについてどう感じますか。お考えに最も近いものを選んでください。

「無理難題な要求をすべきではない」が 85.2%である。

保護者が無理難題な要求をする問題についてみると、「無理難題な要求をすべきではない」が 85.2%で最も高かった。しかし、「無理難題な要求でも多少ならいいと思う」が 4.2%、無理難題な要求をしてもいいと思う」が 2.5%あった。また、「わからない」が 6.5%あったが、自由記述にて、「どの程度の要求を無理難題というのかわからない」といった意見もみられた。

無理難題な要求は、学校の役割以上のことを学校に求めることであり、保護者によって学校の役割に対する認識が異なるため、家庭と学校の役割分担を明確化することが、無理難題な要求を防ぐ手段のひとつであると考えられる。

図表 2-46 保護者の問題について(n=1020)



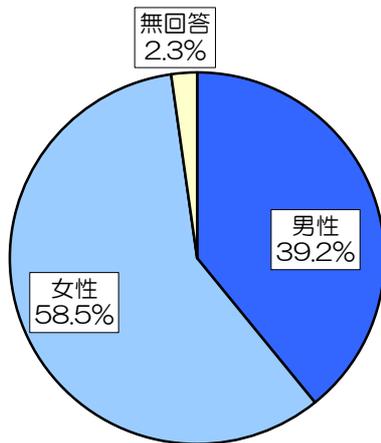
3. 一般市民調査

(1) 回答者の属性

1) 性別

回答者の性別をみると、男性が39.2%（344件）、女性が58.5%（513件）であった。

図表 3-1 回答者の性別(n=877)

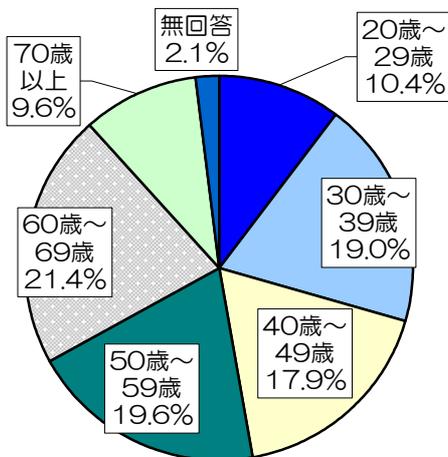


	回答数 (件)	構成比 (%)
男性	344	39.2
女性	513	58.5
無回答	20	2.3
サンプル数	877	100

2) 年齢

回答者の年齢をみると、20歳～29歳が10.4%（91件）、30～39歳が19.0%（167件）、40歳～49歳が17.9%（157件）、50～59歳が19.6%（172件）、60歳～69歳が21.4%（188件）、70歳以上が9.6%（84件）であった。

図表 3-2 回答者の性別(n=877)

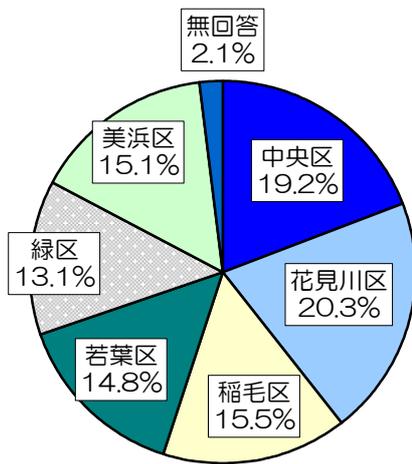


	回答数 (件)	構成比 (%)
20歳～29歳	91	10.4
30歳～39歳	167	19.0
40歳～49歳	157	17.9
50歳～59歳	172	19.6
60歳～69歳	188	21.4
70歳以上	84	9.6
無回答	18	2.1
サンプル数	877	100

3) 居住区

回答者の居住区をみると、中央区が 19.2% (168 件)、花見川区が 20.3% (178 件)、稲毛区が 15.5% (136 件)、若葉区が 14.8% (130 件)、緑区が 13.1% (115 件)、美浜区が 15.1% (132 件) であった。

図表 3-3 回答者の居住区(n=877)

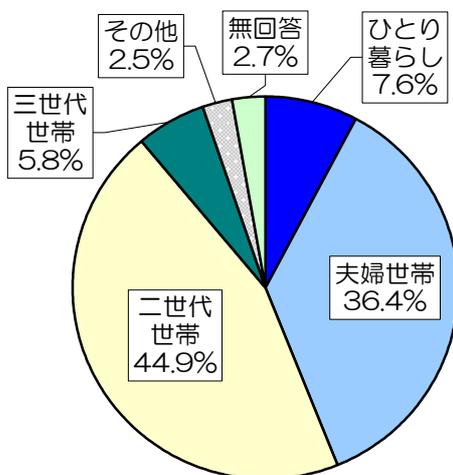


	回答数 (件)	構成比 (%)
中央区	168	19.2
花見川区	178	20.3
稲毛区	136	15.5
若葉区	130	14.8
緑区	115	13.1
美浜区	132	15.1
無回答	18	2.1
サンプル数	877	100

4) 家族構成

回答者の家族構成をみると、ひとり暮らしが 7.6% (67 件)、夫婦世帯が 36.4% (319 件)、二世世代世帯が 44.9% (394 件)、三世世代世帯が 5.8% (51 件)、その他が 2.5% (22 件) であった。

図表 3-4 回答者の家族構成(n=877)

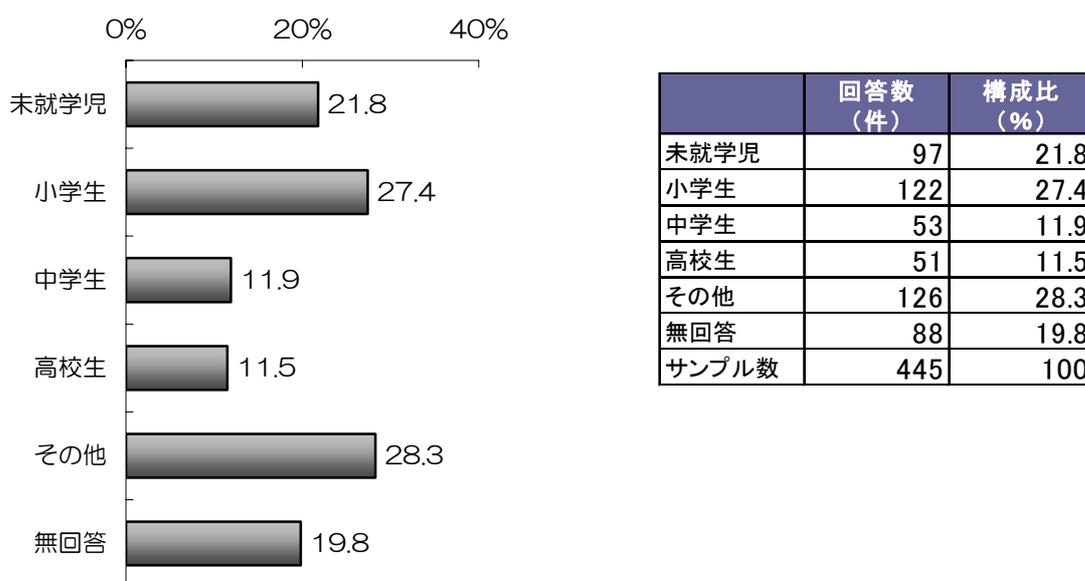


	回答数 (件)	構成比 (%)
ひとり暮らし	67	7.6
夫婦世帯	319	36.4
二世世代世帯	394	44.9
三世世代世帯	51	5.8
その他	22	2.5
無回答	24	2.7
サンプル数	877	100

5) 同居する子どもの年代

子どもと同居している回答者の子どもの年代をみると、未就学児が 21.8% (97 件)、小学生が 27.4% (122 件)、中学生が 11.9% (53 件)、高校生が 11.5% (58 件)、その他が 28.3% (126 件) であった。

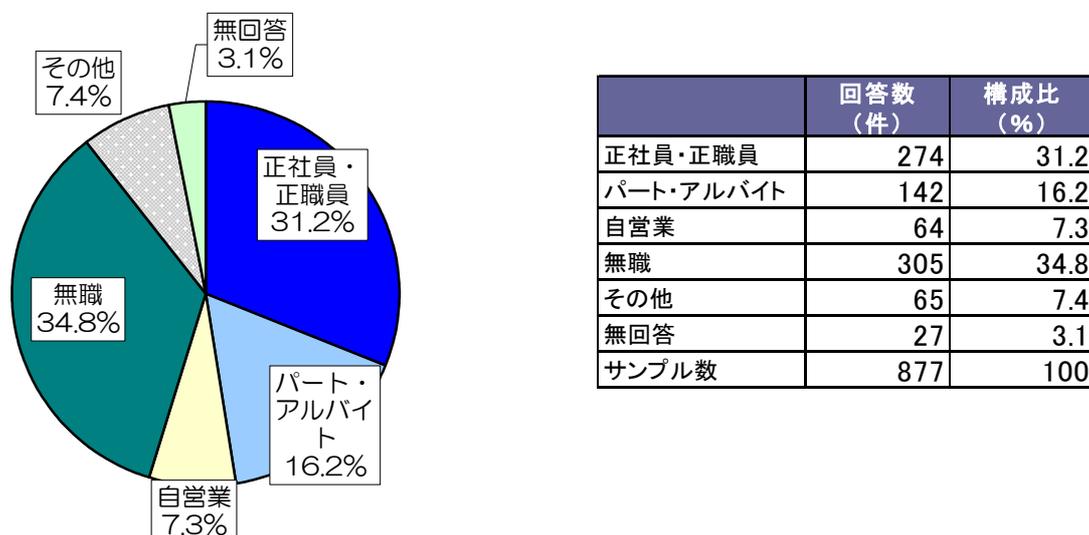
図表 3-5 同居する子どもの年代(n=445)



6) 職業

回答者の職業をみると、正社員・正職員が 31.2% (274 件)、パート・アルバイトが 16.2% (142 件)、自営業が 7.3% (64 件)、無職が 34.8% (305 件)、その他が 7.4% (65 件) であった。

図表 3-6 回答者の職業(n=877)



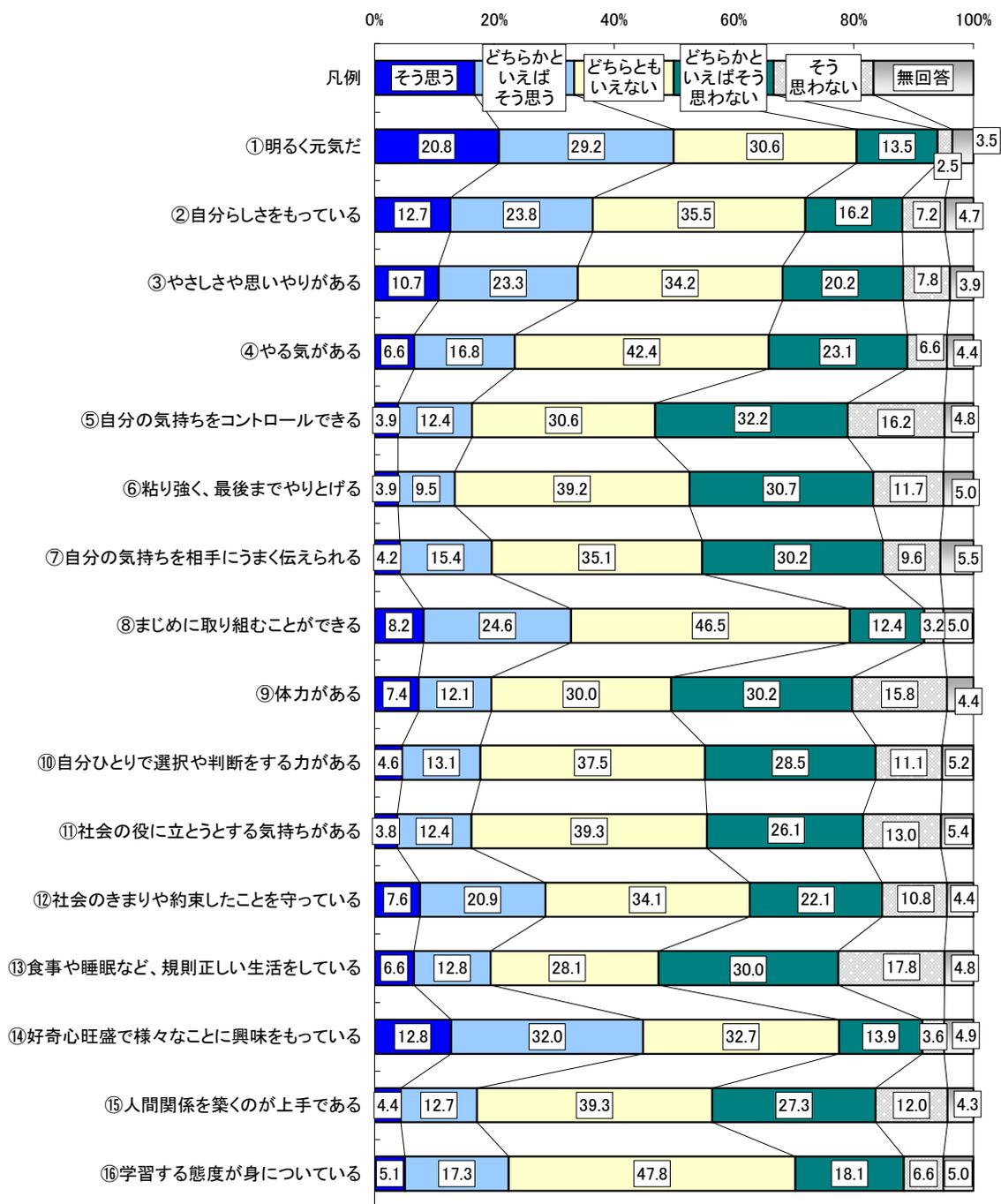
(2) 子どもの印象

問6 最近の子どもの印象について、どのように感じますか。次の項目についてお考えに近いと思うものを選んでください。

特に、子どもがいない一般市民の子どもに対する印象がよくない。

子どもの印象についてみると、「①明るく元気だ」を除き全ての項目で肯定的意見が半数を割っている。「①明るく元気だ」が50.0%、「⑭好奇心旺盛で様々なことに興味を持っている」が44.8%とかなり高い。全16項目中11項目について否定的意見が肯定的意見を上回っており、特に、「⑤自分の気持ちをコントロールできる」「⑬食事や睡眠など、規則正しい生活をしている」は否定的意見の割合が高く、肯定的意見を大きく上回っている。既出の保護者調査と比較すると、保護者は8項目で肯定的意見半数を超えていたことから、保護者の評価と比較すると、一般市民の子どもに対する評価は低い。

図表 3-7 子どもの印象(n=877)



高校生以下の子どもの有無別に子どもの印象についてみると、高校生以下の子どもがいる回答者の方が、高校生以下の子どもがいない回答者よりも圧倒的に肯定的意見が多く、その差は歴然としている。

高校生以下の子どもがいる回答者は保護者調査全体の回答と同様の傾向がみられる。このことから、身近に子どもがいる一般市民は自分の子どもをイメージして回答していることが推測される。

また、身近に子どもがいない場合、一般的なイメージをもって回答することが多いので、高校生以下の子どもがいない一般市民の子どもに対する印象が良くないということは、子どもに対する一般的なイメージが悪くなっていると考えられる。

図表 3-8 子どもの印象(子どもの有無別)

	高校生以下 の子どもが いない(n=619)	高校生以下 の子どもが いる(n=234)
①明るく元気だ	27.2	56.5
②自分らしさをもっている	3.5	39.4
③やさしさや思いやりがある	-3.8	31.5
④やる気がある	-13.1	10.6
⑤自分の気持ちをコントロールできる	-42.1	-7.7
⑥粘り強く、最後までやりとげる	-35.7	-14.2
⑦自分の気持ちを相手にうまく伝えられる	-24.0	-13.3
⑧まじめに取り組むことができる	9.8	37.6
⑨体力がある	-36.3	-2.6
⑩自分ひとりで選択や判断をする力がある	-27.3	-10.3
⑪社会の役に立とうとする気持ちがある	-26.9	-14.1
⑫社会のきまりや約束したことを守っている	-15.3	24.0
⑬食事や睡眠など、規則正しい生活をしている	-40.3	0.0
⑭好奇心旺盛で様々なことに興味をもっている	24.0	38.0
⑮人間関係を築くのが上手である	-31.0	-0.8
⑯学習する態度が身についている	-6.9	9.8

(「そう思う」+「どちらかといえばそう思う)-(「どちらかといえばそう思わない」+「そう思わない」)の数値

(3) これからの子どもについて

問7 あなたは、これからの子どもはどのように育まれてほしいですか。次の項目についてお考えに近いと思うものを選んでください。

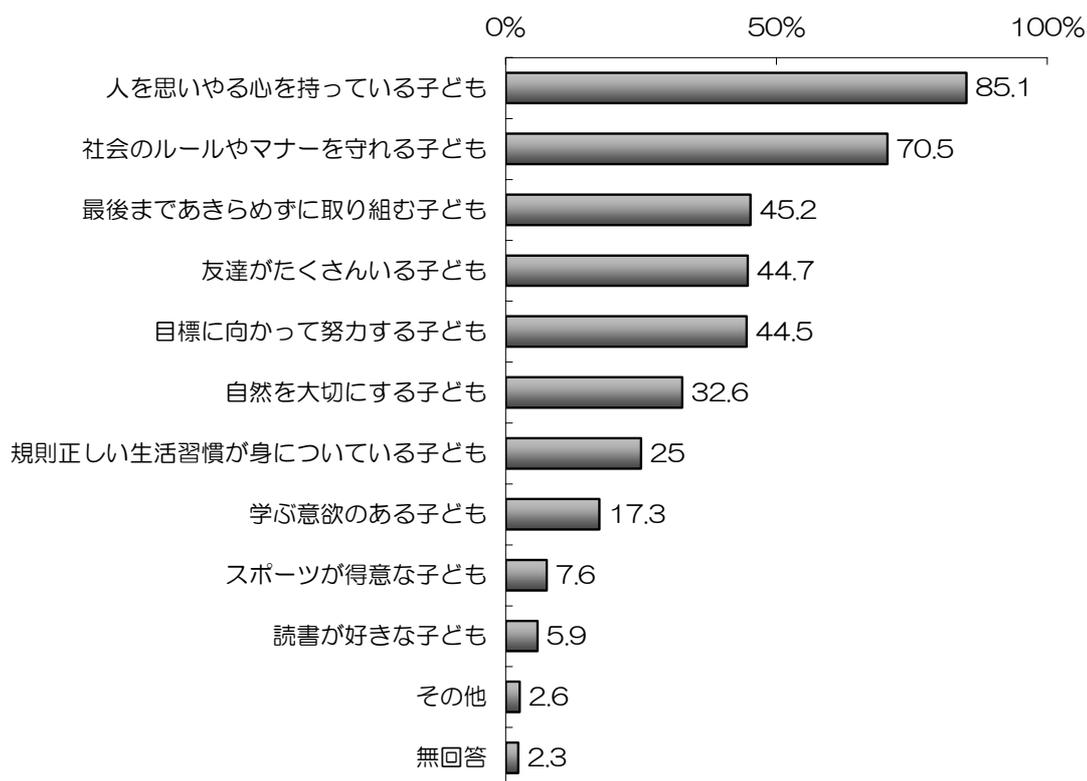
「人を思いやる心を持っている子ども」が85.1%で圧倒的に高い。

これからの子どもはどのように育まれてほしいかについてみると、「人を思いやる心を持っている子ども」が85.1%、次に「社会のルールやマナーを守れる子ども」が70.5%で、上位2項目が群を抜いて高かった。

一般市民は、学力や体力がある子どもよりも、まず人を思いやる心を持っていること、ルールやマナーを守れる子どもであることが大切だと考えているといえる。

これを高校生以下の子どもの有無別にみると、子どもの有無にかかわらず「人を思いやる心を持っている子ども」、「社会のルールやマナーを守れる子ども」が高くなっている。

図表 3-9 これからの子どもについて(n=877)



図表 3-10 これからの子どもについて(高校生以下の子どもの有無別)

	高校生以下 の子どもが いない(n=619)	高校生以下 の子どもが いる(n=234)
友達がたくさんいる子ども	43.8	50.0
目標に向かって努力する子ども	44.1	47.9
スポーツが得意な子ども	8.9	5.1
最後まであきらめずに取り組む子ども	44.3	50.4
学ぶ意欲のある子ども	17.9	16.7
人を思いやる心を持っている子ども	86.3	87.6
社会のルールやマナーを守れる子ども	72.1	70.9
規則正しい生活習慣が身についている子ども	25.7	25.2
読書が好きな子ども	6.0	6.0
自然を大切にしている子ども	35.2	27.4
その他	2.7	2.6
無回答	0.6	0.0

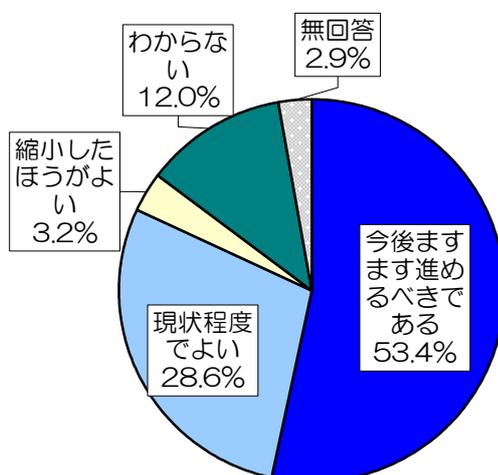
(4) 学校と地域のかかわりあいについて

問8 あなたは、学校行事や授業の中で、子どもが保護者やボランティアとともに学習したり活動したりすることについて、どのように思いますか。

学校と地域のかかわりあいは「今後ますます進めるべきである」が半数を超えている。

学校と地域のかかわりあいの意識についてみると、「今後ますます進めるべきである」が最も高く 53.4%だった。「現状程度でよい」は 28.6%、「縮小した方がよい」は 3.2%にとどまっております。積極的な意識を持っている一般市民が多い。

図表 3-11 学校と地域のかかわりあい(n=877)



(5) 地域の教育力

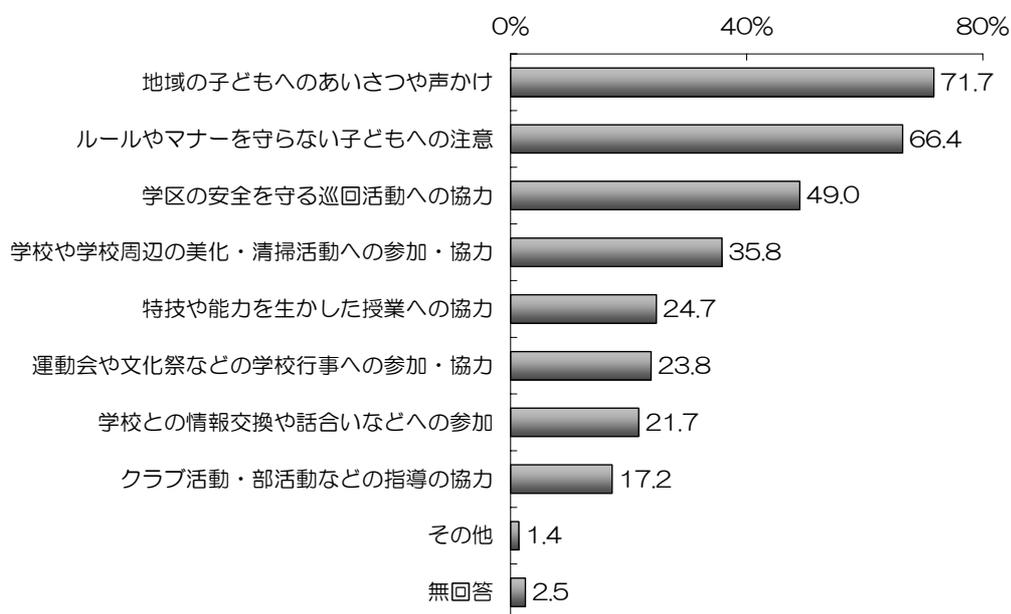
問9 現在、様々な教育問題に対して地域での教育力に期待する声があります。あなたは地域でできると思うものを、次の中から選んでください。

地域で協力できることは“あいさつや声かけ”、“子どもへの注意”が多数であった。

地域で協力できるものについてみると、「地域の子どもへのあいさつや声かけ」が最も高く71.7%、「ルールやマナーを守らない子どもへの注意」が66.4%だった。これは保護者調査でも同じ傾向がみられた。声かけや注意等は、すぐに対応できる、かつ時間や準備も必要としないため、手軽に協力できるという意識があるものと思われる。

これを男女それぞれの年齢別にみると、総じて「ルールやマナーを守らない子どもへの注意」、「地域の子どもへのあいさつや声かけ」に回答が集中している。特に女性ではすべての年代で「地域の子どもへのあいさつや声かけ」が高くなっている。男性では20歳代と70歳以上で「ルールやマナーを守らない子どもへの注意」が高い。しかし、個々の割合をみると、年代、性別によって差が見られる。また、その他の項目をみると、「巡回活動への協力」については60歳代男性、50歳代女性で高い。また、総じて他の性別年代と比較し、低い割合が多いのは男性40歳代であるが、この年代は働き盛りの年代であり、仕事の負担が多いためと考えられる。このように、一般市民はそれぞれおかれている状況や立場によって、参加できることや協力できることが異なるため、一概に地域の役割を限定せず、内容に応じて対応していく必要がある。

図表 3-12 地域の教育力(n=877)



図表 3-13 地域の教育力(男女・年齢別)

		ルールやマナーを守らない子どもへの注意	地域の子どもへのあいさつや声かけ	巡回活動への協力	学校行事への参加・協力	美化・清掃活動への参加・協力	特技や能力を生かした授業への協力	学校との情報交換や話し合いなどへの参加	クラブ活動・部活動などの指導の協力	その他	無回答
男性	20歳代(n=34)	64.7	41.2	29.4	14.7	14.7	23.5	17.6	23.5	0.0	2.9
	30歳代(n=54)	63.0	75.9	44.4	31.5	31.5	27.8	31.5	25.9	1.9	0.0
	40歳代(n=64)	57.8	62.5	45.3	20.3	18.8	14.1	18.8	17.2	1.6	3.1
	50歳代(n=67)	67.2	71.6	38.8	19.4	40.3	28.4	19.4	22.4	1.5	3.0
	60歳代(n=80)	66.3	73.8	53.8	18.8	38.8	21.3	16.3	15.0	1.3	2.5
	70歳以上(n=44)	88.6	59.1	45.5	31.8	29.5	20.5	18.2	20.5	0.0	4.5
	女性	20歳代(n=57)	63.2	73.7	63.2	33.3	49.1	31.6	22.8	21.1	3.5
30歳代(n=112)	57.1	74.1	50.0	28.6	35.7	21.4	23.2	10.7	0.9	3.6	
40歳代(n=93)	61.3	71.0	53.8	25.8	39.8	34.4	24.7	18.3	1.1	3.2	
50歳代(n=105)	74.3	79.0	59.0	18.1	35.2	20.0	23.8	11.4	1.0	1.0	
60歳代(n=108)	70.4	76.9	45.4	22.2	39.8	22.2	18.5	17.6	0.9	1.9	
70歳以上(n=38)	71.1	76.3	39.5	18.4	36.8	34.2	31.6	13.2	5.3	5.3	

(6) 安全確保のために取り組むべきこと

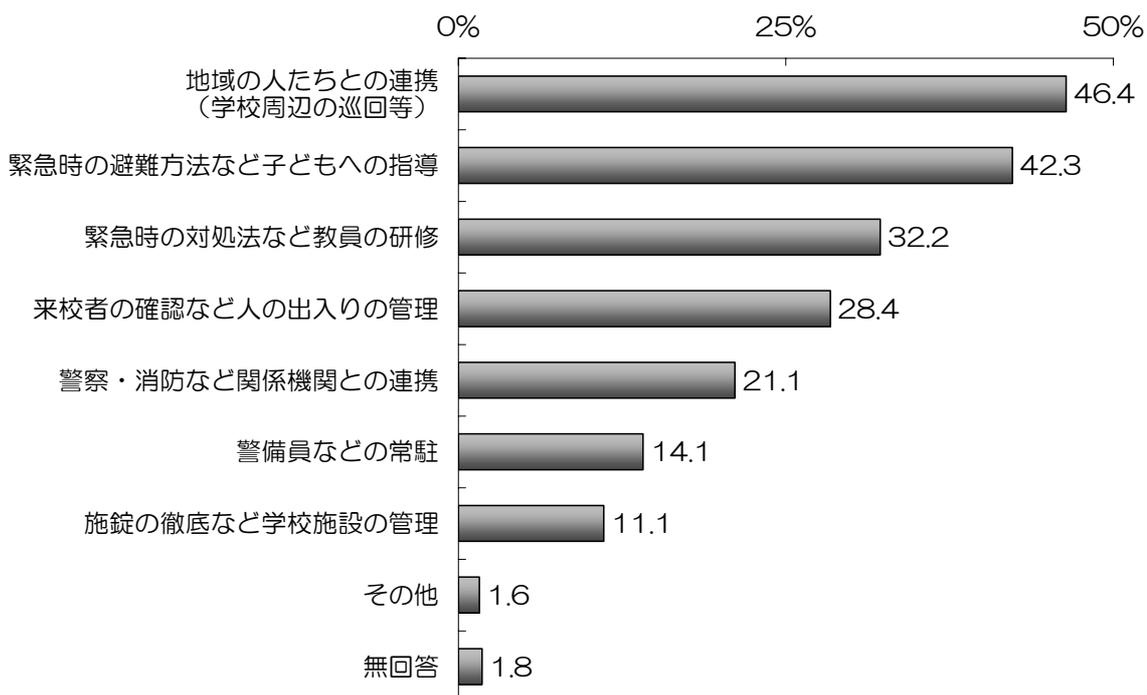
問10 最近、通学中の子どもが危険な目に遭うなど、子どもの安全が脅かされる事件が起きています。日頃から、校内の安全確保を図るため、学校が取り組むべきこととして何が重要だと思いますか。

安全確保のために「地域の人たちとの連携」に取り組むべきである。

安全確保のために取り組むべきことについてみると、「地域の人たちとの連携」が最も高く46.4%、次いで「緊急時の避難方法など子どもへの指導」が42.3%であった。この傾向は保護者調査とほぼ同様であり、やはり地域と連携して巡回等に取り組むことにより子どもの安全を守っていくことが必要だと考えているように思われる。

これを居住地区別にみると、稲毛区を除き、「地域の人たちとの連携」が最も高い。緑区と美浜区では「地域の人たちとの連携」と「緊急時の避難方法など子どもへの指導」が並んでいる。中央区と若葉区では「地域の人たちとの連携」と「緊急時の避難方法など子どもへの指導」の差が10ポイント以上あり、「地域の人たちとの連携」を重視する傾向がみられる。

図表 3-14 安全確保のために取り組むべきこと(n=877)



図表 3-15 安全確保のために取り組むべきこと(居住地区別)

	緊急時の対処法など教員の研修	緊急時の避難方法など子どもへの指導	施錠の徹底など学校施設の管理	来校者の確認など人の出入りの管理	地域の人たちとの連携(学校周辺の巡回など)	警察・消防など関係機関との連携	警備員などの常駐	その他	無回答
中央区 (n=168)	30.4	32.1	16.7	28.0	45.8	28.0	15.5	1.8	2.4
花見川区 (n=178)	33.7	43.8	10.7	27.5	48.9	17.4	15.7	2.2	2.8
稲毛区 (n=136)	33.1	48.5	7.4	25.7	40.4	23.5	13.2	0.7	0.7
若葉区 (n=130)	35.4	39.2	10.8	33.1	50.0	20.0	13.1	0.0	0.8
緑区 (n=115)	27.8	46.1	7.8	33.0	46.1	15.7	13.0	1.7	1.7
美浜区 (n=132)	32.6	47.7	9.1	23.5	47.7	22.0	12.1	3.0	1.5

(7) 望ましい教員像

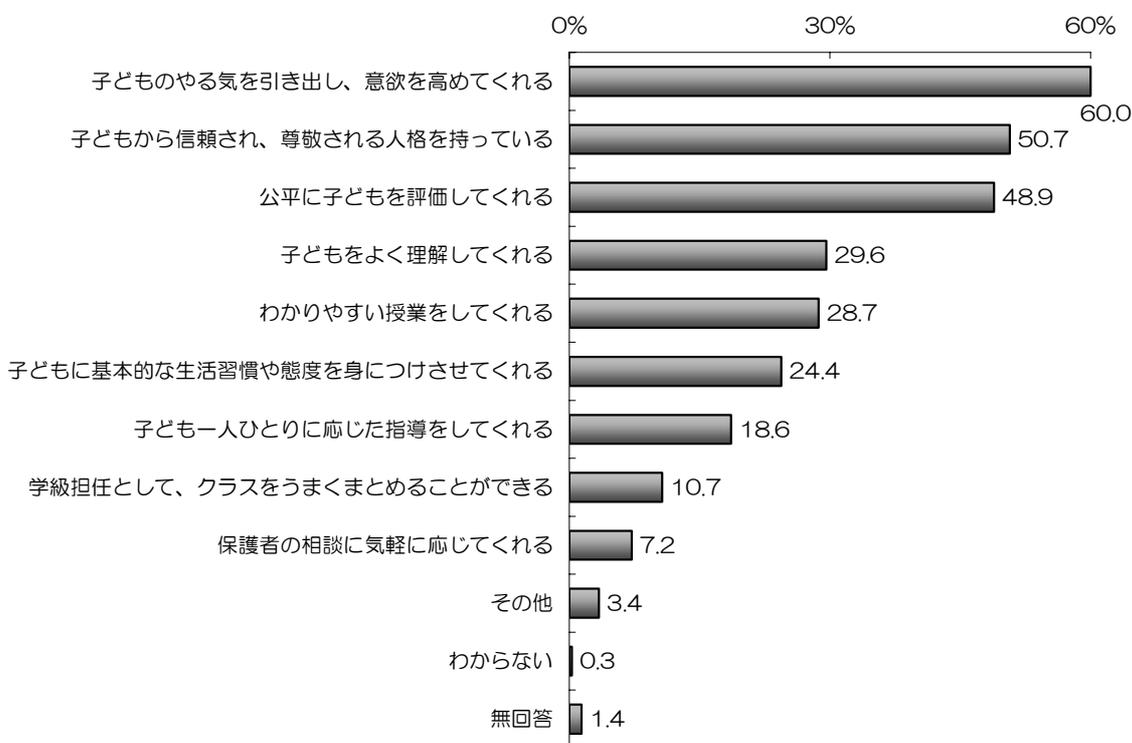
問 1 1 あなたはどのような教員が望ましいと考えますか。

「子どものやる気を引き出し、意欲を高めてくれる」教員が望ましい。

望ましい教員像についてみると、「子どものやる気を引き出し、意欲を高めてくれる」が最も高く 60.0%、次いで「子どもから信頼され、尊敬される人格を持っている」が 50.7%、「公平に子どもを評価してくれる」が 48.9%で続いた。これは保護者調査と同じ傾向にあり、児童・生徒調査で高かった「わかりやすい授業をしてくれる」は 28.7%と低かった。

これを高校生以下の子どもの有無別にみると、どちらも「子どものやる気を引き出し、意欲を高めてくれる」が最も高く、次いで「子どもから信頼され、尊敬される人格を持っている」という傾向がみられたことから、このことは一般市民全体の傾向であるといえる。

図表 3-16 望ましい教員像(n=877)



図表 3-17 望ましい教員像(高校生以下の子どもの有無別)

	わかりやすい授業をしてくれる	子どもに基本的な生活習慣や態度を身につけさせてくれる	子どもをよく理解してくれる	子どものやる気を引き出し、意欲を高めてくれる	学級担任として、クラスをうまくまとめることができる	子ども一人ひとりに応じた指導をしてくれる	保護者の相談に気軽に応じてくれる	子どもから信頼され、尊敬される人格を持っている	公平に子どもを評価してくれる	その他	わからない	無回答
高校生以下の子どもがいない(n=619)	28.4	26.2	27.0	57.8	9.9	18.4	8.1	51.4	51.2	3.1	0.5	1.0
高校生以下の子どもがいる(n=234)	29.1	17.5	35.9	65.0	13.7	20.1	4.7	49.6	43.6	4.3	0.0	2.1

(8) 教員の資質の向上を図るために

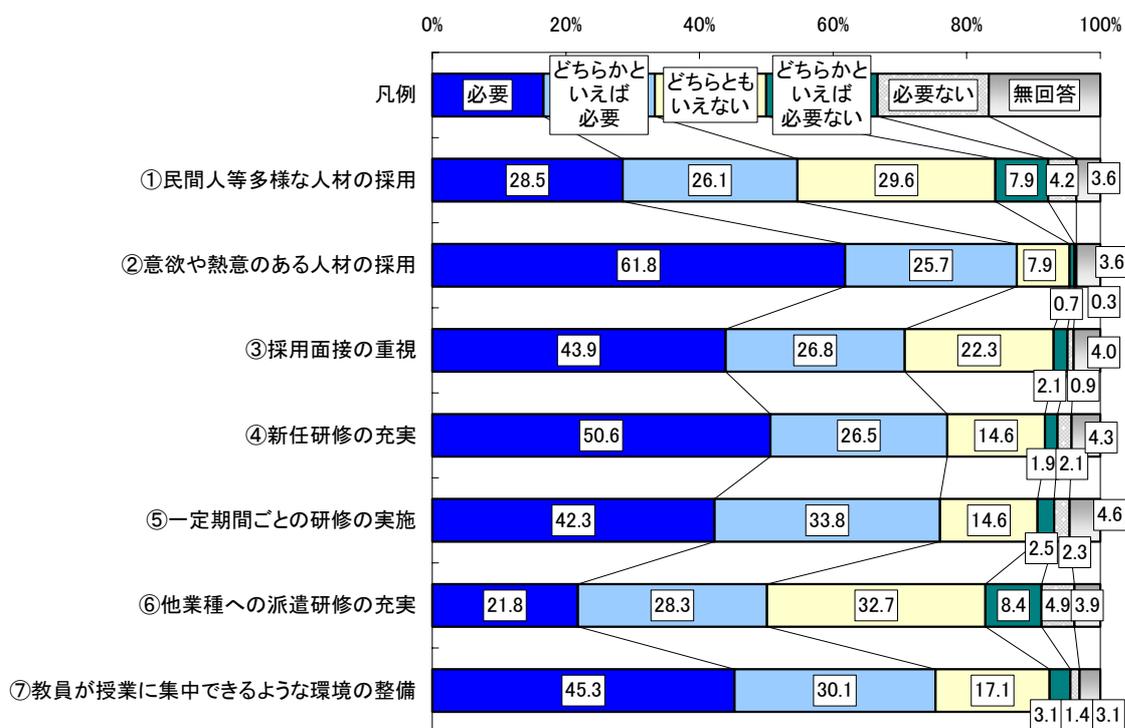
問 1 2 あなたは、教員の資質の向上を図るためにどのようなことが必要だと考えますか。

教員の資質の向上を図るためには「意欲や熱意のある人材の採用」が必要である。

教員の資質の向上を図るために必要だと思うことについてみると、「②意欲や熱意のある人材の採用」を肯定する傾向が最も強く、87.5%に上った。「④新任研修の充実」、「⑤一定期間ごとの研修の実施」等教員に対する定期的な研修については肯定的な傾向が強いが、他業種への派遣や民間人等の採用には、さほど積極的ではない。また「⑦教員が授業に集中できるような環境の整備」については75.4%が肯定している。

これを居住地区別にみると、若葉区の割合が「①民間人等多様な人材の採用」以外では高い傾向がある。反対に美浜区では「①民間人等多様な人材の採用」が高い傾向にあり、居住地区による意識の差がみられた。

図表 3-18 教員の資質の向上をはかるために(n=877)



図表 3-19 教員の資質の向上をはかるために(居住地区別)

	①民間人等多様な人材の採用	②意欲や熱意のある人材の採用	③採用面接の重視	④新任研修の充実	⑤一定期間ごとの研修の実施	⑥他業種への派遣研修の充実	⑦教員が授業に集中できるような環境の整備
中央区 (n=168)	51.8	89.8	70.2	78.0	75.0	49.4	75.0
花見川区 (n=178)	51.7	83.7	69.1	70.2	70.8	46.7	76.4
稲毛区 (n=136)	56.6	84.5	66.9	77.2	77.2	46.3	77.2
若葉区 (n=130)	47.6	92.3	79.2	81.5	77.7	47.6	77.7
緑区 (n=115)	57.4	85.2	67.0	73.9	77.4	53.9	74.0
美浜区 (n=132)	64.4	89.4	72.0	81.9	79.5	56.8	71.9

「必要」と「どちらかといえば必要」の合計値

(9) 千葉市の教育施策の認知度

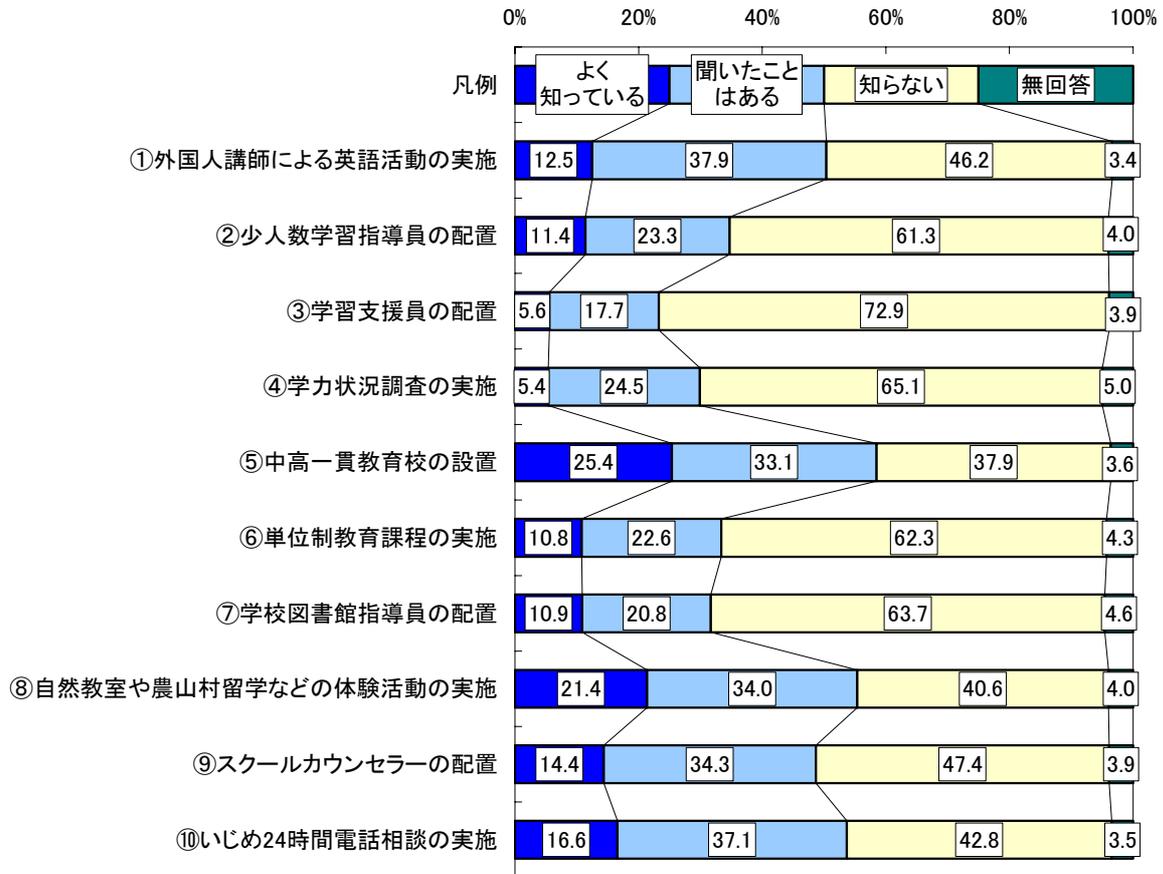
問 13 あなたは、現在千葉市が取り組んでいる、教育に関する施策についてご存知ですか。

教育施策の認知度は低い。

千葉市の教育施策に対する認知度についてみると、“認知度”（「よく知っている」と「聞いたことはある」の合計）が5割を超えているのは、「①外国人講師による英語活動の実施」、「⑤中高一貫教育校の設置」、「⑧自然教室や農山村留学などの体験活動の実施」、「⑩いじめ 24 時間電話相談の実施」の4つにとどまった。保護者調査の同設問と比較すると、極めて認知度が低い。

これを高校生以下の子どもの有無別にみると、子どもがいない一般市民は「知らない」の割合が総じて高く、認知度が低い。しかし、「④学力状況調査の実施」や「⑨スクールカウンセラーの設置」等、子どもの有無で“認知度”に差がないものもあり、子どもがいる一般市民からも知られていない施策があることが浮き彫りとなった。

図表 3-20 千葉市の教育施策の認知度(n=877)



図表 3-21 千葉市の教育施策の認知度(高校生以下の子どもの有無別)

	①外国人講師による英語活動の実施	②少人数学習指導員の配置	③学習支援員の配置	④学力状況調査の実施	⑤中高一貫教育校の設置	⑥単位制教育課程の実施	⑦学校図書館指導員の配置	⑧自然教室や農山村留学などの体験活動の実施	⑨スクールカウンセラーの配置	⑩いじめ24時間電話相談の実施
高校生以下の子どもがいない(n=619)	51.1	66.7	75.6	66.6	43.8	66.4	69.6	45.9	47.8	45.6
高校生以下の子どもがいる(n=234)	34.2	47.9	67.1	62.0	22.2	51.7	49.6	28.6	46.6	35.9

「知らない」の割合

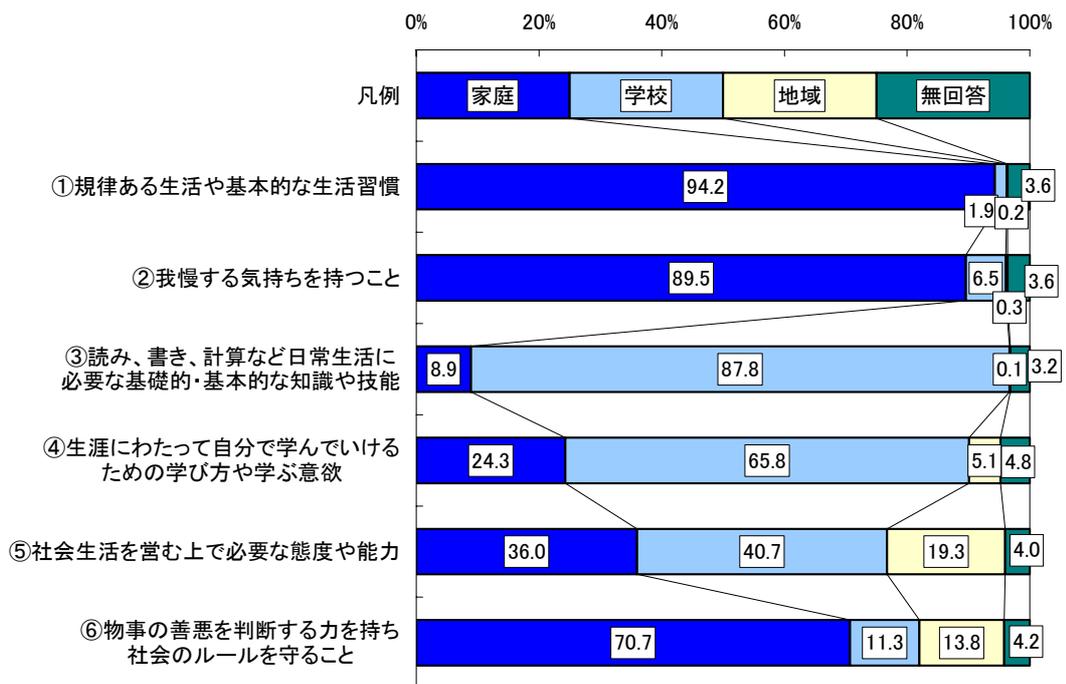
(10) 役割分担について

問 1 4 あなたは、次のことを子どもに身につけさせたり育んだりするのは、主に誰の役割だと思いますか。

「家庭」の役割は「規律ある生活や基本的な生活習慣」、「我慢する気持ちをもつこと」である。

学校、家庭、地域の役割分担についてみると、「①規律ある生活や基本的な生活習慣」、「②我慢する気持ちを持つこと」、「⑥物事の善悪を判断する力を持ち社会のルールを守ること」については「家庭」の役割と考えている割合が高い。「③読み、書き、計算など日常生活に必要な基礎的・基本的な知識や技能」、「④生涯にわたって自分で学んでいけるための学び方や学ぶ意欲」については「学校」の役割が高い。一方、「⑤社会生活を営む上で必要な態度や能力」については「学校」の役割とするのが 40.7%、「家庭」の役割とするのが 36.0%と意見が分かれた。保護者調査と同様、「地域」の役割とする項目は少なく、最も高いもので「⑤社会生活を営む上で必要な態度や能力」の 19.3%だった。

図表 3-22 役割分担について(n=877)



これを高校生以下の子どもの有無別にみると、総じて大きな差異は見られないが、「⑤人と仲良く付き合えるなど、社会生活を営む上で必要な態度や能力」については、子どもがいない者は「家庭」の役割とする割合と、「学校」の役割とする割合がほぼ同程度だが、子どもがいる者は「学校」の役割とする割合が高い。

このことから、役割分担を明確化していくうえで、家庭と学校の役割をどう定義するのか、十分に検討していくことが望まれる。

図表 3-23 役割分担について(高校生以下の子どもの有無別)

	高校生以下の子どもがいない (n=619)			高校生以下の子どもがいる (n=234)		
	家庭	学校	地域	家庭	学校	地域
①規律ある生活や基本的な生活習慣	93.9	2.4	0.3	97.9	0.4	0.0
②我慢する気持ちを持つこと	89.7	6.6	0.5	91.9	6.0	0.0
③読み、書き、計算など日常生活に必要な基礎的・基本的な知識や技能	8.1	88.9	0.2	11.1	87.6	0.0
④生涯にわたって自分で学んでいけるための学び方や学ぶ意欲	24.6	64.8	5.8	23.9	70.5	3.4
⑤人と仲良く付き合えるなど、社会生活を営む上で必要な態度や能力	37.3	38.8	20.2	32.9	48.3	16.7
⑥物事の善悪を判断する力を持ち、社会のルールを守ること	70.6	11.5	14.1	72.6	11.5	13.2

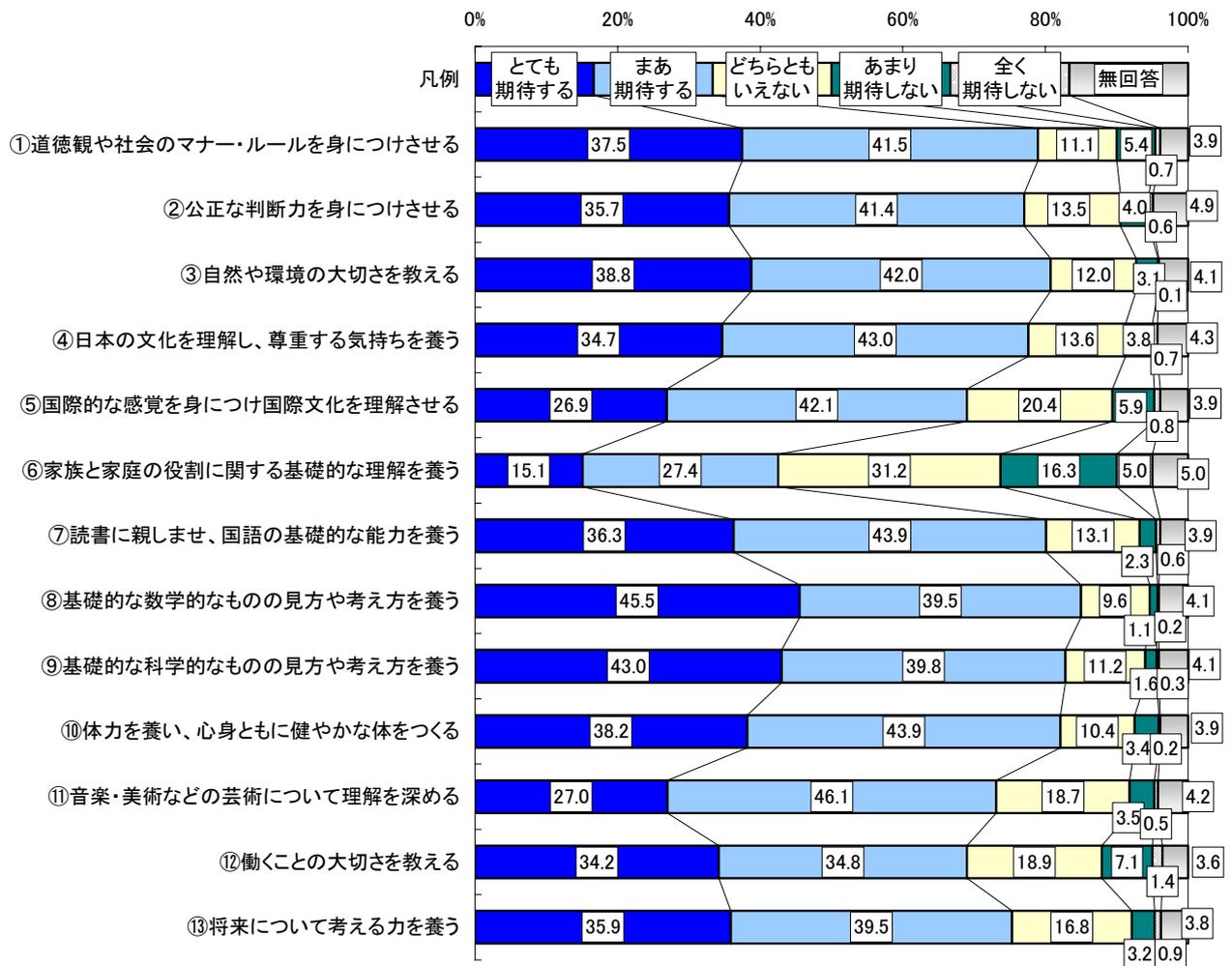
(11) 学校に期待する取り組み

問 15 あなたは、学校にどのような取り組みを期待しますか。

期待する取り組みは多岐に渡っている。

学校に期待する取り組みについてみると、「⑥家族と家庭の役割に関する基礎的な理解を養う」以外については、総じて肯定的な意識が強い。どの項目についても学校に期待している傾向が強く、この傾向は保護者調査でも同様であった。

図表 3-24 学校に期待する取り組み(n=877)



(12) 学校のあり方や役割について考えていくべきこと

問 1 6 あなたは、これからの学校のあり方や役割、教育活動の展開について、どのようなことを考えていく必要があると思いますか。

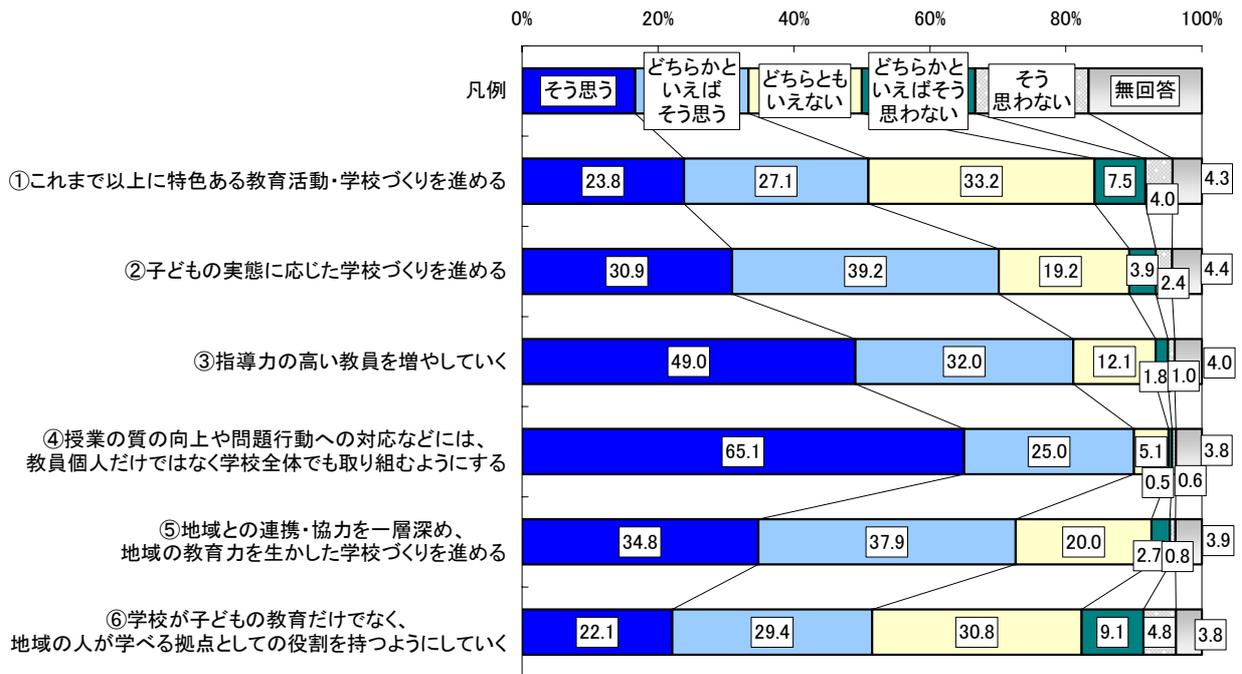
「授業の質の向上や問題行動への対応などには学校全体で取り組む」が必要である。

これからの学校のあり方や役割について考えていくべきことについてみると、「④授業の質の向上や問題行動への対応などには、教員個人だけでなく学校全体でも取り組むようにする」を肯定する傾向が最も強く、9割を超えている。

次に「③指導力の高い教員を増やしていく」、「⑤地域との連携・協力を一層深め、地域の教育力を生かした学校づくりを進める」が高かった。地域との連携について考える必要があるという認識を一般市民が持っていることが明らかとなった。

「①これまで以上に特色ある教育活動・学校づくりを進める」、「⑥学校が子どもの教育だけでなく、地域の人々が学べる拠点としての役割を持つようにしていく」については、他の項目と比較すると肯定する傾向は弱かった。

図表 3-25 学校のあり方や役割について考えていくべきこと(n=877)



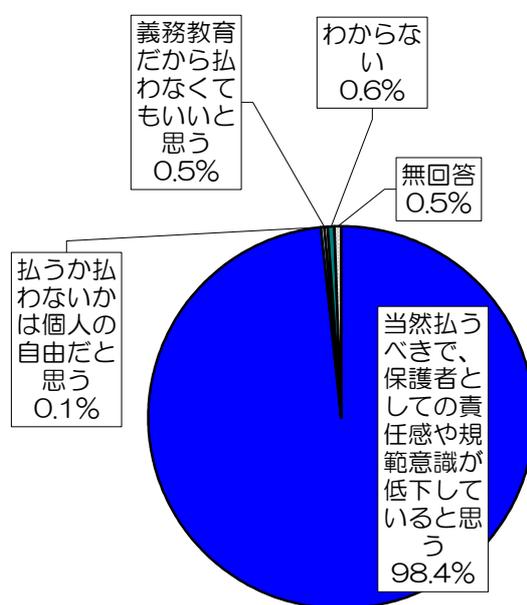
(13) 給食費未納の問題について

問 17 最近、経済的に余裕がありながら学校給食費を払わない保護者のことが、社会的な問題となっています。あなたはこのことについてどう感じますか。

「当然払うべき」が圧倒的に高く、98.4%であった。

給食費未納の問題についてみると、「当然払うべき」が圧倒的に高く 98.4%を占めた。自由意見でも給食費未納の問題について触れている一般市民もおり、早急な対策を求める声がみられた。

図表 3-26 給食費未納の問題について(n=877)



(14) 保護者の問題について

問 18 一部の保護者が、学校や教員に対し、自分の子どもに関する「無理難題な要求」をすることが、社会的な問題となっています。あなたはこのことについてどう感じますか。

「無理難題な要求をすべきではない」が9割を超えている。

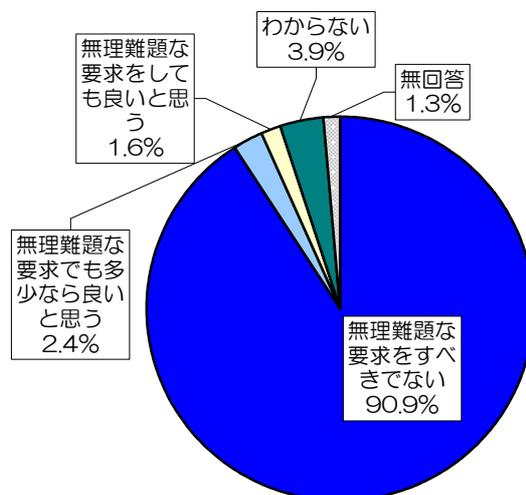
保護者の問題についてみると、「無理難題な要求をすべきではない」が90.9%で圧倒的に高かったが、「無理難題な要求でも多少なら良いと思う」が2.4%、「無理難題な要求をしても良いと思う」が1.6%とわずかながらみられた。

自由意見の中には「要求をする保護者自身が、無理難題な要求とっていないことが問題なのでは」といった意見もみられ、保護者自身の認識の問題であるとの指摘があった。

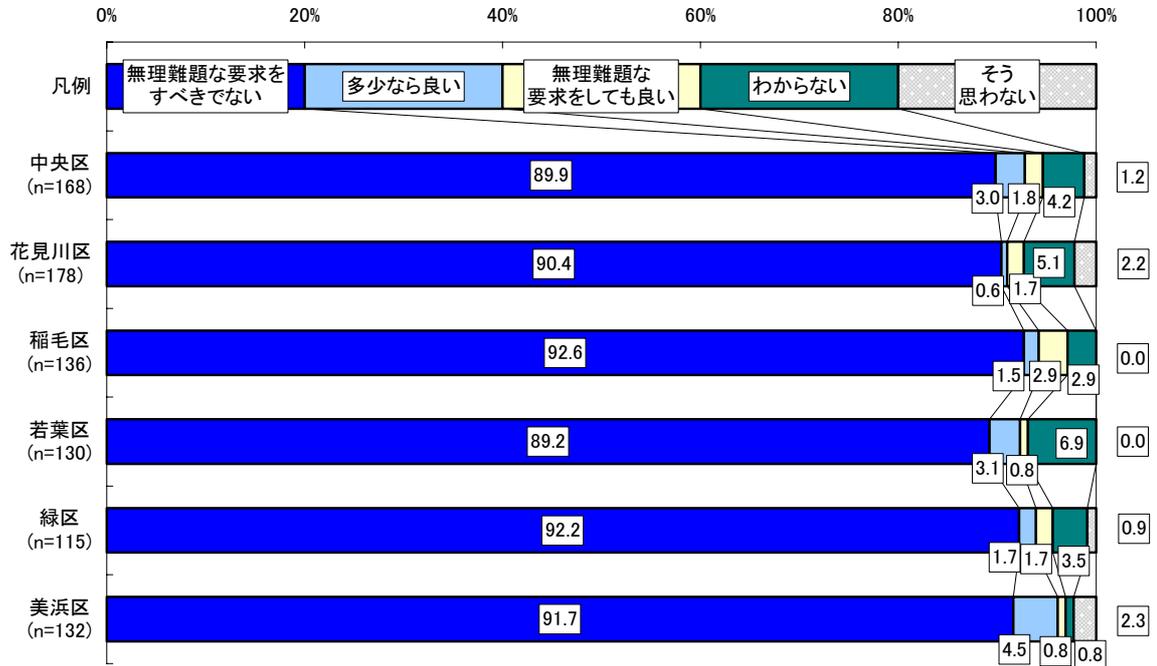
これを居住地区別にみると、総じて「無理難題な要求をすべきでない」が高いが、美浜区で「無理難題な要求でも多少なら良いと思う」が4.5%と高くなっている。また若葉区では「わからない」が6.9%となっている。

年齢別にみると、70歳以上で「無理難題な要求をすべきでない」が86.9%で最も低く、「無理難題な要求をしても良い」が6.0%と最も高い。それ以外の年代は大きな差異はみられない。

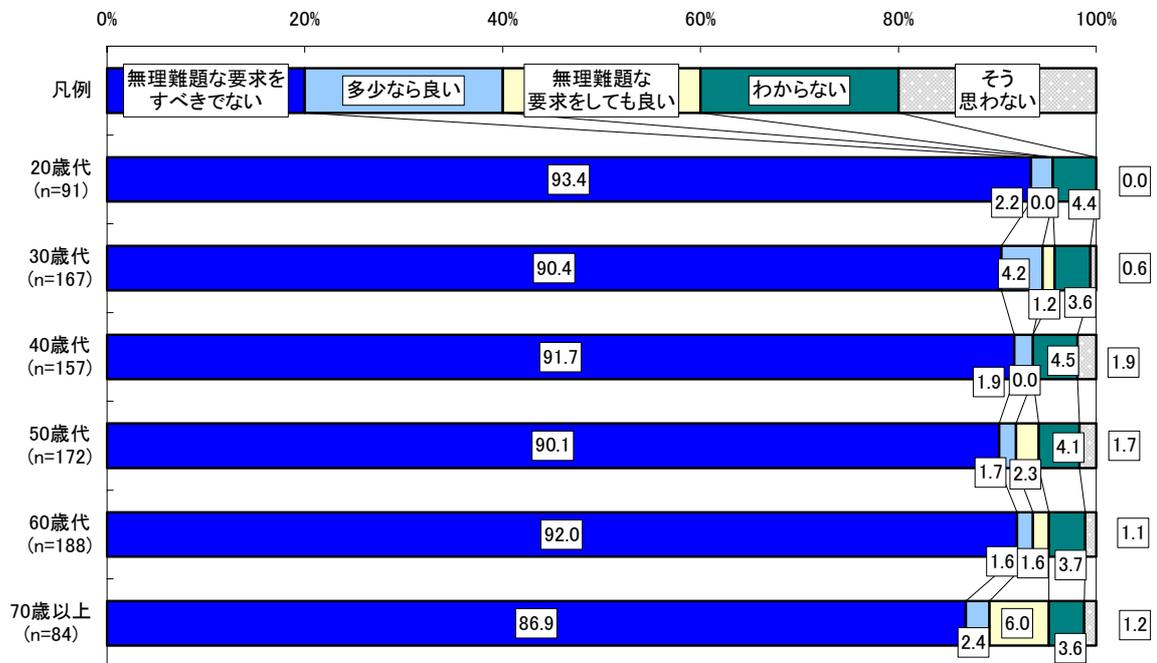
図表 3-27 保護者の問題について(n=877)



図表 3-28 保護者の問題について(居住地区別)



図表 3-29 保護者の問題について(年齢別)



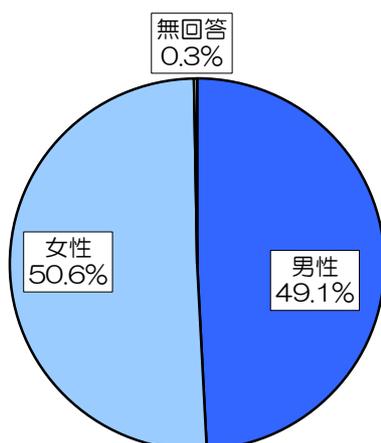
4. 教員調査

(1) 回答者の属性

1) 性別

回答者の性別をみると、男性が 49.1%（170 件）、女性が 50.6%（175 件）であった。

図表 4-1 回答者の性別(n=346)

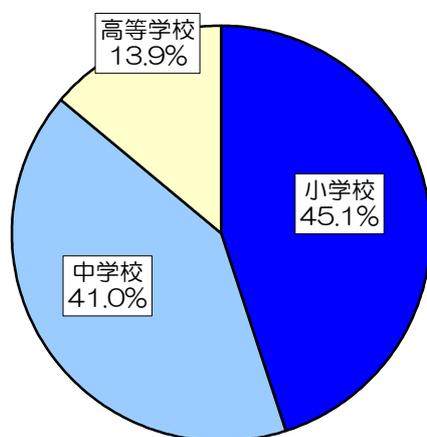


	回答数 (件)	構成比 (%)
男性	170	49.1
女性	175	50.6
無回答	1	0.3
サンプル数	346	100

2) 学校種別

回答者の学校種別をみると、小学校が 45.1%（156 件）、中学校が 41.0%（142 件）、高等学校が 13.9%（48 件）であった。

図表 4-2 回答者の勤務する学校種別(n=346)

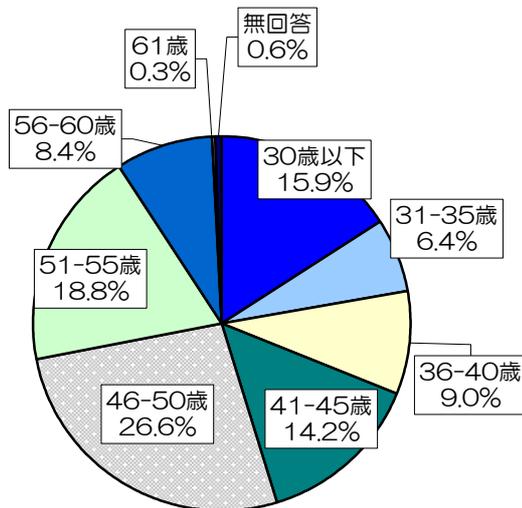


	回答数 (件)	構成比 (%)
小学校	156	45.1
中学校	142	41.0
高等学校	48	13.9
無回答	0	0.0
サンプル数	346	100.0

3) 年齢

回答者の年齢をみると、30歳以下が15.9%（55件）、31～35歳が6.4%（22件）、36～40歳が9.0%（31件）、41～45歳が14.2%（49件）、46～50歳が26.6%（92件）、51～55歳が18.8%（65件）、56～60歳が8.4%（29件）、61歳以上が0.3%（1件）であった。

図表 4-3 回答者の年齢(n=346)

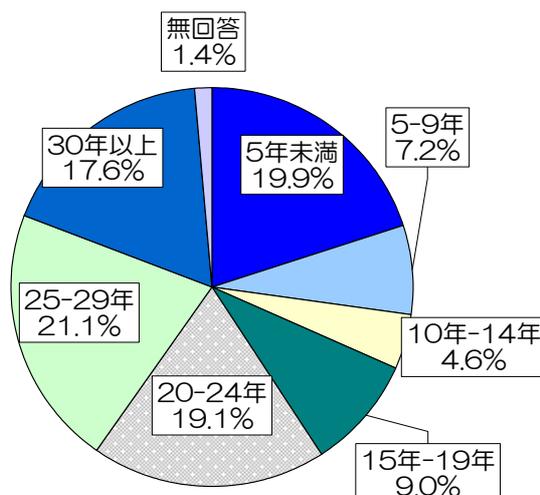


	回答数 (件)	構成比 (%)
30歳以下	55	15.9
31-35歳	22	6.4
36-40歳	31	9.0
41-45歳	49	14.2
46-50歳	92	26.6
51-55歳	65	18.8
56-60歳	29	8.4
61歳以上	1	0.3
無回答	2	0.6
サンプル数	346	100

4) 在職年数

回答者の在職年数をみると、5年未満が19.9%（69件）、5～9年が7.2%（25件）、10～14年が4.6%（16件）、15～19年9.0%（31件）、20～24年が19.1%（66件）、25～29年が21.1%（73件）、30年以上が17.6%（61件）であった。

図表 4-4 回答者の在職年数(n=346)



	回答数 (件)	構成比 (%)
5年未満	69	19.9
5年-9年	25	7.2
10年-14年	16	4.6
15年-19年	31	9.0
20年-24年	66	19.1
25年-29年	73	21.1
30年以上	61	17.6
無回答	5	1.4
サンプル数	346	100

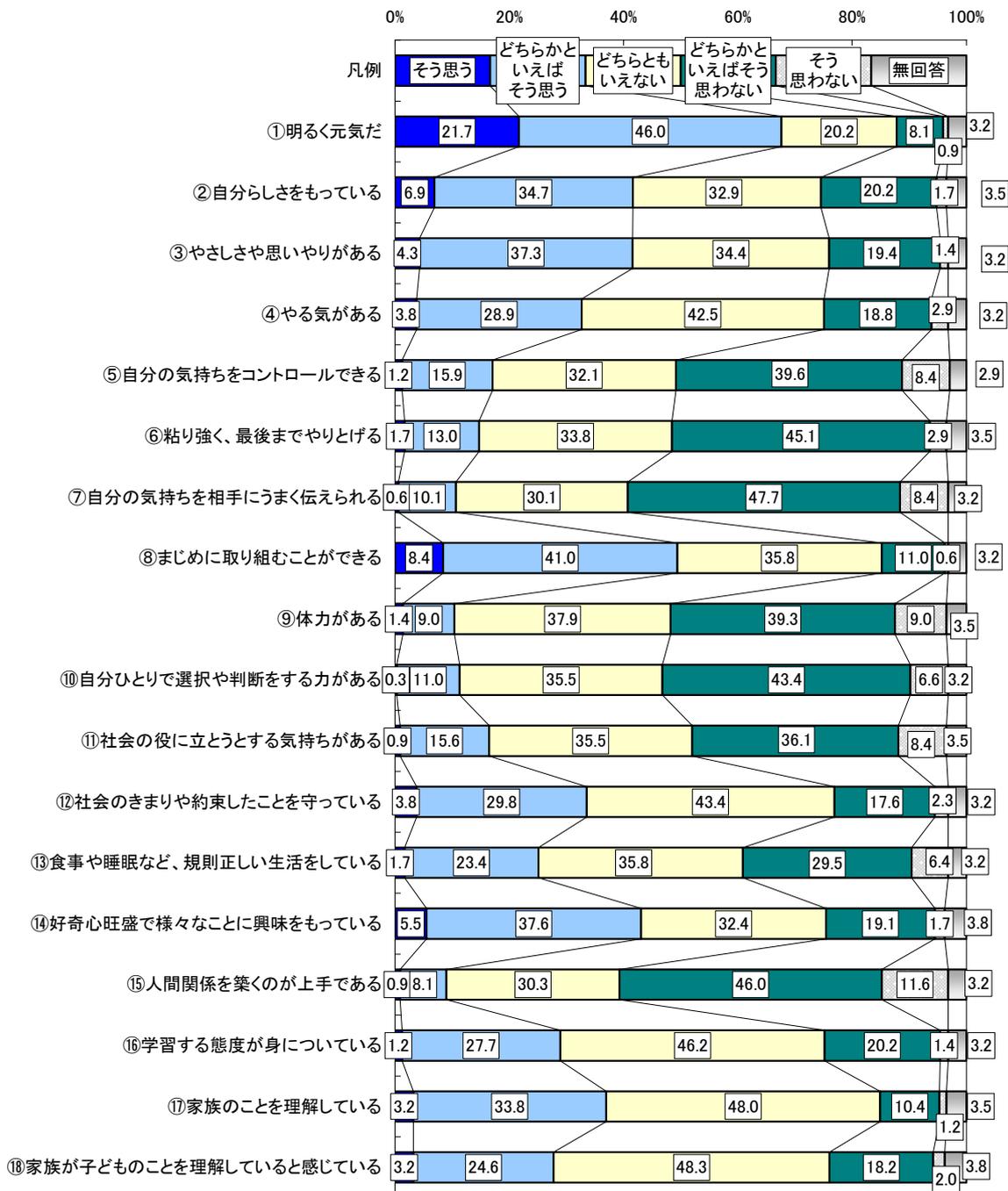
(2) 子どもの印象

問5 最近の子どもの印象について、どのように感じますか。

教員の子どもに対する評価は総じて低い。

子どもの印象についてみると、肯定的意見が半数を超えているのは「①明るく元気だ」の1項目だけだった。8項目で否定的意見が肯定的意見を上回っており、その中でも「⑮人間関係を築くのが上手である」、「⑩自分ひとりで選択や判断をする力がある」、「⑨体力がある」は極めて否定的である。

図表 4-5 子どもの印象(n=346)



これを学校種別にみると、総じて高等学校で肯定の傾向が強く、中学校が最も肯定的意見が少ない。年齢を重ねることによって身につく能力についての項目（「⑩自分ひとりで選択や判断をする力がある」、「⑪社会の役に立とうとする気持ちがある」など）については高校生が高く、「①明るく元気だ」、「⑭好奇心旺盛で様々なことに興味をもっている」等については、小学生が高い傾向がみられた。

図表 4-6 子どもの印象(学校種別)

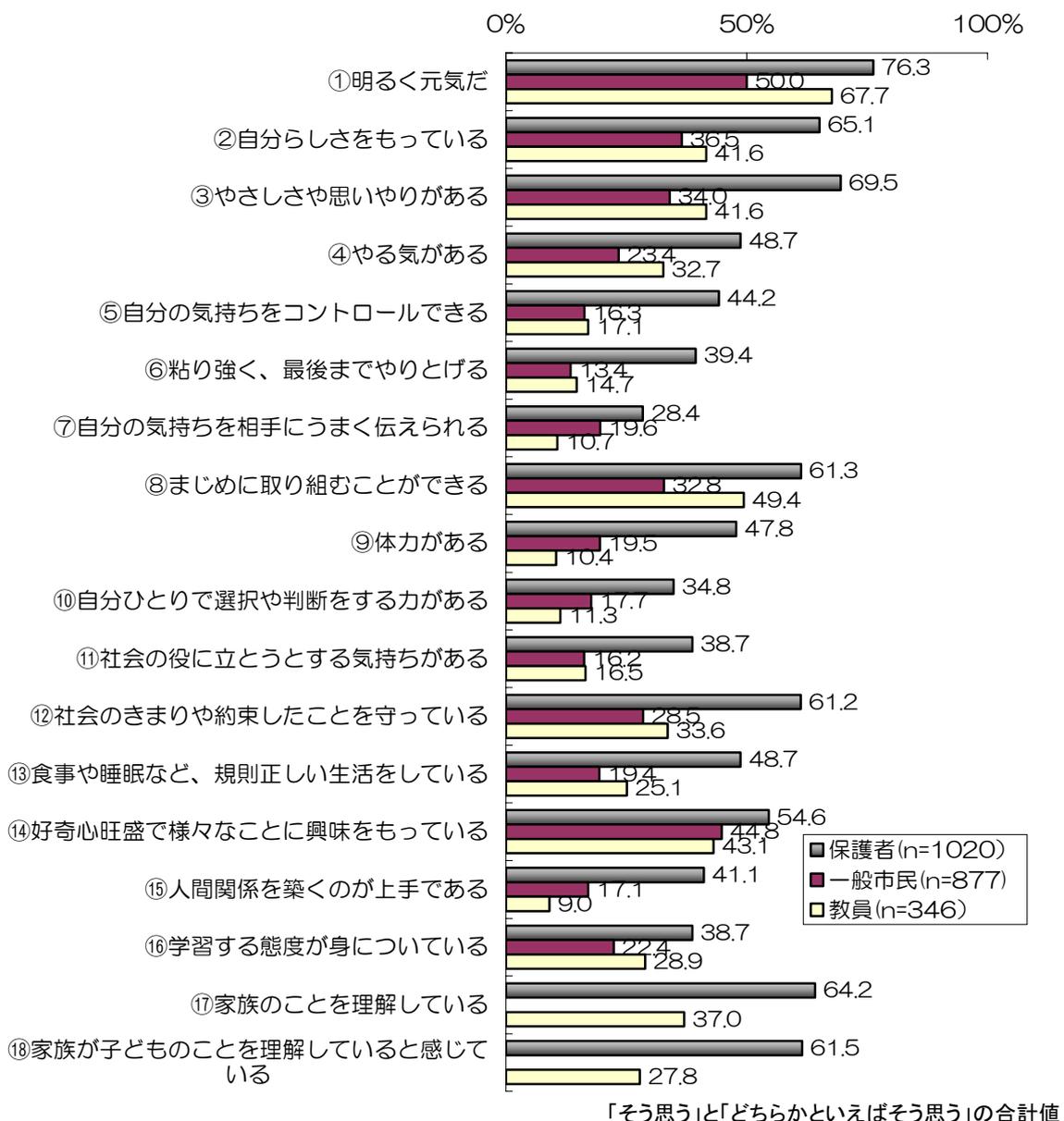
	小学校 (n=156)	中学校 (n=142)	高等学校 (n=48)
①明るく元気だ	78.2	60.6	54.2
②自分らしさをもっている	48.1	34.5	41.6
③やさしさや思いやりがある	43.6	37.3	47.9
④やる気がある	36.5	28.2	33.4
⑤自分の気持ちをコントロールできる	17.9	14.8	20.8
⑥粘り強く、最後までやりとげる	14.8	12.7	20.9
⑦自分の気持ちを相手にうまく伝えられる	10.2	9.9	14.6
⑧まじめに取り組むことができる	51.9	47.8	45.9
⑨体力がある	9.6	10.6	12.5
⑩自分ひとりで選択や判断をする力がある	7.7	11.3	22.9
⑪社会の役に立とうとする気持ちがある	14.7	14.8	27.1
⑫社会のきまりや約束したことを守っている	37.2	33.1	22.9
⑬食事や睡眠など、規則正しい生活をしている	28.2	19.7	31.3
⑭好奇心旺盛で様々なことに興味をもっている	51.2	37.3	33.4
⑮人間関係を築くのが上手である	9.0	6.3	16.7
⑯学習する態度が身についている	26.3	32.4	27.1
⑰家族のことを理解している	39.1	35.9	33.3
⑱家族が子どものことを理解していると感じている	27.5	26.0	33.3

「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計値

【子どもの印象：調査間比較】

子どもの印象について、保護者調査、一般市民調査及び教員調査を比較すると、総じて保護者では肯定的意識が高く、一般市民及び教員は低いという傾向が明らかとなった。一般市民及び教員はあまり子どもを肯定的にみておらず、保護者の意識との間に差があることが浮き彫りになった。

図表 4-7 子どもの印象・調査間比較



(3) 子どもへの対応

問6 あなたは、ご自身で子どもに対してどのような対応をしていると感じていますか。

「子どもの話によく耳を傾けている」「わかりやすく教えている」は7割以上が肯定的である。

子どもへの対応についてみると、「⑤子どもの話によく耳を傾けている」が73.4%、「①わかりやすく教えている」が71.6%で肯定的な傾向が強かった。

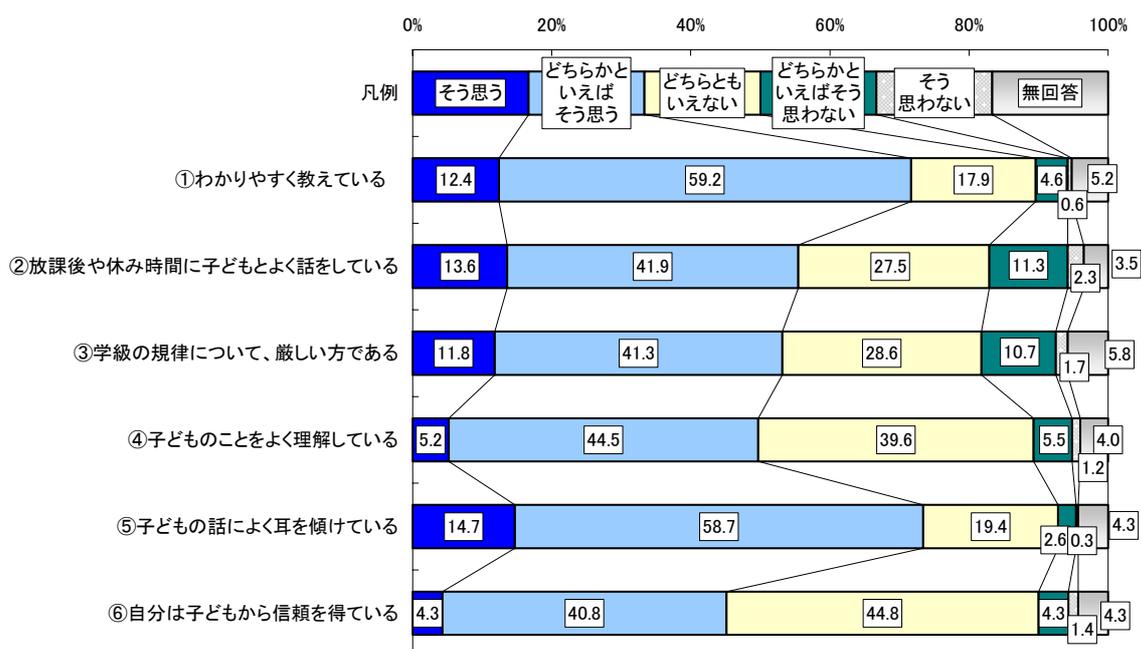
最も肯定的な意識が低かったのは「⑥子どもから信頼を得ている」で45.1%だった。

これを在職年数別にみると、10年未満で「①わかりやすく教えている」が目立って低く、「③学級の規律について厳しい方である」も半数を割る等、低くなっている。

「⑥自分は子どもから信頼を得ている」が最も低かったのは、10年以上20年未満で40.4%だったが、それ以外は総じて肯定的意見が高い傾向があった。

学校種別にみると、「①わかりやすく教えている」を肯定する傾向が最も強かったのは、中学校で76.1%、それ以外の項目では小学校で肯定的意見が最も多かった。中学校では「⑥自分は子どもから信頼を得ている」は40.1%と低かった。

図表 4-8 子どもへの対応(n=346)



図表 4-9 子どもへの対応(在職年数別)

	10年未満 (n=94)	10年以上 20年未満 (n=47)	20年以上 30年未満 (n=139)	30年以上 (n=61)
①わかりやすく教えている	58.5	80.8	78.4	73.8
②放課後や休み時間に子どもとよく話をしている	67.0	61.7	49.6	45.9
③学級の規律について、厳しい方である	47.9	61.7	56.9	49.1
④子どものことをよく理解している	51.1	57.5	43.9	57.4
⑤子どもの話によく耳を傾けている	76.6	72.3	71.3	73.8
⑥自分は子どもから信頼を得ている	44.7	40.4	46.7	47.6

「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計値

図表 4-10 子どもへの対応(学校種別)

	小学校 (n=156)	中学校 (n=142)	高等学校 (n=48)
①わかりやすく教えている	67.9	76.1	70.9
②放課後や休み時間に子どもとよく話をしている	61.6	54.2	39.6
③学級の規律について、厳しい方である	58.9	51.5	39.6
④子どものことをよく理解している	59.7	45.0	31.3
⑤子どもの話によく耳を傾けている	80.8	67.6	66.6
⑥自分は子どもから信頼を得ている	50.7	40.1	41.6

「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計値

(4) これからの子どもについて

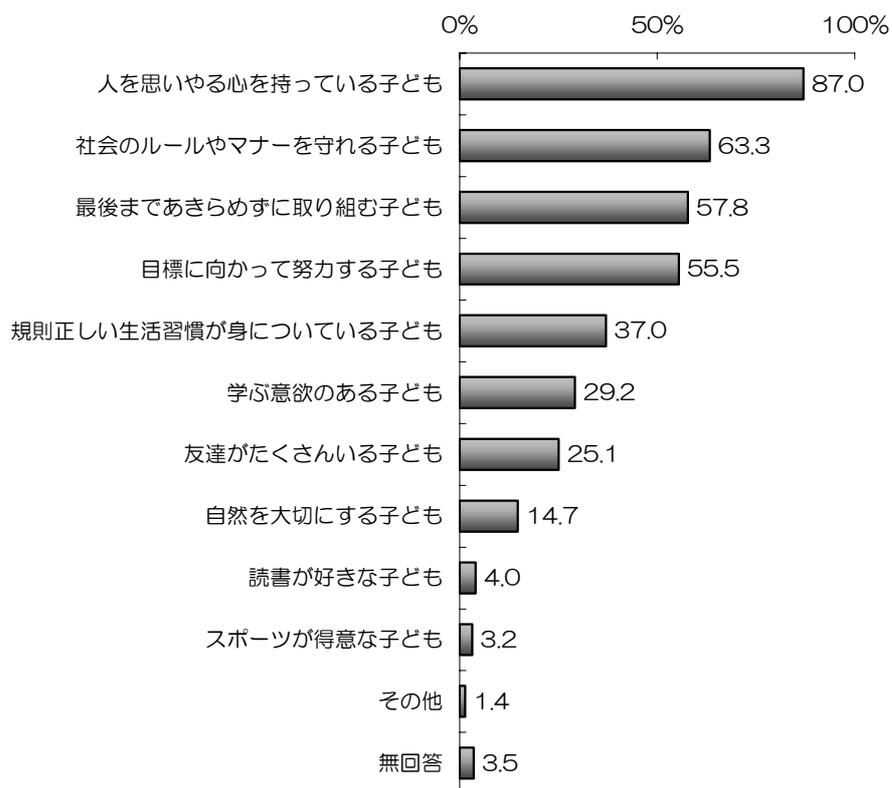
問7 あなたは、これからの子どもはどのように育まれてほしいですか。

人を思いやる心を持った、社会のルールやマナーを守れる子どもに育ってほしい。

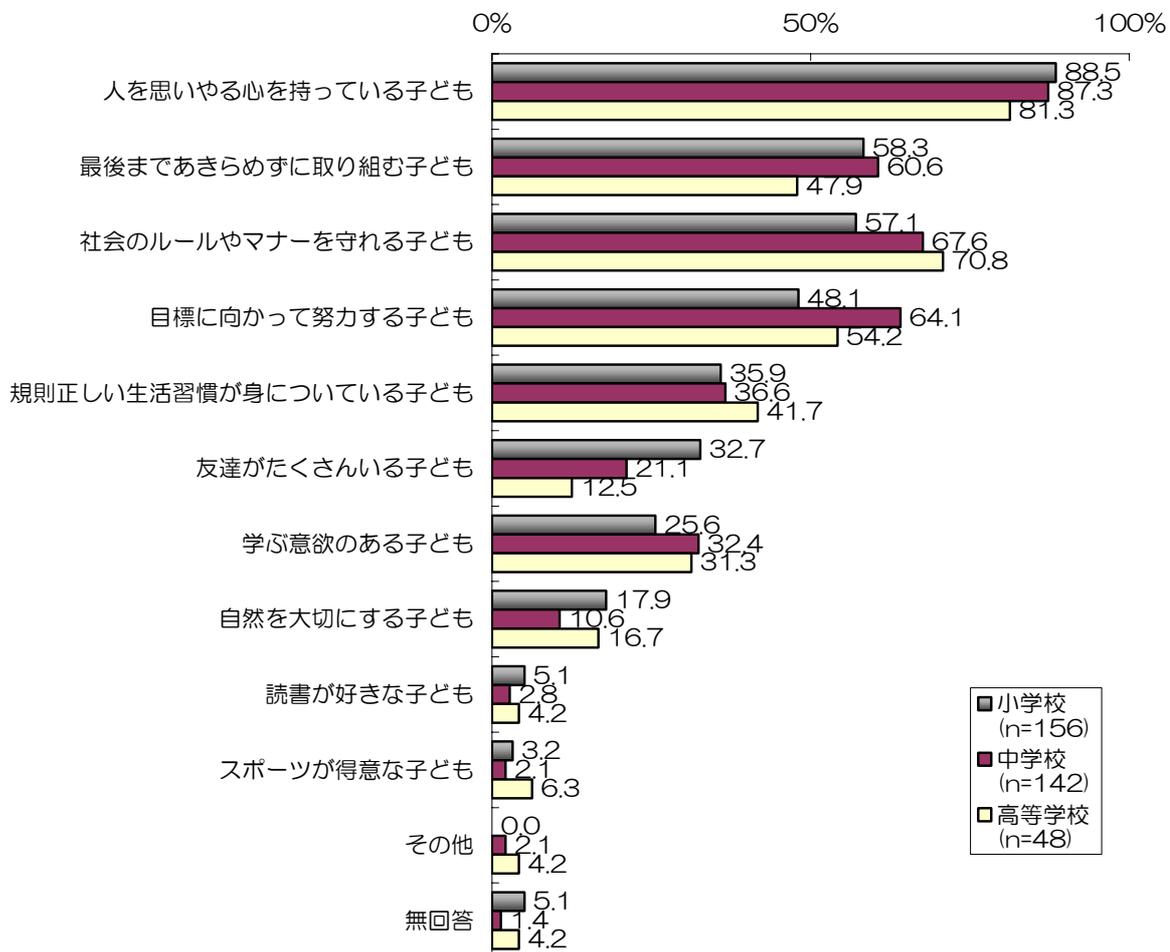
これからの子どもがどのように育まれてほしいかについてみると、「人を思いやる心を持っている子ども」が圧倒的に高く 87.0%であった。次いで「社会のルールやマナーを守れる子ども」が 63.3%、「最後まであきらめずに取り組む子ども」が 57.8%、「目標に向かって努力する子ども」が 55.5%だった。

これを学校種別にみると、「人を思いやる心を持っている子ども」が全てで最も高い。小学校では「最後まであきらめずに取り組む子ども」が2番目に高いが、中学校及び高等学校では「社会のルールやマナーを守れる子ども」が2番目となっている。子どもの年代にかかわらず、教員の意識として、「人を思いやる心を持っている子ども」に育ってほしいという願いがうかがえる。

図表 4-11 これからの子どもについて(n=346)



図表 4-12 これからの子どもについて(学校種別)



【これからの子どもについて：調査間比較】

保護者調査の「将来どんな大人になってほしいか」と一般市民調査及び教員調査の「これからの子どもたちがどんな子どもに育まれてほしいか」を比較すると、いずれの調査でも「人を思いやる心を持っている」が最も高かった。今後の千葉市の教育を考えていくうえで、人を思いやる心は、家庭・地域・学校全てにおいて重要なキーワードだといえる。

図表 4-13 これからの子どもについて(調査間比較)

将来どんな大人になってほしいか	保護者 (n=1020)	どんな子どもに育まれてほしいか	一般市民 (n=877)	教員 (n=346)
人を思いやる心を持っている人	74.0	人を思いやる心を持っている子ども	85.1	87.0
困難を乗り越えられる人	59.5	社会のルールやマナーを守れる子ども	70.5	63.3
自分らしさを持っている人	49.3	最後まであきらめずに取り組む子ども	45.2	57.8
友達や仲間がたくさんいる人	42.1	友達がたくさんいる子ども	44.7	25.1
家族を大切にする人	38.7	目標に向かって努力する子ども	44.5	55.5
社会のきまりを守る人	35.1	自然を大切にする子ども	32.6	14.7
健康で体力に自信がある人	26.8	規則正しい生活習慣が身についている子ども	25.0	37.0
夢を実現するために、最後まであきらめない人	26.3	学ぶ意欲のある子ども	17.3	29.2

上位9項目

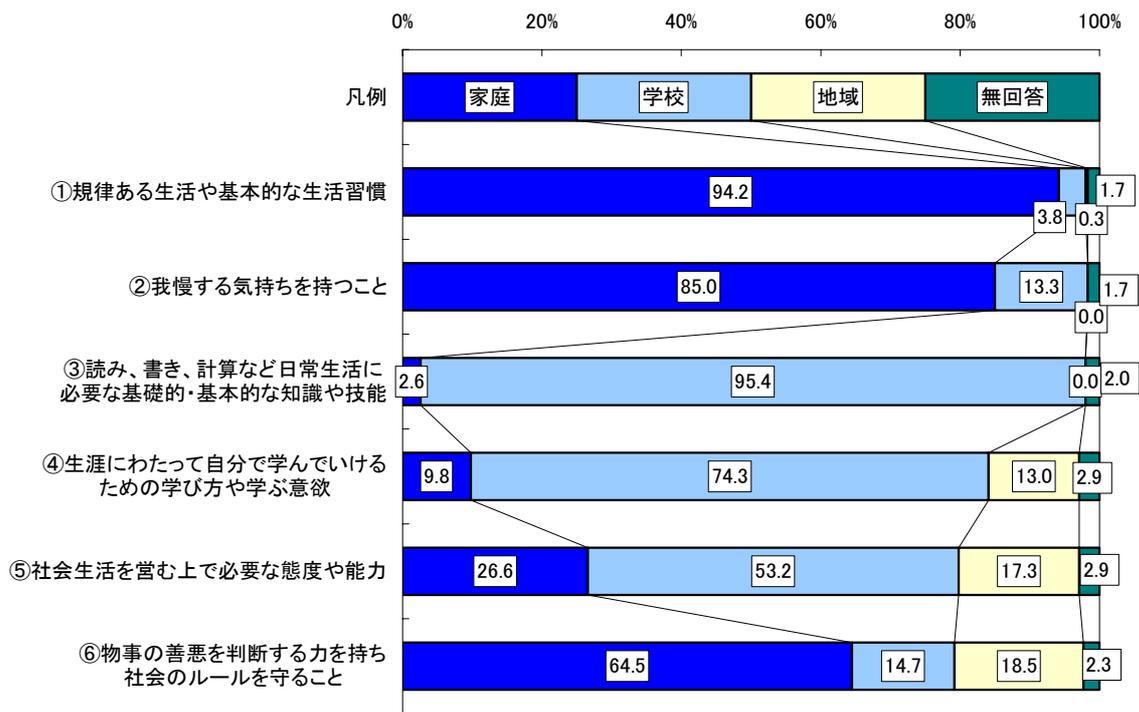
(5) 役割分担について

問8 あなたは、次のことを子どもに身につけさせたり育んだりするのは、主に誰の役割だと思いますか。

学校の役割は「基礎的・基本的な知識や技能」「自分で学んでいけるための学び方や学ぶ意欲」。

学校、家庭、地域の役割分担についてみると、「③読み、書き、計算など日常生活に必要な基礎的・基本的な知識や技能」、「④生涯にわたって自分で学んでいけるための学び方や学ぶ意欲」については「学校」の役割と考えている割合が高く、「①規律ある生活や基本的な生活習慣」、「②我慢する気持ちを持つこと」、「⑥物事の善悪を判断する力を持ち社会のルールを守ること」については「家庭」の役割と考えている割合が高い。一方、「⑤社会生活を営む上で必要な態度や能力」については「学校」の役割とするのが 53.2%、「家庭」の役割とするのが 26.6%、「地域」の役割とするのが 17.3%と最も意見が分かれた。

図表 4-14 役割分担について(n=346)



【役割分担について：調査間比較】

役割分担についての教員の意識を保護者調査及び一般市民調査と比較すると、学校の役割と考えている割合は教員が最も割合が高い。また、家庭の役割と考えている割合は保護者が高くなっており、それぞれ回答者自身の立場で担うべき役割をしっかりと認識していると考えられる。ただし、それぞれの役割分担に対する傾向はどの調査でも共通しており、立場による意識の違いはみられない。

図表 4-15 役割分担について(調査間比較)

	保護者(n=1020)			一般市民(n=877)			教員(n=346)		
	家庭	学校	地域	家庭	学校	地域	家庭	学校	地域
①規律ある生活や基本的な生活習慣	94.7	2.6	0.2	94.2	1.9	0.2	94.2	3.8	0.3
②我慢する気持ちを持つこと	89.5	7.5	0.2	89.5	6.5	0.3	85.0	13.3	0.0
③読み、書き、計算など日常生活に必要な基礎的・基本的な知識や技能	11.1	86.5	0.1	8.9	87.8	0.1	2.6	95.4	0.0
④生涯にわたって自分で学んでいけるための学び方や学ぶ意欲	26.1	67.7	3.1	24.3	65.8	5.1	9.8	74.3	13.0
⑤社会生活を営む上で必要な態度や能力	35.0	49.2	12.5	36.0	40.7	19.3	26.6	53.2	17.3
⑥物事の善悪を判断する力を持ち社会のルールを守ること	77.9	7.5	11.4	70.7	11.3	13.8	64.5	14.7	18.5

(6) 学校の施設・設備、備品について

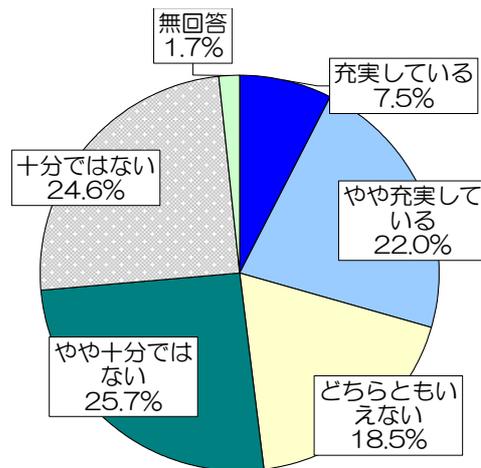
問9 お勤めの学校の施設・設備、備品についてどう感じていますか。

学校の施設・設備、備品は“十分ではない”が半数を超えていた。

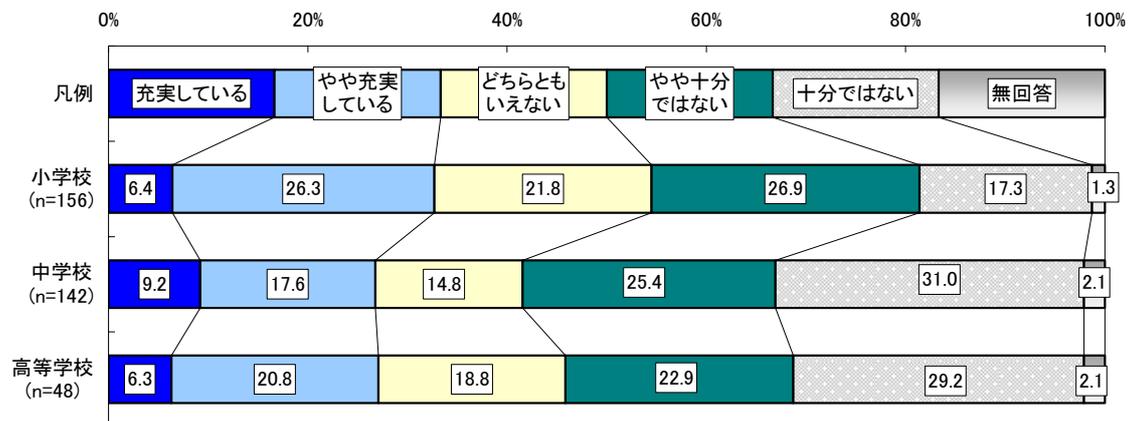
学校の施設・設備、備品についてみると、“充実している”（「充実している」と「やや充実している」の合計）は29.5%、“十分ではない”（「やや十分ではない」と「十分ではない」の合計）は50.3%であり、学校の施設・設備や備品に対して不十分であるという意識が強い。

これを学校種別にみると、小学校では比較的“充実している”の傾向が強い。一方、中学校では“十分でない”の傾向が強く、6割近くが不十分と感じている。教員が、具体的にどのような点に不十分と感じているのかを、明らかにしていく必要があると思われる。

図表 4-16 学校の施設・設備、備品について(n=346)



図表 4-17 学校の施設・設備、備品について(学校種別)



(7) 日々の業務について感じること

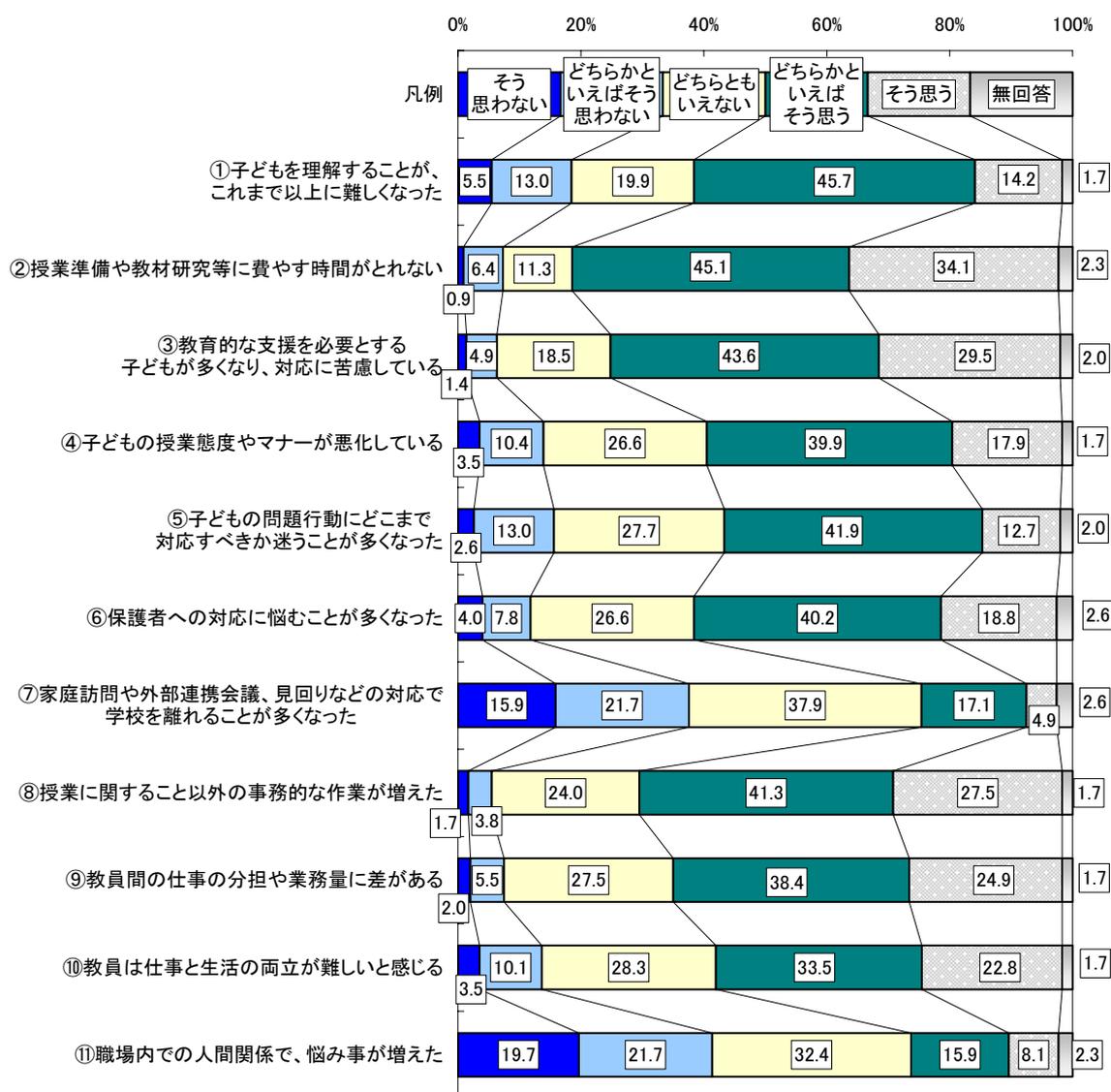
問 10 あなたは、日々の業務についてどのように感じていますか。

日々の業務について不安を抱えている傾向が強い。

日々の業務について感じていることについてみると、総じて対応に苦慮している傾向が強い。特に、「②授業準備や教材研究等に費やす時間が取れない」、「③教育的な支援を必要とする子どもが多くなり、対応に苦慮している」と感じている教員は7割～8割に上る。「⑦家庭訪問や外部連携会議、見回りなどの対応で学校を離れることが多くなった」、「⑩職場内での人間関係に悩みが増えた」については否定的意見が肯定的意見を上回っているが、それ以外の項目では全て肯定的意見が圧倒的に多い。

このことから、教員は日々の業務について不安を抱えており、その改善や対策が喫緊の課題であるといえる。

図表 4-18 日々の業務について感じる事(n=346)



これを学校種別にみると、小学校では授業準備の時間が取れないと感じている割合が高い。中学校では子どもの問題行動や保護者等の対応に苦慮している面がみられる。高等学校では子ども、保護者に関することというよりは教員自身の仕事の分量や配分に差があることについての問題を感じている割合が高い。

図表 4-19 日々の業務について感じる事(学校種別)

	小学校 (n=156)	中学校 (n=142)	高等学校 (n=48)
①子どもを理解することが、これまで以上に難しくなった	62.9	55.7	62.5
②授業準備や教材研究等に費やす時間がとれない	84.0	78.2	66.6
③教育的な支援を必要とする子どもが多くなり、対応に苦慮している	71.8	84.5	43.8
④子どもの授業態度やマナーが悪化している	59.6	54.9	60.4
⑤子どもの問題行動にどこまで対応すべきか迷うことが多くなった	53.2	60.6	41.7
⑥保護者への対応に悩むことが多くなった	60.2	64.0	39.6
⑦家庭訪問や外部連携会議、見回りなどの対応で学校を離れることが多くなった	18.6	28.8	12.6
⑧授業に関すること以外の事務的な作業が増えた	62.1	71.9	81.2
⑨教員間の仕事の分担や業務量に差がある	55.2	64.0	87.5
⑩教員は仕事と生活の両立が難しいと感じる	53.2	58.5	60.5
⑪職場内での人間関係で、悩み事が増えた	23.7	21.1	33.3

「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計値

これを在職年数別にみると、在職10年未満では授業準備等に時間が取れないこと、教員間での仕事の分担に偏りがあることに問題を感じている割合が高いが、他の層と比較すると、全体的に問題を感じている教員の割合は低い傾向にある。日々の業務について最も問題を感じている者が多いのが20年以上30年未満の層で、子どもへの対応、保護者への対応、教員間での問題、全ての分野において苦慮している割合が高い。このことから、在職20年以上30年未満のベテランの層が、昨今の子どものマナーの問題や保護者への対応、授業以外の事務手続きの増加等に悩みを抱えている傾向が強いとみられる。

図表 4-20 日々の業務について感じる事(在職年数別)

	10年未満 (n=94)	10年以上 20年未満 (n=47)	20年以上 30年未満 (n=139)	30年以上 (n=61)
①子どもを理解することが、 これまで以上に難しくなった	37.3	63.9	73.4	59.0
②授業準備や教材研究等に費やす時間がとれない	80.9	87.2	76.3	77.0
③教育的な支援を必要とする 子どもが多くなり、対応に苦慮している	55.3	76.6	82.7	78.7
④子どもの授業態度やマナーが悪化している	44.7	57.4	64.0	62.3
⑤子どもの問題行動にどこまで 対応すべきか迷うことが多くなった	45.7	51.0	62.5	54.1
⑥保護者への対応に悩むことが多くなった	39.4	66.0	69.7	60.6
⑦家庭訪問や外部連携会議、見回りなどの対応で 学校を離れることが多くなった	11.7	31.9	23.7	26.3
⑧授業に関すること以外の事務的な作業が増えた	58.5	63.8	78.5	65.6
⑨教員間の仕事の分担や業務量に差がある	62.8	59.5	64.0	63.9
⑩教員は仕事と生活の両立が難しいと感じる	49.0	59.6	61.8	50.9
⑪職場内での人間関係で、悩み事が増えた	21.2	29.8	25.9	18.0

「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計値

(8) 目指す教員像

問 1 1 あなたが目指す教員とはどのような人だと考えますか。

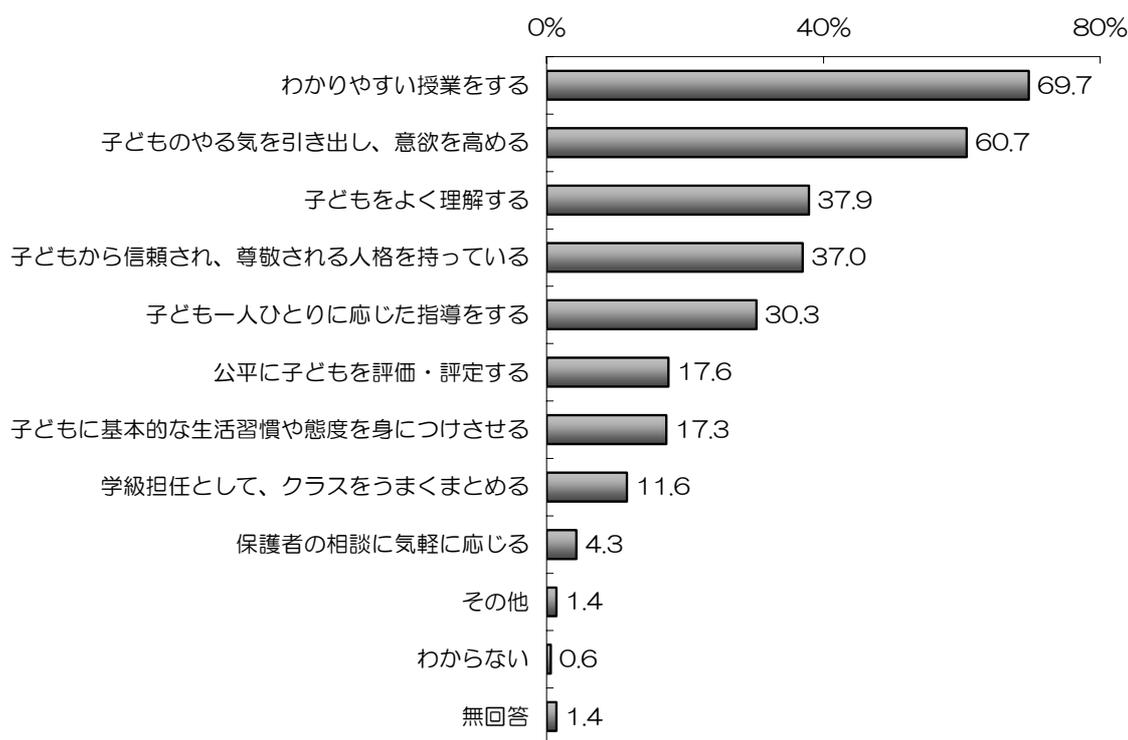
目指す教員像は「わかりやすい授業をする」教員である。

目指す教員像についてみると、「わかりやすい授業をする」が最も高く 69.7%、次いで「子どものやる気を引き出し、意欲を高める」が 60.7%で続いた。保護者調査及び一般市民調査で望ましい教員像として上位であった「子どもから信頼され、尊敬される人格を持っている」は 37.0%にとどまった。しかし、児童・生徒調査での教わりたい先生像とは、傾向が一致している。

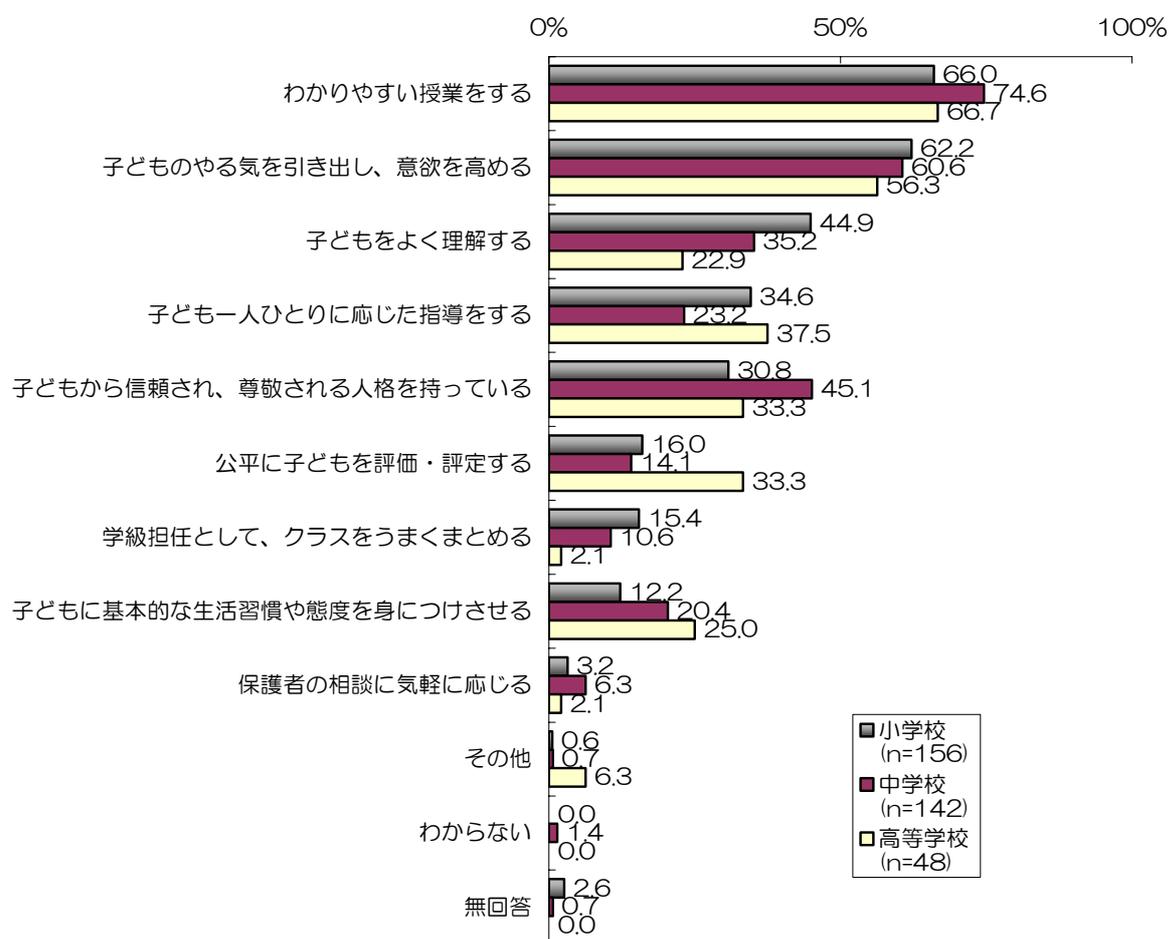
これを学校種別にみると、小学校、中学校及び高等学校とも「わかりやすい授業をする」が最も高く、次いで「子どものやる気を引き出し、意欲を高める」が高い。小学校では「子どもをよく理解する」が、中学校では「子どもから信頼され、尊敬される人格を持っている」、高等学校では「子ども一人ひとりに応じた指導をする」が3番目となっている。

在職年数別にみると、10年以上20年未満では「子どものやる気を引き出し、意欲を高める」が 66.0%で最も高かったが、それ以外の層については「わかりやすい授業をする」が1位であった。20年以上30年未満では 77.7%で、特に高かった。

図表 4-21 目指す教員像(n=346)



図表 4-22 目指す教員像(学校種別)



図表 4-23 目指す教員像(在職年数別)

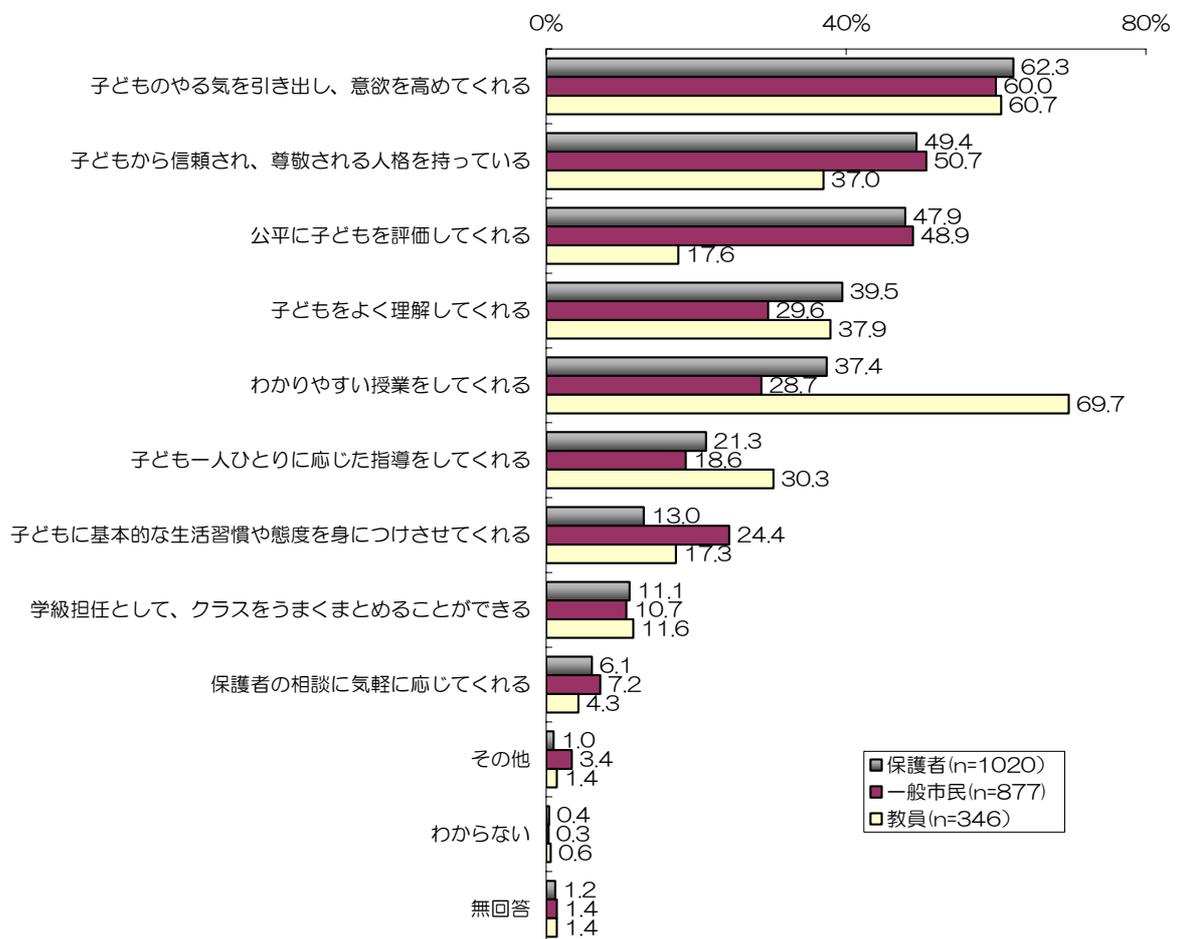
	わかりやすい授業をする	子どもに基本的な生活習慣や態度を身につけさせる	子どもをよく理解する	子どものやる気を引き出し、意欲を高める	学級担任として、クラスをうまくまとめる	子ども一人ひとりに応じた指導をする	保護者の相談に気軽に応じる	子どもから信頼され、尊敬される人格を持っている	公平に子どもを評価・評定する	その他	わからない	無回答
10年未満 (n=94)	68.1	14.9	48.9	61.7	10.6	25.5	2.1	42.6	10.6	0.0	0.0	2.1
10年以上 20年未満 (n=47)	57.4	25.5	29.8	66.0	19.1	36.2	2.1	38.3	10.6	2.1	2.1	0.0
20年以上 30年未満 (n=139)	77.7	17.3	38.1	58.3	9.4	27.3	3.6	36.0	21.6	1.4	0.7	1.4
30年以上 (n=61)	67.2	13.1	29.5	60.7	13.1	37.7	9.8	32.8	23.0	0.0	0.0	1.6

「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計値

【教員像：調査間比較】

目指す教員像について、保護者調査と一般市民調査の望ましい教員像と比較すると、保護者及び一般市民では「子どものやる気を引き出し、意欲を高めてくれる（高める）」が最も高かったが、教員では「わかりやすい授業をしてくれる（する）」が最も高かった。しかし、教員についても6割以上が「子どものやる気を引き出し、意欲を高めてくれる（高める）」と回答しているため、保護者及び一般市民と教員の意識が全く食い違っているということはないが、「子どもから信頼され、尊敬される人格を持っている」、「公平に子どもを評価してくれる（する）」については意識に大きな差異がみられるなど、保護者が重要と考えていながら、教員はそれほど重要と感じていない項目もみられる。

図表 4-24 目指す教員像(在職年数別)



(9) 教員の資質の向上を図るために

問12 あなたは、教員の資質の向上を図るためにどのようなことが必要だと考えますか。

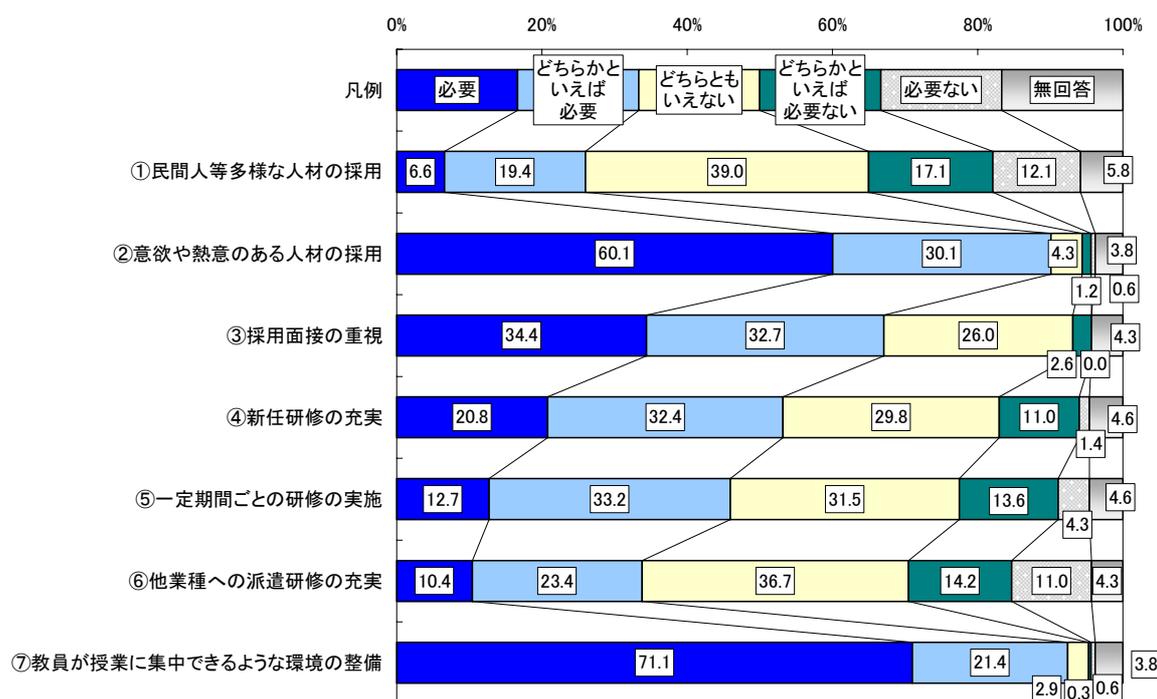
「教員が授業に集中できるような環境の整備」が必要である。

教員の資質の向上を図るためにどのようなことが必要だと考えるかについてみると、最も高いのが「⑦教員が授業に集中できるような環境の整備」で92.5%が肯定している。次いで「②意欲や熱意のある人材の採用」も90.2%で高かった。反対に、「①民間人等多様な人材の採用」については否定的意見が多く、唯一否定的意見が肯定的意見を上回った。その他、保護者調査や一般市民調査と比較すると、研修に関することに対する肯定的意見が少なく、教員自身は研修を受けることに対してあまり積極的ではないということがうかがえる。しかし、前問で授業準備の時間がとれないといった意識が高かったことや、本設問でも教員が授業に集中できるような環境の整備をほとんどの回答者が必要と答えていることから、研修を受ける時間がとりにくいと解釈すべきと思われる。

これを学校種別にみると、いずれの学校でも教員が授業に集中できる環境整備を重視する声最も強いが、中学校では「②意欲や熱意のある人材の採用」、「③採用面接の重視」等の採用に関することについても必要とする傾向が強かった。一方、高等学校では「⑦教員が授業に集中できるような環境の整備」、「②意欲や熱意のある人材の採用」以外の対策については消極的な傾向が強くなり、特に「①民間人等多様な人材の採用」については肯定派が14.6%にとどまった。

また、在職年数別にみると、「①民間人等多様な人材の採用」は30年以上のベテラン教員は“必要”とするのは14.8%にとどまったが、10年未満の教員は40.4%が肯定的であり、在職年数が短いほど必要と感じている割合が高かった。「②意欲や熱意のある人材の採用」、「⑦教員が授業に集中できるような環境の整備」についてはどの層でも高く、在職年数に関わらず、教員として必要だと考えられている対策だといえる。「④新任研修の充実」は10年以上20年未満で、「⑤一定期間ごとの研修の実施」は20年以上30年未満で高かった。

図表 4-25 教員の資質の向上を図るために(n=346)



図表 4-26 教員の資質の向上を図るために(学校種別)

	小学校 (n=156)	中学校 (n=142)	高等学校 (n=48)
①民間人等多様な人材の採用	27.5	28.1	14.6
②意欲や熱意のある人材の採用	89.8	91.6	87.5
③採用面接の重視	64.1	73.9	56.2
④新任研修の充実	57.7	52.8	39.6
⑤一定期間ごとの研修の実施	46.8	50.7	29.2
⑥他業種への派遣研修の充実	34.6	35.2	27.1
⑦教員が授業に集中できるような環境の整備	90.4	95.1	91.7

「必要」と「どちらかといえば必要」の合計値

図表 4-27 教員の資質の向上を図るために(在職年数別)

	10年未満 (n=94)	10年以上 20年未満 (n=47)	20年以上 30年未満 (n=139)	30年以上 (n=61)
①民間人等多様な人材の採用	40.4	25.6	21.6	14.8
②意欲や熱意のある人材の採用	89.4	89.3	90.7	91.8
③採用面接の重視	70.2	61.7	64.1	72.1
④新任研修の充実	53.2	63.8	46.0	60.7
⑤一定期間ごとの研修の実施	54.3	44.7	38.8	49.2
⑥他業種への派遣研修の充実	38.3	36.2	29.5	34.4
⑦教員が授業に集中できるような環境の整備	93.7	87.2	94.3	91.8

「必要」と「どちらかといえば必要」の合計値

【教員の資質向上を図るために：調査間比較】

教員の資質向上を図るための対策について、保護者調査及び一般市民調査と比較すると、教員の意見は「②意欲や熱意のある人材の採用」、「⑦教員が集中できるような環境の整備」に集中している一方、他の施策については、保護者及び一般市民と比較すると消極的な傾向がみられた。特に、「①民間人等多様な人材の確保」、「④新任研修の実施」、「⑤一定期間ごとの研修の実施」については保護者、一般市民と比較して“必要”と考える者の割合が大幅に低かった。

保護者と一般市民には大きな差異はみられず、保護者及び一般市民の意識と、教員の意識は異なる傾向がみられる。

図表 4-28 教員の資質の向上を図るために(調査間比較)

	保護者 (n=1020)	一般市民 (n=877)	教員 (n=346)
①民間人等多様な人材の採用	53.7	54.6	26.0
②意欲や熱意のある人材の採用	88.1	87.5	90.2
③採用面接の重視	73.2	70.7	67.1
④新任研修の充実	78.6	77.1	53.2
⑤一定期間ごとの研修の実施	76.9	76.1	45.9
⑥他業種への派遣研修の充実	47.9	50.1	33.8
⑦教員が授業に集中できるような環境の整備	70.1	75.4	92.5

「必要」と「どちらかといえば必要」の合計値

(10) 相談相手

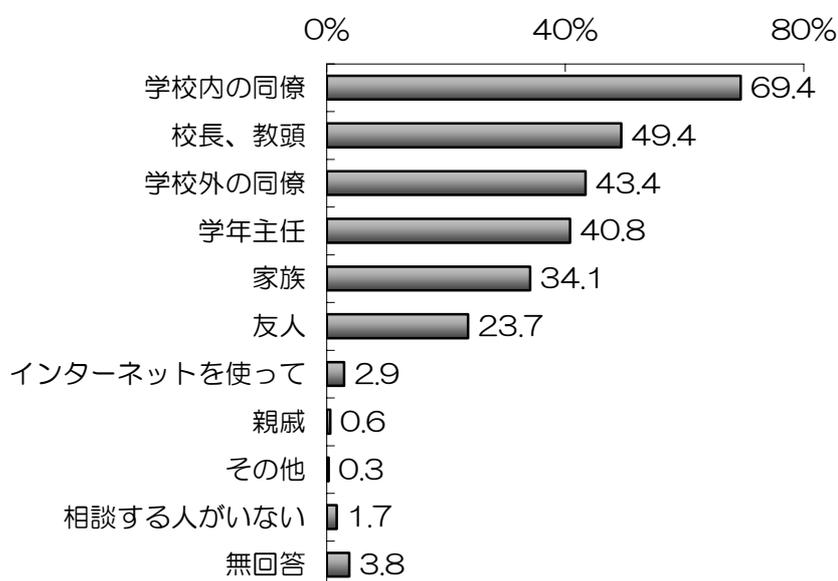
問 1 3 あなたは、業務を行う上で悩んでいることや気がかりなことがあるとき、誰に相談しますか。

相談相手は「学校内の同僚」が約 7 割であった。

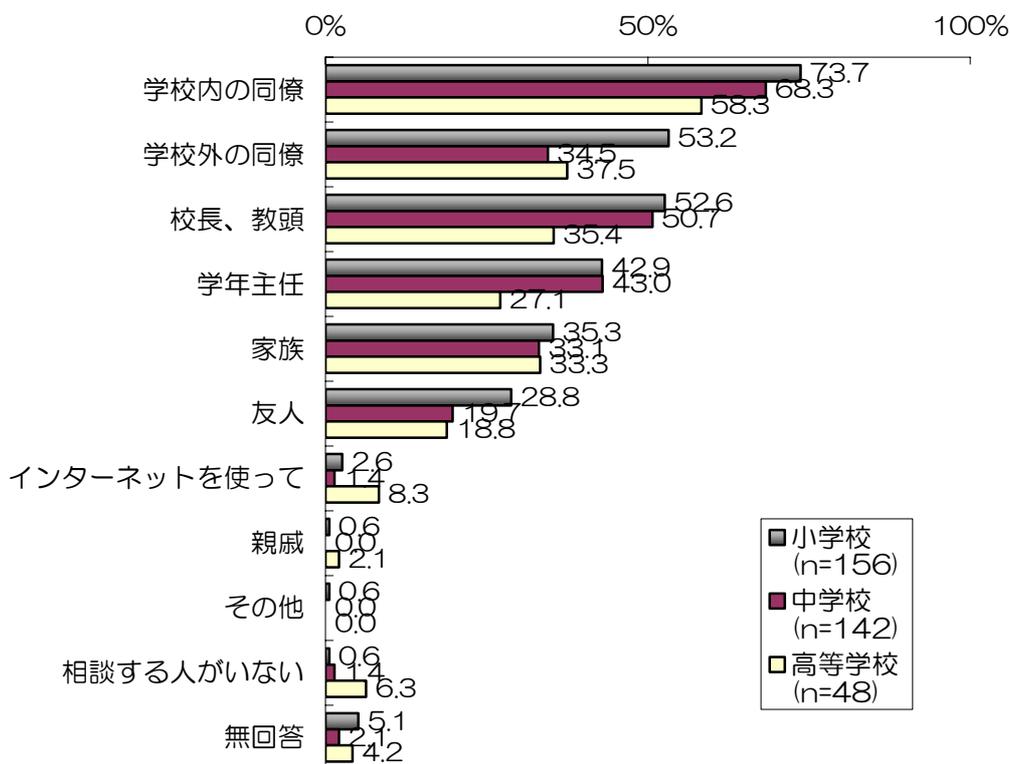
業務を行う上で悩んでいることや気がかりなことの相談相手についてみると、「学校内の同僚」が 69.4% で最も高く、「校長、教頭」が 49.4% で続いた。「相談する人がいない」は 1.7% にとどまった。

これを学校種別にみると、どの学校でも「学校内の同僚」が最も高い。小学校、高等学校では「学校外の同僚」がそれに続き、中学校では「校長、教頭」が続いている。

図表 4-29 相談相手(n=346)



図表 4-30 相談相手(学校種別)



在職年数別にみると、30年以上以外の層では「学校内の同僚」が最も高い。在職年数が短い層では「学年主任」が、在職年数が長いベテラン教員では「校長、教頭」が高い傾向にある。これは自分の身近な上司にあたる人を相談相手としていることが理由だと考えられる。

図表 4-31 相談相手(在職年数別別)

	校長、教頭	学年主任	学校内の同僚	学校外の同僚	家族	友人	親戚	インターネットを使って	その他	相談する人がいない	無回答
10年未満 (n=94)	35.1	46.8	77.7	37.2	39.4	28.7	2.1	4.3	1.1	1.1	3.2
10年以上20年未満 (n=47)	48.9	61.7	76.6	57.4	27.7	23.4	0.0	4.3	0.0	2.1	2.1
20年以上30年未満 (n=139)	52.5	36.0	71.2	43.2	33.8	20.9	0.0	2.9	0.0	1.4	4.3
30年以上 (n=61)	67.2	29.5	49.2	42.6	32.8	23.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.9

「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計値

(11) 学校教育の取り組みに望むこと

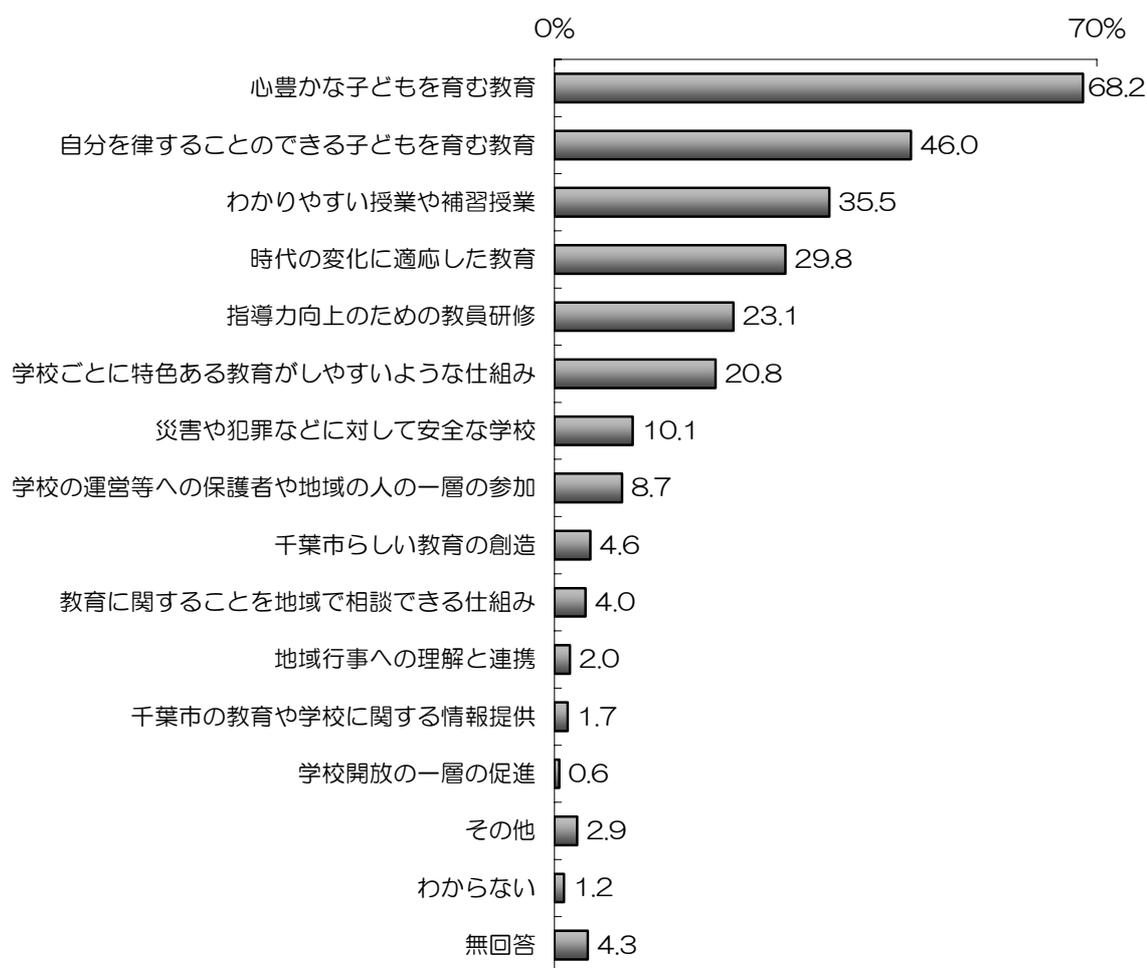
問 1 4 あなたが教員として、今後の学校教育の取り組みに望むことは何ですか。

「心豊かな子どもを育む教育」が約7割であった。

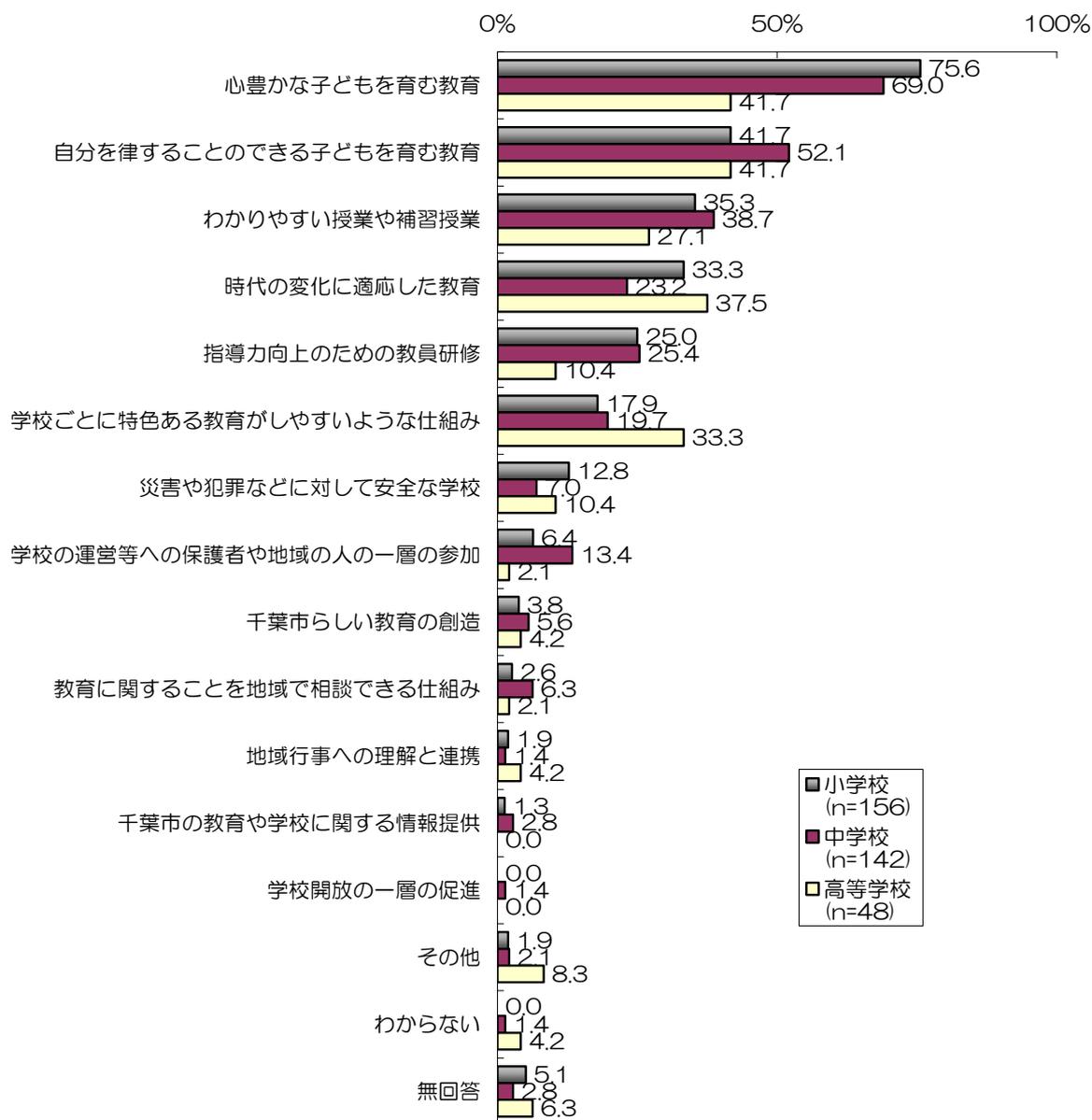
教員として学校教育の取り組みに望むことについてみると、「心豊かな子どもを育む教育」が68.2%で目立って高かった。次いで「自分を律することのできる子どもを育む教育」が46.0%で続いた。既出のどんな子どもに育まれてほしいかと同様、これからの子どもには人に対する思いやりや規範意識等が必要だという意識がうかがえる。

これを学校種別にみると、小学校では「心豊かな子どもを育む教育」が圧倒的に高く、中学校でも同様の傾向がみられた。一方、高等学校では「心豊かな子どもを育む教育」、「自分を律することのできる子どもを育む教育」、「時代の変化に適応した教育」が同程度で並んだ。上位にあがっている項目は、いずれの学校でも同じ傾向がみられ、学校教育の取り組みに望むこととして、教員の意識はおおよそ統一されていることが明らかとなった。

図表 4-32 学校教育の取り組みに望むこと(n=346)



図表 4-33 学校教育の取り組みに望むこと(学校種別)



(12) 情報公開

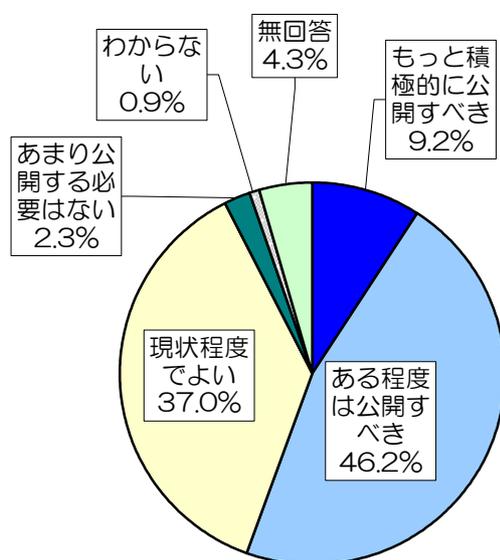
問 15 学校の教育方針や教育活動について、もっと保護者や地域の方に情報を公開すべきだと思いますか。

半数以上が情報公開に肯定的であった。

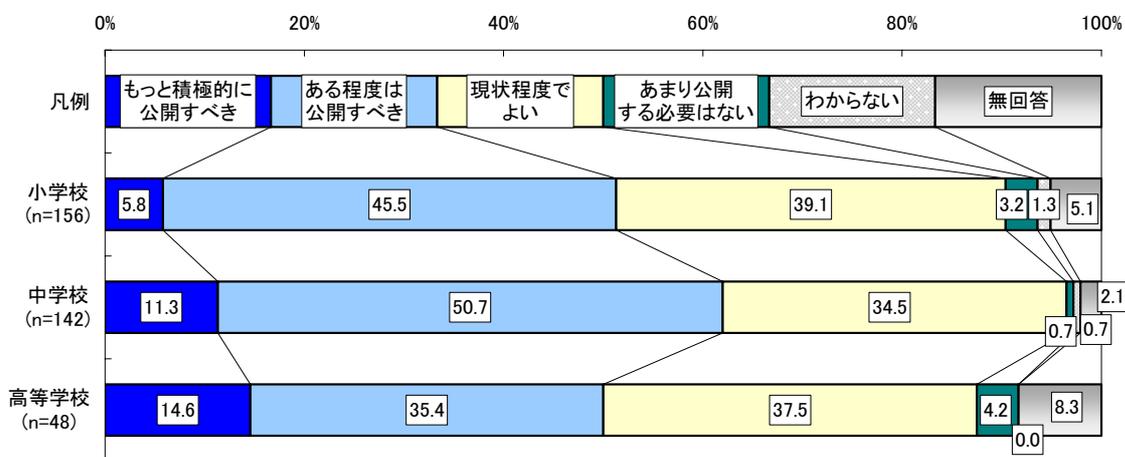
学校の教育方針や教育活動をもっと情報公開すべきかどうかについてみると「もっと積極的に公開すべき」は9.2%、「ある程度は公開すべき」が46.2%で半数以上の教員が公開に肯定的である。一方、「現状程度でよい」は37.0%、「あまり公開する必要はない」は2.3%であった。

これを学校種別にみると、中学校で肯定的な傾向が最も強い。高等学校では「積極的に公開すべき」の割合は高いものの、「ある程度は公開すべき」が低いため、全体の肯定的な傾向は小学校を下回っている。

図表 4-34 情報公開(n=346)



図表 4-35 情報公開(学校種別)



(13) 地域と学校のかかわりあい

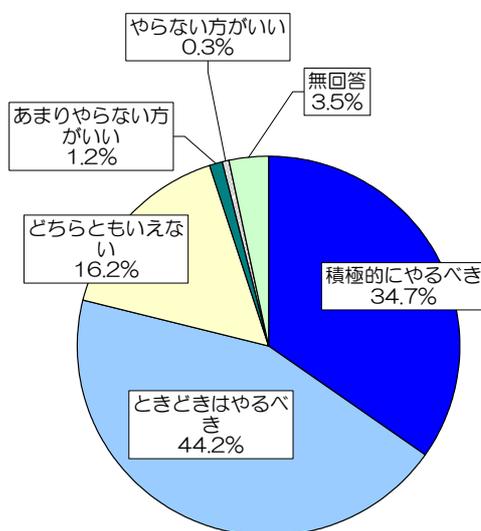
問 1 6 さまざまな専門知識や体験、技術を持った、保護者や地域の方々が学校で子どもたちに教えることについてどう思いますか。

8割近くが地域と学校のかかわりあいに肯定的であった。

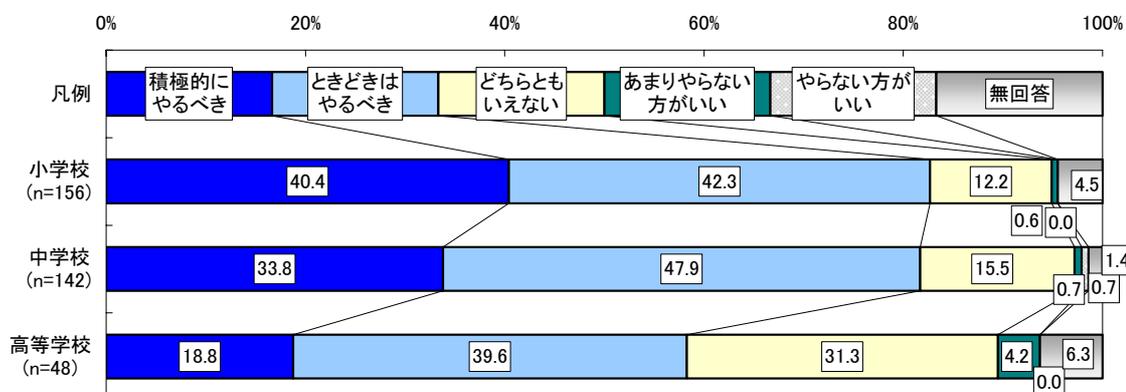
地域と学校のかかわりあいについてみると、「積極的にやるべき」は34.7%、「ときどきはやるべき」が44.2%で8割近くが地域と学校のかかわりに肯定的であった。「あまりやらない方がいい」、「やらない方がいい」の否定的意見はごく少数であった。

これを学校種別にみると、小学校と中学校では肯定する傾向が同程度だが、高等学校では6割を下回っており、小学校及び中学校と比較すると地域とのかかわりあいについて消極的であるといえる。

図表 4-36 地域と学校のかかわりあい(n=346)



図表 4-37 地域と学校のかかわりあい(学校種別)



(14) 登下校時や学校内の安全

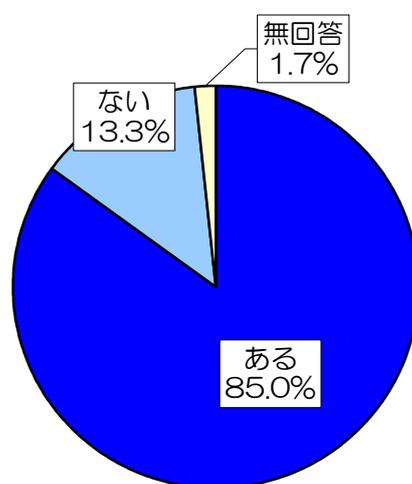
問 17 子どもの登下校時や学校における安全に不安を感じたことがありますか。

登下校時や学校における安全に不安を感じたことがあるのは 85.0%であった。

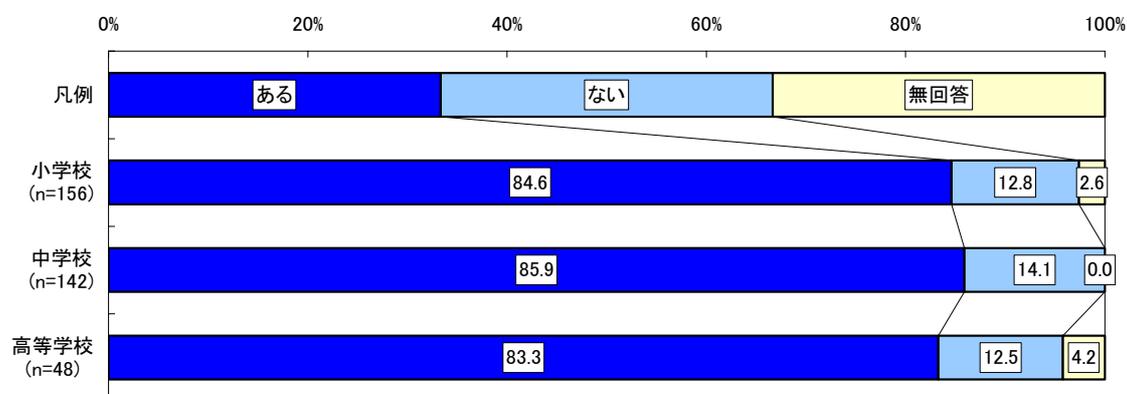
登下校時が学校内の安全に不安を感じたことがあるかどうかについてみると、85.0%が「ある」としている。「ない」は 13.3%だった。

これを学校種別にみると、学校の種別に関わらず、安全に不安を感じたことがある割合は同程度である。

図表 4-38 登下校時や学校内の安全 (n=346)



図表 4-39 登下校時や学校内の安全 (学校種別)



(15) 校内の安全確保のために

問 18 日頃から、校内の安全確保を図るため、学校が取り組むべきこととして何が重要だと思いますか。

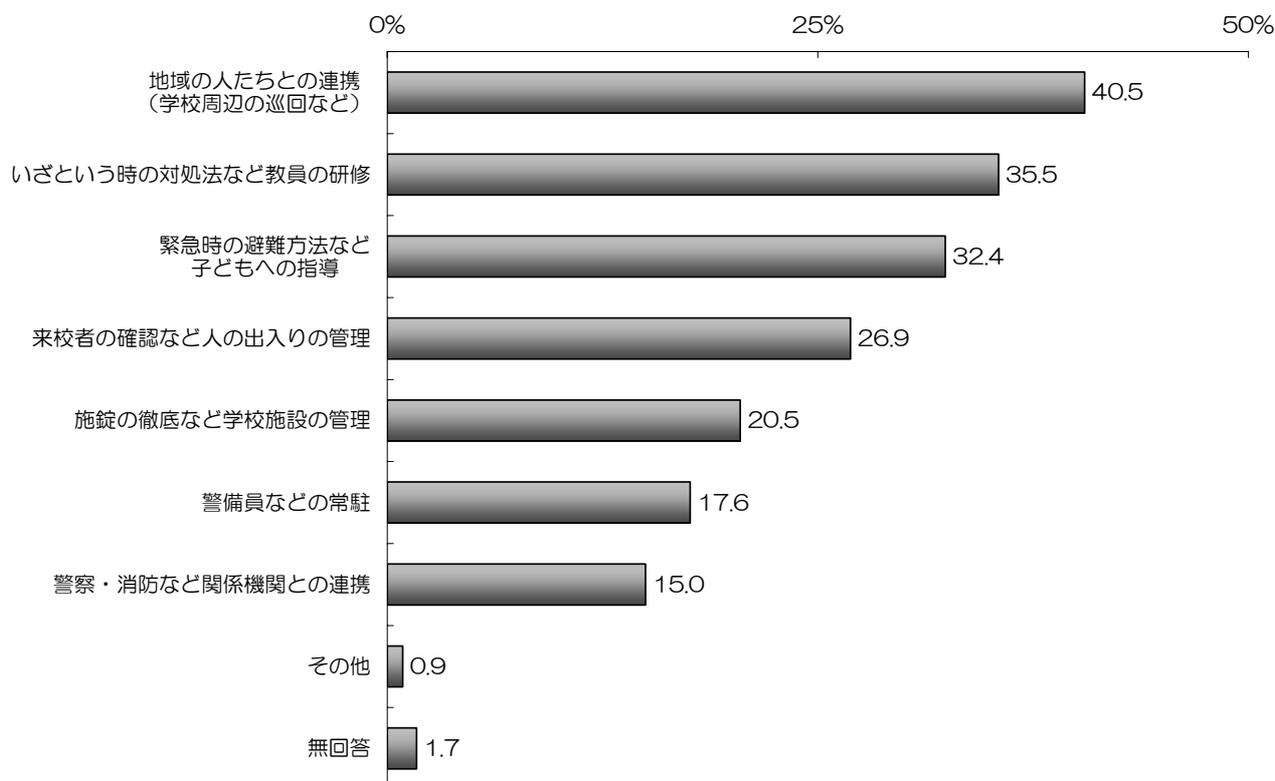
「地域の人たちとの連携」「いざという時の対処法など教員の研修」が重要である。

校内の安全確保を図るため、学校が取り組むべきことについてみると、「地域の人たちとの連携」が最も高く 40.5%、次いで「いざという時の対処法など教員の研修」が 35.5%、「緊急時の避難方法など子どもへの指導」が 32.4%だった。

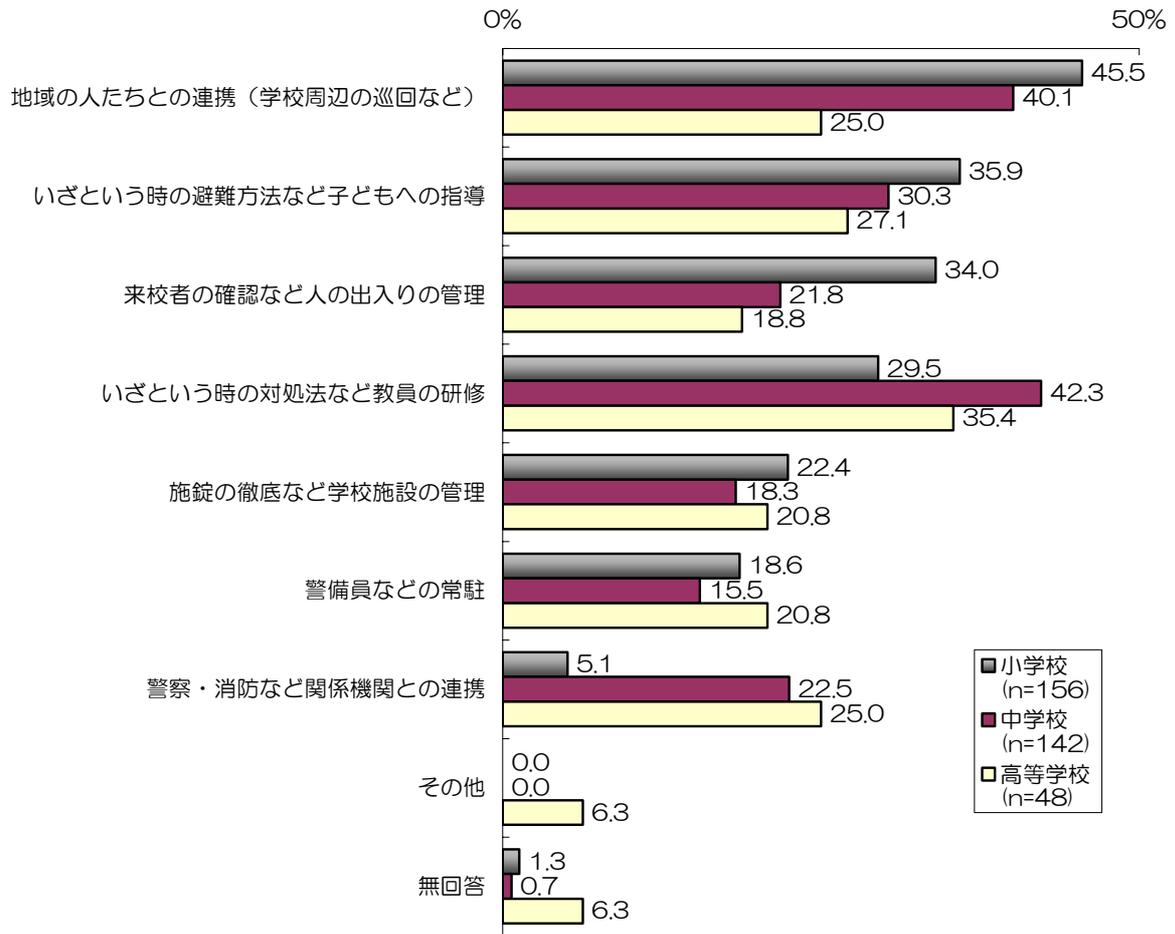
これを学校種別にみると、小学校では「地域の人たちとの連携」が最も高く、次いで「いざという時の避難方法など子どもへの指導」が高く、中学校では「いざという時の対処法など教員の研修」が最も高く、次いで「地域の人たちとの連携」となっている。

一方、高等学校では「いざという時の対処法など教員の研修」、「いざという時の避難方法など子どもへの指導」の順で高くなっており、「地域の人たちとの連携」は「警察・消防など関係機関との連携」と並んで3番目であった。高等学校は生徒が地域の子どものみではないこともあり、地域との協力という面で小・中学校と比較すると消極的な傾向がある。

図表 4-40 校内の安全確保のために(n=346)



図表 4-41 校内の安全確保のために(学校種別)



5. 自由意見

学校教育に関する意見を自由記述方式にて保護者、一般市民、教員から得た（保護者調査：問 28、一般市民調査：問 19、教員調査：問 19）。結果は以下のとおり。個別意見については項目ごとに、代表的な意見を記述された原文のまま記載する。

保護者調査：353件（n=1020）

一般市民調査：461件（n=877）

教員調査：97件（n=346）

(1) 保護者調査

1) 教員について

- ・「先生」という存在が、昔と違ってきている世の中になってきていると思う。きびしく教育してもよいと思う。
- ・一生懸命指導にあたる先生もいる反面、個人攻撃で生徒を責めたり、親をバカにした様な口をきいたりする先生もいます。新任の先生などの力になったり、人を思いやる態度を目の当りにしたりする様な教育現場になってほしいです。
- ・私たちが中学生の頃と比較して、今の先生は、その先生の人柄や人間味が子どもに伝わらないほど先生と生徒との距離感を感じます。良くも悪くも、先生の影響がないというのは喜ばしい事でしょうか。子どもが尊敬のできる先生が増えてくれることを期待します。
- ・社会的な問題(給食費未払い等)、保護者のモラルの低下の問題もあるが、教員の質の低下も多少あると思います。私達親の子ども時の先生の存在、親の存在、大人の存在は絶対的なものがありました。大人がもっと子供たちの事を考え誰かのせいにするのではなく、親は親、教員は教員のやるべき事をしっかりやって、連携していくことが必要だと思います。

2) 教員の時間確保について

- ・教員が子どもとしっかりと向き合えるような環境づくりが望まれる。忙しさを軽減できるような人員配置、事務的な仕事の簡略化など、できないものか。
- ・1人の教師が大勢の子供をみるには不安がある。目立つ子供はいいが、そうでない子供はきちんと目がとどいているのでしょうか。大人の目はたくさん必要だと思います。
- ・先生方は、とても熱心にいろいろな場面で指導してくださっています。でも、忙しすぎるのでは。各研修、報告書等、簡素化できないのでしょうか。
- ・教員全般に満足していますが、先生方が多忙すぎると思います。コンピューターを上手に利用して事務処理する仕事を軽減することが大切です。（例えば全ての提出文書をオンライン化する等）
- ・公立学校にもっと予算をつけ、教員の人数、施設、設備などあらゆる面の教育環境を充実させてほしい。現実には、がんばっている先生方のおかげで日本の教育はもっている。これ以上、先生のしりをたたいても何も出てこないと思う。

3) 授業時間について

- ・授業時間が足りていないせいで、授業内容を理解していないまま、先に進んでしまっている状況を見ていると、「ゆとり教育」をやめてほしい。
- ・昔に比べ、学ぶべき学力が低くなってきているのに驚きを感じる。高学年は毎日6時間授業がある時代と比べると、今の時代、中学生でさえ5時間で終わる。土曜日が休みになっているというのも問題である。こんな時代に育っている子供達の将来が自分の子供も含めとても不安でしかたがないと感じる。

4) 教育内容について

- ・ゆとり教育で週休2日になり学習能力は個人差があり、学校だけの勉強では不安な事もあるのか、塾に行く子が増えていて、それは学校の指導に問題があると思います。できる子に合わせるのではなく、できない子に合わせて欲しいです。学習面だけじゃなく、もっと人間として大切な事を教える時間を増やして欲しい。
- ・中学受験がエスカレートしすぎていると思う。昔のように、のびのびと生活出来ず、放課後はみんな塾、受験をしないとおちこぼれなのかと心配します。「よく学び、よく遊ぶ」とは・・・いまの時代は無理なのでしょうか。
- ・最近、特色ある教育活動ということで同じ公立の学校でありながら、教育に関してとても不平等を感じます。私立ではないのだから、カリキュラムを統一して指導してもらった方が、先生方の負担も軽くなるし親としても安心だと思います。

5) 家庭と学校の役割分担について

- ・教員の方々の向上はもちろん望みますが、全体的にみていると、あまりにも学校にまかせすぎ、又、常識はずれな保護者が増えていると思います。基本的な生活行動のしつけは、家庭の責任であり、社会全体で将来をになう子供達を育てていくとの思いが、地域にあれば良くなると思います。
- ・家庭でしっかり教えるべきことと、学校で教えることが年々混同されているように感じます。家庭での教育力低下を感じます。学校の先生はとてもよくやって下さっています。とても感謝しています。
- ・家庭の力が、子供の成長を左右している。経済力はもちろんだが、子供への関心と助言、手助けができるか、安心して過せる家庭環境であるか、で心の成長、学力の伸びが違うように思う。せめて、学校でそろって学ぶ基礎学力だけはしっかりと身につけさせて欲しいと思う。

6) 学校に期待すること

- ・中学校はどこもそうだと思いますが、親がPTAの役員でもしていない限り、学校の方針や生徒達にどの様な指導をしているか等、ほとんど知る事ができないのがさびしく感じる。むしろ、子供達が塾の先生の方を頼りにして相談等している姿の方が、普通に思う事自体が、教

師と生徒の「距離」を表していると思う。

- ・先生方が教職に真にほこりを持って（慢心でなく）単なる「仕事」でなく、子どもたちの未来と一緒に育んでいくのだという、日々の実感が得られるような素敵な学校をぜひ、まず千葉で実現させましょう。応援したいと思います。
- ・いじめ問題への取り組みについて、現状では教員個人の対応力によるところが大きいように感じる。それでは不十分。相談窓口の設置等されているようだが、もっと広報・周知すべき。
- ・何か問題が発生したとき、その問題の当事者の了解が得られれば先生方と保護者とで話し合いの場が設けられた方が良いと思う。学校で何が起こっているのかよく分らないのでは、家庭での子どもへの接し方や指導も違ったものになってしまうと考える。
- ・最近、学校でおこったいじめの問題などに対する対応が、見て見ぬふりや責任逃れが多すぎる。保護者は何も多くを望んでいるわけではない。何か起こった時に一緒に考え、対処してくれる熱意を学校や教師に望みます。
- ・基礎学力の低下が問題となっていることもあり、学校は学びの場であるという基本を一番の重要事項だと考えてもらいたいと思う。子供の学力を向上させることが学校の役割だ。
- ・学問を尊ばない風潮が学校にあることを悲しく思います。個性を伸ばす様々な体験をさせるといっても、基本的な学力や学習に対する興味がないと、なかなか伸ばせるものではないと思います。もっと学校で勉強を教えて欲しいと思います。
- ・勉強だけでなく、精神的に大切なことを教えてほしい。道徳的なことではなく、人間としての精神性や人格形成の教育に重点をおいてほしい。

7) 社会的な問題について

- ・給食費を払えるのに払わない保護者が全国的に多いと聞くが、そんなものは給食を止めれば良い。子供がかわいそうだという人もいるが、ルールをやぶったら当然責任がかかってくる事も、子供も実感してゆくであろう。又、無理難題な要求をしてくる親には、だんこはつきりとした態度でのぞめば良い。無理なら専門の人材を置くなど対処法を考えるべき。又、反対に問題行動の多い教職員も増えているが、(ニュースに出てくるような)処分はもっと厳しくすべき。
- ・給食費は集金にしてみてもどうか。弁当と給食の選択なども考えてみれば、給食のありがたさがわかると思う。
- ・問 26.27 に関して、①以外を回答する保護者がいるとすれば、その保護者そのものが問題であると思う。社会に出れば全員が平等ではなく、それに向かっていく努力、問題解決能力を養う場が学校であり、“平等”に対する誤解、錯覚が今の日本をダメにしていると思う。順番をハッキリさせないかけっこ、主役が複数の学芸会等は諸悪の根源であると思う。いいがかりをつけて要求を通そうとする自分勝手な親（人間）が多い。他人への思いやりも足りない人たちに憤りを感じている。親たちも少なくはないと思います。難しいところですが、他者をまずは認めるべきと思います。

8) 部活について

- ・部活で疲れ切り、休日も家族で過ごす時間がありません。遅くに帰って来て勉強（予習、復習）も出来ない状態です。部活も大切ですが、勉強出来ないほどの疲れ、日程は理解しにくい部分があります。
- ・部活の生徒が必ず加入するもので、通知票にも記録されるものでありながら先生方のボランティアで指導されているのを疑問に感じている。業務として対価を支払う性質のものではないか。
- ・中学校の部活動についてですが、学校によって活動、部数に差があるのではないかと。先生方にとっては、ボランティアになるのかもしれないが、それならば、その手当を出すとか、何か良い方法はないのでしょうか。子どもたちにもっと学力、芸術、スポーツ面で活動の場を与えてあげて欲しい。

9) 学校の適正配置について

- ・この周辺は子供の数が今ものすごく急増している。将来、この数が維持されるわけではないので、学校の作りが各学年3クラス対応でも仕方ないと思うが、それならもっと流動的に使える作りにした方がよいのでは。中学校も自転車通学も×で、教室もプレハブで、疲れきるのは目に見えているようです。子供のことは街づくりの中では二の次なのかと感じます。
- ・少子化の為、地域によっては人数が少なく、クラブ活動も充実していない。学区の見直しが必要ではないでしょうか。教員が子供たちに対する言葉づかい、子供たちに教育していく前に教員の教育が必要ではないでしょうか。

10) その他

- ・運動会で順位をつけないとか、同じ様なタイムの子を並べて走らせるなど、「公平」を重んじるあまり、子供を甘やかしすぎている様に思う。「失敗」や「くやしき」「不公平」から、子供は挫折を乗り越える力をつける事ができるのだと思う。
- ・子供の学力がおちている事が心配。体力も昔に比べ、おちている。それがあたりまえのようで子供達が何とも思っていないのが心配です。

(2) 一般市民調査

1) 教員について

- ・先生は子供の友達ではなく、あくまでも先生として接し、良い事と悪い事の少なくとも判断ができる子供にしていただきたい。力の弱い者に対する思いやりや、相手の立場に立った考え方ができるような教育を望みます。◆女性・40歳代・中央区
- ・私達の子供の頃は学校の先生と言うのは、絶対的に偉い、怖いと思っていました。今の時代、親も悪いのですが、先生達が、子供親に良く思われようとする(友達の)感じがする。悪い事

をした時はしっかり叱ってほしい。一人っ子とか子供が少ない分、親が甘くなり、子供達が恐いものが無くなっている。このような時こそ、先生達には強くなってほしいです。◆男性・60歳代・稲毛区

- ・教育者としてのモラルや姿勢の資質向上に期待します。保護者にきちんと向き合えるような自信ある教育者になって欲しい。◆女性・30歳代・花見川区
- ・退職しているベテラン教師をサポートにいて、教師の精神的な負担などケアすると思います。教師個人に対する負担、ストレスをなくし、余裕をもって子どもの指導にあたってほしい。◆男性・60歳代・花見川区
- ・形に当てはめるだけでなく個性を伸ばす教育を考えて欲しい。それはなんでも自由にすることではなく。先生の質の低下が非常に気になります。ものの考え方、とらえ方が狭いと感じています。子どもから見て尊敬や信頼が持てる先生は残念ながら少ないように見受けられます。◆女性・50歳代・花見川区

2) 教員の時間確保について

- ・教師の方々が雑事から開放され、本来の教育活動に専念できるような環境の整備が必要と思います。毅然たる態度で生徒や保護者に向き合う必要性を痛感します。そのような態度で望む教師をバックアップする態勢を作ることも重要です。◆男性・70歳以上・花見川区
- ・教師が多忙すぎでは仕事に専念できないと思う。まずは教師自身のゆとりを確保していくことが必要ではないだろうか。◆女性・20歳代・稲毛区
- ・先生が雑務で忙しすぎる点を感じます。その分子供達に目が行き届きにいくのではないのでしょうか。閉鎖的などころがあり、先生によっては、常識と離れてしまっている感じがする方がいらっしゃいます。◆女性・50歳代・花見川区
- ・学校の教員は日々仕事に追われています(事務作業の増加)。これでは大切な児童・生徒に接するための準備、余裕が生まれません。教員に対して、多くの研修や資格の継続を要求する前にそれが可能になる環境を整えるべきです。こんな現場の意見を取りこまないやり方はおかしい。◆男性・30歳代・稲毛区
- ・教員が疲れきっている感がしてならない。教員が本来の職務に専念できる環境作りをしないと本当に学校教育が崩壊してしまう。不良保護者への対処を先生に負担させない仕組みを考えてください。◆男性・50歳代・稲毛区

3) 授業時間について

- ・休日が多すぎて授業時間が短すぎる。土曜日でも半日位は学校があってもよいと思う。もっと勉強をさせないと、日本がダメになってしまう。子供は、やらせればできるのだから。◆男性・20歳代・稲毛区

4) 教育内容について

- ・小学校から英語教育など間違いである。まずは、日本人である国語力を身につける方が先である。「みえ」の教育になる。◆女性・20歳代・花見川区
- ・最近塾へ行っている子供が多く、授業を聞かなくても内容を理解している子供が多いと思うのだが、学校は塾へ行っていない子にもわかるような授業をして欲しいと思う。◆男性・40歳代・稲毛区
- ・マナーの悪い自分勝手な親の多い昨今、そんな親に躰が出来る訳もなく、又、自分の悪さも自覚していないと思います。子供には勉強よりも道徳、マナー、ルール、思いやりの心を教えて欲しいと思います。今やさしさが足りない、こんな事したらこうなるという想像力の欠如、学ぶ事の楽しさ、子供らしい心を取り戻せるよう考え直すべきだと思います。◆女性・40歳代・美浜区
- ・小さい間に命の大切さや人を思いやる気持ちについて学校教育を通してもっとしっかり教えるべきだと思います。それこそが、大人になっての犯罪を食い止める根本だと思います。◆男性・60歳代・花見川区
- ・社会に出て何が必要であるか分からない子供が多いので、小さい時から大きくなったら何の仕事をしたか目標を常に持ってそれに向かわせる事が必要だと思う。常に目標を持たせる事が大事だと思う。◆男性・60歳代・花見川区
- ・誰かに質問すれば教えてもらえると思ってしまわないよう、自分で考える力を養わせてあげられればと思います。テストの答えのように、解答が1つではなく、色々な答えや考え方があることを教えてあげられると良いと思う。◆女性・20歳代・花見川区

5) 家庭と学校の役割分担について

- ・子どもが学校に行った以上、ある程度のことは、教育は先生に任せているので、小さいことで保護者は、あまり不平を言うべきでない。先生も活動しにくくなる。◆女性・20歳代・花見川区
- ・学校は保護者に対してきざんとした態度を持ち無理な要求は受け入れないこと。家庭教育がいかに大切か親に教えてほしい、基本は家庭にあり無責任な親が多すぎる。しつけは両親の仕事、学校は学ぶところである。◆女性・60歳代・若葉区
- ・給食費未払い等、親のモラルの低下が子供に悪影響を与えていると思います。子供に食事や睡眠もいい加減な人は、子供のマナーや社会ルールまで関心を持って家庭生活をされているか疑問に思います。基本的な生活習慣は学校でなく、家庭の役割であると思います。◆女性・40歳代・緑区
- ・基本的に子供を教育する分担は、「一般的しつけ」「社会的道徳性」「順法精神」「日本文化」等は親(家庭)の責任、義務教育の学校で学ぶ事は、「国語力」「計算力」「自然科学」等で将来、専門的分野及び社会人になった時必要な知識、学問を学ぶことができる基礎学力を習得する場であると思います。◆男性・60歳代・若葉区
- ・子供の教育の基礎は家庭、その上で学校教育があると思います。現状では、家庭も壊れてい

る方が多く、家庭教育を学校に押しつけている様感じます。学校は父兄とのトラブルを恐れて無力になってしまいました。残念です。子供と家族の信頼をとり戻して欲しいです。◆女性・60歳代・花見川区

- ・家庭で身につけるべきことを学校に任せ、学校で習得すべきことが備わっていないため、社会がそのしわ寄せを食らう。問14は大変意味深い質問であり、家庭、学校、社会（企業、その他）が負うべき役割がぼけてきている昨今、学校と親との交流を通じて（子どもが幼児の段階で）これをしっかり確認しあうことが大事ではないか。そのため民間人の起用（セミナー等）を積極的に行うべき。最近の教員の心理的負担は尋常でないと思料します。◆男性・40歳代・花見川区
- ・学校は全てにおいて教育の場ではないと思います。徳に道德教育等においては、子どもの頃から家庭内の中から身に付けていくことが大事だと思います。現代の日本（世の中）はあまりにも全てにおいて裕福になりすぎて物事を考えることがかけています。これから先日本はどうなっていくのですかね。◆男性・70歳以上・稲毛区
- ・今の子ども達を見ていると、自分のことばかりで他人への優しい思いやりの心がないのにはびっくりです。子どもは小さいときからのしつけが大切だと思いますが、子どもをもっと厳しく育て、やさしい心に育てるのは親の役目ではないでしょうか。◆女性・60歳代・緑区
- ・最近の個人主義のせいか、自分勝手すぎる親が増えていると感じる。その一方で昔のように信頼できる教師が少なくなっているように思える。双方の力関係が偏り、信頼関係が薄れてきているようなので、お互いが子ども達のことをより考え、歩み寄ることが大切かと思われる。◆女性・40歳代・花見川区
- ・子どもの基本的な人格は家庭が築くべきであって、学校はそのフォローをする役目と考えています。◆男性・50歳代・稲毛区

6) 学校・行政に期待すること

- ・教員の質を向上させることは重要だと思う。ただ、全ての問題を学校側におしつけるのではなく、地域社会も一緒に解決にむけとりくむことは大切。子供の学力の向上も重要だが、一社会人として社会に自信をもって出られるようにさせてあげることのほうがもっと重要だ。◆女性・20歳代・若葉区
- ・イジメはいつの時代も無くならないものと思いますが、学校側も隠すのではなく、公表していてももらわないと、今の学校の状況が一般には伝わりにくいと思います。公表することによって、関心を持って考える人が増えるのではないのでしょうか。◆女性・30歳代・若葉区
- ・学校側は常に教育の現状や問題等を保護者たちに説明できるように努力してほしい。また、子ども達の個性や可能性をつぶさず、どんどん引き伸ばしていける体制をとっていく必要があると思う。◆女性・30歳代・中央区
- ・学校ばかりに、しわ寄せが行きすぎている気がする。文句を言う、払わない親は(子供は別なので難しいが)義務教育の意味を履き違えている。日本に生まれただけで、受けさせてもらえることをありがたく思うならあり得ない。メディアにより、一握りの悪の為に教師への批判は考えられない。教育委員会や文部科学省の熱意のある人材の採用と教育を管理してしまう体質

を見直し、学校をもっと強いものにすべき。現場の教員・学校を飛び越え「教員委員会」へどなり込むような（深刻な場合は別です。）親にぺこぺこするのはおかしい話で、親や大人への信号を出せる子供に育てるもしくは受け入れる環境を。そういう時こそ、学校と親が協力して子供を守るべきなのに、お互い押しつけあうようでとても悲しい。教師を師と尊敬し、親と子とトライアングルの信頼関係が不可欠だと思います。アンケートをとって終了ではなく、反映し熱意のある優秀な教育委員会の方々は、堂々と社会のモラルを立て直すべく頑張ってください。そして大切な未来の為に、子供たちをお願いします。◆男性・60歳代・稲毛区

- ・家庭、教育者、地域住民が協力し子供を育てることこそ、本来の姿であり近年保護者の過保護、地域住民の非協力が（隣の人何する人ぞ的な）あったからこそ、教育者が最もご苦労したと思う。教育者は1つの信念を持って、無理難題な要求に対し出来ないものは出来ないとはっきり言うべきである。組織で対応し、一教員の責任としない事を望む。教員者あつての生徒です。頑張ってください。◆男性・60歳代・花見川区

7) 社会的な問題について

- ・自分の子供が可愛いのは分かるが、それがただの過保護であったり、家庭内で学ぶべき事の教育を怠っている方達に限って学校に対しての過剰要求があったりと。文句は言うが、親という立場で厳しい姿を見せず、「優しい親」になりがちなのが。『優しさのはき違い』をしている親が多い中、学校での教育をするというのは容易ではないと思いますが、やはり良き未来は子供達が背負っていくものなので、最低ラインの社会的マナーなどが出来る子供達を育てて下さい。◆女性・30歳代・美浜区
- ・子供が万引きして親を呼ぶと、あやまるどころかひらきなおる、とか給食費を払わないとか、親がみんな悪い。「見てみたい親の顔より親の親」という川柳があるけどそのとおり。学校だけではどうにもならない。親を教育しないとイケない。◆男性・50歳代・中央区
- ・学校側が家庭側にすごく気を使っている気がする。給食費にしてもあきらかに払わない方が悪いのになぜもっと厳しくしないのか。体罰は困るが愛情のある厳しさならば どんどん叱って厳しくしてほしい。親より他人の方が叱られれば子供はきくし印象に残るはず。私も厳しい先生のほうがなつかしいです。◆女性・30歳代・中央区
- ・先生にもっと権力を持って貰いたい。自分の子供に何か不都合な事が起きるとすぐ教育委員会に訴える保護者がいると聞きますが、とんでもないことだ。女性・60歳代・花見川区
- ・給食費の問題は社会の社員食堂のようにチケット制にすればよいと思う。又弁当にしてはどうだろうか。◆男性・30歳代・若葉区

8) 学校の適正配置について

- ・学校は子どもひとりひとりの能力を伸ばし育てることなので、子どもによく目が届くよう学級の人数を適正にし、指導者の配置をして欲しい。それには教育予算を増やすようにすべきだと思う。◆女性・40歳代・緑区
- ・小中学校の統合問題を地域全体にわかるように説明してほしい。これから学校へ入る市民が統合問題を人づてにしか知らないのはおかしいと思う。うわさばかり耳にして、どれが正し

いことなのか、困惑している。◆女性・30歳代・美浜区

(3) 教員調査

1) 教育環境について

- ・教職員の平均年齢が高くなってきた最近、教員どうしが共通理解しなくても教育活動が進む現状があるが、学年や学校の課題や目標を達成するために、一致団結し、話し合い、教育活動に当たることが大切と思う。◆男性・40歳代後半
- ・教育に対する批判や教師バッシングを見て若い教員がやる気をなくさないかと心配。私の学校の先生方を見ていると、本当によく頑張っている。この先生方が報われるような社会であり、地域であって欲しいと願っている。◆男性・50歳代後半
- ・予算と人材がまず必要。教員の資質の向上のためには常に研修が必要だと思うが、そのためには各種研究大会や、研修会に参加できる予算（出張旅費）と人（代替教員、授業をやってくれる人）が必要である。学び続ける人こそが教える価値があり、魅力的な教員に教わることが、心豊かな子どもを育てることにつながっていくと思う。◆男性・40歳代後半

2) 教員自身の時間確保、教員増について

- ・少人数指導をもっと拡大して、高学年、中学校をもっと細かくみてあげられると良いと思います。サポートの必要な子は大変多い。絶対的な人員がもっと増えれば、いろんな指導も行き届くのにと思う。（毎日こちらが心身共にいっぱいいっぱいな状態で、満足な教育ができるわけがないのに）◆女性・40歳代後半
- ・昔から教員は現場で育つと言われてきたが、新卒（若い）の教員の時間的なゆとりが少なく、教員間の情報交換や交流がかなり減ってきていると思う。保護者との対応の仕方なども何気なく教えられ、学んできていたが、現在はあまりできない。ゆえに若い教員が保護者との対応に悩む一因となっていると思う。◆女性・50歳代後半
- ・放課後の時間（事務処理、教材研究、学年会等）が確保されないことが多忙の原因となっている。◆男性・30歳代後半
- ・様々な教育活動を進めていく上での優先課題は教職員を増やし、一人の持ち時間数にゆとりを持たせることである。特に中学校は制度を変えて教科で職員を配置するようなことを考えて欲しい。◆男性・50歳代前半
- ・毎日忙しく時間に追われ、十分子ども達と話をする時間がとれません。昔は昼休み子どもたちと一緒にボール遊びをしていた頃が夢のようです。どうしてこんなふうになってしまったのでしょうか。教員に”ゆとり”が必要だと感じています。◆女性・50歳代前半
- ・子どもの問題が多様化してきている中、職員は時間外勤務、休日出勤はあたりまえ、寝る時間もなく対応していることも少なくありません。精神的にも、身体的にも心配です。問題は少ないと言われる小規模校でも、様々な問題があり、特別支援の必要な子の増加、転入生は特別に支援の必要な子が多かたり不登校だつたりと、職員の手が足りません。出張のあるときは特にです。職員の数を増やして欲しい。何とか増やせないのでしょうか。◆女性・

30 歳代後半

- ・「教育を大切にす」裏づけとなる予算、人員を。◆男性・50 歳代後半

3) 指導力について

- ・基本的に子ども達が変わってきたとは思わない。学び方に関するルールや生活するうえでのルール・マナーを指導し、良し悪しについて評価すれば安心して学校生活を送っている。ただし、それをしようとする教師が増えていると思う。◆男性・40 歳代後半

4) 部活動について

- ・部活動指導など勤務時間を越えてのボランティアがあまりに多いと思う。社会体育として、教員の仕事からはずして欲しい。あるいは給与面での考慮があるべき。勤労意欲を落とす昨今の現状が嫌になる。◆男性・40 歳代前半

5) 保護者の問題について

- ・保護者が非常識になりつつあります。もっと相談できる場所が欲しいです。◆女性・30 歳代後半
- ・最近の保護者の身勝手さには驚かされるばかりです。特に一年生の保護者に学校を理解してもらおうことが、児童の指導よりも大変なことがあります。これからますますこの傾向が強くなっていくでしょう。その場合若い教員では一年の担任は難しいなと感じています。◆女性・50 歳代前半
- ・子どものよりよい成長を望むには保護者の協力なくしては難しい。教育に関して保護者の意識を変えていかなければよくなるのではないかと思うことが、最近(前校)多々あった。保護者も子どもであったりすることもあるので、親として育てて欲しい。また、学校としてそのためのよい方法はないものかと考えている。◆女性・50 歳代前半
- ・保護者と学校と地域のコミュニケーション不足を感じます。家庭教育と学校教育が混同してしまっていて、学校の責任に何でもする保護者の増加を感じます。◆女性・30 歳代後半

6) 学校の適正配置について

- ・小規模校という現実の姿を目の前にして、①子ども相互の人間関係の固定化、②競い合い、磨き合い、深め合う学習や活動の不足、③序列化などに日々拙い取り組みですが、努めているところです。できれば複式学級には非常勤の方であってもかまいませんので対応していただければと思っております。◆男性・30 歳以下
- ・同じ市内の学校でも地域によって規模(児童数)に大きな差がある。学校教育を進める上で、望ましい規模となるよう学区割の見直しが必要なように思える。◆男性・50 歳代後半
- ・児童数が多い学校は空き教室もなく、不自由な点が多い。学区の見直しや選択できる地域を増やしても良いと思う。多人数の校外学習は予約面等で不公平を感じる。宿泊の予約など希望通り行かないことがある。◆女性・40 歳代後半

- ・特別支援の必要な子どもが増えてきている。生徒指導等で教室を空けることもあったりする。できるだけ一人一人に目が届くようクラスの人数を30人にしてもらいたい。学校カウンセラーや少人数指導など教員の人数も確保してもらいたい。◆女性・40歳代前半

7) その他

- ・公立小中学校は子どもや保護者が学校を選択できないなら、特色を求めるより、どの学校でも同じような教育が受けられるようにすべきである。◆男性・40歳代前半
- ・行政の教育に対する理想のみが先行していて、現場は振り回されている。将来的なビジョン（予算面も含めて）を持っていただきたい。◆男性・40歳代後半

IV. 調査結果のまとめ

1. 千葉市の目指すべき子どもの姿	
調査の結果	<ul style="list-style-type: none"> ○「育みたい子ども像」について、保護者、市民、教員ともに「人を思いやる心を持っている人に育まれてほしい」とする回答が最も多かった。 ○子ども自身が抱く将来像では、小・中学生では「友だちや仲間がたくさんいる人」、高校生は「自分らしさを持っている人」の回答が最も多かった。
調査結果からみえること	<p>○「育みたい子ども像」として、保護者・市民・教員ともに、「人を思いやる心をもった人になってほしい」と回答した割合が極めて高くなっている。また、「最後まであきらめない人」や「困難を乗り越えられる人」になってほしいとの思いも共通している。</p> <p>子ども自身が描く将来像については、小・中・高校生で傾向に違いは見られるものの、「友達や仲間がたくさんいる人になりたい」「自分らしさを持った人になりたい」としている割合は、共通して高くなっている。また、「夢を実現するために、最後まであきらめない人」等を挙げた割合も比較的高い。</p> <p>一方、「リーダーとして活躍する人」や「海外で活躍する人」、「新しいことに取り組もうとする人」を挙げた割合はかなり低くなっており、消極的な傾向が見られた。</p> <p>このことから、子ども一人ひとりが自分の思いや考えを持つとともに、夢や希望を見出し、それらを実現していくことの喜びを実感できるような教育を進めていくことが大切である。</p>
2. 確かな学力	
調査の結果	<ul style="list-style-type: none"> ○「学校に期待すること」について、大人と子どもの傾向に意識の差が見られた。確かな学力面では、大人は「基礎的なものの見方や考え方を養う」ことについて期待が高い。また高校生で「基礎的な知識をしっかりと教えてほしい」が上位になっていることが、特徴的であった。 ○「子どもの印象」において、「好奇心」については、他の項目と比べるとそれほど低くはなかった。また「学習する態度が身に付いている」については他の項目と比較して大人と子どもの意識の差が小さいことが特徴的であった。 ○「勉強する理由」について、「勉強が好きだから」の回答率が低い。 ○小・中学生の「教わりたい先生」は「わかりやすく授業してくれる先生に教わりたい」という意識が最も高かった。
調査結果からみえること	<p>【確かな学力】の育成・【学習意欲の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○保護者・市民が「学校に期待すること」として、「数学的見方・考え方や科学的見方・考え方を育てること」、「読書に親しませ、国語の基礎的な能力を養うこと」を挙げた割合が極めて高くなっている。このことから、保護者・市民は、様々な学びの基礎となる「ものの見方・考え方の育成や国語力の育成」などを学校に期待していることが窺える。 ○児童生徒が「学校に期待すること」として、「コンピューターを使った授業」等を挙げていることから、授業を行うに当たっては、こういった子どもたちの思いも考慮しながら、指導方法を工夫していく必要がある。 ○小学生～中学生～高校生と年齢が高くなるにつれて「基礎的・基本的な能力を身に付けさせてほしい」と考える割合が上昇している。また、「勉強する理由」について、「高校や大学に行きたいから」「わからなかったことがわかるようになるから」「将来役に立つから」など、自分なりの考えを持っている。一方、同じく「勉強する理由」について「勉強が好きだから」と回答した割合は、小・中・高校生ともに極めて低く、「学習する態度が身に付いている」とした割合や「好奇心」についても年齢が進むにつれて低下している。これらのことから、学習意欲の向上に当たっては、勉強そのものの楽しさやよさを味わえるような指導の工夫、発達段階を考慮した「好奇心を引き出していく指導」などを一層充実させていく必要がある。 <p>【授業の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○子どもは教員に対し「わかりやすい授業」を最も期待している。子どもが「わかった、できた」と思える授業づくりや一人ひとりに応じたきめ細かな指導等とおして、学習意欲の一層の向上と基礎基本の定着を図っていく必要がある。

3. 豊かな心	
調査の結果	<p>○「どんな子どもになってほしいか」について、保護者・市民・教員ともに「人を思いやる心を持っている人」に育まれてほしいと考えていることが明らかとなった。</p> <p>○「マナー意識」について、年齢が上がるにつれ「規範意識」が低下する傾向がみられた。特に小学生と中学生の間に意識の違いが明らかとなった。</p> <p>○「自分の将来像」について、「リーダーとして活躍したい」「社会の役に立てる人になりたい」の回答率が低かったのが特徴的であった。</p> <p>○子どもの「悩み」の実態について、中・高校生の「悩み」は「進学」「勉強」であった。相談相手について見ると、小学生は「親」、中・高校生は「友だち」とする回答が多かった中、相談相手がいないとする回答も6%前後あったことが注目される。</p>
調査結果から見えること	<p>【道徳教育等の充実】</p> <p>○「学校に期待する取組み」（前ページ掲載）について、保護者、市民ともに「道徳観や社会のマナー・ルールを身につけさせる」、「公正な判断力を身につけさせる」と回答している割合が比較的高くなっている。また、「育みたい子ども象」では、「社会のルールやマナーを守れる子どもになってほしい」とする市民・教員の割合が高くなっている。一方、子どもの意識として、小・中・高校生と年齢が進むにつれてマナー意識に低下傾向が見られる。こういったことから、道徳教育をはじめ、様々な交流活動や自然体験活動等とおして、思いやりの心の大切さを学び取らせるとともに、規範意識や公共心をより一層育む取組みを充実させていく必要がある。</p> <p>【キャリア教育の充実】</p> <p>○自分の将来について、「リーダーとして活躍する人」や「社会の役に立てる人」、「新しいことに取り組める人」になりたいと回答している割合が低いことや、「勉強する理由」について、中・高校生においても「やりたい仕事があるから」や「立派な大人になりたいから」とする割合が低いことから、子どもたちが将来への夢や希望を持てるような取組みを進めていくことが大切である。そのためには、キャリア教育をおして、「働くこと」への関心や意欲の向上を図るとともに、発達段階に応じた指導を行う必要がある。</p> <p>【情報モラル教育の推進】</p> <p>○小・中学生では、コンピューターを使った授業をしてほしいという意識が高い（「子どもが期待する学校の取組み」調査結果）が、携帯電話の使い方などのマナー意識が低いことや、メディア上の有害情報に端を発する様々な問題が生じていることから、情報通信の発達による負の部分に対応した教育が必要である。</p> <p>【教育相談の充実】</p> <p>○「子どもの悩み」について、小学生では「悩みはない」とする割合が4割を超えている。一方で、勉強や将来のこと、友達のことなどで悩んでいる子どもも多く、また、「相談相手がいない」とする小・中・高校生も少数ながらいることから、教育相談の更なる充実が望まれる。</p>
4. 体力の向上	
調査の結果	<p>○学校に期待する取組みの中で、小・中学生はスポーツに関する取組みを期待している。また、保護者・一般市民も「体力を養い、心身ともに健康な体をつくる」ことを学校に期待している。</p> <p>○体力面に関する「子どもの印象」において、教員・一般市民は「子どもは体力がない」という回答が多いが、子どもに対する調査では「体力がある」という回答が多かった。子どもと教員等の間に意識の違いが見られた。</p>
調査結果から見えること	<p>【規則正しい生活習慣の定着】</p> <p>○規則正しい生活をしていると感じているかどうかについては、大人と子どもとの意識に差が見られる。特に市民や教員の肯定的な回答の割合が低く保護者も他の調査項目に比べると低くなっている。</p> <p>このことから、学校と家庭との連携をもとに、規則正しい生活習慣について、子どもたちに意識化を図り、実践化できるようにしていくことが大切である。</p> <p>【体力の向上】</p> <p>○スポーツや体を動かすことが好きだと感じている子どもは多く、運動すること自体を敬遠している様子は見られない。一方、実態として放課後や休日にスポーツをして過ごしている子どもが少ないことや、教員の多くが「子どもの体力が低下している」と捉えていることから、運動することの楽しさをより一層味わわせたり、進んで体を動かす習慣を身につけさせたりすることにより、運動に対する意欲を高め、体力の向上を図っていくことが大切である。</p>

5. 教員の資質向上	
調査の結果	<ul style="list-style-type: none"> ○「教員の資質向上に必要なこと」について、保護者・一般市民では「意欲や熱意のある人材の採用」の回答が最も多く、教員は「教員が授業に集中できるような環境の整備」の回答が最も多かった。その中で、「民間人等多様な人材の採用」「他業種への派遣研修の充実」の回答が比較的低かったのが、特徴的であった。 ○「日々の業務に感じていること」を経験年数別にみると、他の層と比較して20年以上30年未満の層がより不安等を抱えている傾向が見られた。 ○「日々の業務に感じていること」を学校別にみると、小学校よりも中学校・高校の方が不安等をより感じている傾向が見られた。
調査結果からみえること	<p>【意欲ある教員の育成と確保】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「教員の資質向上に必要なこと」として、「意欲や熱意のある人材の採用」を挙げた割合が、保護者・市民ともに最も高くなっており、教員も9割以上となっている。また、「採用面接の重視」や「新任研修の充実」を挙げている割合もかなり高いことから、教職員インターンシップの更なる充実等により、意欲ある教員を育てるとともに、優秀な教員の確保に今後も一層努めていく必要がある。 <p>【研修の充実】・【教員が子どもの指導に専念できる環境づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「教員の資質向上に必要なこと」として、保護者・市民の約8割が「一定期間ごとの研修の実施」を挙げているのに対して、教員は5割以下となっている。一方で、教員の9割以上が「教員の資質向上に必要なこと」として、「授業に集中できるような環境の整備」を挙げている。また、特に若年層に「授業準備や教材研究等に費やす時間が取れない」と感じている割合が高いことや、経験20年以上の教員に「教育的支援を必要とする子どもが多くなり対応に苦慮している」と回答した割合が高くなっている。さらに、経験年数20年以上30年未満の層で、不安等を抱えている割合の高い項目が多いことも明らかになった。これらのことから、いわゆるベテラン教員を対象とした研修をはじめ、教員のライフステージに応じた研修の内容や方法について、さらに工夫・改善を図り、意欲的に研修に取り組む中で指導力や資質の向上が図れるようにしていくことが大切である。同時に、教員が、授業等子どもの指導に専念できるよう何らかの改善を図っていく必要がある。
6. 教育環境の充実	
調査の結果	<ul style="list-style-type: none"> ○保護者の感じる「施設充実度」に関して、中学校についての肯定的な回答の割合が小学校と比べ低くなっている。保護者の学校教育に対する満足度が、小・中学校ともに比較的高いのに比べ、学校施設については全体としての評価が低くなっている。 ○学校教育に対する満足度を規模別にみると、小学校は大規模校の満足度が低く、中学校では小規模校の満足度が低いことが明らかとなった。
調査結果からみえること	<p>【学校の施設設備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○施設設備について、「充実している」と受け止めている保護者の割合が全体的に低く、小学校に比べ中学校での肯定的な回答の割合が低くなっている。各学校の築年数等による校舎の現況に関する印象が、回答に反映しているものと思われる。 <p>【子ども一人ひとりへの教育的支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教育的な支援を必要とする子どもが増加しており、子どもの意識も保護者の意識も多様化しているため、教員が子どもにどう対応していいのかが苦慮している面が伺える。（「教員が日々の業務に感じていること」の調査結果より）また、「学校が今後取り組むべきこと」として、保護者や市民の9割以上が、「授業の質の向上や問題行動への対応などには、教員個人だけではなく学校全体で取り組むようにする」と回答していることから、学校運営の組織化等をさらに進めていくことが大切である。

7. 学校・家庭・地域の連携	
調査の結果	<ul style="list-style-type: none"> ○「学校・家庭・地域」の役割分担に関する意識について、学校：「学びの場」、家庭：「基本的な生活習慣や忍耐力を育む場」、地域：「ルールやマナーを守らない子への注意」「子どもへの挨拶・声かけ」など。「地域でできること」については、回答率に特に低い項目がなかったのが特徴的である。 ○「学校が今後取組むべきこと」として、「地域との連携を深める」の回答率が74%あった。 ○一般市民・教員とも「学校と地域とのかかわり合いを進めていく」（肯定的意見）とする回答率が高かった。
調査結果からみえること	<p>【学校・家庭・地域の役割の確認と連携の強化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○役割分担において、家庭と学校の役割については、保護者・市民・教員間に、意識の一致が見られる。また、地域の役割については、「ルールやマナーを守らない子どもへの注意」や「地域の子どものあいさつや声かけ」、「学区の安全を守る巡回活動への協力」を挙げた保護者・市民が多い。 ○保護者は、家庭と学校の役割をある程度認識しているが、学校でもマナー教育やしつけを行ってほしいという声も比較的多い（「学校に期待する取組み」の調査結果から）ことから、この点も含めて、学校と家庭の役割について、様々な機会や場を通じて再確認を行うとともに、学校と家庭、地域が連携して教育に当たれるような環境づくりが必要であると思われる。 <p>【学校・家庭・地域が一体となった教育活動の推進と特色ある学校づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○保護者、市民調査の「学校が今後取組むべきこと」では、「地域との連携・協力を一層深め、地域の教育力を生かした学校づくりを進めること」や「子どもの実態に応じた学校づくりを進めること」が7割以上となっている。また、「これまで以上に特色ある学校づくりを進めること」とする保護者の回答も6割を超えている。 <p>このことから、学校・家庭・地域が一体となった教育活動の推進や、地域特性や学校の実態等を踏まえた、着実な教育活動の一層の展開が期待される。</p> <p>【学校支援に向けた学校・家庭・地域の連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「地域でできること」について、子どもへの声かけや注意、安全の見守りだけではなく、「特技や能力を生かした授業への協力」や「学校行事への参加」、「クラブ活動・部活動などの指導の協力」を挙げている保護者、市民もそれほど高い割合ではないものの、2割～3割程度いる。また、「学校と地域のかかわり合いをますます進めるべき」と考える市民も多い。このことから、様々な面で保護者や地域が学校の取組みを支援していけるような、学校・家庭・地域の連携のあり方について検討していく必要がある。

V. 調査票

1. 小学生調査

千葉市の学校教育に関する アンケート

千葉市では、みなさんが通っている学校をより良くしたいと考えています。そのために、みなさんの考えを知りたいので、アンケートを行うことにしました。

この用紙に書いてある質問をよく読んで、あなたの思ったことを答えてください。

これはテストではありません。自分の思った通りに回答してください。もし、わからない言葉や漢字があったら先生に聞いてください。書き終わったら、この用紙を封筒に入れ、先生に渡してください。

平成19年9月

千葉市教育委員会

【 答 え の 書 き か た 】

- ・ あてはまる番号に○をつけてください。○をつける数は、質問の最後に書いてあります。
- ・ 「そのほか()」に○をつけたときには、()の中に、その理由や思ったことを書いてください。
- ・ この用紙には、自分の名前を書かないでください。

問1 あなたの性別について、あてはまるものを選んでください。(○は1つだけ)

1. 男子

2. 女子

問2 あなたの通っている学校名と学年を教えてください。

千葉市立 _____ 小学校 _____ 年生

問3 あなたの学校までの通学距離はどうか。数字に○をつけてください。(○は1つだけ)

とても 近い	近い	どちらで もない	遠い	とても 遠い
1	2	3	4	5

学校生活についてお聞きします

問4 学校生活は楽しいですか。あてはまるものを選んでください。(○は1つだけ)

- | | |
|--------------|------------|
| 1. 楽しい | 2. まあまあ楽しい |
| 3. あまり楽しくない | 4. 楽しくない |
| 5. どちらともいえない | |

問5 学校生活についてどのように感じていますか。あなたの考えに近いものをそれぞれ選んで下さい。(○は1つずつ)

		そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	どちらかといえばそう思わない	いそう思わない
1.	勉強がおもしろい	1	2	3	4	5
2.	友だちと仲良く遊んでいる	1	2	3	4	5
3.	運動会や学校の外での行事(遠足や自然学校など)が楽しい	1	2	3	4	5
4.	クラスの係や委員会活動が楽しい	1	2	3	4	5
5.	楽しい先生がいる	1	2	3	4	5

問6 あなたが勉強する理由は何ですか。次の中から特に自分の考えに近いと思うものを選んでください。(○は2つまで)

1. 新しいことを知ることができるから
2. わからなかったことが、わかるようになるから
3. 立派な大人になりたいから
4. 高校や大学にいきたいから
5. やりたい仕事があるから
6. 将来何かの役に立つと思うから
7. 勉強が好きだから
8. 先生や親から勉強しなさいと言われるから
9. 友だちに負けたくないから
10. そのほか()
11. わからない

問7 これからの学校で特にしてほしいことは何ですか。次の中から選んでください。

(○はいくつでも)

1. 読み書き計算などをしっかり教えてほしい
2. 授業によってクラスの人数を少なく分けたりしてほしい
3. クラスの一人ひとりにていねいに教えてほしい
4. 「総合の時間」をもっとたくさんしてほしい
5. 自分の学校だけにしかない、特色ある活動をしてほしい
6. 英語の授業や、外国人の先生の授業をたくさんしてほしい
7. パソコンなどのコンピューターを使った授業をしてほしい
8. 悩みがあるときに、気軽に相談できる専門の先生がいてほしい
9. 読書活動をたくさんしてほしい
10. 苦手なスポーツをできるようにしてほしい。
11. 地域の人が学校にきて、色々なことを教えてほしい
12. そのほか ()
13. 特にしてほしいことはない

先生のことについてお聞きします

問8 あなたは、学校において先生がどのような対応をしていると感じていますか。あなたの考えに近いものをそれぞれ選んでください。(○は1つずつ)

		そう 思う	どちらか いえばそう 思う	どちらとも いえない	ない	どちらか い えばそう 思わ ない	そう 思わ ない
1.	先生はわかりやすく教えてくれる	1	2	3	4	5	
2.	先生は放課後や休み時間に、よく話をしてくれる	1	2	3	4	5	
3.	先生はきまりをきちんと教えてくれる	1	2	3	4	5	
4.	先生はあなたのことを理解してくれる	1	2	3	4	5	
5.	先生は話によく耳をかたむけてくれる	1	2	3	4	5	
6.	先生は自分のことを信頼してくれている	1	2	3	4	5	

問9 あなたが教わりたい先生はどのような人ですか。次の中から選んでください。(〇は3つまで)

1. わかりやすい授業をしてくれる
2. 社会のきまりや守るべきことを教えてくれる
3. 自分たちのことをわかってくれる
4. やる気にさせてくれる
5. 誰にでも公平に接してくれる
6. 何でもいっしょになってやってくれる
7. 放課後や休み時間に、よく話をしてくれる
8. 自分の目標や手本になってくれる
9. 何でもよく知っている
10. クラスを楽しいふんいきにしてくれる
11. そのほか()
12. わからない

あなた自身のことについてお聞きします

問10 あなたが悩んでいることや、気がかりなことは何ですか。次の中から選んでください。(〇はいくつでも)

1. 友だちのこと
2. 学校のこと
3. 勉強のこと
4. 家族のこと
5. 将来のこと
6. からだのこと
7. 異性のこと
8. そのほか()
9. 悩みはない

問11 あなたは悩みや不安なことや、自分だけでは解決できないことがあるとき、誰に相談しますか。次の中から選んでください。(〇はいくつでも)

1. 親
2. 兄弟姉妹
3. 祖父母
4. 親戚の大人
5. 学校の先生
6. 友だち
7. 近所の人
8. 塾や習い事の先生
9. インターネットを使って
10. 教育センター
11. 養護教育センター
12. 電話相談ダイヤル
13. そのほか()
14. 相談する人がいない

問12 あなたは自分自身のことで次のことについてどう感じたり、考えたりしますか。あなたの考えに近いと思うものを選んでください。(○は1つずつ)

		そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	どちらでもない	えはそう思わない	そう思わない
1.	明るく元気だ	1	2	3	4	5	
2.	友だちに自まんでできるよいところをもっている	1	2	3	4	5	
3.	やさしさや思いやりがある	1	2	3	4	5	
4.	やる気がある	1	2	3	4	5	
5.	自分の気持ちをコントロールできる	1	2	3	4	5	
6.	ねばりづよく、最後までやりとげる	1	2	3	4	5	
7.	まじめに取り組む	1	2	3	4	5	
8.	自分の気持ちを相手にうまく伝えられる	1	2	3	4	5	
9.	スポーツなど体を動かすことが好きだ	1	2	3	4	5	
10.	自分でものごとを決められる	1	2	3	4	5	
11.	みんなの役に立ちたい	1	2	3	4	5	
12.	社会のきまりや約束したことを守っている	1	2	3	4	5	
13.	仲のよい友だちがいる	1	2	3	4	5	
14.	食事や睡眠など、規則正しい生活をしている	1	2	3	4	5	
15.	自分で考え、何かをつくりだすのが得意だ	1	2	3	4	5	
16.	家で勉強する習慣がある	1	2	3	4	5	
17.	家族のことを理解している	1	2	3	4	5	
18.	家族は自分のことを理解してくれている	1	2	3	4	5	

問13 あなたは、次のことを友だちがすることについてどのように思いますか。あなたの考えに近いと思うものを選んでください。(○は1つずつ)

		う よ く な い と 思	べ つ に か ま わ な い と 思 う	わ か ら な い
1.	約束やルールを守らない	1	2	3
2.	電車の中で騒ぐ、床に座り込む	1	2	3
3.	電車の中で、携帯電話を使う	1	2	3
4.	注意されると無視したり、反抗したりする	1	2	3
5.	友だちの悪口を言ったり、いじめたりする	1	2	3
6.	遊ぶために夜遅く出かける	1	2	3

学校以外での過ごし方についてお聞きします

問14 あなたは放課後や学校がお休みのときに、おもにどんなことをしていますか。次の中から特にあてはまるものを放課後と休日、それぞれ3つずつ選んでください。

	放 課 後	休 日
学校の宿題や予習・復習などの勉強をする	1	1
塾や習い事に通う	2	2
家の手伝いや決められた仕事をする	3	3
テレビやマンガをみたり、ゲームやインターネットをしたりする	4	4
携帯電話や電子メールで友だちと話す	5	5
スポーツや遊びで体を動かす	6	6
外出して友だちと過ごす	7	7
読書をする	8	8
家族といっしょに過ごす	9	9
ひとりでんびりと過ごす	10	10

問15 あなたは学校がある日は、朝、何時ごろ起きることが多いですか。もっとも近い時間をえらんで数字に○をつけてください。(○は1つだけ)

5時 より前	5時 ごろ	5時半 ごろ	6時 ごろ	6時半 ごろ	7時 ごろ	7時半 ごろ	8時 ごろ	8時 より後
1	2	3	4	5	6	7	8	9

問16 あなたは学校がある前の日は、夜、何時ごろ寝ることが多いですか。もっとも近い時間をえらんで数字に○をつけてください。(○は1つだけ)

9時 より前	9時 ごろ	10時 ごろ	11時 ごろ	12時 ごろ	1時 ごろ	2時 ごろ	2時 より後
1	2	3	4	5	6	7	8

問17 あなたは朝ごはんを食べていますか。あてはまるものを選んでください。(○は1つだけ)

1. 毎日食べている
2. 週に5～6日食べる
3. 週に3～4日食べる
4. 週に1～2日食べる
5. 朝ごはんは食べない →問19へ

問18 問17で「1. 毎日食べている」、「2. 週に5～6日食べる」、「3. 週に3～4日食べる」、「4. 週に1～2日食べる」を選んだ方にお聞きします。

朝ごはんを誰だれといっしょに食べる人が多いですか。あてはまるものを選んでください。(○は1つだけ)

1. 自分ひとりだけで
2. 兄弟姉妹きょうだいしまいといっしょに
3. 親といっしょに
4. 家族みんなでいっしょに
5. そのほか ()

将来のことについてお聞きします

問19 あなたは、将来どんな大人になりたいですか。次の中からあてはまるものを選んで○をつけてください。(○は4つまで)

1. 自分らしさを持っている人
2. 常に努力をする人
3. 新しいことに取り組もうとする人
4. 困難を乗り越えられる人
5. 健康で体力に自信がある人
6. 社会のきまりを守る人
7. 得意なことをたくさん持っている人
8. 夢を実現するために、最後まであきらめない人
9. 友だちや仲間がたくさんいる人
10. 人を思いやる心を持っている人
11. リーダーとして活躍する人
12. 海外で活躍する人
13. 社会の役に立てる人
14. 家族を大切にする人
15. その他 ()
16. わからない

問20 あなたは、はたらくことについてどのように考えていますか。次の中からあてはまるものを選んで○をつけてください。(○は1つだけ)

1. はたらくことのよろこびを感じたい
2. はたらいてほしいものを手に入れたい
3. はたらいて自分の希望をかなえたい
4. できればはたらきたくない
5. その他 ()
6. まだわからない

～以上でアンケートは終了です。ご協力ありがとうございました。～

2. 中学生調査

千葉市の学校教育に関する アンケート

千葉市では、みなさんが通っている学校をより良くしたいと考えています。そのため、みなさんの考えを知りたいので、アンケートを行うことにしました。

この用紙に書いてある質問をよく読んで、あなたの思ったことを答えてください。

これはテストではありません。自分の思った通りに回答してください。書き終わったら、この用紙を封筒に入れ、先生に提出してください。

平成19年9月

千葉市教育委員会

【 答 え の 書 き か た 】

- ・ あてはまる番号に○をつけてください。 ○をつける数は、質問の最後に書いてあります。
- ・ 「その他（）」に○をつけたときには、（）の中に、その理由や思ったことを書いてください。
- ・ この用紙には、自分の名前を書かないでください。

問1 あなたの性別についてあてはまるものに○をつけてください。

1. 男子

2. 女子

問2 あなたの通っている学校名を教えてください。

千葉市立 _____ 中学校 _____ 年生

問3 あなたの通っている学校についておたずねします。あてはまるものを選んでください。

(1) 学校までの通学距離はどうか。数字に○をつけてください。(○は1つだけ)

とても 近い	近い	どちらで もない	遠い	とても 遠い
1	2	3	4	5

(2) 学校の特色について、どう感じていますか。(行事や環境、授業など)(○は1つだけ)

1. 特色が多い

2. まあ特色がある

3. 特色が少ない

4. 特色がない

5. どちらともいえない

学校生活についてお聞きします

問4 学校生活は楽しいですか。あてはまるものに○をつけてください。(○は1つだけ)

- | | |
|--------------|------------|
| 1. 楽しい | 2. まあまあ楽しい |
| 3. あまり楽しくない | 4. 楽しくない |
| 5. どちらともいえない | |

問5 学校生活についてどのように感じていますか。考えに近いものをそれぞれ選んでください。(○は1つずつ)

		そう思う	思つ い え ば そ う	ど ち ら か と い え な い	ど ち ら と も い え な い	え ば そ う 思 わ な い	ど ち ら か と い え な い	い そ う 思 わ な い
1.	勉強がおもしろい	1	2	3	4	5		
2.	友だちと仲良く遊んでいる	1	2	3	4	5		
3.	体育祭や学校の外での行事（自然学校や修学旅行など）が楽しい	1	2	3	4	5		
4.	クラスの係や委員会活動が楽しい	1	2	3	4	5		
5.	部活動が楽しい	1	2	3	4	5		
6.	楽しい先生がいる	1	2	3	4	5		
7.	尊敬できる先輩がいる	1	2	3	4	5		

問6 あなたが勉強する理由は何ですか。特に自分の考えに近いと思うものを選んで○をつけてください。(○は2つまで)

1. 新しいことを知ることができるから
2. わからなかったことが、わかるようになるから
3. 立派な大人になるため
4. 高校や大学にいきたいから
5. やりたい仕事があるから
6. 将来何かの役に立つと思うから
7. 先生や親から勉強しなさいと言われるから
8. 勉強が好きだから
9. 友だちに負けたくないから
10. その他 ()
11. わからない

問7 これからの学校で特にしてほしいことは何ですか。(〇はいくつでも)

1. 読み書き計算など、基礎的な知識をしっかり教えてほしい
2. 授業によってクラスの人数を少なく分けたりしてほしい
3. クラスの一人ひとりにていねいに教えてほしい
4. 「総合の時間」をもっとたくさんしてほしい
5. 職業体験などの社会体験活動をたくさんしてほしい
6. 選択できる授業を増やし、自分の個性を伸ばせるようにしてほしい
7. 勉強する習慣を身につけさせてほしい
8. 補充的な勉強の時間を増やして、復習できるようにしてほしい
9. パソコンなど、コンピューターを使った授業をしてほしい
10. 悩みがあるときに、気軽に相談できる専門の先生がいてほしい
11. 自分の学校にしかない、特色のある活動をしてほしい
12. 読書活動をたくさんしてほしい
13. スポーツの持つ楽しさに十分触れさせてほしい
14. 地域の人が学校にきて、色々なことを教えてほしい
15. その他 ()
16. 特にない

先生のことについてお聞きします

問8 あなたは、学校において先生がどのような対応をしていると感じていますか。考えに近いものをそれぞれ選んでください。(〇は1つずつ)

		そう 思う	ど ち ら か と い え ば そ う 思 う	ど ち ら か と い え な い	ど ち ら か と い え ば そ う 思 わ な い	い そ う 思 わ な い
1.	先生はわかりやすく教えてくれる	1	2	3	4	5
2.	先生は放課後や休み時間に、よく話をしてくれる	1	2	3	4	5
3.	先生はきまりをきちんと教えてくれる	1	2	3	4	5
4.	先生はあなたのことを理解してくれる	1	2	3	4	5
5.	先生は話によく耳をかたむけてくれる	1	2	3	4	5
6.	先生は自分のことを信頼してくれている	1	2	3	4	5

問9 あなたが教わりたい先生はどのような人ですか。特に重要だと思うものを次の中から選んでください。(〇は3つまで)

1. わかりやすい授業をしてくれる
2. 社会のきまりや守るべきことを教えてくれる
3. 自分たちのことをわかってくれる
4. やる気や意欲を高めてくれる
5. 誰にでも公平に接してくれる
6. 将来や進路の相談にのってくれる
7. 生徒と一緒に何でもやってくれる
8. 自分の目標や手本になってくれる
9. クラスを楽しい雰囲気にしてくれる
10. 何でもよく知っている
11. その他 ()
12. わからない

あなた自身のことについてお聞きします

問10 あなたが悩んでいることや、気がかりなことは何ですか。次の中から選んで〇をつけてください。(〇はいくつでも)

1. 友だちのこと
2. 学校のこと
3. 勉強のこと
4. 家族のこと
5. 将来のこと
6. からだのこと
7. 異性のこと
8. その他 ()
9. 悩みはない

問11 あなたは悩みや不安なことや、自分だけでは解決できないことがあるとき、誰に相談しますか。次の中から選んでください。(〇はいくつでも)

1. 親
2. 兄弟姉妹
3. 祖父母
4. 親戚の大人
5. 学校の先生
6. 友だち
7. 近所の人
8. 塾や習い事の先生
9. インターネットを使って
10. 教育センター
11. 養護教育センター
12. 電話相談ダイヤル
13. その他 ()
14. 相談する人がいない

問12 あなたは自分自身のことで、次のことがらについてどう感じたり、考えたりしますか。あなたの考えに近いと思うものを選んでください。(○は1つずつ)

		そう思う	どちらかとい えはそう思う	どちらとも いえない	な い えはそう思わ ない	そう思わない
1.	明るく元気だ	1	2	3	4	5
2.	友だちに自慢できるよいところをもっている	1	2	3	4	5
3.	やさしさや思いやりがある	1	2	3	4	5
4.	やる気がある	1	2	3	4	5
5.	自分の気持ちをコントロールできる	1	2	3	4	5
6.	ねばりづよく、最後までやりとげる	1	2	3	4	5
7.	まじめに取り組む	1	2	3	4	5
8.	自分の気持ちを相手にうまく伝えられる	1	2	3	4	5
9.	スポーツなど体を動かすことが好きだ	1	2	3	4	5
10.	自分でものごとを決められる	1	2	3	4	5
11.	みんなの役に立ちたい	1	2	3	4	5
12.	社会のきまりや約束したことを守っている	1	2	3	4	5
13.	仲のよい友だちがいる	1	2	3	4	5
14.	食事や睡眠など、規則正しい生活をしている	1	2	3	4	5
15.	自分で考え、何かをつくりだすのが得意だ	1	2	3	4	5
16.	家で勉強する習慣がある	1	2	3	4	5
17.	家族のことを理解している	1	2	3	4	5
18.	家族は自分のことを理解してくれている	1	2	3	4	5

問13 あなたは、次のことを友だちがすることについてどのように思いますか。あなたの考えに近いものを選んでください。(○は1つずつ)

		思う よ く な い と	別 に か ま わ な い と 思 う	わ か ら な い
1.	約束やルールを守らない	1	2	3
2.	電車の中で騒ぐ、床に座り込む	1	2	3
3.	電車の中で、携帯電話を使う	1	2	3
4.	注意されると無視したり、反抗したりする	1	2	3
5.	友だちの悪口を言ったり、いじめたりする	1	2	3
6.	遊ぶために夜遅く出かける	1	2	3

学校以外での過ごし方についてお聞きします

問14 あなたは学校がある日は、朝、何時ごろ起きることが多いですか。数字に○をつけてください。(○は1つだけ)

5時より前 5時ごろ 5時半ごろ 6時ごろ 6時半ごろ 7時ごろ 7時半ごろ 8時ごろ 8時より後
1 ——— 2 ——— 3 ——— 4 ——— 5 ——— 6 ——— 7 ——— 8 ——— 9

問15 あなたは学校がある前の日は、夜、何時ごろ寝ることが多いですか。数字に○をつけてください。(○は1つだけ)

9時より前 9時ごろ 10時ごろ 11時ごろ 12時ごろ 1時ごろ 2時ごろ 2時より後
1 ——— 2 ——— 3 ——— 4 ——— 5 ——— 6 ——— 7 ——— 8

問16 あなたは放課後や学校がお休みのときに、主にどんなことをしていますか。次の中から特にあてはまるもの、放課後と休日それぞれ3つずつ選んでください。

	放課後	休日
学校の宿題や予習・復習などの勉強をする	1	1
塾や習い事に通う	2	2
家の手伝いをする	3	3
部活動に参加する	4	4
テレビやマンガをみたり、ゲームやインターネットをしたりする	5	5
携帯電話や電子メールで友だちと話す	6	6
スポーツや遊びで体を動かす	7	7
外出して友だちと過ごす	8	8
読書をする	9	9
家族と一緒に過ごす	10	10
一人でのんびりと過ごす	11	11

問17 あなたは朝ごはんを食べていますか。あてはまるものを選んでください。(○は1つだけ)

1. 毎日食べている
2. 週に5～6日食べる
3. 週に3～4日食べる
4. 週に1～2日食べる
5. 朝ごはんは食べない →問19へ

問18 問17で「1. 毎日食べている」、「2. 週に5～6日食べる」、「3. 週に3～4日食べる」、「4. 週に1～2日食べる」を選んだ方にお聞きします。

朝ごはんを誰と一緒に食べる人が多いですか。あてはまるものを選んでください。(○は1つだけ)

1. 自分ひとりだけで
2. 兄弟姉妹と一緒に
3. 親と一緒に
4. 家族みんなで一緒に
5. その他 ()

将来のことについてお聞きします

問19 あなたは、将来どんな大人になりたいですか。次の中から特にあてはまるものを選んでください。
(○は4つまで)

1. 自分らしさを持っている人
2. 常に努力をする人
3. 新しいことに取り組もうとする人
4. 困難を乗り越えられる人
5. 健康で体力に自信がある人
6. 社会のきまりを守る人
7. 得意なことをたくさんもっている人
8. 夢を実現するために、最後まであきらめない人
9. 友だちや仲間がたくさんいる人
10. 人を思いやる心を持っている人
11. リーダーとして活躍する人
12. 海外で活躍する人
13. 社会の役に立てる人
14. 家族を大切にする人
15. その他 ()
16. わからない

問20 あなたは、はたらくことについてどのように考えていますか。次の中から特にあてはまるものを選んでください。(○は1つだけ)

1. はたらくことの喜びを感じたい
2. はたらいてほしいものを手に入れたい
3. はたらいて自分の希望をかなえたい
4. できればはたらかたくない
5. その他 ()
6. まだわからない

～以上でアンケートは終了です。ご協力ありがとうございました。～

3. 高校生調査

千葉市の学校教育に関する アンケート

千葉市では、これからの学校教育をよりよいものとするため、学校教育推進計画の策定を予定しています。このアンケートはその計画づくりの基礎調査となるものです。

この用紙に書いてある質問をよく読んで、あなたの思ったことを答えてください。

これはテストではありません。自分の思った通りに回答してください。アンケートが終了したら、この用紙を封筒に入れ、先生に提出してください。

平成19年9月

千葉市教育委員会

【 答 え の 書 き か た 】

- ・ あてはまる番号に○をつけてください。質問によって○をつける数が変わりますので注意してください。
- ・ 「その他（ ）」に○をつけたときには、（ ）の中にその理由を記入してください。
- ・ アンケートは無記名で行います。この用紙には、自分の名前を書かないでください。

問1 あなたの性別について、あてはまるものを選んでください。(○は1つだけ)

1. 男子

2. 女子

問2 あなたの通っている学校名を教えてください。

千葉市立 _____ 高等学校 _____ 年生

問6 これからの学校で特にしてほしいことは何ですか。(〇はいくつでも)

1. 基礎的な知識をしっかり教えてほしい
2. クラスの人数を少なく分けた授業をしてほしい
3. クラスの一人ひとりに目が行き届くような授業をしてほしい
4. 受験に役立つような授業をしてほしい
5. 選択できる授業を増やし、自分の個性を伸ばせるようにしてほしい
6. 英語の授業を更に充実させてほしい
7. 国内や海外に研修派遣を行い、科学技術に関する知識や能力を高めてほしい
8. 補足的な勉強の時間を増やして、復習できるようにしてほしい
9. ホームステイや体験入学を通じ、実践的な語学力を身につけさせてほしい
10. パソコンを使った授業など、情報活用能力を高める授業をしてほしい
11. 学校施設や設備の改善、教材や備品等の充実をしてほしい
12. 悩みを気軽に相談できる専門のカウンセラーや電話相談などを設置してほしい
13. その他 ()
14. 特にない

問7 あなたの通っている学校についておたずねします。あてはまるものを選んでください。

(1) 学校の施設・設備、備品は充実していますか。(〇は1つだけ)

- | | | |
|-------------|-------------|--------------|
| 1. 充実している | 2. やや充実している | 3. どちらともいえない |
| 4. やや十分ではない | 5. 十分ではない | |

(2) 学校の特色についてどう感じていますか。(〇は1つだけ)

- | | | |
|-----------|------------|--------------|
| 1. 特色が多い | 2. まあ特色がある | 3. どちらともいえない |
| 4. 特色が少ない | 5. 特色がない | |

先生についてお聞きします

問8 あなたが教わりたい先生はどのような人ですか。特に重要だと思うものを次の中から選んでください。(○は3つまで)

1. わかりやすい授業をしてくれる
2. 社会のきまりや守るべきことを教えてくれる
3. 自分たちのことを理解してくれる
4. やる気や意欲を高めてくれる
5. 誰にでも公平に接してくれる
6. 将来や進路の相談にのってくれる
7. 生徒と一緒に何でもやってくれる
8. 自分の目標や手本になってくれる
9. クラスを楽しい雰囲気にしてくれる
10. 何でもよく知っている
11. その他 ()
12. わからない

あなた自身についてお聞きします

問9 あなたが悩んでいることや、気がかりなことは何ですか。次の中から選んでください。(○はいくつでも)

1. 友だちのこと
2. 学校のこと
3. 勉強のこと
4. 家族のこと
5. 将来のこと
6. からだのこと
7. 異性のこと
8. その他 ()
9. 悩みはない

問10 あなたは悩みや不安なことや、自分だけでは解決できないことがあるとき、誰に相談しますか。次の中から選んでください。(○はいくつでも)

1. 親
2. 兄弟姉妹
3. 祖父母
4. 親戚
5. 学校の先生
6. 友だち
7. 近所の人
8. 予備校・塾や習い事の先生
9. インターネットを使って
10. その他 ()
11. 相談する人がいない

問11 あなたは自分自身のこと、次のことについてどう感じたり、考えたりしますか。あなたの考えに近いと思うものを選んでください。(○は1つずつ)

		そう思う	どちらかとい えはそう思う	どちらとも いえない	ない えはそう思わ ない	どちらかとい えはそう思わ ない	そう思わない
1.	明るく元気だ	1	2	3	4	5	
2.	友だちに自慢できる特技や特長をもっている	1	2	3	4	5	
3.	やさしさや思いやりがある	1	2	3	4	5	
4.	やる気がある	1	2	3	4	5	
5.	自分の気持ちをコントロールできる	1	2	3	4	5	
6.	ねばりづよく、最後までやりとげる	1	2	3	4	5	
7.	まじめに取り組む	1	2	3	4	5	
8.	自分の気持ちを相手にうまく伝えられる	1	2	3	4	5	
9.	スポーツなど体を動かすことが好きだ	1	2	3	4	5	
10.	自分でものごとを決められる	1	2	3	4	5	
11.	みんなの役に立ちたい	1	2	3	4	5	
12.	社会のきまりや約束したことを守っている	1	2	3	4	5	
13.	仲のよい友だちがいる	1	2	3	4	5	
14.	食事や睡眠など、規則正しい生活をしている	1	2	3	4	5	
15.	自分で考え、何かをつくりだすのが得意だ	1	2	3	4	5	
16.	家で勉強する習慣がある	1	2	3	4	5	
17.	家族のことを理解している	1	2	3	4	5	
18.	家族は自分のことを理解してくれている	1	2	3	4	5	

問12 あなたは放課後や学校がお休みのときに、主にどんなことをしていますか。次の中から特にあてはまるもの、放課後と休日それぞれ3つずつ選んでください。

	放課後	休日
学校の宿題や予習・復習などの勉強をする	1	1
予備校・塾や習い事に通う	2	2
家の手伝いをする	3	3
部活動に参加する	4	4
テレビやマンガをみたり、ゲームやインターネットをしたりする	5	5
携帯電話や電子メールで友だちと話す	6	6
スポーツや遊びで体を動かす	7	7
外出して友だちと過ごす	8	8
読書をする	9	9
家族と一緒に過ごす	10	10
一人でのんびりと過ごす	11	11

問13 あなたは学校がある日の朝、何時ごろ起きることが多いですか(○は1つ)。

5時より前 5時ごろ 5時半ごろ 6時ごろ 6時半ごろ 7時ごろ 7時半ごろ 8時ごろ 8時より後
 1 ——— 2 ——— 3 ——— 4 ——— 5 ——— 6 ——— 7 ——— 8 ——— 9

問14 あなたは学校がある前の日の夜は、何時ごろ寝ることが多いですか(○は1つ)。

9時より前 9時ごろ 10時ごろ 11時ごろ 12時ごろ 1時ごろ 2時ごろ 2時より後
 1 ——— 2 ——— 3 ——— 4 ——— 5 ——— 6 ——— 7 ——— 8

問15 あなたは朝ごはんを食べていますか。あてはまるものを選んでください。(Oは1つだけ)

1. 毎日食べている
2. 週に5～6日食べる
3. 週に3～4日食べる
4. 週に1～2日食べる
5. 朝ごはんは食べない →問17へ

問16 問15で「1. 毎日食べている」、「2. 週に5～6日食べる」、「3. 週に3～4日食べる」、「4. 週に1～2日食べる」を選んだ方にお聞きします。

朝ごはんを誰と一緒に食べることが多いですか。あてはまるものを選んでください。(Oは1つだけ)

1. 自分ひとりだけで
2. 兄弟姉妹と一緒に
3. 親と一緒に
4. 家族みんなで一緒に
5. その他 ()

問17 あなたは、次のことを友だちがすることについてどのように思いますか。あなたの考えに近いものを選んでください。(Oは1つずつ)

		よくないと思う	別にかまわないと思う	わからない
1.	約束やルールを守らない	1	2	3
2.	電車の中で騒ぐ、床に座り込む	1	2	3
3.	電車の中で、携帯電話を使ったり、化粧したりする	1	2	3
4.	注意されると無視したり、反抗したりする	1	2	3
5.	友だちの悪口を言ったり、いじめたりする	1	2	3
6.	遊ぶために夜遅く出かける	1	2	3

問18 あなたは、将来どんな大人になりたいですか。次の中から特にあてはまるものを選んでください。
(○は4つまで)

1. 自分らしさを持っている人
2. 常に努力をする人
3. いつも新しいことに取り組んでいる人
4. 困難を乗り越えられる人
5. 健康で体力に自信がある人
6. 社会のきまりを守る人
7. 得意なことをたくさん持っている人
8. 夢を実現するために、最後まであきらめない人
9. 友だちや仲間がたくさんいる人
10. 人を思いやる心を持っている人
11. リーダーとして活躍する人
12. 海外で活躍できる人
13. 社会の役に立てる人
14. 家族を大切にする人
15. その他 ()
16. わからない

問19 あなたは、働くことについてどのように考えていますか。次の中から特にあてはまるものを選んでください。(○は1つだけ)

1. 働いて充実感や生きる喜びを感じたい
2. 働いてほしいものを手に入れたい
3. 働いて自分の希望をかなえたい
4. できれば働きたくない
5. その他 ()
6. まだわからない

～以上でアンケートは終了です。ご協力ありがとうございました。～

4. 保護者調査

千葉市の学校教育に関する アンケート

千葉市では、これからの学校教育をよりよいものとするため、学校教育推進計画の策定を予定しています。このアンケートはその計画づくりの基礎調査となるものです。

アンケートは、市内の小学校～中学校にお子様がいらっしゃる保護者の方をお願いしています。答えにくい部分があるかもしれませんが、差し支えない範囲でご回答ください。アンケートが終了しましたら、この用紙を封筒に入れ、学校に提出してください。

平成19年9月

千葉市教育委員会

【 答 え の 書 き か た 】

- ・ あてはまる番号に○をつけてください。○をつける数は、質問の最後に書いてあります。
- ・ 「その他（ ）」に○をつけたときには、（ ）の中に、その理由や思ったことを書いてください。
- ・ 無記名でご回答ください。
- ・ アンケート中の「お子様」とは、アンケート用紙を持ち帰ったお子様のことを指します。ご家庭に複数のお子様がいらっしゃる場合でも、以下では、アンケート用紙を持ち帰ったお子様について、お答え下さい。

お子様やあなたご自身についてお聞きします

問1 お子様の性別について、あてはまるものを選んでください。(○は1つだけ)

1. 男 子

2. 女 子

問2 お子様の通っている学校名を教えてください。 千葉市立 学校

問3 お子様の学年を教えてください。 _____ 年生

問4 お子様とあなたの続柄を教えてください。(○は1つだけ)

1. 父 親

2. 母 親

3. その他 ()

問5 あなたご自身の年齢を教えてください。(○は1つだけ)

1. 30歳以下

2. 31-35歳

3. 36-40歳

4. 41-45歳

5. 46-50歳

6. 51-55歳

7. 56-60歳

8. 61歳以上

子どものことについてお聞きします

問6 最近の子どもの印象について、どのように感じますか。次の項目についてお考えに近いと思うものを選んでください。(○は1ずつ、ご自分のお子様についての印象に限らず、最近の子ども全般についての印象をお答えください)

		そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
1.	明るく元気だ	1	2	3	4	5
2.	自分らしさをもっている	1	2	3	4	5
3.	やさしさや思いやりがある	1	2	3	4	5
4.	やる気がある	1	2	3	4	5
5.	自分の気持ちをコントロールできる	1	2	3	4	5
6.	粘り強く、最後までやりとげる	1	2	3	4	5
7.	自分の気持ちを相手にうまく伝えられる	1	2	3	4	5
8.	まじめに取り組むことができる	1	2	3	4	5
9.	体力がある	1	2	3	4	5
10.	自分ひとりで選択や判断をする力がある	1	2	3	4	5
11.	社会の役に立とうとする気持ちがある	1	2	3	4	5
12.	社会のきまりや約束したことを守っている	1	2	3	4	5
13.	食事や睡眠など、規則正しい生活をしている	1	2	3	4	5
14.	好奇心旺盛で様々なことに興味を持っている	1	2	3	4	5
15.	人間関係を築くのが上手である	1	2	3	4	5
16.	学習する態度が身についている	1	2	3	4	5
17.	家族のことを理解している	1	2	3	4	5
18.	家族が子どものことを理解していると感じている	1	2	3	4	5

お子様のことについてお聞きします

問7 あなたが、お子様に関して理解していると思う項目を、次の中から選んでください。(○はいくつでも)

- | | | |
|-----------|---------------|-----------|
| 1. 健康状態 | 2. 興味や関心のあること | 3. 学校での生活 |
| 4. 勉強のこと | 5. 将来の夢や進路 | 6. 悩み |
| 7. 友達のこと | 8. 異性のこと | |
| 9. その他 (| |) |
| 10. わからない | | |

問8 あなたは、放課後や学校が休みの日には、お子様にどのように過ごして欲しいと考えますか。次の中から特にあてはまるものを放課後、休日それぞれ3つずつ選んでください。

	放課後	休日
学校の宿題や予習・復習などの勉強をする	1	1
塾や習い事に通う	2	2
家の手伝いをする	3	3
テレビやマンガをみたり、ゲームやインターネットをしたりする	4	4
携帯電話や電子メールで友達と話す	5	5
スポーツや遊びで体を動かす	6	6
外出して友達と過ごす	7	7
読書をする	8	8
家族と一緒に過ごす	9	9
一人でのんびりと過ごす	10	10

問9 あなたが、日頃お子様のしつけや教育について、気をつけていると思うものを、次の中から選んでください。(〇はいくつでも)

1. 早寝早起きなど規則正しい生活習慣を身につけさせる
2. 片付けなど自分のことは自分で、できるようにさせる
3. 基本的な社会のルールを身につけさせる
4. テレビやゲームの時間などのルールを決める
5. 物やお金を大切にすることを身につけさせる
6. 自宅で、学習する習慣を身につけさせる
7. 子どものよいところをきちんとほめる
8. 子どもと一緒に食事をする
9. 子どもとコミュニケーションをとる
10. 家の手伝いをさせる
11. 塾に行かせたり、習い事をさせたりする
12. その他 ()

問10 お子様には、将来どんな大人になってもらいたいですか。次の中から特にあてはまるものを選んでください。(○は4つまで)

1. 自分らしさを持っている人
2. 常に努力をする人
3. 新しいことに取り組もうとする人
4. 困難を乗り越えられる人
5. 健康で体力に自信がある人
6. 社会のきまりを守る人
7. 得意なことをたくさん持っている人
8. 夢を実現するために、最後まであきらめない人
9. 友達や仲間がたくさんいる人
10. 人を思いやる心を持っている人
11. リーダーとして活躍する人
12. 海外で活躍する人
13. 社会の役に立てる人
14. 家族を大切にする人
15. その他 ()
16. わからない

お子様の通っている学校についてお聞きします

問11 お子様の通っている学校の施設・設備、備品についてどう感じていますか。次の中から、選んでください。(○は1つだけ)

1. 充実している
2. やや充実している
3. どちらともいえない
4. やや十分ではない
5. 十分ではない

幼稚園・保育所（園）についてお聞きします

問12 お子様は小学校に入学する前、どちらに通っていましたか。次の中からあてはまるものを選んで○をつけてください。(○は1つだけ)

1. 市内の幼稚園
2. 市内の保育所（園）
3. 市外の幼稚園
4. 市外の保育所（園）
5. その他 ()

問13 お子様に通っていた幼稚園、保育所(園)について、どのような印象をお持ちでしたか。次の中からお考えに近いものを選んでください。(○は1つずつ)

		満足	やや満足	どちらとも いえません	やや不満	不満
1.	保育時間	1	2	3	4	5
2.	幼稚園、保育所(園)での行事	1	2	3	4	5
3.	カリキュラム	1	2	3	4	5
4.	保育料	1	2	3	4	5
5.	幼稚園教諭、保育士	1	2	3	4	5
6.	施設、園庭、遊具	1	2	3	4	5

学校と地域のかかわりあいについてお聞きします

問14 お子様の登下校時や学校における安全に不安を感じたことがありますか。次の中から選んでください。(○は1つだけ)

1. ある

2. ない

問15 日頃から、校内の安全確保を図るため、学校が取り組むべきこととして何が重要だと思えますか。次の中から選んでください。(○は2つまで)

1. 緊急時の対処法など教員の研修
2. 緊急時の避難方法など子どもへの指導
3. 施設の詳細など学校施設の管理
4. 来校者の確認など人の出入りの管理
5. 地域の人たちとの連携(学校周辺の巡回など)
6. 警察・消防など関係機関との連携
7. 警備員などの常駐
8. その他()

問16 学校の教育方針や教育活動について、もっと保護者や地域の方に情報を公開すべきだと思いますか。次の中から選んでください。(○は1つだけ)

1. もっと積極的に公開すべき

2. ある程度は公開すべき

3. 現状程度でよい

4. あまり公開する必要はない

5. わからない

問17 現在、様々な教育問題に対して地域での教育力に期待する声があります。あなたは地域でできると思うものを、次の中から選んでください。(〇はいくつでも)

1. ルールやマナーを守らない子どもへの注意
2. 地域の子どもへのあいさつや声かけ
3. 子どもたちの通学区域の安全を守る巡回活動への参加・協力
4. 運動会や文化祭などの学校行事への参加・協力
5. 学校や学校周辺の美化・清掃活動への参加・協力
6. 特技や能力を生かした授業への協力
7. 学校との情報交換や話し合いなどへの参加
8. クラブ活動・部活動などの指導への協力
9. その他 ()

教員についてお聞きします

問18 あなたは、学校の教員に対してどのような印象を持っていますか。次の項目について、あなたの考えに最も近いものを次の中から選んでください。(〇は1つずつ)

		そう思う	どちらかとい えばそう思う	どちらかとい まえない	どちらかとい まえない	そう思わない
1.	子どもに信頼されている	1	2	3	4	5
2.	保護者に信頼されている	1	2	3	4	5
3.	授業などにいろいろな工夫をしている	1	2	3	4	5
4.	家庭や地域との連携に積極的である	1	2	3	4	5
5.	子ども一人ひとりと接する時間が多い	1	2	3	4	5
6.	子どものことに熱心に取り組む教員が多い	1	2	3	4	5
7.	子どもの悩みや不安にすぐに対応してくれる	1	2	3	4	5

問19 あなたはどのような教員が望ましいと考えますか。最も近いものを次の中から選んでください。
(○は3つまで)

1. わかりやすい授業をしてくれる
2. 子どもに基本的な生活習慣や態度を身につけさせてくれる
3. 子どもをよく理解してくれる
4. 子どものやる気を引き出し、意欲を高めてくれる
5. 学級担任として、クラスをうまくまとめることができる
6. 子ども一人ひとりに応じた指導をしてくれる
7. 保護者の相談に気軽に応じてくれる
8. 子どもから信頼され、尊敬される人格を持っている
9. 公平に子どもを評価してくれる
10. その他 ()
11. わからない

問20 あなたは、教員の資質の向上を図るためにどのようなことが必要だと考えますか。次の項目について、お考えと近いものを選んでください。(○は1つずつ)

		必要	どちらかとい えば必要	どちらとも いえない	どちらかとい えは必要ない	必要ない
1.	民間人等多様な人材の採用	1	2	3	4	5
2.	意欲や熱意のある人材の採用	1	2	3	4	5
3.	採用面接の重視	1	2	3	4	5
4.	新任研修の充実	1	2	3	4	5
5.	一定期間ごとの研修の実施	1	2	3	4	5
6.	他業種への派遣研修の充実	1	2	3	4	5
7.	教員が授業に集中できるような環境の整備	1	2	3	4	5

千葉市の取り組みについてお聞きします

問21 あなたは、現在千葉市が取り組んでいる、教育に関する施策についてご存知ですか。次の項目について、あてはまるものを選んでください。(○は1つずつ)

		知 っ て い る	よ く 知 ら な い	聞 い た こ と は あ ら な い	知 ら な い
1.	外国人講師による小学校5・6年生対象の英語活動の実施	1	2	3	
2.	生活指導や学習の基礎的定着を図る少人数学習指導員の配置	1	2	3	
3.	子ども一人ひとりに確かな学力を付けさせるための学習支援員の配置	1	2	3	
4.	個に応じた学習指導を進めるための学力状況調査の実施	1	2	3	
5.	千葉市立稲毛高等学校での中高一貫教育校の設置	1	2	3	
6.	千葉市立千葉高等学校での単位制教育課程の実施	1	2	3	
7.	学校図書館教育を充実するための学校図書館指導員の配置	1	2	3	
8.	自然教室や農山村留学などの体験活動の実施	1	2	3	
9.	スクールカウンセラーの配置	1	2	3	
10.	いじめ 24 時間電話相談の実施	1	2	3	

学校の役割についてお聞きします

問22 あなたは、次のことを子どもに身につけさせたり育んだりするのは、主に誰の役割だと思いますか。お考えと近いものを選んでください。(○は1つずつ)

		役 割 の 家 庭	役 割 の 学 校	役 割 の 地 域
1.	規律ある生活や基本的な生活習慣	1	2	3
2.	我慢する気持ちを持つこと	1	2	3
3.	読み、書き、計算など日常生活に必要な基礎的・基本的な知識や技能	1	2	3
4.	生涯にわたって自分で学んでいけるための学び方や学ぶ意欲	1	2	3
5.	人と仲良く付き合えるなど、社会生活を営む上で必要な態度や能力	1	2	3
6.	物事の善悪を判断する力を持ち、社会のルールを守ること	1	2	3

問23 あなたは、学校にどのような取り組みを期待しますか。次の項目について、お考えと近いものを選んでください。(○は1つずつ)

		期待する とても	まあ 期待する	どちらとも いえない	あまり 期待しない	全く 期待しない
1.	道徳観や社会のマナー、ルールを身につけさせる	1	2	3	4	5
2.	公正な判断力を身につけさせる	1	2	3	4	5
3.	自然や環境の大切さを教える	1	2	3	4	5
4.	日本の文化を理解し、尊重する気持ちを養う	1	2	3	4	5
5.	国際的な感覚を身につけ国際文化を理解させる	1	2	3	4	5
6.	家族と家庭の役割に関する基礎的な理解を養う	1	2	3	4	5
7.	読書に親しませ、国語の基礎的な能力を養う	1	2	3	4	5
8.	基礎的な数学的なものの見方や考え方を養う	1	2	3	4	5
9.	基礎的な科学的なもの見方や考え方を養う	1	2	3	4	5
10.	体力を養い、心身ともに健やかな体をつくる	1	2	3	4	5
11.	音楽・美術などの芸術について理解を深める	1	2	3	4	5
12.	働くことの大切さを教える	1	2	3	4	5
13.	将来について考える力を養う	1	2	3	4	5

問24 あなたは、これからの学校のあり方や役割、教育活動の展開について、どのようなことを考えていく必要があると思いますか。次の項目について、お考えと近いものを選んでください。(○は1つずつ)

		そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらとも いえない	どちらかといえば そう思わない	そう思わない
1.	特色ある教育活動・学校づくりを進める	1	2	3	4	5
2.	子ども・地域の実態に応じた学校づくりを進める	1	2	3	4	5
3.	指導力の高い教員を増やしていく	1	2	3	4	5
4.	授業の質の向上や問題行動への対応などには、教員個人だけでなく学校全体でも取り組むようにする	1	2	3	4	5
5.	地域との連携・協力を一層深め、地域の教育力を生かした学校づくりを進める	1	2	3	4	5
6.	学校が子どもの教育だけでなく、地域の人々が学べる拠点としての役割を持つようにしていく	1	2	3	4	5

問25 あなたは総合的にみて、学校に対して満足していますか。次の中から選んでください。

(○は1つだけ)

- | | | |
|-------------|-------------|--------------|
| 1. 十分満足している | 2. まあ満足している | 3. どちらともいえない |
| 4. やや不満である | 5. かなり不満である | |

社会的な問題についてお聞きします

問26 最近、経済的に余裕がありながら学校給食費を払わない保護者のことが、社会的な問題となっています。あなたはこのことについてどう感じますか。お考えに最も近いものを選んでください。(○は1つだけ)

- | |
|--------------------------------------|
| 1. 当然払うべきで、保護者としての責任感や規範意識が低下していると思う |
| 2. 払うか払わないかは個人の自由だと思う |
| 3. 義務教育だから払わなくてもいいと思う |
| 4. わからない |

問27 一部の保護者が、学校や教員に対し、自分の子どもに関する「無理難題な要求」をすることが、社会的な問題となっています。あなたはこのことについてどう感じますか。お考えに最も近いものを選んでください。(○は1つだけ)

- | |
|--|
| 1. 学校は特定の個人を優遇する場ではないので、無理難題な要求をすべきでない |
| 2. 自分の子どもは大切なので、無理難題な要求でも多少なら良いと思う |
| 3. 学校や教員は保護者の意見を聞くべきであり、無理難題な要求をしても良いと思う |
| 4. わからない |

問28 最後に、日頃学校教育について感じることや、ご意見があれば、ご自由にお書き下さい。

～以上でアンケートは終了です。ご協力ありがとうございました。～

5. 一般市民調査

千葉市の学校教育に関する アンケート

市民の皆さまには、日ごろから市政に深いご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

さて、本市では、郷土千葉市が大都市として将来に向けて持続的に発展することができるよう、「夢と誇りがもてる 安全・安心のまちづくり」を目標に、2年次目となる「第2次5か年計画」を着実に推進しているところであります。

中でも、教育の振興・充実については、市政の重要施策の一つとして位置づけ、次代を担う子どもたちの可能性を伸ばし、社会の一員として必要な「生きる力」を身につけられるよう、学校教育の充実を図るとともに、家庭教育への支援や地域との連携など、健全に成長できる環境整備に取り組んでおります。

このアンケート調査は、市民の皆さまに千葉市の教育や子どもの現状、今後の教育方針についてのご意見をお伺いし、「千葉市学校教育推進計画」策定の基礎資料とするために実施するものです。

調査の実施にあたり、市内にお住まいの満20歳以上の方の中から、1,800人を無作為に選ばせていただきました。このアンケートは無記名であり、ご回答いただきました内容はすべて統計的に処理し、個別の回答結果を公表することはありません。

つきましては、お忙しいところ誠に恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

平成19年9月

千葉市教育委員会

ご記入にあたってのお願い

- あて名のご本人様がお答えください。ご記入が困難な場合は、ご家族の方などにご協力をお願いします。
- 回答は、設問ごとの指示に従い、○印をつけてください。設問によって○印をつける数が異なりますので、間違えないようにご注意ください。
- 「その他」に該当する場合は、()の中に具体的にご記入ください。
- この調査票は10月9日(火)までに、同封の返信用封筒に入れ、ポストに投函してください(切手は不要です)。
- ご不明な点がございましたら、下記までお問い合わせください。

千葉市教育委員会 企画課
電話：043-245-5908

子どものことについてお聞きします

問6 最近の子どもの印象について、どのように感じますか。次の項目についてお考えに近いと思うものを選んでください。(○は1つずつ)

		そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえ いえない	どちらかといえ はそう思わない	そう思わない
1.	明るく元気だ	1	2	3	4	5
2.	自分らしさをもっている	1	2	3	4	5
3.	やさしさや思いやりがある	1	2	3	4	5
4.	やる気がある	1	2	3	4	5
5.	自分の気持ちをコントロールできる	1	2	3	4	5
6.	粘り強く、最後までやりとげる	1	2	3	4	5
7.	自分の気持ちを相手にうまく伝えられる	1	2	3	4	5
8.	まじめに取り組むことができる	1	2	3	4	5
9.	体力がある	1	2	3	4	5
10.	自分ひとりで選択や判断をする力がある	1	2	3	4	5
11.	社会の役に立とうとする気持ちがある	1	2	3	4	5
12.	社会のきまりや約束したことを守っている	1	2	3	4	5
13.	食事や睡眠など、規則正しい生活をしている	1	2	3	4	5
14.	好奇心旺盛で様々なことに興味を持っている	1	2	3	4	5
15.	人間関係を築くのが上手である	1	2	3	4	5
16.	学習する態度が身についている	1	2	3	4	5

問7 あなたは、これからの子どもはどのように育まれてほしいですか。次の項目についてお考えに近いと思うものを選んでください。(○は4つまで)

1. 友達がたくさんいる子ども
2. 目標に向かって努力する子ども
3. スポーツが得意な子ども
4. 最後まであきらめずに取り組む子ども
5. 学ぶ意欲のある子ども
6. 人を思いやる心を持っている子ども
7. 社会のルールやマナーを守れる子ども
8. 規則正しい生活習慣が身についている子ども
9. 読書が好きな子ども
10. 自然を大切にすること
11. その他 ()

学校と地域のかかわりあいについてお聞きします

問8 あなたは、学校行事や授業の中で、子どもが保護者やボランティアとともに学習したり活動したりすることについて、どのように思いますか。次の中から選んでください。(○は1つだけ)

1. 今後ますます進めるべきである
2. 現状程度でよい
3. 縮小したほうがよい
4. わからない

問9 現在、様々な教育問題に対して地域での教育力に期待する声があります。あなたは地域でできると思うものを、次の中から選んでください。(○はいくつでも)

1. ルールやマナーを守らない子どもへの注意
2. 地域の子どもへのあいさつや声かけ
3. 学区の安全を守る巡回活動への協力
4. 運動会や文化祭などの学校行事への参加・協力
5. 学校や学校周辺の美化・清掃活動への参加・協力
6. 特技や能力を生かした授業への協力
7. 学校との情報交換や話し合いなどへの参加
8. クラブ活動・部活動などの指導への協力
9. その他 ()

問10 最近、通学中の子どもが危険な目に遭うなど、子どもの安全が脅かされる事件が起きています。日頃から、校内の安全確保を図るため、学校が取り組むべきこととして何が重要だと思いますか。次の中から選んでください。(○は2つまで)

1. 緊急時の対処法など教員の研修
2. 緊急時の避難方法など子どもへの指導
3. 施錠の徹底など学校施設の管理
4. 来校者の確認など人の出入りの管理
5. 地域の人たちとの連携(学校周辺の巡回など)
6. 警察・消防など関係機関との連携
7. 警備員などの常駐
8. その他 ()

教員についてお聞きします

問11 あなたはどのような教員が望ましいと考えますか。最も近いものを次の中から選んでください。
(○は3つまで)

1. わかりやすい授業をしてくれる
2. 子どもに基本的な生活習慣や態度を身につけさせてくれる
3. 子どもをよく理解してくれる
4. 子どものやる気を引き出し、意欲を高めてくれる
5. 学級担任として、クラスをうまくまとめることができる
6. 子ども一人ひとりに応じた指導をしてくれる
7. 保護者の相談に気軽に応じてくれる
8. 子どもから信頼され、尊敬される人格を持っている
9. 公平に子どもを評価してくれる
10. その他 ()
11. わからない

問12 あなたは、教員の資質の向上を図るためにどのようなことが必要だと考えますか。次の項目について、お考えと近いものを選んでください。(○は1つずつ)

		必要	どちらかとい えば必要	どちらとも いえない	どちらかとい えは必要ない	必要ない
1.	民間人等多様な人材の採用	1	2	3	4	5
2.	意欲や熱意のある人材の採用	1	2	3	4	5
3.	採用面接の重視	1	2	3	4	5
4.	新任研修の充実	1	2	3	4	5
5.	一定期間ごとの研修の実施	1	2	3	4	5
6.	他業種への派遣研修の充実	1	2	3	4	5
7.	教員が授業に集中できるような環境の整備	1	2	3	4	5

千葉市の取り組みについてお聞きします

問13 あなたは、現在千葉市が取り組んでいる、教育に関する施策についてご存知ですか。次の項目について、あてはまるものを選んでください。(〇は1つずつ)

		よく 知っている	知らない が内容までは 聞いたことはあ る	知らない
1.	外国人講師による小学校5・6年生対象の英語活動の実施	1	2	3
2.	生活指導や学習の基礎的定着を図る少人数学習指導員の配置	1	2	3
3.	生徒一人一人に確かな学力を付けさせるための 学習支援員の配置	1	2	3
4.	個に応じた学習指導を進めるための学力状況調査の実施	1	2	3
5.	千葉市立稲毛高等学校での中高一貫教育校の設置	1	2	3
6.	千葉市立千葉高等学校での単位制教育課程の実施	1	2	3
7.	学校図書館教育を充実するための学校図書館指導員の配置	1	2	3
8.	自然教室や農山村留学などの体験活動の実施	1	2	3
9.	スクールカウンセラーの配置	1	2	3
10.	いじめ 24 時間電話相談の実施	1	2	3

学校の役割についてお聞きします

問14 あなたは、次のことを子どもに身につけさせたり育んだりするのは、主に誰の役割だと思いますか。お考えと近いものを選んでください。(〇は1つずつ)

		家庭の 役割	学校の 役割	地域の 役割
1.	規律ある生活や基本的な生活習慣	1	2	3
2.	我慢する気持ちを持つこと	1	2	3
3.	読み、書き、計算など日常生活に必要な基礎的・基本的な知識 や技能	1	2	3
4.	生涯にわたって自分で学んでいけるための学び方や学ぶ意欲	1	2	3
5.	人と仲良く付き合えるなど、社会生活を営む上で必要な 態度や能力	1	2	3
6.	物事の善悪を判断する力を持ち、社会のルールを守ること	1	2	3

問15 あなたは、学校にどのような取り組みを期待しますか。次の項目について、お考えと近いものを選んでください。(○は1つずつ)

		期待する とても	まあ 期待する	どちらとも いえない	あまり 期待しない	全く 期待しない
1.	道徳観や社会のマナー、ルールを身につけさせる	1	2	3	4	5
2.	公正な判断力を身につけさせる	1	2	3	4	5
3.	自然や環境の大切さを教える	1	2	3	4	5
4.	日本の文化を理解し、尊重する気持ちを養う	1	2	3	4	5
5.	国際的な感覚を身につけ国際文化を理解させる	1	2	3	4	5
6.	家族と家庭の役割に関する基礎的な理解を養う	1	2	3	4	5
7.	読書に親しませ、国語の基礎的な能力を養う	1	2	3	4	5
8.	基礎的な数学的なものの見方や考え方を養う	1	2	3	4	5
9.	基礎的な科学的なもの見方や考え方を養う	1	2	3	4	5
10.	体力を養い、心身ともに健やかな体をつくる	1	2	3	4	5
11.	音楽・美術などの芸術について理解を深める	1	2	3	4	5
12.	働くことの大切さを教える	1	2	3	4	5
13.	将来について考える力を養う	1	2	3	4	5

問16 あなたは、これからの学校のあり方や役割、教育活動の展開について、どのようなことを考えていく必要があると思いますか。次の項目について、お考えと近いものを選んでください。(○は1つずつ)

		そう思う	どちらかとい えはそう思う	どちらとも いえない	どちらかとい えはそう思わ ない	そう思わない
1.	これまで以上に特色ある教育活動・学校づくりを進める	1	2	3	4	5
2.	子どもの実態に応じた学校づくりを進める	1	2	3	4	5
3.	指導力の高い教員を増やしていく	1	2	3	4	5
4.	授業の質の向上や問題行動への対応などには、教員個人だけでなく学校全体でも取り組むようにする	1	2	3	4	5
5.	地域との連携・協力を一層深め、地域の教育力を生かした学校づくりを進める	1	2	3	4	5
6.	学校が子どもの教育だけでなく、地域の人々が学べる拠点としての役割を持つようにしていく	1	2	3	4	5

社会的な問題についてお聞きします

問17 最近、経済的に余裕がありながら学校給食費を払わない保護者のことが、社会的な問題となっています。あなたはこのことについてどう感じますか。お考えに最も近いものを選んでください。(○は1つだけ)

1. 当然払うべきで、保護者としての責任感や規範意識が低下していると思う
2. 払うか払わないかは個人の自由だと思う
3. 義務教育だから払わなくてもいいと思う
4. わからない

問18 一部の保護者が、学校や教員に対し、自分の子どもに関する「無理難題な要求」をすることが、社会的な問題となっています。あなたはこのことについてどう感じますか。お考えに最も近いものを選んでください。(○は1つだけ)

1. 学校は特定の個人を優遇する場ではないので、無理難題な要求をすべきでない
2. 自分の子どもは大切なので、無理難題な要求でも多少なら良いと思う
3. 学校や教員は保護者の意見を聞くべきであり、無理難題な要求をしても良いと思う
4. わからない

問19 最後に、日頃学校教育について感じることや、ご意見があれば、ご自由にお書き下さい。

～以上でアンケートは終了です。返信用封筒に入れ、10月9日までに
投函してください(切手は不要です)。

ご協力ありがとうございました。～

子どもについてお聞きします

問5 最近の子どもの印象について、どのように感じますか。次の項目についてお考えに近いと思うものを選んでください。(○は1つずつ)

		そう 思う	どちらか といえ はそう 思う	い え な い	どちらか とも い え な い	どちらか といえ はそう 思わ ない	そう 思 わ な い
1.	明るく元気だ	1	2	3	4	5	
2.	自分らしさをもっている	1	2	3	4	5	
3.	やさしさや思いやりがある	1	2	3	4	5	
4.	やる気がある	1	2	3	4	5	
5.	自分の気持ちをコントロールできる	1	2	3	4	5	
6.	粘り強く、最後までやりとげる	1	2	3	4	5	
7.	自分の気持ちを相手にうまく伝えられる	1	2	3	4	5	
8.	まじめに取り組むことができる	1	2	3	4	5	
9.	体力がある	1	2	3	4	5	
10.	自分ひとりで選択や判断をする力がある	1	2	3	4	5	
11.	社会の役に立とうとする気持ちがある	1	2	3	4	5	
12.	社会のきまりや約束したことを守っている	1	2	3	4	5	
13.	食事や睡眠など、規則正しい生活をしている	1	2	3	4	5	
14.	好奇心旺盛で様々なことに興味を持っている	1	2	3	4	5	
15.	人間関係を築くのが上手である	1	2	3	4	5	
16.	学習する態度が身についている	1	2	3	4	5	
17.	家族のことを理解している	1	2	3	4	5	
18.	家族が子どものことを理解していると感じている	1	2	3	4	5	

問6 あなたは、ご自身で子どもに対してどのような対応をしていると感じていますか。次の項目についてお考えと近いものを選んで○をつけてください。(○は1つずつ)

		そう思う	どちらかといえばそう思う	いえない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
1.	わかりやすく教えている	1	2	3	4	5
2.	放課後や休み時間に子どもとよく話をしている	1	2	3	4	5
3.	学級の規律について、厳しい方である	1	2	3	4	5
4.	子どものことをよく理解している	1	2	3	4	5
5.	子どもの話によく耳を傾けている	1	2	3	4	5
6.	自分は子どもから信頼を得ている	1	2	3	4	5

問7 あなたは、これからの子どもはどのように育まれてほしいですか。次の項目についてお考えに近いと思うものを選んでください。(○は4つまで)

1. 友達がたくさんいる子ども
2. 目標に向かって努力する子ども
3. スポーツが得意な子ども
4. 最後まであきらめずに取り組む子ども
5. 学ぶ意欲のある子ども
6. 人を思いやる心を持っている子ども
7. 社会のルールやマナーを守れる子ども
8. 規則正しい生活習慣が身についている子ども
9. 読書が好きな子ども
10. 自然を大切にする子ども
11. その他 ()

学校の役割についてお聞きします

問8 あなたは、次のことを子どもに身につけさせたり育んだりするのは、主に誰の役割とと思いますか。次の項目についてお考えと近いものを選んで○をつけてください。(○は1つずつ)

		家庭の役割	学校の役割	地域の役割
1.	規律ある生活や基本的な生活習慣	1	2	3
2.	我慢する気持ちを持つこと	1	2	3
3.	読み、書き、計算など日常生活に必要な基礎的・基本的な知識や技能	1	2	3
4.	生涯にわたって自分で学んでいけるための学び方や学ぶ意欲	1	2	3
5.	人と仲良く付き合えるなど、社会生活を営む上で必要な態度や能力	1	2	3
6.	物事の善悪を判断する力を持ち、社会のルールを守ること	1	2	3

お勤めの学校についてお聞きします

問9 お勤めの学校の施設・設備、備品についてどう感じていますか。次の中から、選んでください。(○は1つだけ)

1. 充実している 2. やや充実している 3. どちらともいえない
 4. やや十分ではない 5. 十分ではない

問10 あなたは、日々の業務についてどのように感じていますか。次の項目についてお考えと近いものを選んでください。(○は1つずつ)

		そう 思わない	どちらか といえ はそう 思わない	どちらか とも いえ ない	どちらか といえ はそう 思う	そう 思う
1.	子どもを理解することが、これまで以上に難しくなった	1	2	3	4	5
2.	授業準備や教材研究等に費やす時間がとれない	1	2	3	4	5
3.	教育的な支援を必要とする子どもが多くなり、対応に苦慮している	1	2	3	4	5
4.	子どもの授業態度やマナーが悪化している	1	2	3	4	5
5.	子どもの問題行動にどこまで対応すべきか迷うことが多くなった	1	2	3	4	5
6.	保護者への対応に悩むことが多くなった	1	2	3	4	5
7.	家庭訪問や外部連携会議、見回りなどの対応で学校を離れることが多くなった	1	2	3	4	5
8.	授業に関すること以外の事務的な作業が増えた	1	2	3	4	5
9.	教員間の仕事の分担や業務量に差がある	1	2	3	4	5
10.	教員は仕事と生活の両立が難しいと感じる	1	2	3	4	5
11.	職場内での人間関係で、悩み事が増えた	1	2	3	4	5

教員についてお聞きします

問11 あなたがめざす教員とはどのような人だと考えますか。最も近いものを次の中から選んでください。(○は3つまで)

1. わかりやすい授業をする
2. 子どもに基本的な生活習慣や態度を身につけさせる
3. 子どもをよく理解する
4. 子どものやる気を引き出し、意欲を高める
5. 学級担任として、クラスをうまくまとめる
6. 子ども一人ひとりに応じた指導をする
7. 保護者の相談に気軽に応じる
8. 子どもから信頼され、尊敬される人格を持っている
9. 公平に子どもを評価・評定する
10. その他 ()
11. わからない

問12 あなたは、教員の資質の向上を図るためにどのようなことが必要だと考えますか。次の項目について、お考えと近いものを選んでください。(○は1つずつ)

		必要	どちらかとい えは必要	どちらとも いえない	どちらかとい は必要ない	必要ない
1.	民間人等多様な人材の採用	1	2	3	4	5
2.	意欲や熱意のある人材の採用	1	2	3	4	5
3.	採用面接の重視	1	2	3	4	5
4.	新任研修の充実	1	2	3	4	5
5.	一定期間ごとの研修の実施	1	2	3	4	5
6.	他業種への派遣研修の充実	1	2	3	4	5
7.	教員が授業に集中できるような環境の整備	1	2	3	4	5

問13 あなたは、業務を行う上で悩んでいることや気がかりなことがあるとき、誰に相談しますか。次の項目について、あてはまるものを選んでください。(○はいくつでも)

1. 校長、教頭
2. 学年主任
3. 学校内の同僚
4. 学校外の同僚
5. 家族
6. 友人
7. 親戚
8. インターネットを使って
9. その他 ()
10. 相談する人がいない

問14 あなたが教員として、今後の学校教育の取組みに望むことは何ですか。お考えに特に近いものを次の中から選んでください。(○は3つまで)

1. ホームページや広報紙等による、千葉市の教育や学校に関する情報提供
2. 従来の制度や慣行にとらわれない、時代の変化に適應した教育
3. 指導力向上のための教員研修
4. 学校の創意工夫により学校ごとに特色ある教育がしやすいような仕組み
5. 人の心を思いやることのできる、心豊かな子どもを育む教育
6. 社会のきまりを守り、自分を律することのできる子どもを育む教育
7. 学力の向上を目指した、わかりやすい授業や補習授業
8. 教育に関することを地域で相談できる仕組み
9. 災害や犯罪などに対して安全な学校
10. 学校の運営や子どもの学びへの、保護者や地域の人の一層の参加
11. 地域行事への理解と連携
12. 学校開放の一層の促進
13. 千葉市らしい教育の創造
14. その他 ()
15. わからない

地域と学校のかかわりあいについてお聞きます

問15 学校の教育方針や教育活動について、もっと保護者や地域の方に情報を公開すべきだと思いますか。次の中から選んでください。(○は1つだけ)

1. もっと積極的に公開すべき
2. ある程度は公開すべき
3. 現状程度でよい
4. あまり公開する必要はない
5. わからない

問16 さまざまな専門知識や体験、技術を持った、保護者や地域の方々が学校で子どもたちに教えることについてどう思いますか。次の中から選んでください。(○は1つだけ)

1. 積極的にやるべき
2. ときどきはやるべき
3. どちらともいえない
4. あまりやらない方がいい
5. やらない方がいい

「千葉市学校教育に関する意識調査」調査報告書

平成 20 年 2 月 発行

■発行 千葉市教育委員会 企画課

〒260-8730

千葉市中央区問屋町 1-35

(電話) 043-245-5908

■調査・製作 株式会社 ちばぎん総合研究所 受託調査部

〒263-0043

千葉県千葉市稲毛区小仲台 2-3-12

(電話) 043-207-0621

